

# 天ヶ堤遺跡(1)

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

東日本高速道路株式会社  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



天ヶ堤遺跡（1）正誤表

頁		誤	正
写真図版目次	PL 7	J-2 全景（南）	J-2 全景（南西）
〃	PL 8	J-51 遺物出土状況（北）	J-51 遺物出土状況（南）
〃	PL 14	J-98 埋甕（西）	J-98 埋甕（南西）
〃	PL 15	J-1（北西）	J-1（北）
〃	PL 18	J-54（南）	J-54（北）
〃	PL 19	J-78・80（南西）	J-78・80（北東）
〃	PL 20	J-95（南東）	J-95（南）
10	1行	土坑36基	土坑35基
28	1行	溝2条	溝1条
467	3行	（類型）Ⅱ	（類型）Ⅰ
513	7行	耕作列が3カ所	耕作列が2カ所
516	遺跡概要	畑跡3	畑跡2

調査研究館1F 保管



# 天ヶ堤遺跡(1)

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

東日本高速道路株式会社  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団







J-5 出土遺物No. 4

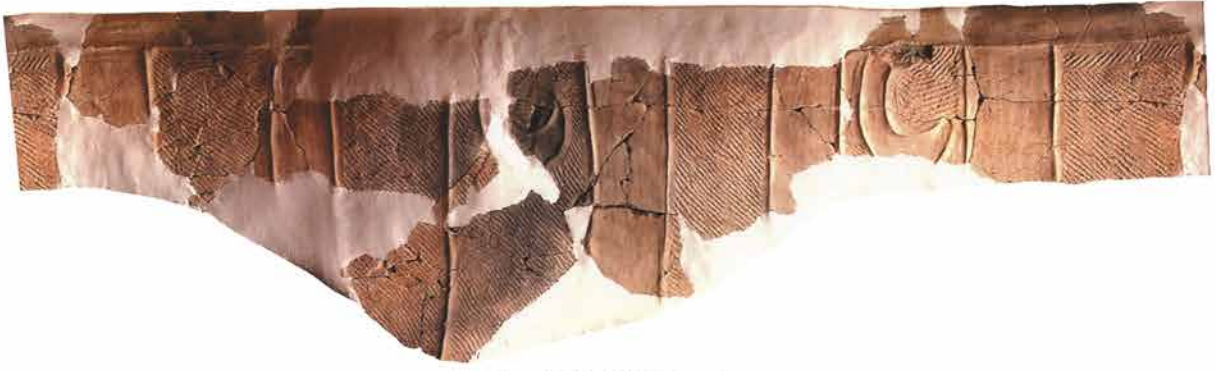


J-5 出土遺物No. 5



J-12 出土遺物No. 1





J-15出土遺物No.1



J-19出土遺物No.1



J-51出土遺物No.8



J-51出土遺物No.9



J-65出土遺物No. 1



J-68出土遺物No. 2



J-93出土遺物No. 1



J-97出土遺物No. 1

# 序

天ヶ堤遺跡は伊勢崎市三和町に所在し、平成12年から15年にかけて北関東自動車道（伊勢崎～県境）及び県道香林羽黒線の道路工事に先立って発掘調査された遺跡です。

発掘調査は、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）、群馬県県土整備局伊勢崎土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施し、平成16年8月より整理作業を行っています。

本遺跡の周辺は、「あまが池」をはじめ多くの湧水点が存在し、太古より人々が暮らしを営んできた土地であることが知られています。今回の調査では旧石器時代の石器をはじめ、縄文、古墳、奈良時代の住居跡などが発見されました。特に縄文時代中期の遺物の出土量は大変豊富で、隣接する三和工業団地遺跡を含めこの地域には大規模な集落があり、多くの人々が生活していたことを物語っています。

本報告書は天ヶ堤遺跡のⅠ・Ⅱ区をまとめたものであり、次に刊行されるⅢ・Ⅳ区とあわせてみることで、考古学の研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様、さらには学校教育における郷土学習にも大いに役立つものと確信しております。

最後に、東日本高速道路株式会社、伊勢崎土木事務所、伊勢崎市教育委員会、及び地元関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで終始ご協力を賜り、感謝の意を表すとともに、発掘調査・整理作業に携わった担当者、作業員の方々、整理補助員の方々の労をねぎらい、序とします。

平成19年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇夫



## 例 言

1 天ヶ堤遺跡は、北関東自動車道路（以下、本線）建設工事および県道香林羽黒線（以下、県側道）建設工事に伴い発掘調査された。本書では、調査範囲の西側半分の本線建設工事に伴う調査の縄文時代から近世までの遺構・遺物について報告する。東半分の本線部と県側道部及び旧石器に関する報告については、次の報告書に掲載する予定である。

2 事業主体 本 線 東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）  
県側道 群馬県県土整備局伊勢崎土木事務所（旧土木部道路建設課）

3 調査・整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

4 調査期間 平成12年10月1日～平成15年1月31日

5 整理期間 平成17年4月1日～平成19年1月31日

※県側道部分を含めた総整理期間は平成16年8月から平成21年3月までの予定であるが、本書に関わる期間は上記の通りである。

### 6 調査組織

事務担当 平成12年度 小野宇三郎・赤山容造・住谷進・能登健・相京建史・坂本敏夫・笠原秀樹  
小山建夫・須田朋子・吉田有光・森下弘美・柳岡良宏・片岡徳雄・今井もと子・内山佳子  
佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・若田誠・吉田茂・松下次男・蘇原正義  
平成13～14年度（東毛調査事務所） 水田稔・能登健・津金澤吉茂・真下高幸・相京建史  
笠原秀樹・柳岡良宏・田中健一・中澤恵子

調査担当 平成12年度 石塚久則・金子伸也・杉田茂俊・久保学  
平成13年度 関根愼二・小暮育秀・石坂聡  
平成14年度 関根愼二・柿沼弘之・齋藤利子・長沼孝則

### 7 整理組織

事務担当 高橋勇夫・小野宇三郎・木村裕紀・津金澤吉茂・萩原勉・矢崎俊夫・中東耕志・関晴彦  
相京建史・笠原秀樹・宮前結城雄・竹内宏・石井清・須田朋子・吉田有光・柳岡良宏  
今泉大作・清水秀紀・佐藤聖行・栗原幸代・今井もと子・内山佳子・佐藤美佐子・本間久美子  
北原かおり・狩野真子・若田誠・武藤秀典

整理担当 関根愼二・小暮育秀・齊田智彦

専門嘱託員 羽石智治・山賀和也

整理嘱託員 新井悦子

整理補助員 阿部由美子・下境マサ江・深代初子・関口朝子・横谷純子・横塚由香・森田裕子・武井綾子  
島村玲子・鈴木春美・佐々木雅子・佐藤知子・牧野敏美・品川秀美

遺物写真撮影 佐藤元彦

遺物保存処理 関邦一・土橋まり子・小材浩一

機械実測 廣津真希子・酒井史恵・友廣裕子

8 執筆 第1章第1節 相京建史 第1章第4節 齊田智彦 陶磁器観察表 大西雅広  
石器 羽石智治・山賀和也 遺構・縄文土器・その他 関根愼二・小暮育秀



9 委託関係 株式会社アルカ 株式会社パスコ 技研測量株式会社


- 10 石材同定にあたっては飯島静男氏（群馬地質研究会）にご教示を得た。
- 11 遺構図と打製石器の一部及び遺構写真についてはデジタル編集をおこなった。
- 12 調査・整理にあたっては、下記の方々にご協力、助言をいただいた。記して感謝の意を表したい。（敬称略、順不同）
- 秋田かな子・江原英・岡田憲一・金子直行・木下哲夫・黒坂禎二・小林達雄・斉藤弘道・斉藤準  
 佐藤雅一・品田高志・渋谷昌彦・澁谷賢太郎・菅谷道彦・鈴木徳雄・鈴木保彦・大工原豊・田中耕作  
 土肥孝・戸田哲也・細田勝・堀江格・三田村美彦・水沢教子・山本輝久・綿田弘実
- 13 出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保存してある。

## 凡 例

- 1 遺構図中の方位は座標北を示す。
- 2 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。
- 遺構図 住居・溝 1：60 土坑・ピット・井戸 1：40 埋甕・炉・竈 1：20  
 遺物図 縄文時代完形土器 1：4 または 1：6 土器片・土製円盤 1：4 石器・石製品 1：3  
 大型石器 1：6 小型石器 1：1 または 1：2 その他 1：3
- ただし、図によってその限りでなく、異なる場合には各々スケールを付した。
- 3 遺物写真の倍率は原則として遺物図に近づけたが、この限りでない。
- 4 遺構番号は、調査時の番号をそのまま付したが、一部整理の都合上変更した遺構もある。
- 5 遺物番号は、土器については各遺構ごとの、石器については調査区ごとの連番とした。なお、遺構図中においては混乱を避けるために、石器の番号の最初にSを付した。
- 6 図中で使用したインレタ・スクリーントーンは以下の通りである。

土器 ● 石器・自然石 ▲ 焼土・灰 

石器磨面  結晶片岩製石器における面的な加工範囲 

石器節理面 

- 7 本書で使用した地図は下記の通りである。

国土地理院 2万5千分の1地形図「大胡」

5万分の1地形図「前橋」「高崎」「足利及桐生」「深谷」

20万分の1地勢図「宇都宮」

目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 天ヶ堤遺跡Ⅰ区・Ⅱ区調査経過（日誌抄）	3
第3節 調査の方法	4
第4節 遺跡の位置と周辺の遺跡	5
第5節 遺跡の基本層序	9

第2章 Ⅰ区 検出された遺構

第1節 遺構の概要	10
第2節 検出された溝・井戸・屋敷跡・谷	12
第3節 検出された土坑・ピット	16

第3章 Ⅱ区 検出された遺構

第1節 遺構の概要	28
第2節 中・近世の遺構	31
第3節 検出された住居跡	36
第4節 検出された土坑・その他の遺構	58

第4章 出土遺物

第1節 出土土器	84
第2節 出土石器	350

第5章 分析とまとめ

第1節 天ヶ堤遺跡出土黒曜石の産地推定	508
第2節 まとめ	513

抄録

写真図版

## 挿 図 目 次

第 1図	遺跡位置図	1	第 61図	J-34・36~39	69
第 2図	北関東自動車道関連遺跡位置図	2	第 62図	J-40・47	69
第 3図	グリッドの設定と調査区	4	第 63図	J-41・43	70
第 4図	周辺の遺跡	7	第 64図	J-45・46・50・52	71
第 5図	基本土層	9	第 65図	J-53・54	72
第 6図	I区全体図	11	第 66図	J-55・57~61	73
第 7図	1号溝	12	第 67図	J-63・69・70	74
第 8図	1号井戸	13	第 68図	J-71・73	75
第 9図	I区屋敷跡	14	第 69図	J-74・76~78・80	76
第10図	I区縄文谷	15	第70図	J-79・81・82・84	77
第11図	1~4号土坑	17	第71図	J-85・87	78
第12図	1・2・7号土坑	18	第72図	J-88~90・95・96	79
第13図	5・6・8・18号土坑	19	第73図	J-97・100~102	80
第14図	3・4・15・29号土坑	20	第74図	縄文土器の分類	86
第15図	9~14・19・22・23号土坑	21	第75図	I区出土土器(1)	89
第16図	16・17・20・21・26・27号土坑	22	第76図	I区出土土器(2)	90
第17図	24・25・28・30号土坑	23	第77図	J-2出土土器	91
第18図	31号土坑	24	第78図	J-5出土土器(1)	97
第19図	I区('01)1~14号ピット	25	第79図	J-5出土土器(2)	98
第20図	I区('02)1~15号ピット	26	第80図	J-5出土土器(3)	99
第21図	I区('02)16~27号ピット	27	第81図	J-5出土土器(4)	100
第22図	II区近世面全体図	29	第82図	J-5出土土器(5)	101
第23図	II区縄文面全体図	30	第83図	J-5出土土器(6)	102
第24図	II区屋敷跡(1)	31	第84図	J-5出土土器(7)	103
第25図	II区屋敷跡(2)	32	第85図	J-5出土土器(8)	104
第26図	J-2(1)	36	第86図	J-5出土土器(9)	105
第27図	J-2(2)	37	第87図	J-32出土土器(1)	107
第28図	J-2(3)	38	第88図	J-32出土土器(2)	108
第29図	J-5(1)	39	第89図	J-44・51出土土器(1)	110
第30図	J-5(2)	40	第90図	J-51出土土器(2)	111
第31図	J-32(1)	41	第91図	J-65出土土器(1)	114
第32図	J-32(2)	42	第92図	J-65出土土器(2)	115
第33図	J-44	43	第93図	J-65出土土器(3)	116
第34図	J-51	44	第94図	J-66出土土器(1)	118
第35図	J-65	45	第95図	J-66出土土器(2)	119
第36図	J-66	46	第96図	J-67出土土器(1)	121
第37図	J-67	47	第97図	J-68出土土器(1)	127
第38図	J-68	48	第98図	J-68出土土器(2)	128
第39図	J-72	49	第99図	J-68出土土器(3)	129
第40図	J-75	50	第100図	J-68出土土器(4)	130
第41図	J-83・86	51	第101図	J-68出土土器(5)	131
第42図	J-91(1)	52	第102図	J-68出土土器(6)	132
第43図	J-91(2)・92	53	第103図	J-72・75出土土器	133
第44図	J-93(1)	54	第104図	J-83出土土器	134
第45図	J-93(2)	55	第105図	J-86出土土器	135
第46図	J-98(1)	56	第106図	J-91出土土器(1)	137
第47図	J-98(2)	57	第107図	J-91出土土器(2)	138
第48図	J-9・10・21	58	第108図	J-92出土土器(1)	140
第49図	J-1・3・15	59	第109図	J-92出土土器(2)	141
第50図	J-4・6	60	第110図	J-93出土土器(1)	145
第51図	J-11・12	61	第111図	J-93出土土器(2)	146
第52図	J-13・16・18	61	第112図	J-93出土土器(3)	147
第53図	J-19・22・42	62	第113図	J-93出土土器(4)	148
第54図	J-64・94	63	第114図	J-98出土土器(1)	153
第55図	J-7・8	64	第115図	J-98出土土器(2)	154
第56図	J-14・17・35	64	第116図	J-98出土土器(3)	155
第57図	J-20	65	第117図	J-98出土土器(4)	156
第58図	J-23・25・56・62・99	66	第118図	J-98出土土器(5)	157
第59図	J-24・26~30・48	67	第119図	J-1出土土器	159
第60図	J-31・33	68	第120図	J-3出土土器	160



第121図	J-4出土土器	161	第183図	945グリッド出土土器(2)	273
第122図	J-6出土土器	162	第184図	945グリッド出土土器(3)	274
第123図	J-7出土土器(1)	164	第185図	945グリッド出土土器(4)	275
第124図	J-7出土土器(2)	165	第186図	950グリッド出土土器(1)	283
第125図	J-8~11出土土器	167	第187図	950グリッド出土土器(2)	284
第126図	J-12出土土器	168	第188図	950グリッド出土土器(3)	285
第127図	J-13出土土器	169	第189図	950グリッド出土土器(4)	286
第128図	J-14出土土器	170	第190図	950グリッド出土土器(5)	287
第129図	J-15出土土器(1)	171	第191図	950グリッド出土土器(6)	288
第130図	J-15出土土器(2)	172	第192図	955グリッド出土土器(1)	295
第131図	J-16出土土器	173	第193図	955グリッド出土土器(2)	296
第132図	J-17出土土器	175	第194図	955グリッド出土土器(3)	297
第133図	J-18出土土器	176	第195図	955グリッド出土土器(4)	298
第134図	J-19出土土器(1)	177	第196図	960グリッド出土土器(1)	304
第135図	J-19出土土器(2)	178	第197図	960グリッド出土土器(2)	305
第136図	J-20~23出土土器	180	第198図	960グリッド出土土器(3)	306
第137図	J-24~31出土土器	182	第199図	965グリッド出土土器(1)	310
第138図	J-33~36出土土器	184	第200図	965グリッド出土土器(2)	311
第139図	J-37~40出土土器	186	第201図	965グリッド出土土器(3)	312
第140図	J-42・43出土土器	187	第202図	970グリッド出土土器(1)	318
第141図	J-45出土土器(1)	189	第203図	970グリッド出土土器(2)	319
第142図	J-45出土土器(2)	190	第204図	970グリッド出土土器(3)	320
第143図	J-47~50・52出土土器	192	第205図	975グリッド出土土器	322
第144図	J-53出土土器(1)	194	第206図	980・985グリッド出土土器(1)	325
第145図	J-53出土土器(2)	195	第207図	980・985グリッド出土土器(2)	326
第146図	J-54出土土器(1)	197	第208図	II区表土出土土器(1)	339
第147図	J-54出土土器(2)	198	第209図	II区表土出土土器(2)	340
第148図	J-55~57・59・60出土土器	200	第210図	II区表土出土土器(3)	341
第149図	J-61・62・64出土土器	201	第211図	II区表土出土土器(4)	342
第150図	J-69~71出土土器	202	第212図	II区表土出土土器(5)	343
第151図	J-73・74・76・79出土土器	203	第213図	II区表土出土土器(6)	344
第152図	J-81・82・84・85・88出土土器	205	第214図	II区表土出土土器(7)	345
第153図	J-89・90出土土器	207	第215図	II区表土出土土器(8)	346
第154図	J-94・95出土土器	209	第216図	II区表土出土土器(9)	347
第155図	J-96・97出土土器	211	第217図	II区表土出土土器(10)	348
第156図	J-101・102・1号溝出土土器	212	第218図	II区表土出土土器(11)	349
第157図	畑1・2出土土器	215	第219図	II区礫石器(完形)長幅相関図	356
第158図	中・近世土坑出土土器(1)	217	第220図	II区打製石斧長幅相関図	358
第159図	中・近世土坑出土土器(2)	219	第221図	II区楔形石器長幅相関図	359
第160図	910・915グリッド出土土器(1)	222	第222図	II区石鏃(完形)長幅相関図	360
第161図	910・915グリッド出土土器(2)	223	第223図	II区石核高幅相関図	361
第162図	920グリッド出土土器(1)	228	第224図	I区出土礫石器・結晶片岩製石器	363
第163図	920グリッド出土土器(2)	229	第225図	I区出土打製石斧(1)	365
第164図	920グリッド出土土器(3)	230	第226図	I区出土打製石斧(2)・磨製石斧	366
第165図	925グリッド出土土器(1)	235	第227図	I区出土スクレイパー・鋸歯緑石器	367
第166図	925グリッド出土土器(2)	236	第228図	I区出土不定形石器(1)	368
第167図	925グリッド出土土器(3)	237	第229図	I区出土不定形石器(2)	369
第168図	925グリッド出土土器(4)	238	第230図	I区出土石錐	370
第169図	930グリッド出土土器(1)	242	第231図	I区出土楔形石器	371
第170図	930グリッド出土土器(2)	243	第232図	I区出土石鏃	372
第171図	930グリッド出土土器(3)	244	第233図	I区出土石核	373
第172図	935グリッド出土土器(1)	251	第234図	II区出土台石(1)	375
第173図	935グリッド出土土器(2)	252	第235図	II区出土台石(2)	376
第174図	935グリッド出土土器(3)	253	第236図	II区出土石皿	377
第175図	935グリッド出土土器(4)	254	第237図	II区出土石皿・多孔石(1)	378
第176図	935グリッド出土土器(5)	255	第238図	II区出土石皿・多孔石(2)	379
第177図	940グリッド出土土器(1)	262	第239図	II区出土石皿・多孔石(3)	380
第178図	940グリッド出土土器(2)	263	第240図	II区出土多孔石(1)	382
第179図	940グリッド出土土器(3)	264	第241図	II区出土多孔石(2)	383
第180図	940グリッド出土土器(4)	265	第242図	II区出土多孔石(3)	384
第181図	940グリッド出土土器(5)	266	第243図	II区出土多孔石(4)	385
第182図	945グリッド出土土器(1)	272	第244図	II区出土多孔石(5)	386

第245図	Ⅱ区出土多孔石 (6) ……………	387	第297図	Ⅱ区出土スクレイパー (2) ……………	453
第246図	Ⅱ区出土多孔石 (7) ……………	388	第298図	Ⅱ区出土スクレイパー (3) ……………	454
第247図	Ⅱ区出土多孔石 (8) ……………	389	第299図	Ⅱ区出土スクレイパー (4) ……………	455
第248図	Ⅱ区出土凹石 (1) ……………	390	第300図	Ⅱ区出土スクレイパー (5) ……………	456
第249図	Ⅱ区出土凹石 (2) ……………	391	第301図	Ⅱ区出土スクレイパー (6) ……………	457
第250図	Ⅱ区出土凹石・磨石 (1) ……………	393	第302図	Ⅱ区出土鋸歯縁石器 (1) ……………	458
第251図	Ⅱ区出土凹石・磨石 (2) ……………	394	第303図	Ⅱ区出土鋸歯縁石器 (2) ……………	459
第252図	Ⅱ区出土凹石・磨石 (3) ……………	395	第304図	Ⅱ区出土不定形石器 (1) ……………	461
第253図	Ⅱ区出土凹石・磨石 (4) ……………	396	第305図	Ⅱ区出土不定形石器 (2) ……………	462
第254図	Ⅱ区出土磨石 (1) ……………	399	第306図	Ⅱ区出土不定形石器 (3) ……………	463
第255図	Ⅱ区出土磨石 (2) ……………	400	第307図	Ⅱ区出土不定形石器 (4) ……………	464
第256図	Ⅱ区出土磨石 (3) ……………	401	第308図	Ⅱ区出土不定形石器 (5) ……………	465
第257図	Ⅱ区出土磨石 (4) ……………	402	第309図	Ⅱ区出土石錐 (1) ……………	468
第258図	Ⅱ区出土磨石 (5) ……………	403	第310図	Ⅱ区出土石錐 (2) ……………	469
第259図	Ⅱ区出土磨石 (6) ……………	404	第311図	Ⅱ区出土石錐 (3) ……………	470
第260図	Ⅱ区出土磨石 (7) ……………	405	第312図	Ⅱ区出土石錐 (4) ……………	471
第261図	Ⅱ区出土磨石 (8) ……………	406	第313図	Ⅱ区出土石錐 (5) ……………	472
第262図	Ⅱ区出土磨石 (9) ……………	407	第314図	Ⅱ区出土石錐 (6) ……………	473
第263図	Ⅱ区出土磨石・敲石 (1) ……………	409	第315図	Ⅱ区出土楔形石器 (1) ……………	475
第264図	Ⅱ区出土磨石・敲石 (2) ……………	410	第316図	Ⅱ区出土楔形石器 (2) ……………	476
第265図	Ⅱ区出土敲石 (1) ……………	411	第317図	Ⅱ区出土楔形石器 (3) ……………	477
第266図	Ⅱ区出土敲石 (2) ……………	412	第318図	Ⅱ区出土楔形石器 (4) ……………	478
第267図	Ⅱ区出土敲石 (3) ……………	413	第319図	Ⅱ区出土楔形石器 (5) ……………	479
第268図	Ⅱ区出土結晶片岩製石器 (1) ……………	415	第320図	Ⅱ区出土楔形石器 (6) ……………	480
第269図	Ⅱ区出土結晶片岩製石器 (2) ……………	416	第321図	Ⅱ区出土楔形石器 (7) ……………	481
第270図	Ⅱ区出土結晶片岩礫 (1) ……………	417	第322図	Ⅱ区出土楔形石器 (8) ……………	482
第271図	Ⅱ区出土結晶片岩礫 (2) ……………	418	第323図	Ⅱ区出土楔形石器 (9) ……………	483
第272図	Ⅱ区出土打製石斧 (1) ……………	426	第324図	Ⅱ区出土楔形石器 (10) ……………	484
第273図	Ⅱ区出土打製石斧 (2) ……………	427	第325図	Ⅱ区出土石鏃 (1) ……………	489
第274図	Ⅱ区出土打製石斧 (3) ……………	428	第326図	Ⅱ区出土石鏃 (2) ……………	490
第275図	Ⅱ区出土打製石斧 (4) ……………	429	第327図	Ⅱ区出土石鏃 (3) ……………	491
第276図	Ⅱ区出土打製石斧 (5) ……………	430	第328図	Ⅱ区出土石鏃 (4) ……………	492
第277図	Ⅱ区出土打製石斧 (6) ……………	431	第329図	Ⅱ区出土石鏃 (5) ……………	493
第278図	Ⅱ区出土打製石斧 (7) ……………	432	第330図	Ⅱ区出土石鏃 (6) ……………	494
第279図	Ⅱ区出土打製石斧 (8) ……………	433	第331図	Ⅱ区出土尖頭器 ……………	495
第280図	Ⅱ区出土打製石斧 (9) ……………	434	第332図	Ⅱ区出土石核 (1) ……………	497
第281図	Ⅱ区出土打製石斧 (10) ……………	435	第333図	Ⅱ区出土石核 (2) ……………	498
第282図	Ⅱ区出土打製石斧 (11) ……………	436	第334図	Ⅱ区出土石核 (3) ……………	499
第283図	Ⅱ区出土打製石斧 (12) ……………	437	第335図	Ⅱ区出土石核 (4) ……………	500
第284図	Ⅱ区出土打製石斧 (13) ……………	438	第336図	Ⅱ区出土石核 (5) ……………	501
第285図	Ⅱ区出土打製石斧 (14) ……………	439	第337図	Ⅱ区出土石核 (6) ……………	502
第286図	Ⅱ区出土打製石斧 (15) ……………	440	第338図	Ⅱ区出土石核 (7)・原石 ……………	503
第287図	Ⅱ区出土打製石斧 (16) ……………	441	第339図	Ⅱ区出土石棒・環状石製品 ……………	504
第288図	Ⅱ区出土打製石斧 (17) ……………	442	第340図	Ⅱ区出土石製円盤・裝飾品 ……………	505
第289図	Ⅱ区出土打製石斧 (18) ……………	443	第341図	Ⅱ区出土台形礫石器・有舌尖頭器 ……………	506
第290図	Ⅱ区出土打製石斧 (19) ……………	444	第342図	I・Ⅱ区出土縄文時代以外の石製品 ……………	507
第291図	Ⅱ区出土打製石斧 (20) ……………	445	第343図	黒曜石産地分布図 ……………	509
第292図	Ⅱ区出土打製石斧 (21) ……………	446	第344図	判別図 (1) ……………	511
第293図	Ⅱ区出土打製石斧 (22) ……………	447	第345図	判別図 (2) ……………	511
第294図	Ⅱ区出土打製石斧 (23)・三角錐形石器 ……………	448	第346図	中・近世面全体図 ……………	513
第295図	Ⅱ区出土磨製石斧 ……………	449	第347図	縄文時代面全体図 ……………	514
第296図	Ⅱ区出土スクレイパー (1) ……………	452			

#### 写真図版目次

PL 1	I区 (西半分) 全景 (西)	(‘01) 3号土坑 (南)
	Ⅱ区中・近世面全景 (南)	(‘01) 4号土坑 (南)
PL 2	1号溝全景 (北)	PL 3 (‘02) 1号土坑 (南)
	1号井戸全景(南)	(‘02) 2号土坑 (東)
	I区屋敷跡(北)	(‘02) 3号土坑 (南)
	I区縄文谷 (南西)	(‘02) 4号土坑 (南)
	(‘01) 1号土坑 (南)	(‘02) 5号土坑 (西)
	(‘01) 2号土坑 (南)	(‘02) 6号土坑 (南)

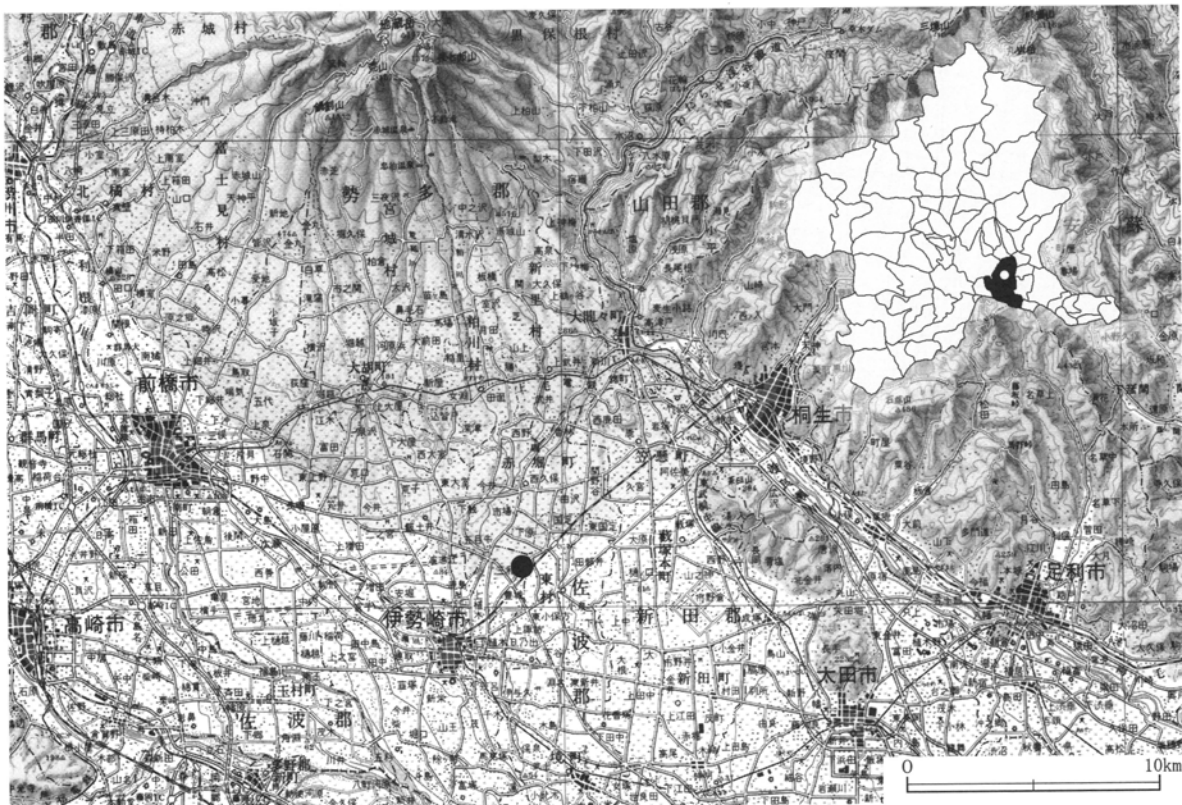
	('02) 7号土坑 (南)	J-93セクション (西)
	('02) 8号土坑 (南)	J-93埋甕 (南西)
PL4	('02) 9~12号土坑 (東)	PL14 J-98全景 (西)
	('02) 13号土坑 (西)	J-98遺物出土状況 (北)
	('02) 14号土坑 (南)	J-98遺物出土状況 (北)
	('02) 15号土坑 (南)	J-98炉 (西)
	('02) 16号土坑 (東)	J-98埋甕 (西)
	('02) 17号土坑 (南)	PL15 J-1 (北西)
	('02) 18号土坑 (南)	J-3 (南)
	('02) 19号土坑セクション (西)	J-4 (南)
PL5	('02) 20・21号土坑 (西)	J-6 (南西)
	('02) 19・22・23号土坑 (北)	J-7 (南)
	('02) 24号土坑 (南)	J-8 (南)
	('02) 25号土坑 (北)	J-9 (南西)
	('02) 26号土坑 (南)	J-10 (南)
	('02) 27号土坑 (南)	PL16 J-11 (南)
	('02) 28・30号土坑 (南)	J-12 (西)
	('02) 29号土坑 (東)	J-13 (南)
PL6	('02) 31号土坑 (南)	J-15 (南)
	II区屋敷跡 (南)	J-16 (南)
	J-5 遺物出土状況 (東)	J-17 (南)
	J-5 全景 (南)	J-18 (南)
	J-32敷石 (南)	J-19 (南西)
	J-32埋甕 (東)	PL17 J-21 (北西)
	J-32全景 (南)	J-22 (南)
	J-44全景 (北)	J-23・25・56・62 (西)
PL7	J-2 敷石 (南)	J-33 (南)
	J-2 炉 (南)	J-39 (南)
	J-2 埋甕 (南)	J-40・47 (東)
	J-2 遺物近景 (南)	J-42 (南)
	J-2 全景 (南)	J-43 (北)
PL8	J-51遺物出土状況 (北)	PL18 J-50 (南)
	J-65遺物出土状況 (東)	J-53 (南)
	J-65埋甕 (西)	J-54 (南)
	J-66全景 (南東)	J-59・61 (東)
	J-66埋甕1 (北東)	J-64 (南)
	J-66埋甕2 (南西)	J-69 (南)
	J-67全景 (北東)	J-70 (南)
	J-67炉 (北東)	J-71 (南)
PL9	J-68遺物出土状況 (北)	PL19 J-73 (南西)
	J-68遺物出土状況 (東)	J-74 (南東)
	J-68埋甕 (南)	J-76 (南)
	J-68全景 (北東)	J-77 (南西)
	J-68炉 (北東)	J-78・80 (南西)
PL10	J-72遺物出土状況 (北)	J-79 (東)
	J-72炉 (北)	J-81 (南西)
	J-72炉掘り方 (北)	J-82 (北)
	J-75全景 (南西)	PL20 J-84 (南西)
	J-75炉 (南)	J-85 (北東)
PL11	J-91全景 (東)	J-87 (南)
	J-91遺物出土状況 (北)	J-88 (東)
	J-91炉 (南)	J-89 (東)
	J-91炉 (北)	J-90 (東)
	J-83全景 (北)	J-94 (西)
PL12	J-92遺物出土状況 (北)	J-95 (南東)
	J-92セクション (南西)	PL21 J-96 (南)
	J-92全景 (北西)	J-97 (北)
	J-92炉 (北西)	J-2 調査風景 (南)
	J-86遺物出土状況 (南)	PL22 I区出土土器
PL13	J-93全景 (西)	PL23 J-2・5出土土器
	J-93遺物出土状況 (北)	PL24 J-5出土土器
	J-93遺物出土状況 (南)	PL25 J-5出土土器

PL26	J-5出土土器	PL77	960・965グリッド出土土器
PL27	J-32出土土器	PL78	965グリッド出土土器
PL28	J-51・65出土土器	PL79	970グリッド出土土器
PL29	J-65・66出土土器	PL80	970・975グリッド出土土器
PL30	J-66~68出土土器	PL81	980グリッド出土土器
PL31	J-68出土土器	PL82	II区表土出土土器(1)
PL32	J-68出土土器	PL83	II区表土出土土器(2)
PL33	J-68・72・75・83出土土器	PL84	II区表土出土土器(3)
PL34	J-44・86・91出土土器	PL85	II区表土出土土器(4)
PL35	J-91・92出土土器	PL86	II区表土出土土器(5)
PL36	J-92・93出土土器	PL87	II区表土出土土器(6)
PL37	J-93出土土器	PL88	I区出土石器(1)
PL38	J-98出土土器	PL89	I区出土石器(2)
PL39	J-98出土土器	PL90	I区出土石器(3)
PL40	J-98出土土器	PL91	II区出土礫石器(1)
PL41	J-1・3・4・6出土土器	PL92	II区出土礫石器(2)
PL42	J-7出土土器	PL93	II区出土礫石器(3)
PL43	J-8~13出土土器	PL94	II区出土礫石器(4)
PL44	J-14・15出土土器	PL95	II区出土礫石器(5)
PL45	J-16・17出土土器	PL96	II区出土礫石器(6)
PL46	J-18~23出土土器	PL97	II区出土礫石器(7)
PL47	J-24~31・33~36出土土器	PL98	II区出土礫石器(8)
PL48	J-37~40・42・43出土土器	PL99	II区出土礫石器(9)
PL49	J-45出土土器	PL100	II区出土礫石器(10)
PL50	J-47~50・52・53出土土器	PL101	II区出土打製石器(1)
PL51	J-53・54出土土器	PL102	II区出土打製石器(2)
PL52	J-54~57・59~62・64出土土器	PL103	II区出土打製石器(3)
PL53	J-69~71・73・74・76・79・81・82出土土器	PL104	II区出土打製石器(4)
PL54	J-84・85・88~90出土土器	PL105	II区出土打製石器(5)
PL55	J-94~97・101・102出土土器	PL106	II区出土打製石器(6)
PL56	II区畑2・1号溝・中・近世土坑出土土器	PL107	II区出土打製石器(7)
PL57	II区畑1・2・中・近世土坑出土土器	PL108	II区出土打製石器(8)
PL58	910・915グリッド出土土器	PL109	II区出土打製石器(9)
PL59	920グリッド出土土器	PL110	II区出土打製石器(10)
PL60	920・925グリッド出土土器	PL111	II区出土打製石器(11)
PL61	925グリッド出土土器	PL112	II区出土打製石器(12)
PL62	925・930グリッド出土土器	PL113	II区出土打製石器(13)
PL63	930グリッド出土土器	PL114	II区出土打製石器(14)
PL64	935グリッド出土土器	PL115	II区出土打製石器(15)
PL65	935グリッド出土土器	PL116	II区出土打製石器(16)
PL66	935・940グリッド出土土器	PL117	II区出土打製石器(17)
PL67	940グリッド出土土器	PL118	II区出土打製石器(18)
PL68	940グリッド出土土器	PL119	II区出土打製石器(19)
PL69	945グリッド出土土器	PL120	II区出土打製石器(20)
PL70	945グリッド出土土器	PL121	II区出土打製石器(21)
PL71	950グリッド出土土器	PL122	II区出土打製石器(22)
PL72	950グリッド出土土器	PL123	II区出土打製石器(23)
PL73	950グリッド出土土器	PL124	II区出土打製石器(24)
PL74	955グリッド出土土器	PL125	II区出土打製石器(25)
PL75	955グリッド出土土器	PL126	I・II区出土石器・石製品
PL76	960グリッド出土土器		

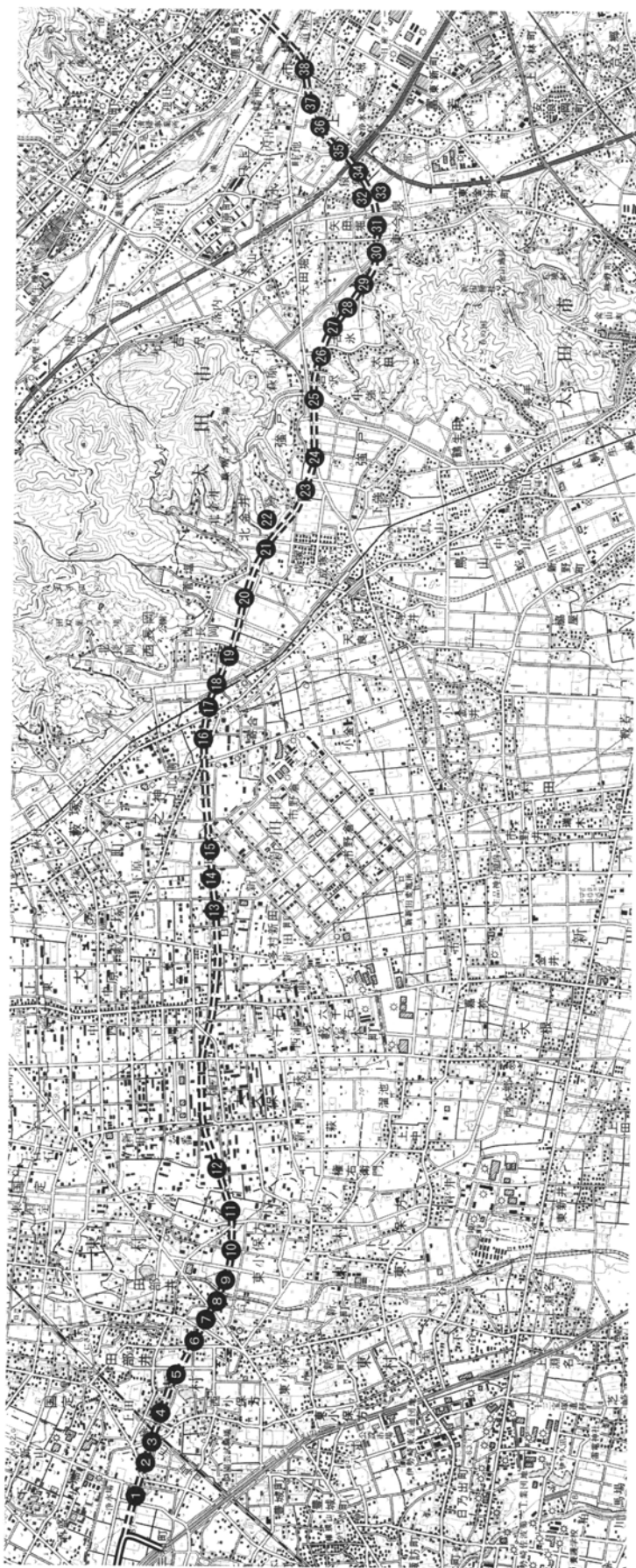
## 第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

### 第1節 発掘調査に至る経過

当事業は北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmについて発掘調査が開始されたのは平成12年度である。建設事業に先立ち、埋蔵文化財発掘調査が行われるまでには、平成7年から調査を開始した（高崎～伊勢崎）の発掘調査事業を平成12年7月までに終了し、12月まで基礎整理作業を行うこととなっていた。平成12年6月12日、日本道路公団東京建設局高崎工事事務所において公団・群馬県土木部道路建設課高速道路対策室・群馬県教育委員会文化財保護課・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者により、第1回目の伊勢崎～県境についての打ち合わせ会議を行った。公団からは用地買収等の状況、文化財調査と工事工程（カルパートボックスや橋梁等の下部工事発注）について、平成12年度の書上遺跡、天ヶ堤遺跡の発掘調査について急遽8月から開始してほしいとの要請があった。高速道路対策室は側道部分に係るカルパートボックスについての対応を考慮してほしい。側道の調査については基本的には市町村とすることが報告された。当事業団としては、用地買収があまりすすんでいない状況であること、残土処理場確保、側道部分の調査地の明瞭な区分等について問題点を出し合い調査への基礎固めを行うこととした。各所属で検討が進み文化財保護課の調整のもとに日本道路公団東京建設局・群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の3者は「北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を平成12年8月1日に締結し、この協定に基づき日本道路公団東京建設局と当事業団が「平成12年度北関東自動車道（伊勢崎～県境）埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を結び、8月からは書上遺跡、天ヶ堤遺跡の調査は同年10月から開始することとなった。



第1図 遺跡位置図



第2図 北関東自動車道関連遺跡位置図

番号	KT	遺跡名	所在地(調査時)
1	340	書上遺跡	伊勢崎市三和町
2	350	天ヶ堤遺跡	伊勢崎市三和町
3	360	大上遺跡	佐波郡東村西小保方・上田
4	370	前道下遺跡	佐波郡東村上田
5	380	塚下遺跡	佐波郡東村上田
6	390	上柳沢遺跡	佐波郡東村東小保方
7	400	遠西遺跡	佐波郡東村田部井
8	410	下元屋敷遺跡	佐波郡東村田部井
9	420	下田遺跡	佐波郡東村田部井
10	430	南原間遺跡	佐波郡東村田部井
11	440	下久保遺跡	佐波郡東村田部井
12	450	大久保鹿嶋遺跡	新田郡藪塚本町大久保
13	510	大原百石遺跡	新田郡藪塚本町大原
14	520	山ノ神野田遺跡	新田郡藪塚本町山ノ神
15	530	山ノ神南側遺跡	新田郡藪塚本町山ノ神
16	540	藪塚西野原遺跡	新田郡藪塚本町藪塚
17	550	西長岡横塚古墳群	太田市西長岡町
18	560	島合戸遺跡	太田市西長岡町
19	570	西長岡宿遺跡	太田市西長岡町
20	580	菅堤遺跡群	太田市菅堤町
21	590	成塚遺跡群	太田市成塚町
22	600	成塚向山古墳群	太田市成塚町・北金井町
23	610	大鷲遺跡群	太田市大鷲町
24	620	上強戸遺跡群	太田市強戸町
25	630	峰山遺跡	太田市強戸町字峰山
26	640	萩原遺跡	太田市緑町
27	650	古水条里水田跡	太田市緑町
28	660	二の宮遺跡	太田市緑町
29	670	八ヶ人遺跡	太田市緑町・東今泉町
30	680	大道西遺跡	太田市東今泉町
31	690	大道東遺跡	太田市東今泉町
32	700	築前遺跡	太田市只上町
33	710	鹿島浦遺跡	太田市東今泉町
34	720	向矢部遺跡	太田市只上町
35	730	矢部遺跡	太田市只上町
36	740	只上深町遺跡	太田市只上町
37	750	新島遺跡	太田市只上町
38	760	道原遺跡	太田市只上町

## 第2節 天ヶ堤遺跡Ⅰ・Ⅱ区調査経過（日誌抄）

本遺跡は、平成12年度から調査が始まり14年度まで継続して調査された。調査区が広範囲のため調査区をⅠからⅣ区に分けた。その中で用地の関係で部分的に発掘調査を行った。そのため調査も断続的なものになってしまった。以下、Ⅰ・Ⅱ区の調査経過の概要を報告する。

Ⅰ区調査の経過	29日	縄文時代遺構確認。
平成12年（2000年）	12月 1日	縄文時代遺構確認。
10月10日 Ⅰ区－1 北側部分表土掘削開始。	4日	縄文土器包含層調査。縄文包含層掘削。
10月下旬～11月上旬 遺構確認。	平成13年（2001年）	
13日 遺構調査。	1月 5日	縄文時代遺構調査。
21日 旧石器試掘調査。	11日	縄文時代住居発掘。
11月 1日 縄文包含層調査・旧石器試掘調査。	31日	グリッド設定。遺構確認。
19日 Ⅰ区南側部分表土掘削開始。	2月27日	住居調査。
平成13年（2001年）	3月19日	縄文土器包含層調査。縄文包含層。
1月15日 Ⅰ区－1 南側部分調査開始。	26日	平成13年度現場終了。
24日 縄文包含層調査・旧石器試掘。	4月 9日	平成14年度現場開始。
2月 1日 縄文包含層調査終了。旧石器試掘調査。	10日	旧石器時代試掘調査。
21日 旧石器試掘終了。	19日	旧石器試掘終了・Ⅱ区－1 調査終了。
平成14年（2002年）	11月15日	Ⅱ区－1 ①重機による表土掘削開始。
4月22日 Ⅰ区－2 部分表土掘削開始。	20日	表土掘削終了～27日まで遺構確認。
23日 遺構確認。	29日	遺構調査。
24日 近世建物調査。	12月11日	縄文面調査終了。旧石器試掘調査。
25日 縄文時代遺構確認。	12日	旧石器試掘。
5月 2日 旧石器試掘。	17日	旧石器試掘終了、埋め戻し。
9日 東端縄文包含層調査。旧石器試掘。	平成14年（2002年）	
15日 縄文包含層。	8月 1日	Ⅱ区－1 ②③調査開始。
22日 縄文谷・攪乱掘り下げ。	27日	Ⅱ区・Ⅲ区間道路調査。表土掘削。
6月 3日 近世建物調査。	9月 2日	遺構確認。遺構調査。
6日 近世面調査終了。旧石器試掘。	10月 8日	旧石器試掘。
7月 2日 旧石器試掘。	29日	縄文時代遺構調査。旧石器試掘。
25日 旧石器調査終了。	11月 5日	縄文時代遺構、旧石器ブロック調査。
Ⅱ区調査の経過	8日	縄文面遺構調査終了。
平成12年（2000年）	29日	旧石器ブロック実測・写真・遺物取上。
10月 2日 Ⅱ区－2 の調査開始。	12月 2日	Ⅱ区－3 掘削・発掘調査。
4日～13日 古代～近代の確認面表土掘削。	6日	縄文時代・旧石器調査終了。
16日～25日 古代～近世遺構確認。	平成15年（2003年）	
26日 古代～近代遺構調査開始。	1月10日	Ⅱ区・Ⅲ区間道下旧石器調査。
11月 1日～28日 古代～近代遺構調査。	20日	調査終了。

### 第3節 調査の方法

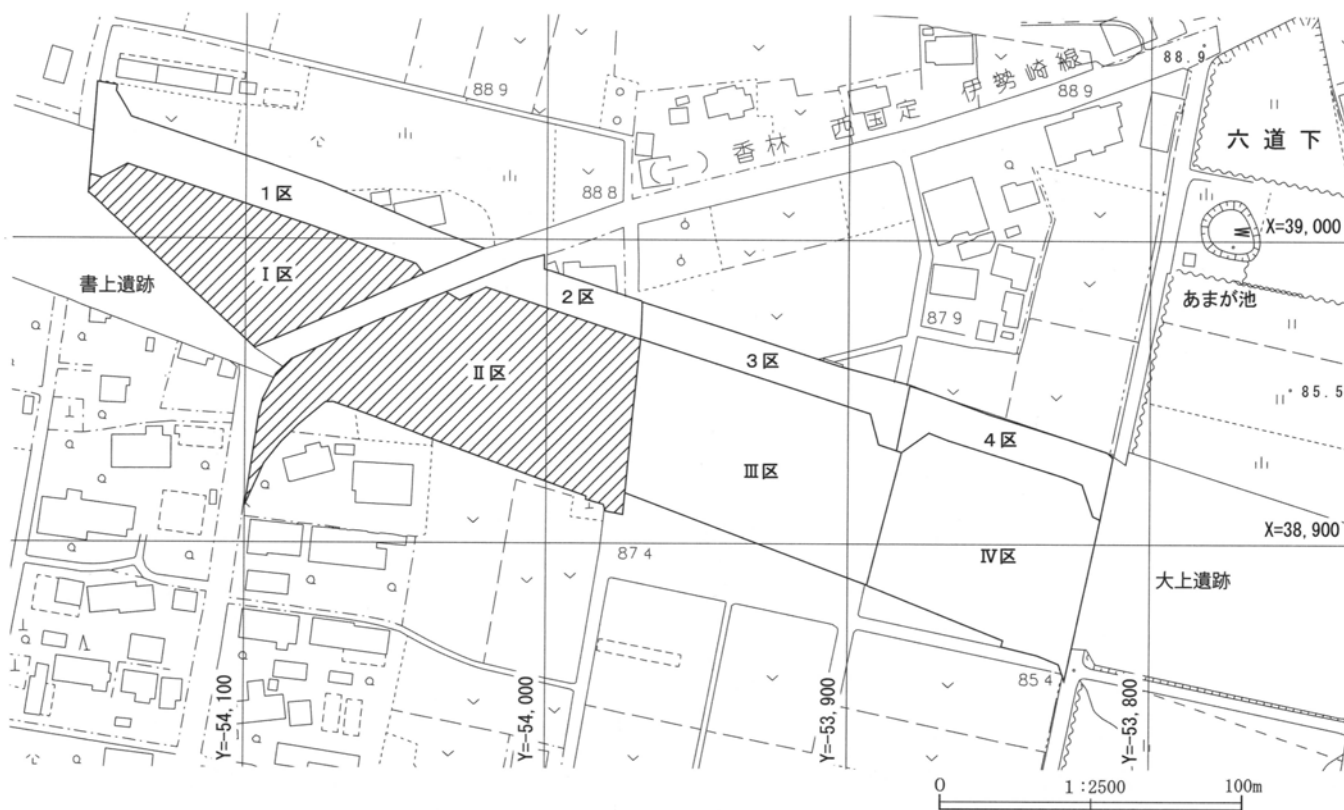
調査にあたってのグリッド設定は国家座標Ⅸ系（本遺跡では改正測量法施行前の日本測地系を使用）の  $X=39,000$ 、 $Y=-54,000$ を基準にし、下3桁をとってグリッド名とした。このグリッド名は、南東隅を便宜上、X軸・Y軸の順で表記している。調査区の名称は、北関東自動車道部分の本遺跡を分断する現道により、ローマ数字のⅠからⅣ区を設定し、県道香林羽黒線部分はアラビア数字の1から4区を設定した。なお、本報告書にかかわる調査区は下図の斜線部分である。

本遺跡の表土除去には、重機（バックホー）を使用し、遺構の確認作業及び覆土除去作業は発掘作業員の手で行った。古代及び縄文時代の文化層が重複していたが、土層の堆積が薄い地点では、層位的な調査が行われず同じ平面上での調査となってしまった。

出土遺物は、遺構から出土したものは、そのまま遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記入したものについては、番号を付し、レベルを計測して取り上げた。

個別の遺構調査では、土層の堆積状況を確認するための土層ベルトを任意に設定して土層堆積を観察した。遺構は、作業員による移植コテなどで慎重に掘り下げられた。遺構測量は、発掘作業員によるものと測量会社に委託して測量したものがある。縮尺については、住居跡・土坑、土層堆積断面図は二十分の一、炉・竈などは十分の一、その他の溝・石組み列など比較的大きな遺構については四十分の一、全体図は二百分の一を基本として作成した。

写真については、ラジオコントロールのヘリコプターによる空中写真をのぞき担当者が撮影した。



第3図 グリッドの設定と調査区



## 第4節 遺跡の位置と周辺の遺跡

### 1 遺跡の位置と自然環境

天ヶ堤遺跡は、群馬県南部の伊勢崎市三和町に所在する。旧市域の北東部にあたり、北は旧赤堀町、東は旧東村と接している。南方には国道17号バイパスの上武道路、西方には三和工業団地が開発された。北関東自動車道の建設と併せ、この地域一帯は多くの遺跡の発掘調査が実施されている。

伊勢崎市の地形は、赤城山斜面台地・大間々扇状地・前橋台地・伊勢崎台地・広瀬川低地帯に分けられる。市域の大半は平坦地形を成し、北東部には赤城山頂の小沼を水源とする粕川が南流する。中央部には広瀬川が南東に流れ、地質的にはこの広瀬川を境に左岸が洪積台地に、右岸は沖積台地に大別されている。

天ヶ堤遺跡の位置する三和町は、赤城山南麓に接する大間々扇状地上に立地する。大間々扇状地は、みどり市大間々町を扇央部として、渡良瀬川によって形成された東西約13kmの扇状地である。この扇状地は、現在の粕川から早川に挟まれた範囲の桐原面と、早川から渡良瀬川に挟まれた藪塚面から構成されている。これらの段丘面は、礫層の上位に堆積したテフラ分析から、桐原面は約5万年前、藪塚面は約2万数千年前に段丘化したと考えられている。

三和町は大間々扇状地桐原面の西南端部に位置し、洪積台地縁辺の標高90m付近には、「あまが池」・「男井戸」・「角弥清水」・「谷地清水」など多くの湧水点が存在していた。しかし、昭和50年代の土地改良事業により湧水点の多くは埋め立てられ、現在もその姿をとどめているのは「あまが池」のみである。湧水点の下流には、小河川の開析作用によりローム台地に幾筋かの低地が形成されている。これらの低地に挟まれた格好になるローム台地上には数多くの集落や墳墓が分布している。

天ヶ堤遺跡は、「あまが池」の湧水点に伴う低地と遺跡の約600m西方の「男井戸」に伴う低地に挟まれた舌状のローム台地上に占地する。低地部とローム台地の高低差は現状で約3mで、遺構の大多数は「あまが池」湧水点に近いⅡからⅣ区にかけて分布している。

### 2 周辺の遺跡

天ヶ堤遺跡は、旧石器時代から近世にまたがる複合遺跡である。遺跡の所在する伊勢崎市三和町周辺は大規模な開発がおこなわれ、それに伴う発掘調査により周辺の歴史的環境が明らかになりつつある。そこで、この地域の各時代の様相を、調査された遺跡をもとに概観したい。

#### 旧石器時代

近年の大規模な開発に伴う調査により、本遺跡周辺では旧石器時代の石器の出土例が増加している。「男井戸」湧水点の右岸台地上の舞台遺跡および三和工業団地Ⅰ遺跡では、As-YP下のロームから細石刃・細石刃核が出土している。また、AT下の暗色帯からはナイフ形石器や剥片が出土している。三和工業団地Ⅲ・Ⅳ遺跡においても、AT下の暗色帯からナイフ形石器、スクレイパーなどが出土している。書上本山遺跡では、上部ローム層の浅間板鼻褐色軽石混入層の中位から暗褐色ローム層（暗色帯）の上位にかけて安山岩、頁岩を主体とするナイフ形石器、石核などが出土、「角弥清水」湧水点の西側台地上の光仙房遺跡では、As-OPからAs-BPにかけての層位より黒曜石槍先形尖頭器が出土した。

また、「あまが池」湧水点の両側の台地でも石器の出土例が増えている。本遺跡をはじめ、書上遺跡、大上遺跡、前道下遺跡、塚下遺跡など石器や礫群が出土している。大間々扇状地桐原面縁辺の湧水点を中心に旧石器時代の人々の生活が営まれていたことが推測できる。

## 第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

### 縄文時代

草創期および早期の遺跡は希薄である。草創期に属すると考えられる石器が2点出土した光仙坊遺跡がある。早期の遺跡としては、撚糸文系や条痕文系の土器が出土した書上本山遺跡、押型文系の土器が出土した書上吉祥寺遺跡などがあげられる。また、粕川右岸に位置する五目牛清水田遺跡では前期初頭の花積下層式期の住居跡が6軒確認されている。

前期後半の遺跡は、舞台遺跡、三和工業団地Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ遺跡であり、諸磯a～c期の住居が確認された。いずれの遺跡も「男井戸」と「角弥清水」湧水点に挟まれたローム台地上に位置する。大上遺跡においても諸磯期の住居跡が調査されている。

「あまが池」湧水点の谷頭に位置する三和工業団地Ⅱ遺跡では、中期中葉から後期前半にかけての住居跡が150軒以上確認されている。出土土器は、阿玉台式・勝坂式・加曾利式・称名寺式・堀之内式などで中期後半の土器がもっとも多い。三和工業団地Ⅱ遺跡は本遺跡から北に約200mと近接している。中期の遺跡は、他に鯉沼東遺跡、中西原遺跡、塚下遺跡などがあげられる。

後期の遺構が確認されたのは上植木光仙坊遺跡で、堀之内1式の埋設土器が出土した。また、五目牛清水田遺跡の包含層からは、称名寺、堀之内1・2、加曾利B式の土器が出土している。

### 弥生時代

本遺跡周辺では現在のところ、弥生時代の遺跡は確認されていない。三和工業団地遺跡群からわずかに樽系および赤井戸系の土器片が確認されている。

### 古墳時代

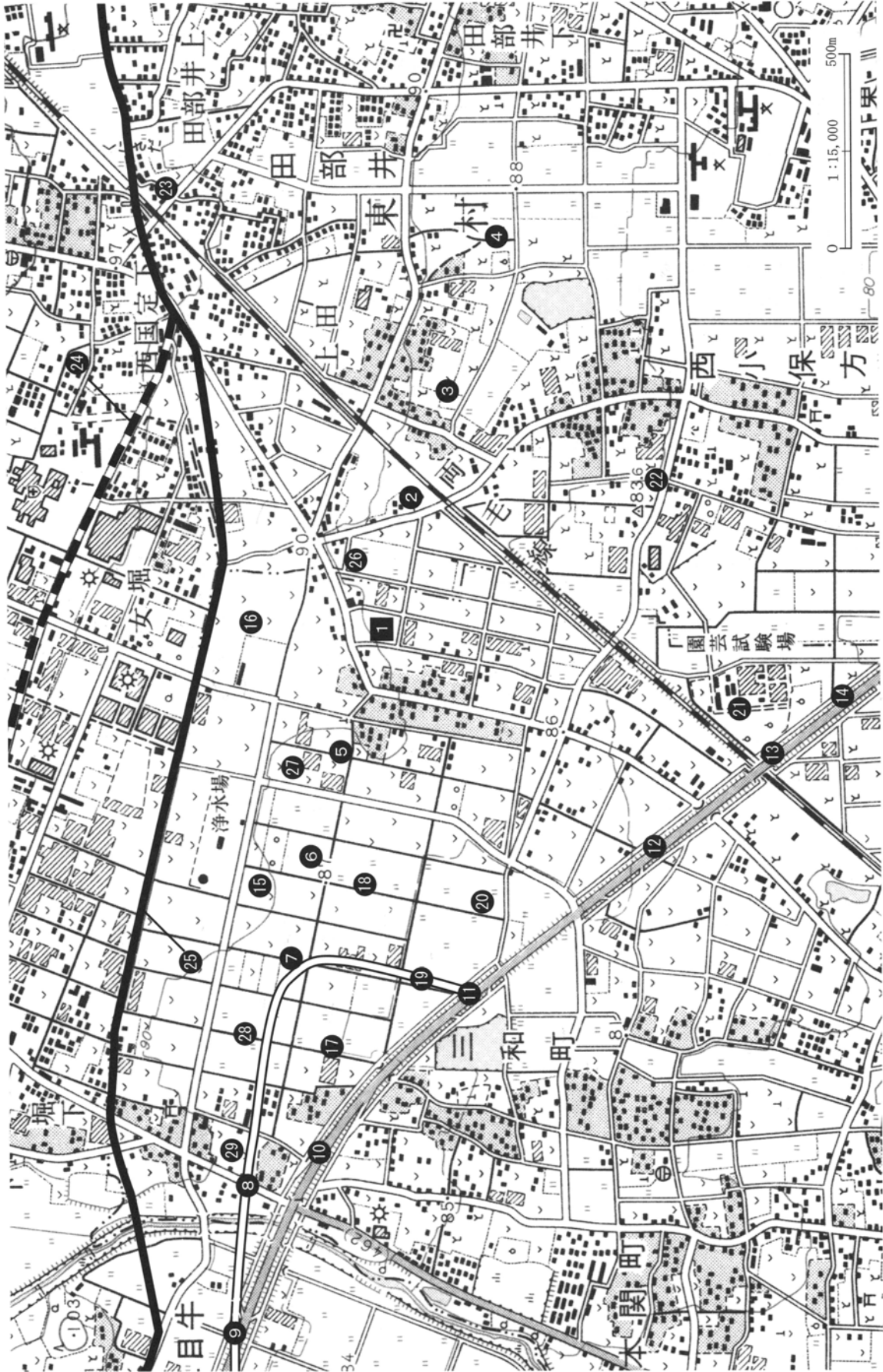
古墳前期になると東海地方西部の文化の影響を受けた集落が飛躍的に展開する。舞台遺跡、三和工業団地Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ遺跡からは、S字状口縁台付甕を伴う住居跡が約300軒確認されている。この集落の墓域と考えられる前方後方形周溝墓および方形周溝墓も同時に調査され、総数は30基である。また、台地周辺の光仙坊、鯉沼東遺跡からも少数ではあるが住居跡が確認された。塚下遺跡でも前期の集落が調査されている。

中期は遺跡数が減少し、上植木壺町田遺跡、鯉沼東遺跡などで住居跡が数軒確認されているのみである。

古墳時代後期の遺跡としては、大規模な豪族居館と推定されている原之城遺跡があり、この地域で中心的な位置を占めていたと考えられている。集落は、前期とほぼ同じローム台地上の舞台遺跡、三和Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ遺跡から120軒以上の住居跡が確認されている。鯉沼東遺跡、下植木壺町田遺跡、前道下遺跡、塚下遺跡などでも住居跡が調査されている。特殊な遺構として光仙坊遺跡で粘土採掘坑が検出され、坑内からは一木平鋤・曲柄平鋤などの木製品が出土している。後期の古墳としては、粕川左岸に本関町古墳があり、その一部は光仙坊遺跡、上植木光仙坊遺跡として調査されている。

### 奈良・平安時代

この時期の注目すべき遺構は、須恵器窯である。舞台遺跡11基、光仙坊遺跡12基、三和工業団地Ⅲ遺跡2基が調査された。窯跡群の周辺には集落が展開し、光仙坊遺跡、上植木光仙坊遺跡、舞台遺跡、三和工業団地Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ遺跡の住居跡を合計すると400軒以上になり、その多くは9～10世紀代のものである。奈良・平安時代の住居跡は、田部井大根谷戸遺跡、前道下遺跡、塚下遺跡でも調査されている。また、書上上原之城遺跡では、掘立柱建物群とともに八稜鏡が出土している。三和工業団地Ⅱ遺跡では、推定佐位郡馬房および大溝が検出されている。同規模の溝が田部井大根谷戸遺跡でも報告されている。また、本遺跡の北800mには12世紀初頭に掘削された大用水路、女堀が存在する。



第4図 周辺の遺跡

第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

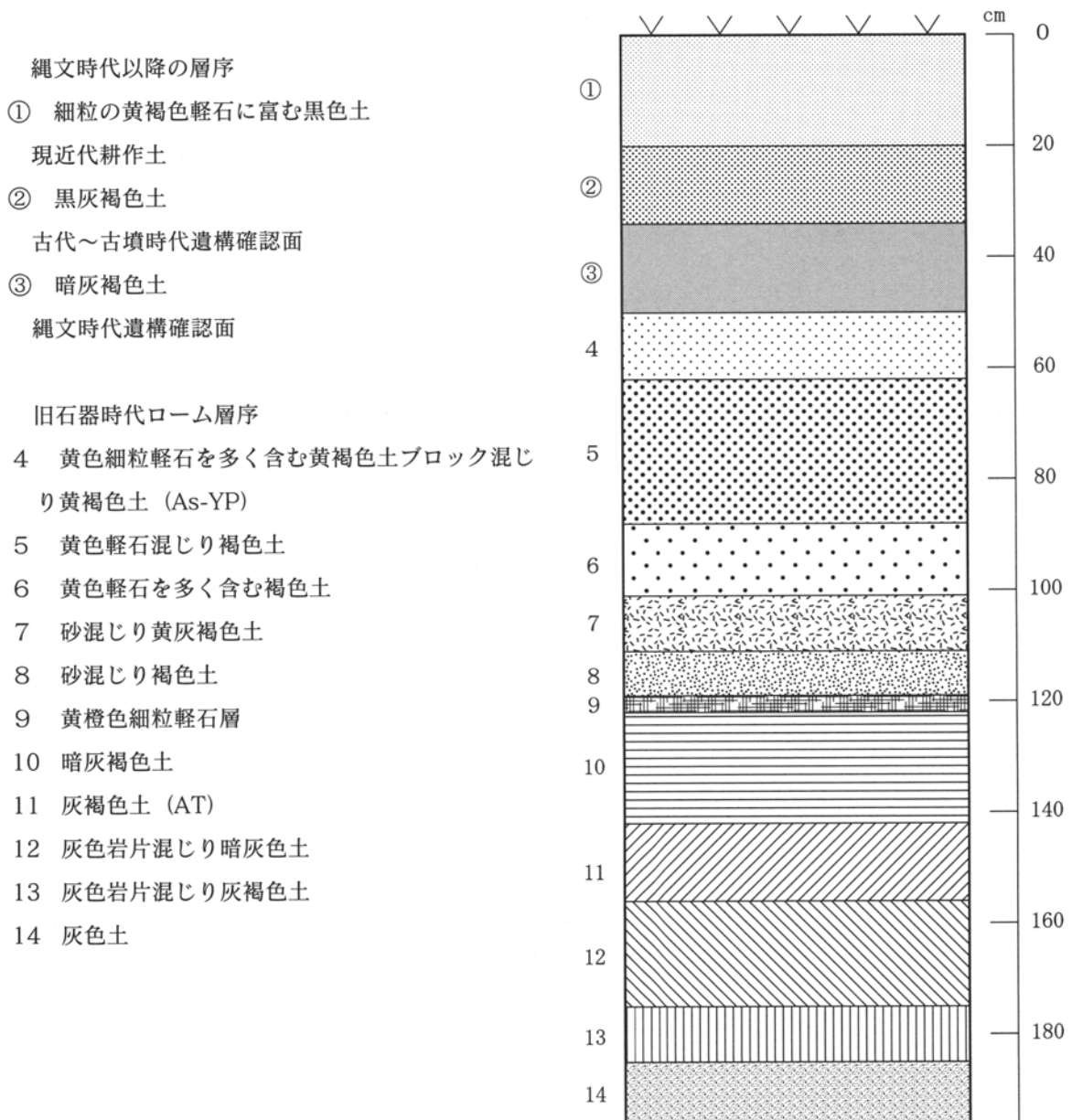
周辺の遺構

番号	遺跡名	遺跡の概要	主な文献
1	天ヶ堤遺跡	旧石器、縄文中期～後期住居跡、古墳前期・後期住居跡、平安住居跡	本報告書
2	大上遺跡	旧石器、縄文前期住居跡	『年報22』他 群埋文2003
3	前道下遺跡	旧石器、縄文中期土坑、古墳後期住居跡、平安住居跡	『年報22』他 群埋文2003
4	塚下遺跡	旧石器、縄文中期住居跡、古墳前期～奈良・平安住居跡	『塚下遺跡(1)』群埋文2006
5	書上遺跡	旧石器、古墳後期住居跡	『年報22』他 群埋文2003
6	大井戸遺跡	溜井跡、溝	『大井戸遺跡』群埋文2005
7	舞台遺跡	旧石器、縄文前期住居跡、古墳前期周溝墓・住居跡、古墳後期住居跡、奈良・平安住居跡、平安須恵器窯跡	『舞台遺跡(1)～(3)』群埋文2001・2004・2005
8	光仙坊遺跡	旧石器、古墳前期・後期住居跡、古墳後期粘土採掘坑、平安住居跡・須恵器窯跡、水路他	『光仙坊遺跡』群埋文2003
9	五目牛清水田遺跡	縄文前期住居跡、古墳前期住居跡、前方後方墳、奈良住居跡、水田他	『五目牛清水田遺跡』群埋文1993
10	上植木光仙坊遺跡	旧石器、古墳、平安住居跡	『上植木光仙坊遺跡』群埋文1988
11	上植木老町田遺跡	古墳中期住居跡、平安住居跡、中世井戸	『上植木老町田遺跡』群埋文1988
12	書上本山遺跡	旧石器、古墳後期住居跡、平安住居跡	『書上本山遺跡』群埋文1992
13	書上上原之城遺跡	奈良・平安住居跡、掘立柱建物	『書上上原之城遺跡』群埋文1988
14	書上吉祥寺遺跡	縄文前期住居跡、古墳後期住居跡、平安住居跡、掘立柱建物	『書上吉祥寺遺跡』群埋文1988
15	三和工業団地Ⅰ遺跡	旧石器、縄文前期住居跡、古墳前期住居跡・周溝墓、古墳後期住居跡、奈良・平安住居跡・須恵器窯跡、中世馬房他	『三和工業団地Ⅰ遺跡(1)(2)』群埋文1999
16	三和工業団地Ⅱ遺跡	縄文中期～後期住居跡、中世馬房他	『三和工業団地Ⅱ遺跡』伊勢崎市教委2004
17	三和工業団地Ⅲ遺跡	旧石器、古墳前期周溝墓・住居跡、古墳後期住居跡、奈良・平安住居跡・須恵器窯跡	『三和工業団地Ⅲ遺跡』伊勢崎市教委2004
18	三和工業団地Ⅳ遺跡	旧石器、縄文前期住居跡、古墳前期・後期住居跡、奈良・平安住居跡・掘立柱建物	『三和工業団地Ⅳ遺跡』伊勢崎市教委2004
19	下植木老町田遺跡	旧石器、古墳前期・中期・後期住居跡、平安住居跡、中・近世館跡	『下植木老町田遺跡』群埋文1999
20	鯉沼東遺跡	縄文中期住居跡、古墳前期・後期住居跡、平安住居跡他	『鯉沼東遺跡・舞台遺跡』伊勢崎市教委1977
21	県園芸試験場遺跡	奈良・平安住居跡、掘立柱建物他	『県園芸試験場第二遺跡・下江田前遺跡』県教委1974
22	中西原遺跡	縄文中期住居跡、古墳後期住居跡	『東村誌』
23	田部井大根谷戸遺跡	古代大堀、奈良・平安住居跡	『田部井大根谷戸遺跡』群埋文2002
24	女堀	中世用水遺構	『女堀』群埋文1984
25	あずま道		『伊勢崎市史 通史編1』
26	あまが池		
27	男井戸		
28	角弥清水		
29	谷地清水		

第5節 遺跡の基本層序

天ヶ堤遺跡は、大間々扇状地I面と呼ばれる桐原面にある。遺跡内は、大まかに近世～古墳時代までと縄文時代の文化層とローム層中の旧石器時代文化層に分かれる。ローム漸移層の縄文時代遺構確認面までの深さが、現地表面から30～60cm内にありローム漸移層より上位の土層については、耕作による攪乱を多く受けている。そのため、群馬で一般的に見られる浅間・榛名起源の軽石層は、耕作土中に混じってしまい本遺跡では、層位的に確認出来なかった。

以下、現地表から、縄文時代・旧石器時代の基本層序を模式図で紹介する。



第5図 基本土層

## 第2章 I区 検出された遺構

### 第1節 遺構の概要

I区から検出された遺構は、中・近世面では、屋敷跡1軒、土坑36基、ピット41基、溝1条、井戸1基。縄文面では、遺物を包含する谷が発見されている。

中・近世面では、遺構確認面が表土から浅く、住宅地であったため攪乱を多分に受けており、遺構の残存状況はあまり良くない。縄文面では、遺構が少なく、谷状の遺構を1条検出したのみであった。自然地的な谷で縄文時代の包含層で覆われている。

また、調査区の地形は、大間々扇状地の影響を受けて、やや北西から南東に向かって傾斜する。

#### 遺構分布状況

遺構は、調査区南側で土坑、ピット群を検出した。その南側II区につながるすぐ東で屋敷跡、南（II区）で長屋門と考えられる遺構が検出されていることから、中・近世の屋敷跡の周りないし中につくられた併設する土坑、ピット群の可能性もある。北側及び西側は遺構が少ない。

#### 土坑

土坑の形状は、長方形、正方形、楕円形、不整形などが見られる。形状により、その機能に違いが見られる。長方形や正方形に近い形状のものは遺物がほとんどなく、掘り込みがしっかりしていて中・近世、近代の貯蔵用の土坑と考えられる。中には、隅に柱穴をもち上屋をもっていた納屋状の土坑も検出した。掘り込みの浅い楕円形状の土坑と不整形の土坑については、用途不明である。墓坑の可能性のある土坑も検出した。

#### ピット

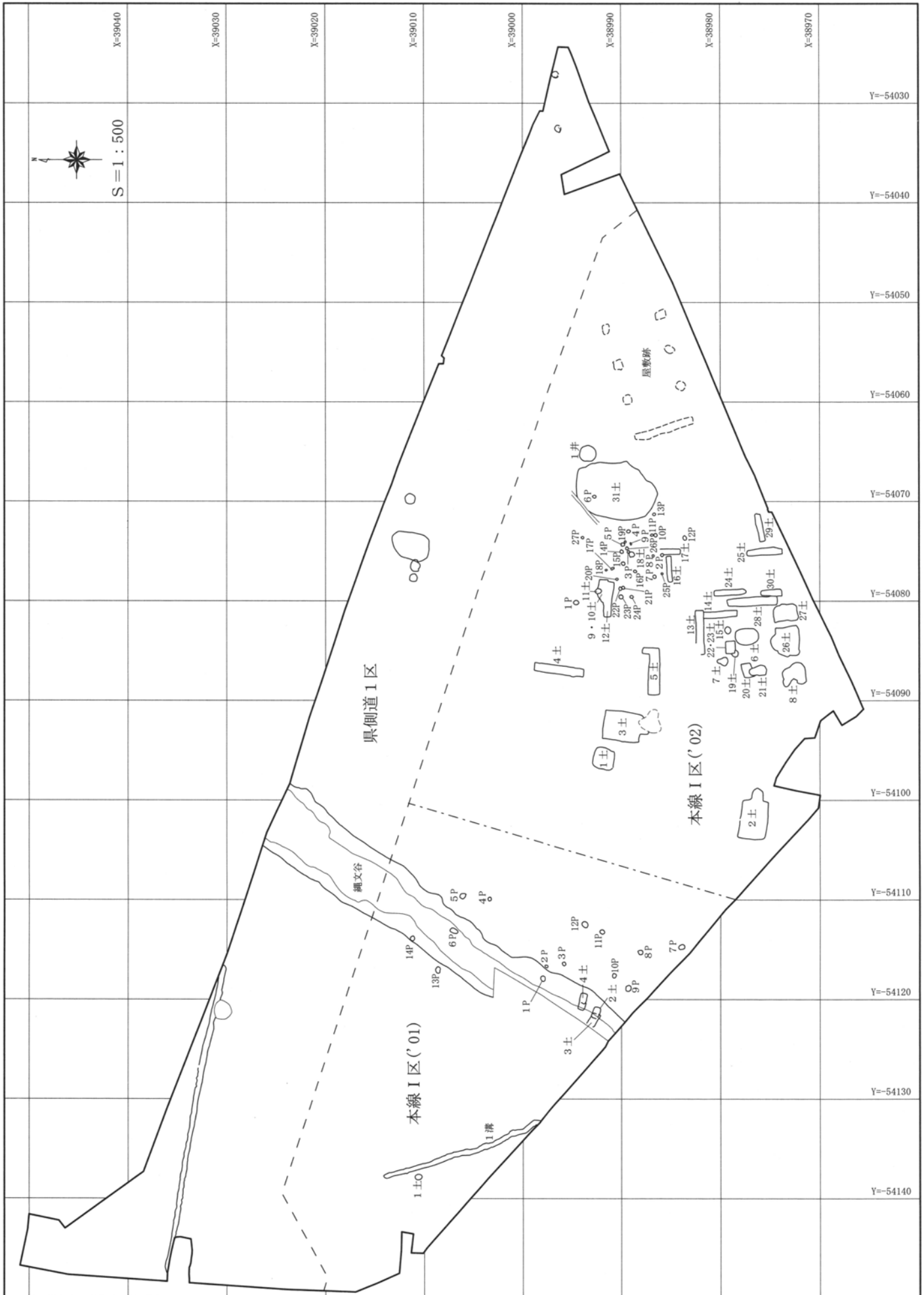
ピット群は、調査区中央やや南よりの2ヶ所に集中して検出された。中央部やや西よりの集中箇所のピット群については、14基検出した。形状は、楕円形、円形を基本としているが、規模はまばらである。掘立柱建物跡として並ぶものはなく、詳細は不明である。遺物は、ほとんどなく覆土や周辺の堆積状況などから近世のものと考えられる。また、中央やや東よりの集中箇所のピット群については、27基検出した。形状は、楕円形、円形を基本としているが、規模はまばらなものが多い。遺物も少量であった。掘立柱建物跡として並ぶものもなかった。しかし覆土や掘り方の断面や形状からいくつかについては、柱穴と判断した。おそらく近世の屋敷跡などの遺構と近い時期のものと考えられる。

#### 土層の堆積状況

現地表から遺構の確認面までは浅く、住宅地跡のため攪乱を非常に受けている。ローム層まで浅く漸移層の残りも良くない。浅間B・C軽石は、表土中ないし遺構覆土中に多少混じる。

#### 遺物出土状況

遺物は、全体的に少ない。中・近世の陶磁器片や石器を検出した。縄文谷からは縄文土器片を検出した。



第6図 I区全体図

第2節 検出された溝、井戸、屋敷跡、谷

1号溝 (第7図 PL2)

位置 X=998~014 Y=-132~139 重複 なし 走向 北北西から南南東 形状 ほぼ直線的で断面は、皿状で浅い。 規模 検出全長 16.56m、上幅 0.54m、底幅 0.36m、深さ 0.12m 遺物 縄文土器片や陶磁器片少量が出土している。 所見 幅が狭く、浅い。さらに底面のレベルがある程度一定している。従って、耕作地の地境あるいは、耕作に関わる溝と考えられる。出土遺物などから近世時代の遺構と考えられる。

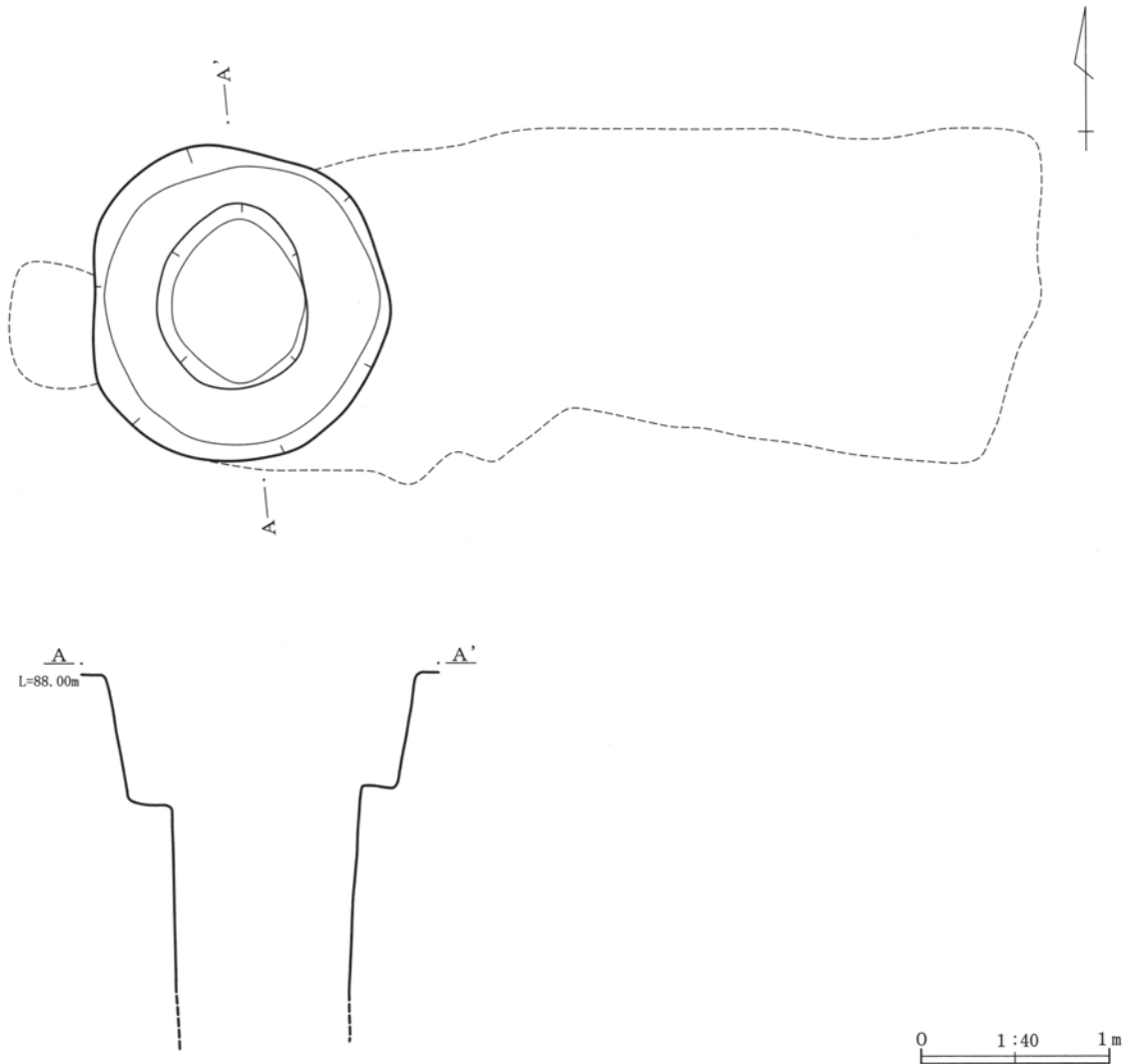


第7図 1号溝



1号井戸 (第8図 PL2)

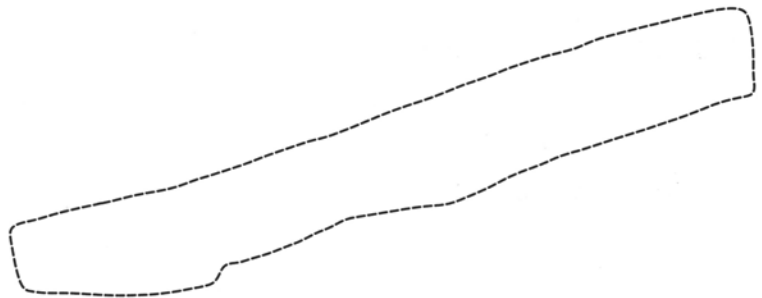
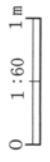
位置 X=992~994 Y=-064~066 形状 円形 規模 長軸1.64m 短軸1.54m 深さ-1m  
遺物 なし 所見 出土遺物がなく時期を特定することは難しいものの、周囲の出土遺構や覆土から中・  
近世の遺構と比定される。



第8図 1号井戸

I区屋敷跡 (第9図 PL2)

位置 X=982~993 Y=-050~060 重複 なし 主軸 - 形状 長方形 規模 桁行8  
m、梁行5m 遺物 陶磁器類が少量出土している。 所見 上屋構造は分からないものの、建物の礎  
石が4石出土した。出土遺物などから近世後半時期の遺構と考えられる。

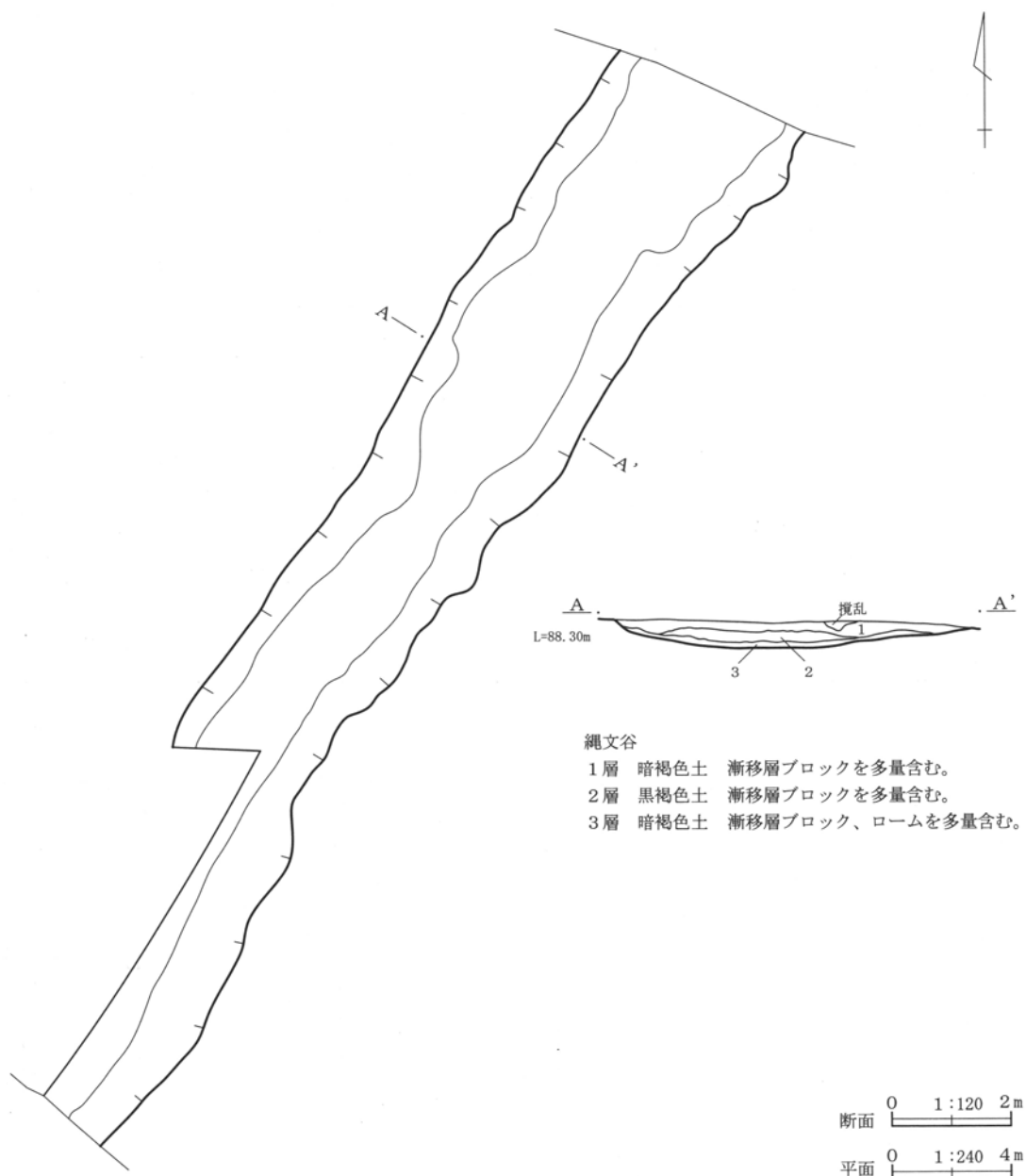


I区屋敷跡

第9図 I区屋敷跡

縄文谷 (第10図 PL2)

位置 X=989~026 Y=-098~124 重複 土坑、ピットが重複するが、いずれも近世のため縄文谷の方が古い。 走向 北東から南西形態 ほぼ直線的で断面は、皿状。 規模 全長20.45m、上幅3.24m、底幅1.61m、深さ0.4mほどである。 遺物 縄文土器片 (諸磯c式期から堀之内式期) が出土している。 所見 調査区外の北東、南西両方向へのびる谷になると考えられる。直線的ではあるが幅広で浅いこともあり自然地形にできた谷と考えられる。



第10図 I区縄文谷

第2章 I区 検出された遺構

第3節 検出された土坑

I区土坑一覧表

土坑番号	形状	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物・特徴など	グリッド
1号('01)	楕円形	N-0°	0.71	0.55	0.22	中・近世		010-135
2号('01)	長方形	N-70°-W	1.15	0.71	0.18	近世	耕作用貯蔵穴	990-120
3号('01)	不整長方形	N-70°-W	1.26	0.78	0.14	近世	縄文土器片、耕作用貯蔵穴	990-120
4号('01)	不整長方形	N-75°-W	1.00	0.67	0.37	近世	耕作用貯蔵穴	990-120
1号('02)	不整正方形	N-75°-W	2.15	2.10	0.37	不明		990-095
2号('02)	不整長方形	N-80°-W	5.18	2.80	0.55	近世	竪穴状の納屋	975-100
3号('02)	不整長方形	N-9°-E	4.68	3.00	0.72	近代	陶磁器、竪穴状の納屋	985-090
4号('02)	長方形	N-8°-E	5.13	0.98	0.27	近世	耕作用貯蔵穴	995-085
5号('02)	不整長方形	N-90°	4.73	1.13	1.10	近世	耕作用貯蔵穴	985-085
6号('02)	楕円形	N-0°	2.37	1.63	0.23	中・近世		975-080
7号('02)	不整楕円形	N-0°	1.08	0.85	0.60	近代	陶器	975-085
8号('02)	不整形	N-0°	2.37	2.21	0.27	不明		970-085
9号('02)	長方形	N-85°-W	(2.20)	(0.72)	(0.37)	近世	耕作用貯蔵穴	990-075
10号('02)	長方形	N-85°-W	(1.48)	(0.80)	(0.36)	近世	耕作用貯蔵穴	990-075
11号('02)	楕円形	N-8°-W	(0.80)	(0.40)	(0.45)	近世		990-075
12号('02)	長方形	N-90°	(1.20)	0.80	0.30	中・近世	縄文土器片、中世銭、墓穴	990-080
13号('02)	長方形	N-90°	4.45	0.75	0.18	近世	土師器片、耕作用貯蔵穴	980-080
14号('02)	長方形	N-0°	3.39	0.65	0.12	近世	耕作用貯蔵穴	975-080
15号('02)	楕円形	N-90°	0.70	0.60	0.20	近世		975-080
16号('02)	長方形	N-85°-E	2.63	0.50	0.10	近世	縄文土器片、耕作用貯蔵穴	980-075
17号('02)	長方形	N-0°	2.02	0.55	0.05	近世	耕作用貯蔵穴	985-075
18号('02)	不整円形	N-0°	0.55	0.48	0.60	不明		985-075
19号('02)	円形	N-38°-W	0.67	0.48	0.26	近世		975-085
20号('02)	長方形	N-70°-E	1.48	1.00	0.19	近世	耕作用貯蔵穴	975-085
21号('02)	不整楕円形	N-15°-W	1.77	1.02	0.39	近世	耕作用貯蔵穴	975-085
22号('02)	不明	-	-	-	-	近世	23号土坑と重複	975-080
23号('02)	長方形	N-90°	1.17	0.84	0.20	近世	耕作用貯蔵穴	975-080
24号('02)	不整長方形	N-0°	3.25	0.53	0.13	近世	耕作用貯蔵穴	975-075
25号('02)	不整長方形	N-5°-W	3.60	0.78	0.15	近世	耕作用貯蔵穴	975-075
26号('02)	不整形	N-0°	2.97	2.90	0.25	近世	須恵器、陶磁器	970-080
27号('02)	不整長方形	N-10°-W	2.48	1.68	0.20	不明		970-080
28号('02)	長方形	N-0°	5.08	0.85	0.17	近世	耕作用貯蔵穴	975-080
29号('02)	不整長方形	N-80°-E	2.83	0.65	0.23	近世	耕作用貯蔵穴	975-070
30号('02)	不整長方形	N-0°	2.10	0.65	0.13	近世	耕作用貯蔵穴	970-075
31号('02)	不整楕円形	N-0°	8.20	5.93	0.17	近代	縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、焙烙、竪穴状の納屋	990-065

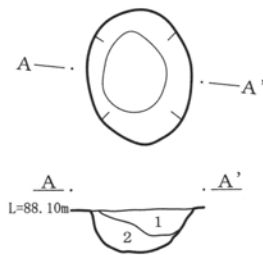
I区ピット一覧表

ピット番号	形状	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物・特徴など	グリッド
1ピット('01)	楕円形	N-50°-E	0.58	0.50	0.34	近世		995-115
2ピット('01)	不整楕円形	N-25°-E	0.37	0.25	0.21	近世		995-115
3ピット('01)	楕円形	N-90°	0.38	0.32	0.31	近世		995-115
4ピット('01)	円形	N-90°	0.37	0.37	0.18	近世		000-105
5ピット('01)	円形	N-25°-W	0.60	0.60	0.82	近世		005-105
6ピット('01)	不整楕円形	N-20°-E	0.82	0.45	0.58	近世		005-110
7ピット('01)	不整楕円形	N-30°-W	0.60	0.47	0.30	近世		980-110
8ピット('01)	不整円形	N-30°-E	0.50	0.45	0.17	近世		985-115
9ピット('01)	楕円形	N-70°-W	0.61	0.53	0.33	近世		985-115
10ピット('01)	不整楕円形	N-60°-E	0.48	0.40	0.28	近世		990-115
11ピット('01)	楕円形	N-45°-E	0.50	0.42	0.13	近世		990-110
12ピット('01)	不整楕円形	N-40°-E	0.68	0.55	0.15	近世		990-110
13ピット('01)	不整楕円形	N-90°	0.67	0.48	0.32	近世		005-115
14ピット('01)	不整楕円形	N-90°	0.50	0.44	0.27	近世		010-110
1ピット('02)	円形	N-1°-W	0.53	0.45	0.21	近世		995-080
2ピット('02)	不整円形	N-0°	0.32	0.32	0.28	近世		985-075

ピット番号	形状	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物・特徴など	グリッド
3ピット('02)	円形	-	0.30	0.30	0.30	近世	柱穴	985-070
4ピット('02)	楕円形	N-25°-W	0.40	0.33	0.39	近世	柱穴	985-070
5ピット('02)	不整正方形	N-49°-E	0.35	0.32	0.30	近世		985-070
6ピット('02)	楕円形	N-1°-W	0.39	0.25	0.44	近世	柱穴	990-065
7ピット('02)	円形	N-89°-E	0.33	0.33	0.32	近世	柱穴	985-075
8ピット('02)	不整円形	N-10°-E	0.23	0.23	0.25	近世		985-075
9ピット('02)	不整楕円形	N-70°-E	0.21	0.13	0.29	近世		985-070
10ピット('02)	円形	N-34°-E	0.35	0.32	0.20	近世		985-070
11ピット('02)	楕円形	N-25°-W	0.30	0.21	0.12	近世		985-070
12ピット('02)	楕円形	N-59°-E	0.48	0.35	0.32	近世		980-070
13ピット('02)	楕円形	N-5°-W	0.32	0.28	0.08	近世		985-070
14ピット('02)	楕円形	N-56°-E	0.33	0.23	0.40	近世		990-075
15ピット('02)	楕円形	N-22°-E	0.40	0.30	0.30	近世	柱穴	985-075
16ピット('02)	楕円形	N-10°-E	0.35	0.22	0.20	近世		985-075
17ピット('02)	円形	N-40°-W	0.23	0.20	0.16	近世		990-075
18ピット('02)	楕円形	N-21°-W	0.23	0.18	0.12	近世		990-075
19ピット('02)	円形	-	0.20	0.20	0.20	近世		985-070
20ピット('02)	円形	-	0.23	0.23	0.22	近世		990-075
21ピット('02)	不整正方形	N-49°-E	0.33	0.28	0.44	近世	柱穴	985-075
22ピット('02)	楕円形	N-62°-E	0.38	0.30	0.23	近世		990-075
23ピット('02)	円形	-	0.40	0.40	0.33	近世	柱穴	990-075
24ピット('02)	楕円形	N-4°-E	0.38	0.30	0.24	近世		985-075
25ピット('02)	円形	N-39°-E	0.22	0.20	0.30	近世		985-075
26ピット('02)	楕円形	N-51°-W	0.28	0.23	0.35	近世	柱穴	985-070
27ピット('02)	円形	N-18°-E	0.28	0.23	0.33	近世	柱穴	990-070

I 区土坑 ('01)

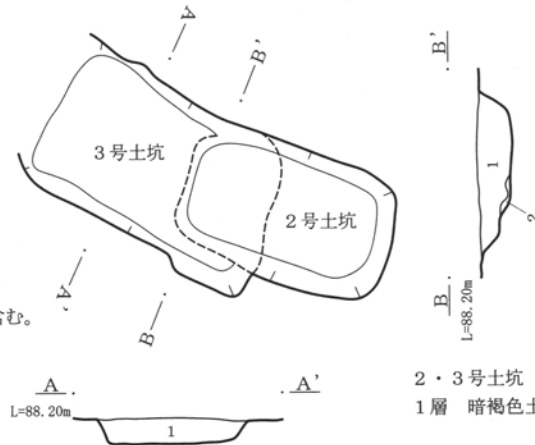
1号土坑



1号土坑

- 1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロックを含む。

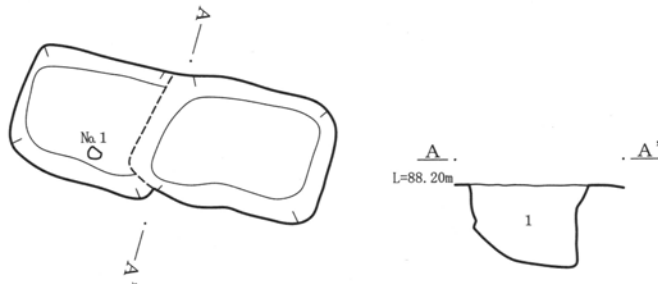
2・3号土坑



2・3号土坑

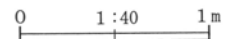
- 1層 暗褐色土 ローム粒、炭化物を少量含む。(3号土坑)
- 2層 暗褐色土 ローム粒を含む。

4号土坑



4号土坑

- 1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。

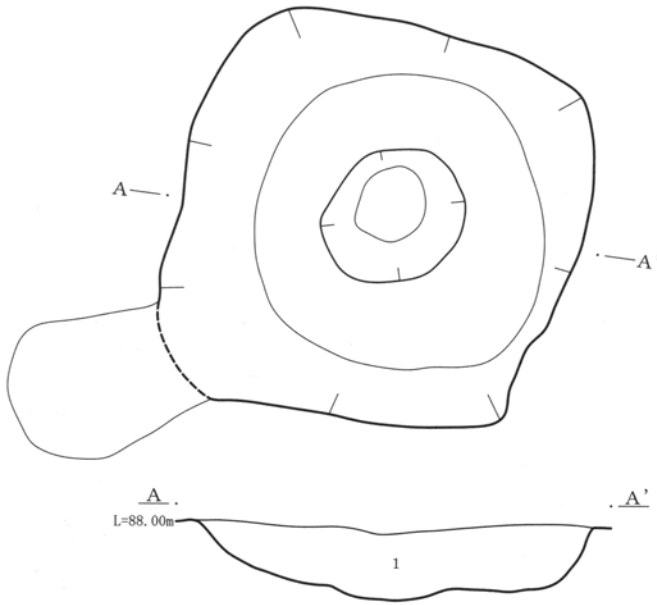


第11図 1～4号土坑

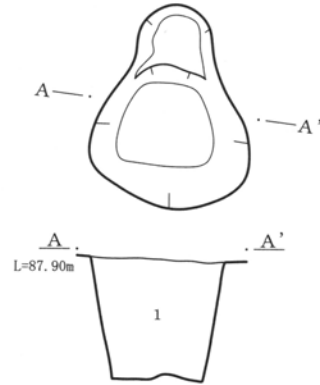
第2章 1区 検出された遺構

I区土坑 ('02)

1号土坑



7号土坑



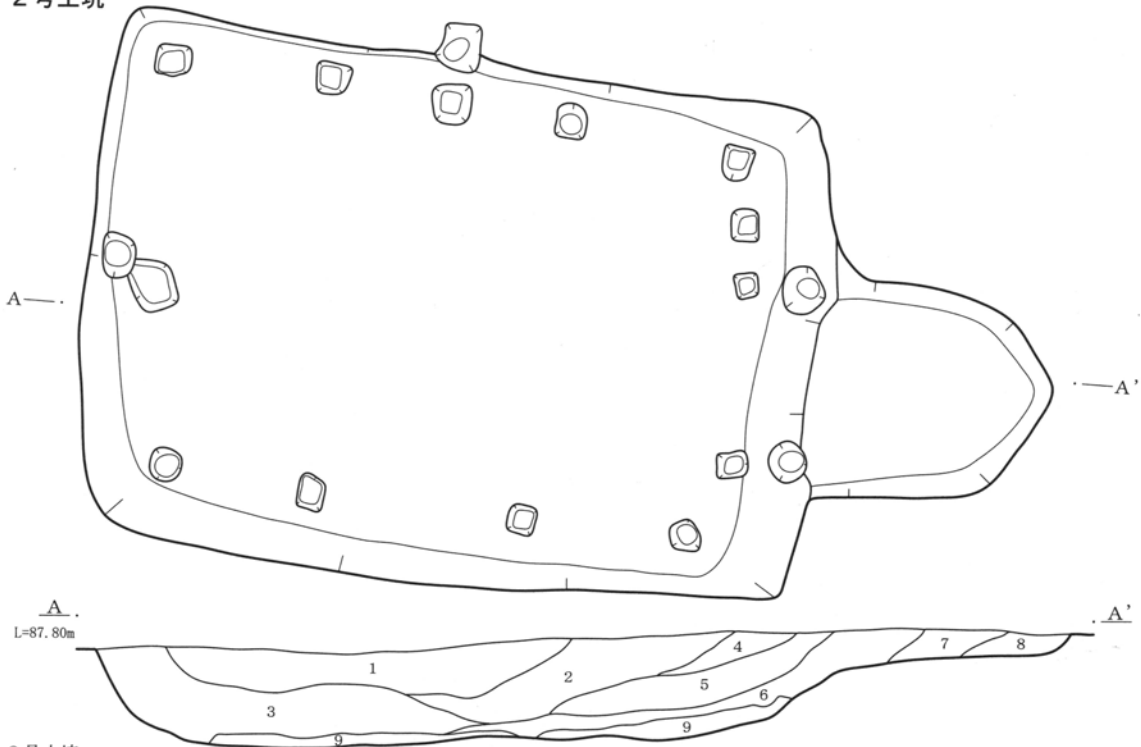
7号土坑

1層 黒褐色土 ロームブロックを多量、黒色土ブロックを少量含む。

1号土坑

1層 黒褐色土 黄色軽石を多量、ローム粒を少量含む。

2号土坑



2号土坑

1層 黄褐色土 ロームブロックを多量含む。

2層 暗褐色土 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。

3層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。

4層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

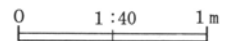
5層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

6層 灰褐色土 ローム粒を多量含む。

7層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。

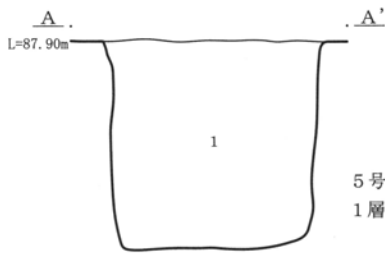
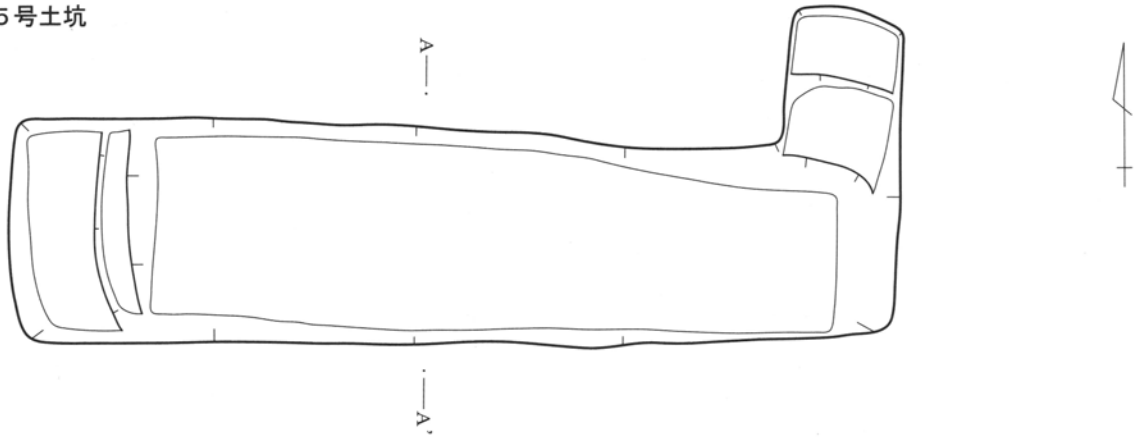
8層 暗褐色土 ローム粒を少量、黒色土ブロックを多量含む。

9層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。



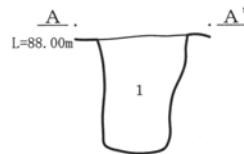
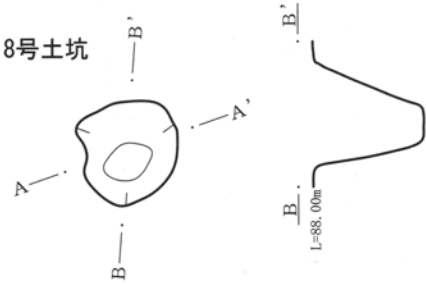
第12図 1・2・7号土坑

5号土坑



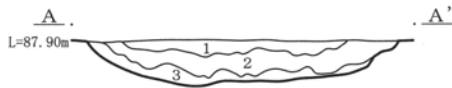
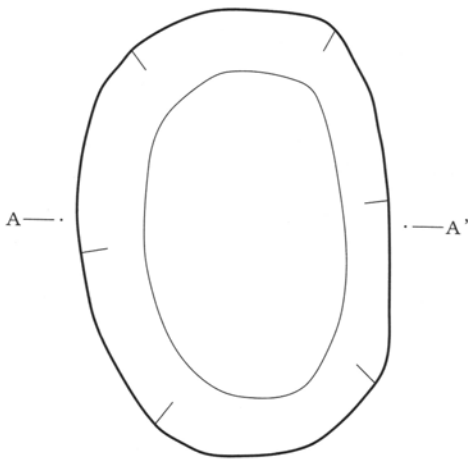
5号土坑  
1層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。

18号土坑



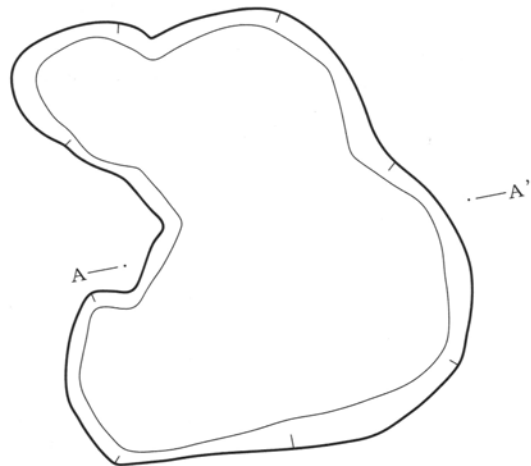
18号土坑  
1層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量含む。

6号土坑



6号土坑  
1層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。  
2層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。  
3層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。

8号土坑

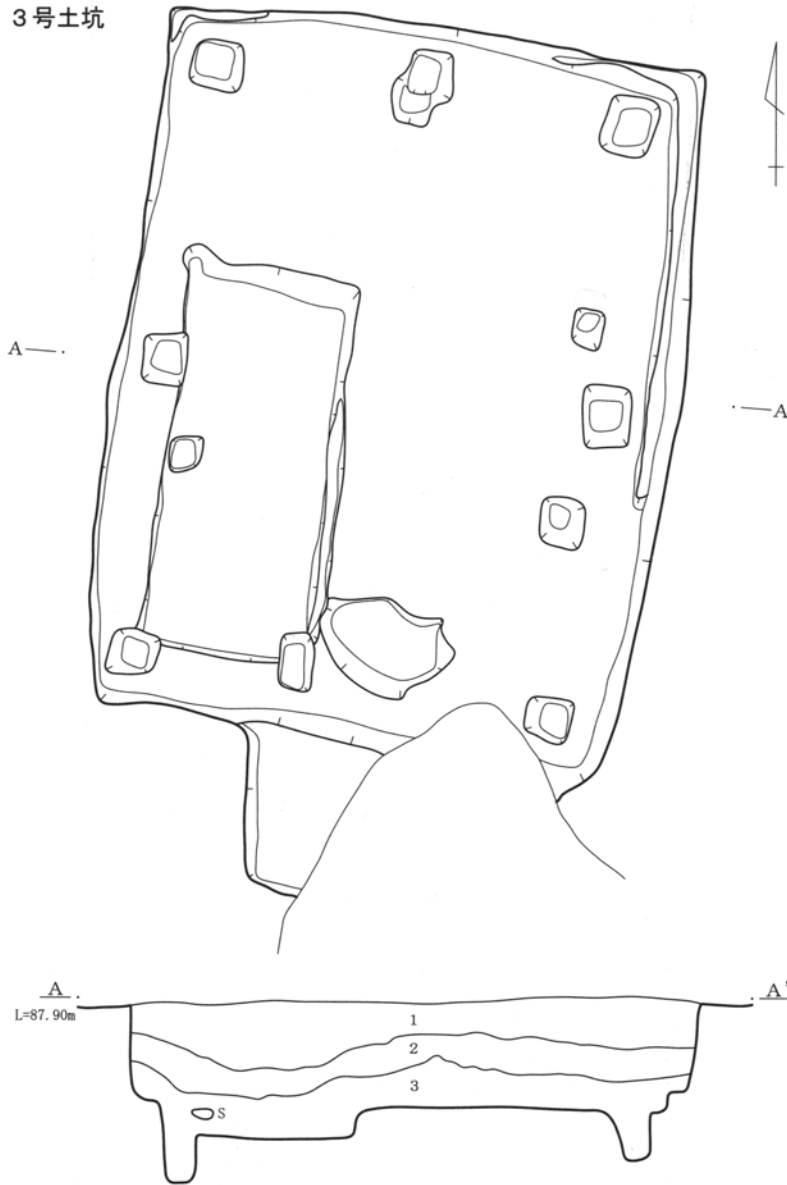


8号土坑  
1層 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量含む。  
2層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量含む。

0 1:40 1m

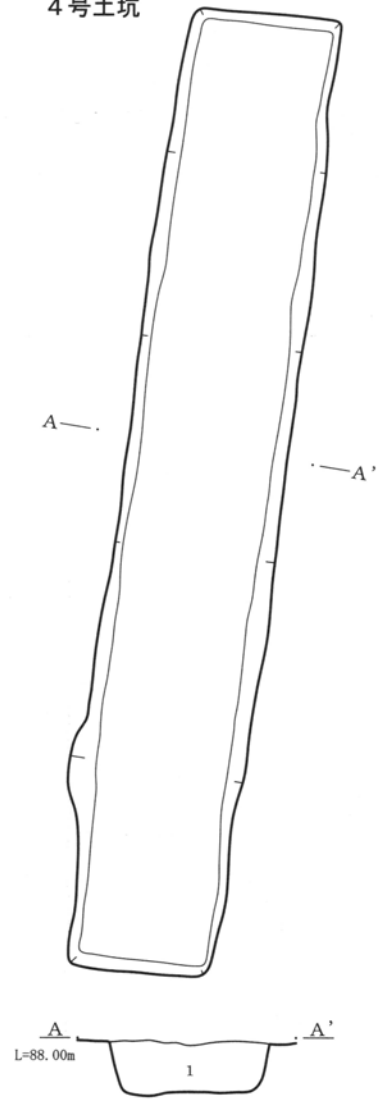
第13図 5・6・8・18号土坑

3号土坑



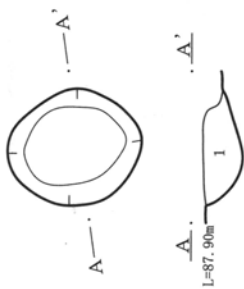
3号土坑  
 1層 灰褐色土 白色軽石を少量含む。  
 2層 黒色土 白色軽石を少量含む。  
 3層 灰褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量含む。

4号土坑



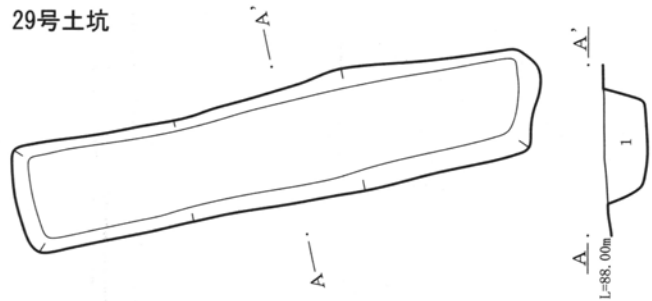
4号土坑  
 1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

15号土坑

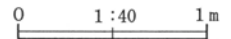


15号土坑  
 1層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

29号土坑



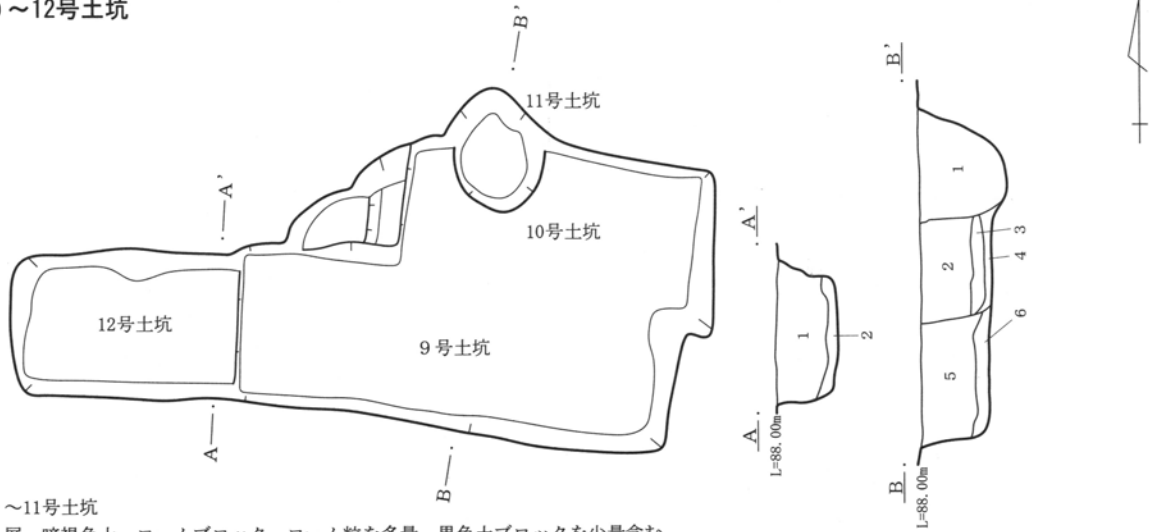
29号土坑  
 1層 暗褐色土 ロームブロックを多量、ローム粒を少量含む。



第14図 3・4・15・29号土坑



9～12号土坑



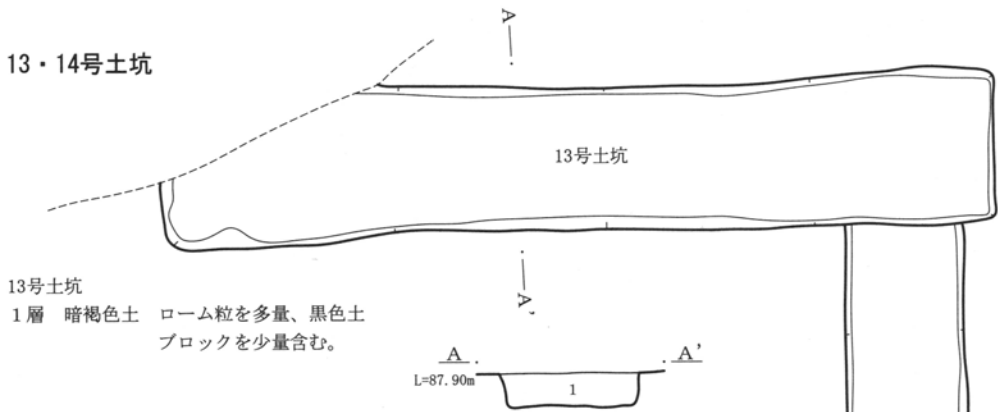
9～11号土坑

- 1層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量、黒色土ブロックを少量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック、褐灰色土ブロックを少量含む。
- 3層 褐灰色土 ロームブロックを少量、炭化物を多量含む。
- 4層 黄褐色土 ロームブロック、褐灰色土を含み、炭化物少量含む。
- 5層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。
- 6層 暗褐色土 炭化物を多量、焼土を少量含む。

12号土坑

- 1層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量含む。
- 2層 褐灰色土 炭化物を多量、焼土を少量含む。

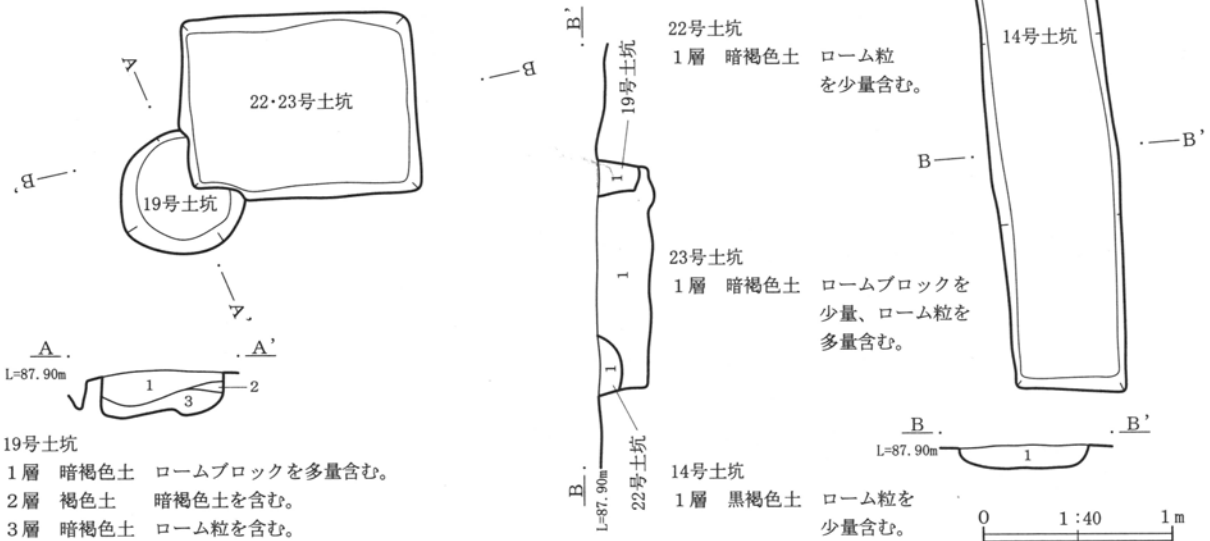
13・14号土坑



13号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒を多量、黒色土ブロックを少量含む。

19・22・23号土坑



19号土坑

- 1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。
- 2層 褐色土 暗褐色土を含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒を含む。

22号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

23号土坑

- 1層 暗褐色土 ロームブロックを少量、ローム粒を多量含む。

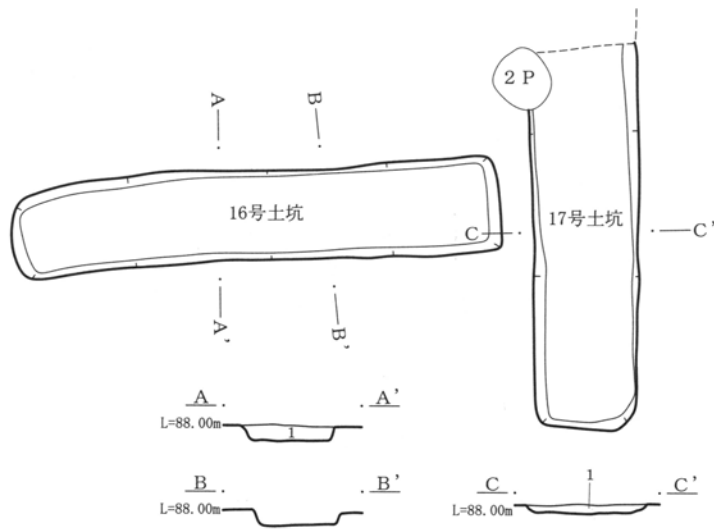
14号土坑

- 1層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

第15図 9～14・19・22・23号土坑

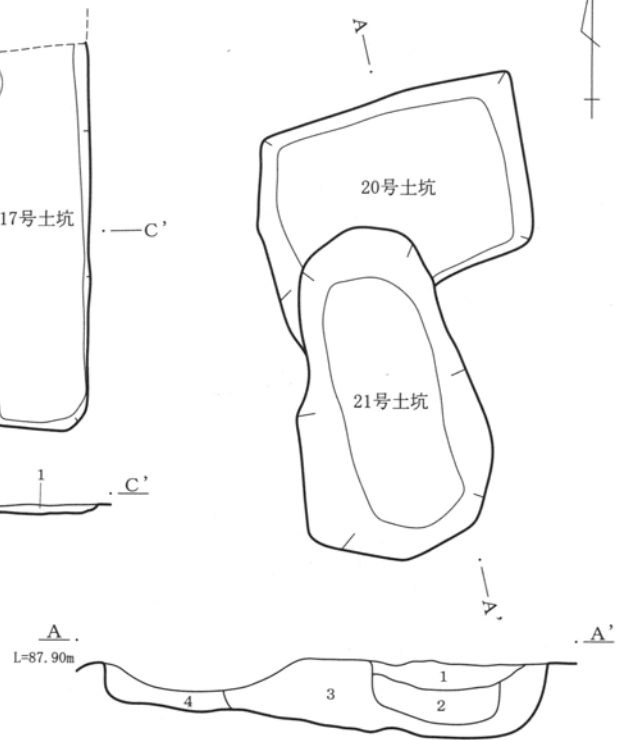
第2章 1区 検出された遺構

16・17号土坑



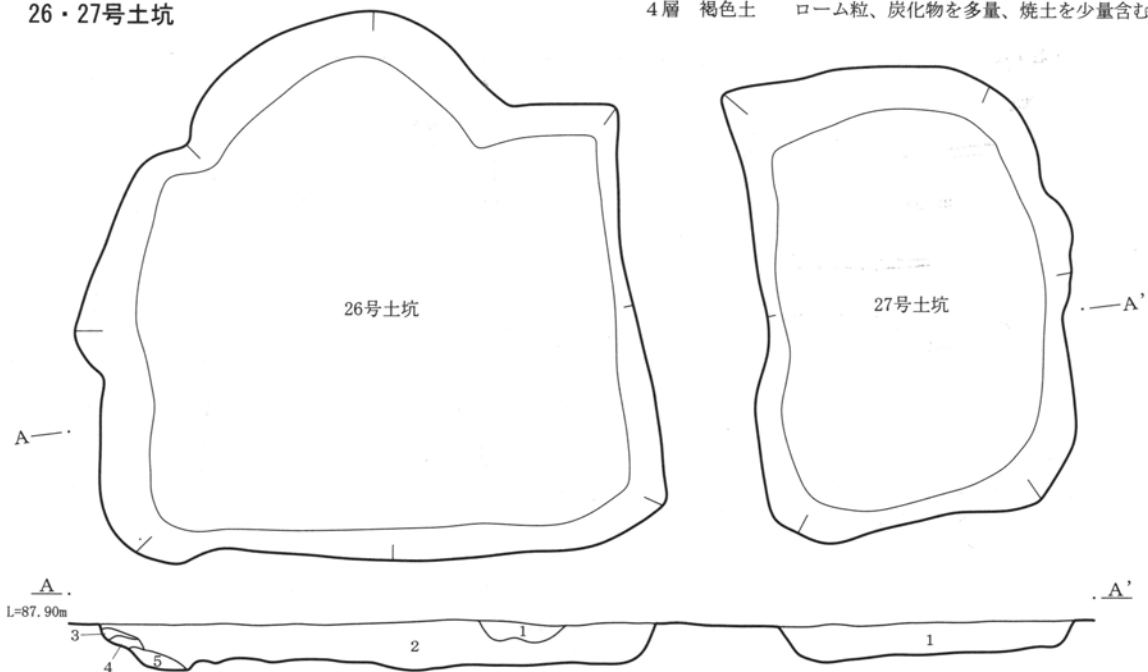
- 16号土坑  
1層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒、焼土を少量含む。
- 17号土坑  
1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

20・21号土坑

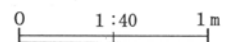


- 20・21号土坑  
1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。  
2層 黒褐色土 褐色土、焼土を少量含む。  
3層 褐色土 黒褐色土を含み、焼土を多量含む。  
4層 褐色土 ローム粒、炭化物を多量、焼土を少量含む。

26・27号土坑

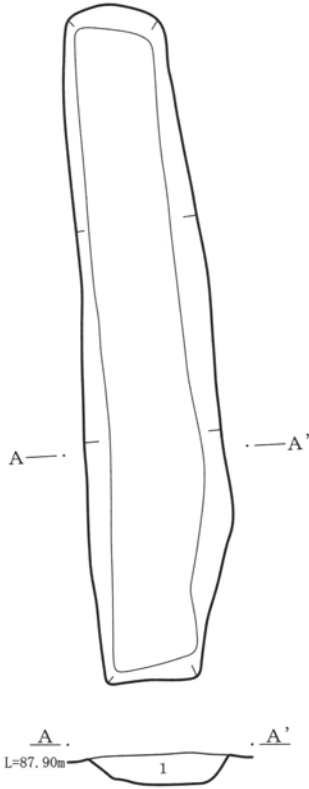


- 26号土坑  
1層 黒褐色土 ロームブロック、焼土を多量含む。  
2層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量、焼土を少量含む。  
3層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量含む。  
4層 黄褐色土 ロームブロックを多量含む。
- 27号土坑  
5層 黒褐色土 ローム粒を多量含む。  
1層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量含む。



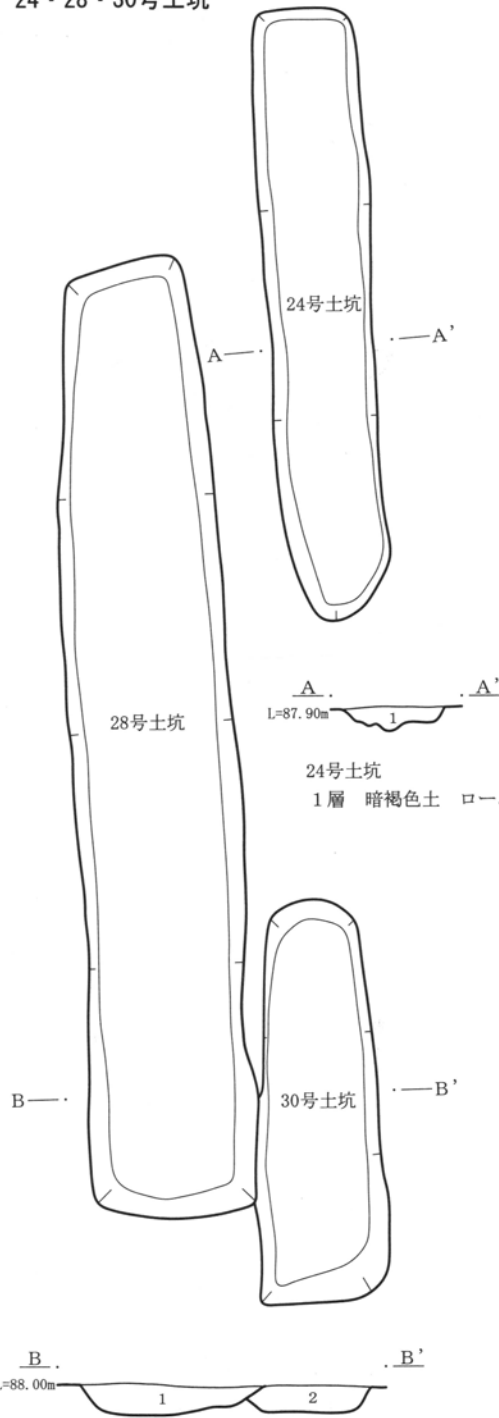
第16図 16・17・20・21・26・27号土坑

25号土坑



25号土坑  
1層 黒褐色土 褐色土を含む。

24・28・30号土坑



24号土坑

24号土坑

1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

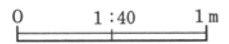
28号土坑

L=87.90m

L=88.00m

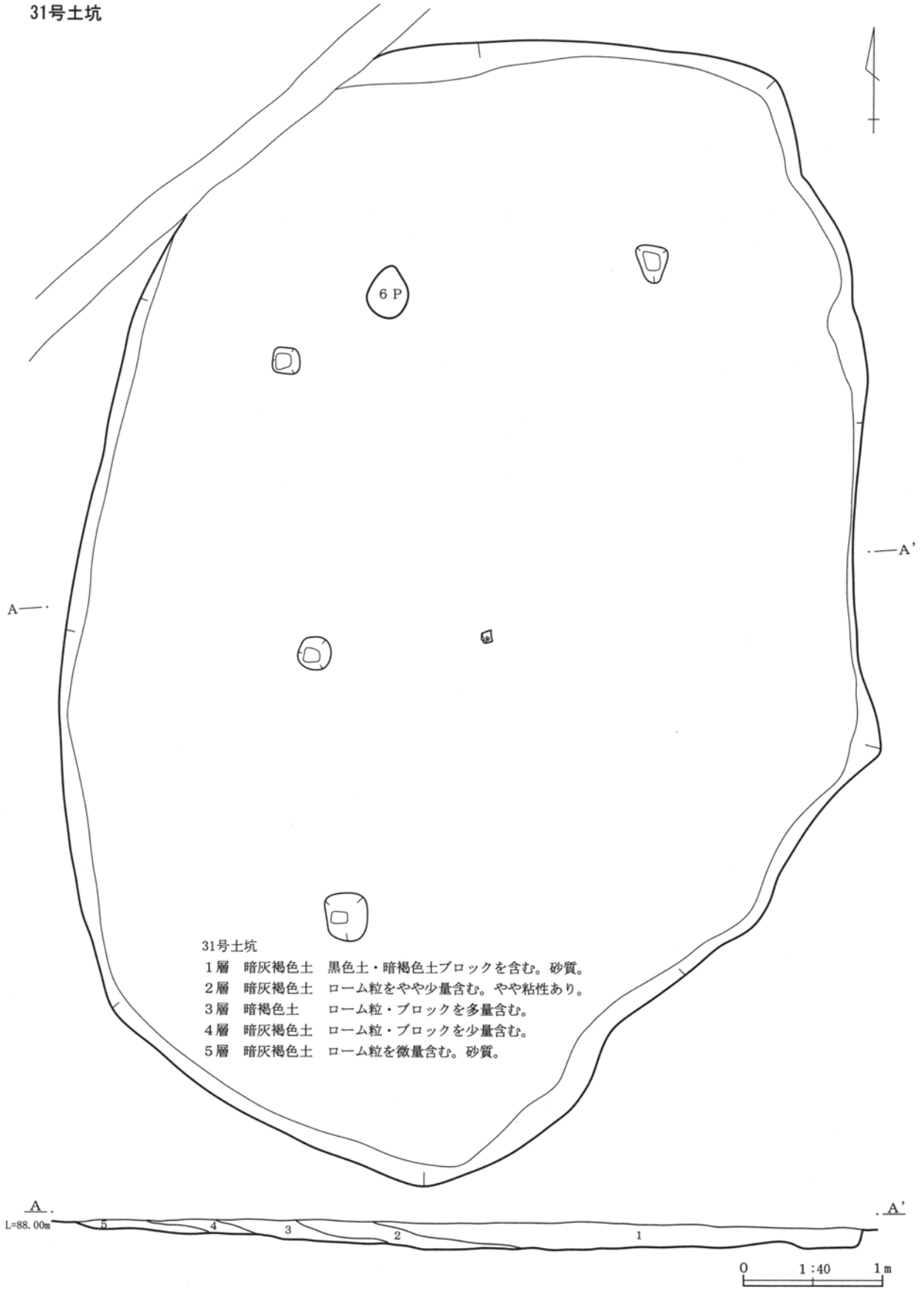
28・30号土坑

1層 暗褐色土 ロームブロックを少量、ローム粒を多量含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。



第17図 24・25・28・30号土坑

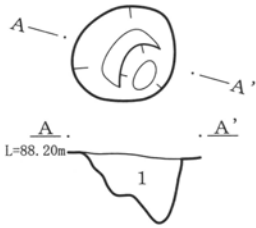
31号土坑



第18図 31号土坑

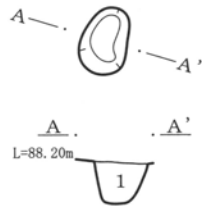
I区ピット ('01)

1号ピット



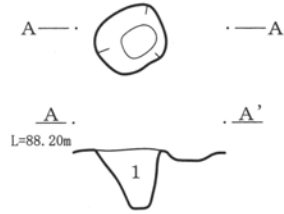
1層 暗褐色土 ローム粒、黒色土、白色軽石を含む。

2号ピット



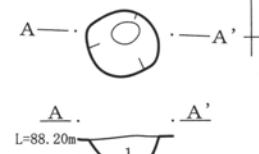
1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

3号ピット



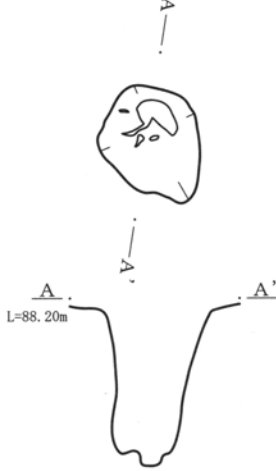
1層 黒褐色土 ロームブロックを微量含む。

4号ピット

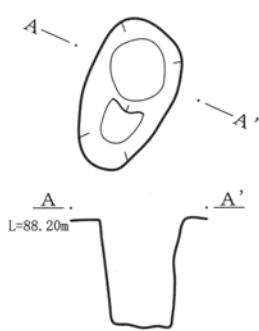


1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。

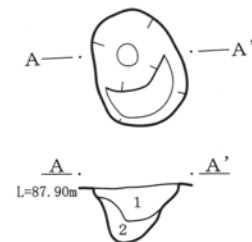
5号ピット



6号ピット

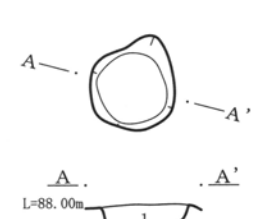


7号ピット



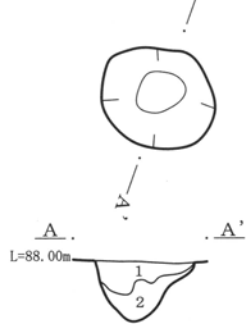
1層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

8号ピット



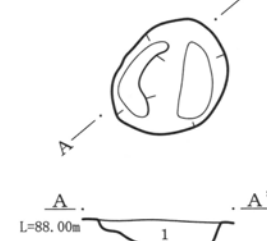
1層 暗褐色土 A s - C 混土とロームブロックを含む。

9号ピット



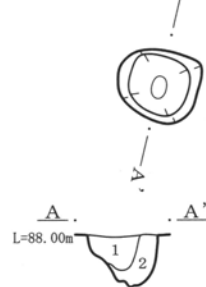
1層 暗褐色土 A s - C 混土とロームブロックを含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

12号ピット



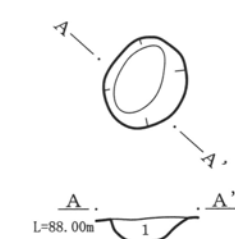
1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

10号ピット



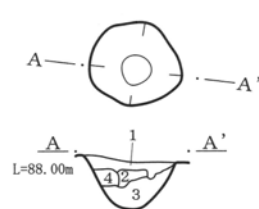
1層 暗褐色土 A s - C 混土とロームブロックを含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

11号ピット



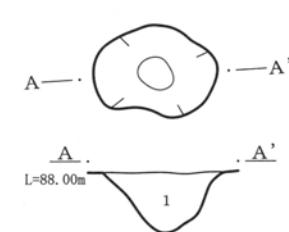
1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

14号ピット

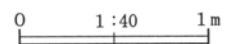


1層 暗褐色土 黒色土を含む。  
2層 黒褐色土  
3層 暗褐色土 ロームを含む。鉄分を含む。  
4層 ロームブロック。

13号ピット



1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。鉄分を含む。

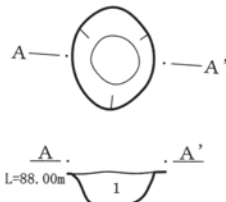


第19図 I区 ('01) 1~14号ピット

第2章 I区 検出された遺構

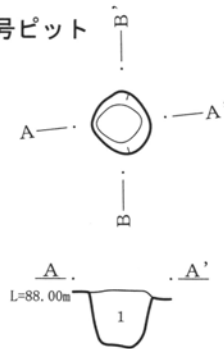
I区ピット ('02)

1号ピット



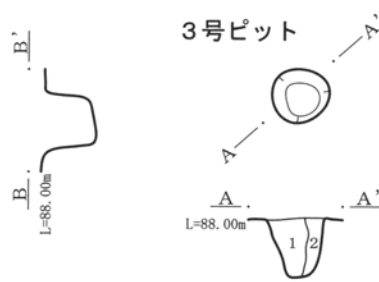
1層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

2号ピット



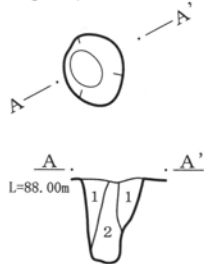
1層 黒褐色土 ローム粒を多量含む。

3号ピット



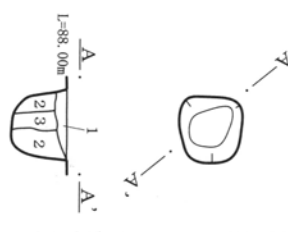
1層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。  
2層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量含む。

4号ピット



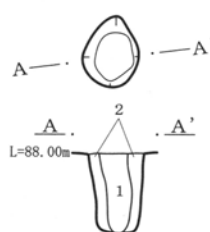
1層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

5号ピット



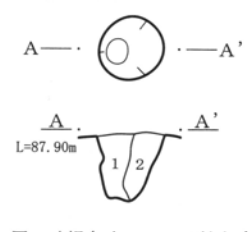
1層 褐色土 ローム粒を少量含む。  
2層 暗褐色土 ロームブロックと黒色ブロックを多量含む。  
3層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。

6号ピット



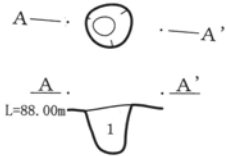
1層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。  
2層 黒褐色土 ローム粒を多量含む。

7号ピット



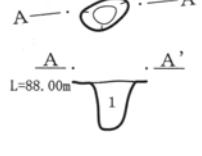
1層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。  
2層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。

8号ピット



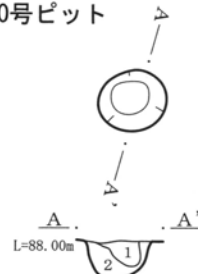
1層 暗褐色土 ローム粒を少量、黒色土ブロックを多量含む。

9号ピット



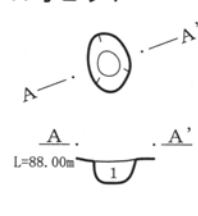
1層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

10号ピット



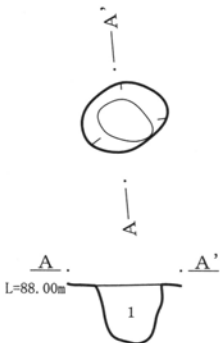
1層 黒褐色土 ローム粒を少量含む。  
2層 黄褐色土 黒褐色土を少量含む。

11号ピット



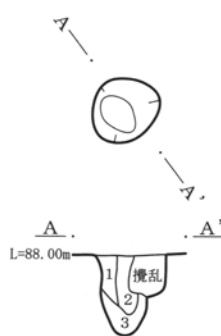
1層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。

12号ピット



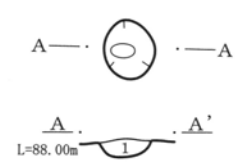
1層 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。

14号ピット



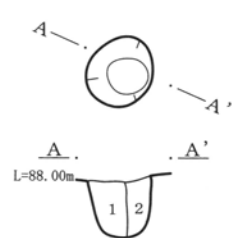
1層 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量含む。  
2層 暗褐色土 ロームブロックを多量、黒色土ブロックを少量含む。  
3層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。

13号ピット

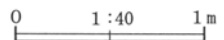


1層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。

15号ピット

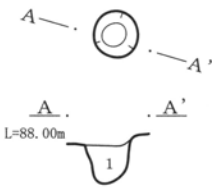


1層 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを多量含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。



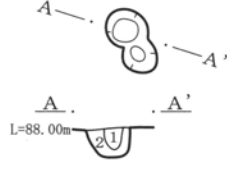
第20図 I区 ('02) 1~15号ピット

20号ピット



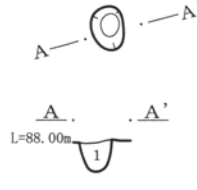
1層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。

17号ピット



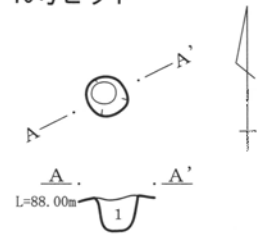
1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

18号ピット



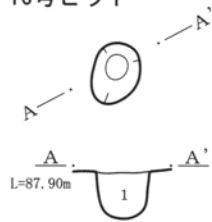
1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

19号ピット



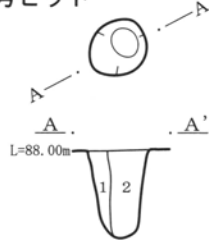
1層 暗褐色土 ローム粒を多量含む。

16号ピット



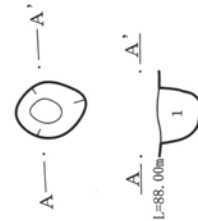
1層 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量、褐色土を少量含む。

21号ピット



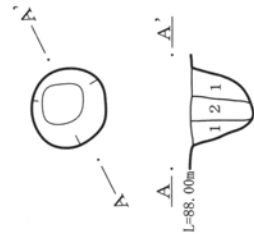
1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。  
2層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量含む。

22号ピット



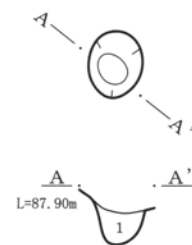
1層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を多量、黒色土を少量含む。

23号ピット



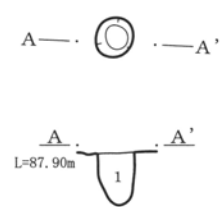
1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。  
2層 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

24号ピット



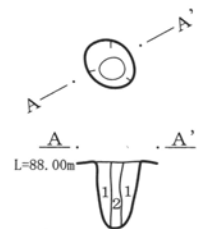
1層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を少量含む。

25号ピット



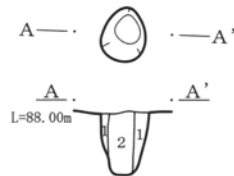
1層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

26号ピット

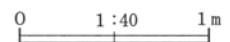


1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。  
2層 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

27号ピット



1層 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。  
2層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を少量含む。



第21図 I区 ('02) 16~27号ピット

## 第3章 II区 検出された遺構

### 第1節 遺構の概要

II区から検出された遺構は、中・近世面では、土坑172基、溝2条、畑跡、建物跡である。縄文面では、住居17軒、埋甕15基、遺物集中箇所8基、土坑61基を検出した。

遺構確認面が表土から浅く、現地表は住宅地や畑であったため、攪乱を多分に受けていて、遺構の残存状況はあまり良くない。

また、調査区の地形は、大間々扇状地の影響を多少受けて、やや北西から南東に向かって傾斜する。

#### 遺構分布状況

中・近世面の遺構については、近世の畑（畠）と思われる耕作列が3ヶ所検出された。調査区北西部と中央やや東側そして南東部から調査区外へ続くものと思われる。その間に土坑が点在する。南西部には、長屋門跡と思われる建物跡を検出し、その北側では、土坑を多く検出した。建物跡と同時期ないし併設するものも多いためと思われる。

縄文面の遺構については、中央やや北よりの所から南西方向に伸びるように縄文時代中期の住居・土坑跡が連なっている。調査区は、北西から南東方向に傾斜しており、そのやや微高地状の部分に集落が形成されていたものと思われる。さらにその南東部には、墓坑の可能性のある土坑群が存在する。今後、遺構域は南側の調査区外に続き、東側（Ⅲ・Ⅳ区）では、多数の遺構と遺物が出土していることから、そちらの整理とあわせて検討していく必要があるだろう。

#### 住居

縄文面では、17軒の住居を検出した。形状は、円形、楕円形を基本としているものの隅丸方形や方形を呈するものもある。柱穴は、主柱穴を4本持ち補助的な柱穴を作るもの、壁周辺に柱が巡るものがある。また、壁際に敷石した住居も存在した。床は、ローム面をそのまま床面としているものと漸移層を床面としているものが見られた。現地表から遺構確認面が浅いためロームまで掘り込んでいない住居の残りは、あまり良くない。住居内の炉は、石囲い炉・埋甕炉、地床炉とある。石囲い炉は、川原石や多孔石、磨石などを利用して長方形に区画したもので埋設土器を伴うものも見られた。

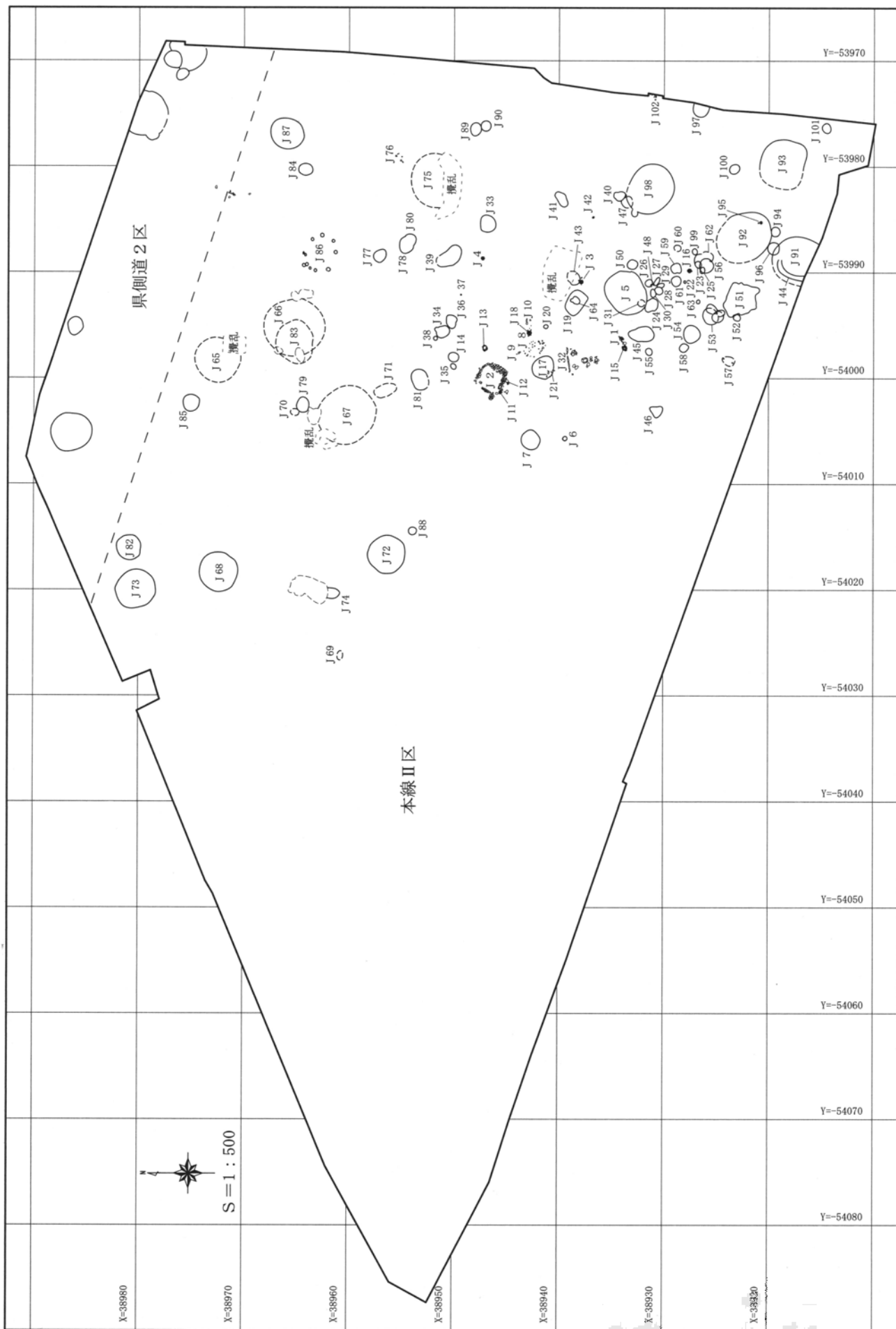
#### 土坑

中・近世面の土坑の形状は、長方形、正方形、楕円形、不整形などが見られる。形状により、その機能に違いが見られる。長方形や正方形に近い形状のものは、ある程度掘り込みがしっかりしていて、近世、近代の貯蔵用の土坑と考えられる。掘り込みの浅い楕円形状の土坑と不整形の土坑については、用途不明である。中には、近世のやや深い耕作痕を土坑と認識して掘ってしまったと考えられるものもある。

縄文面の土坑の形状は、円形、楕円形を基本としているが、不整形のものも見られる。掘り込みの深いものは、貯蔵用の土坑と考えられるが、遺物の出土状況などから墓坑と考えられるものもある。不整形で掘り込みの浅い土坑については、遺物も少なく用途不明である。







土層の堆積状況

現地表から遺構の確認面までは浅く、現地表が住宅地や畑であったため、攪乱を多分に受けている。浅間B軽石は、表土中に混じり調査区北側では、やや残りがよく薄く層状に確認できた。浅間C軽石は、表土中ないし遺構覆土中に多少混じる。ローム層までも浅く、漸移層の残りも南側、西側で薄く、北側でやや厚い。

遺物出土状況

中・近世面については、遺物が少ない。遺構の覆土からも陶磁器片などが少量出土している程度である。

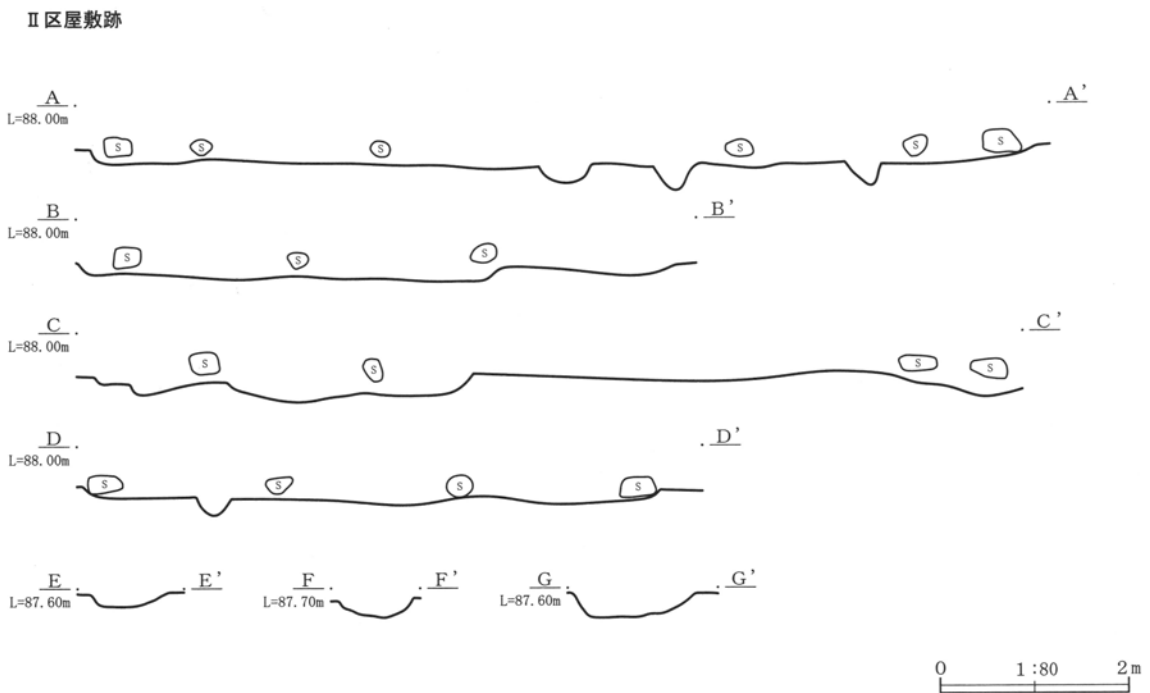
縄文面では、調査区東側で多量の遺物が出土した。土器については、縄文前期後葉から後期前葉の遺物が見られ、中心は加曽利E3・4式期のものである。遺構確認面が地表から浅いこともあり、表土中には縄文土器片が多量に混入していた。住居中からは完形に近い土器や深鉢の上半を利用したものなども検出した。石器についても表土中から打製石斧、石鏃、スクレイパーなどが出土した。住居内からは台石、石皿、凹石、磨石などが検出された。

第2節 中・近世の遺構

II区屋敷跡 (第24図 PL6)

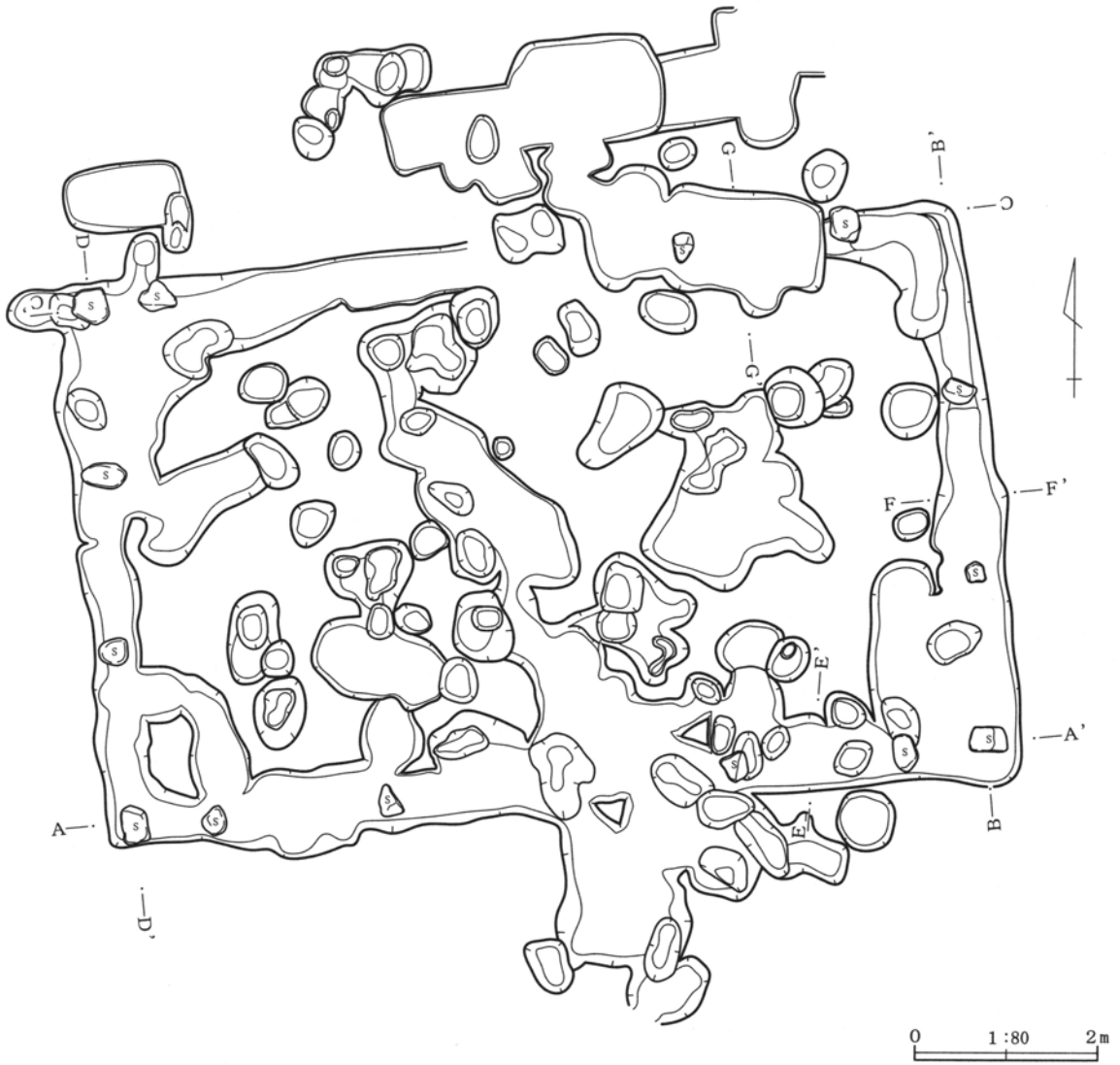
位置 X=939~950 Y=-041~052 重複 なし 主軸 N-8°-W 形態 長方形

規模 桁行11m 梁行9m 遺物 陶磁器類が少量出土している。 所見 建物の礎石と思われる川原石が14石出土した。礎石の配置のやや中央があくことから長屋門の可能性もある。近世後半時期の遺構と考えられる。



第24図 II区屋敷跡 (1)

II区屋敷跡



第25図 II区屋敷跡 (2)

II区土坑一覧表

土坑番号	形状	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物・特徴など	グリッド
1	不整楕円形	N-26°-E	0.62	0.35	0.06	近世	縄文土器	935-030
2	正方形	N-41°-E	1.18	0.53	0.39	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	930-030
3	長楕円形	N-14°-E	1.03	0.35	0.22	近世	縄文土器	930-030
4	不整楕円形	N-82°-W	0.58	0.18	0.16	近世		935-030
5	正方形	N-70°-W	0.53	0.19	0.16	近世		935-030
6	不整長方形	N-9°-E	0.72	0.61	0.06	近世	縄文土器、土師器、耕作用貯蔵穴	935-025
7	楕円形	N-15°-E	0.52	0.32	0.16	近世		935-030
8	楕円形	N-83°-E	0.50	0.48	0.38	中・近世	縄文土器	940-025
9	隅丸方形	N-87°-W	1.17	0.80	0.39	近代	縄文土器、瓦、磁器、耕作用貯蔵穴	940-025
10	長楕円形	N-82°-W	1.71	0.18	0.19	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	940-025
11	長楕円形	N-43°-W	0.82	0.20	0.21	近世	縄文土器	935-025
12	円形	-	0.24	0.24	0.22	近世		935-025
13	不整形	N-88°-W	1.58	0.68	0.14	近世	縄文土器	935-025
14	不整楕円形	N-60°-W	0.57	0.52	0.19	中・近世	縄文土器	935-025
15	不整長方形	N-0°	1.02	0.68	0.45	近世	縄文土器	935-025
16	隅丸方形	N-84°-W	1.43	0.91	-	近世	縄文土器	935-020
17	不整楕円形	N-77°-W	1.02	0.24	0.09	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	930-020
18	不明	-	-	-	-	近世	縄文土器、19土坑内	930-020
19	長方形	N-80°-W	3.11	0.60	0.24	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	930-020
20	不整楕円形	N-85°-W	0.68	0.17	0.08	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	930-020
21	不整長方形	N-7°-W	0.81	0.64	-	近世	縄文土器、瓦、陶器	930-025
22	楕円形	N-14°-E	0.43	0.33	-	近世		925-020
23	不整形	N-17°-W	0.72	0.33	-	近世	須恵器	930-020
24	不整形	N-15°-W	0.38	0.34	0.25	近世	縄文土器	930-020
25	不整形	N-20°-E	0.80	0.56	0.25	中・近世	縄文土器	935-020
26	長方形	N-46°-W	0.60	0.46	-	中・近世	縄文土器	935-015
27	不整楕円形	N-45°-W	0.94	0.45	-	中・近世		935-015
28	不整形	N-62°-W	1.08	0.72	-	近世	縄文土器	935-015
29	不整楕円形	N-74°-W	1.62	0.79	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-015
30	不整長方形	N-76°-W	1.35	1.00	-	近世	縄文土器、磁器	935-015
31	不整正方形	N-47°-E	1.14	0.96	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-015
32	不整長方形	N-36°-W	0.92	0.75	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-010
33	不整形	N-89°-E	0.78	0.52	-	近世	土師器	935-010
34	不整形	N-38°-E	0.50	0.40	0.14	近世	縄文土器	935-010
35	不整長方形	N-82°-W	1.55	0.94	0.03	近世	縄文土器	930-010
36	長方形	N-9°-E	0.70	0.67	0.01	近世	縄文土器、陶器、炭化物、耕作用貯蔵穴	925-015
37	不整長方形	N-11°-E	0.52	0.42	0.13	近世・近代	縄文土器、磁器	925-010
38	長楕円形	N-76°-W	2.07	0.45	0.24	近世	縄文土器	925-010
39	不整正方形	N-70°-W	0.67	0.62	0.10	中・近世	縄文土器	925-005
40	楕円形	N-6°-W	0.70	0.51	-	中・近世	縄文土器	940-025
41	不整方形	N-90°	0.38	0.36	0.31	近世	縄文土器	940-020
42	長方形	N-5°-E	2.59	0.79	0.30	近世	縄文土器、陶器、耕作用貯蔵穴	940-020
43	不整形	N-40°-E	0.51	0.43	0.08	中・近世	縄文土器	940-030
44	不整形	N-30°-E	0.58	0.51	0.08	近世	縄文土器	945-020
45	不整正方形	N-54°-E	0.43	0.38	0.10	近世	縄文土器	945-015
46	長楕円形	N-75°-W	1.85	0.21	0.13	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	945-015
47	楕円形	N-90°	0.36	0.25	0.08	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	950-015
48	不整形	N-85°-W	1.38	0.51	0.17	近世	縄文土器	950-015
49	不整楕円形	N-72°-W	0.82	0.32	0.46	中・近世	縄文土器	920-005
50	不整楕円形	N-47°-W	0.38	0.30	0.14	近世	縄文土器	930-010
51	隅丸方形	N-58°-E	1.08	0.88	-	近世	縄文土器、陶器、耕作用貯蔵穴	935-020
52	隅丸方形	N-72°-E	1.50	0.90	-	近世	縄文土器	935-015
53	長楕円形	N-72°-E	1.17	0.29	0.20	近世		945-015
54	不整楕円形	N-40°-W	0.39	0.38	0.08	近世	縄文土器	950-015
55	楕円形	N-68°-W	0.64	0.32	0.12	中・近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	930-010
56	隅丸方形	N-0°	0.58	0.33	0.15	中・近世	耕作痕の可能性有り	930-010
57	長方形	N-82°-E	1.18	0.92	-	近世	縄文土器	935-015
58	不整形	N-14°-W	0.68	0.42	0.30	中・近世	縄文土器	930-005
59	長方形	N-81°-W	1.95	0.72	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	930-005
60	長方形	N-65°-E	1.03	0.85	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	925-010
61	不整楕円形	N-90°	0.43	0.34	0.09	近世	縄文土器	930-005
62	隅丸方形	N-70°-E	1.35	0.98	-	近世	縄文土器、陶器、磁器、耕作用貯蔵穴	935-015

第3章 II区 検出された遺構

土坑番号	形状	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物・特徴など	グリッド
63	不整円形	N-75°-E	0.62	0.50	0.16	中・近世	縄文土器	935-010
64	長方形	N-16°-E	0.45	0.38	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-005
65	長方形	N-50°-E	0.78	0.50	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-005
66	不整長方形	N-48°-W	0.82	0.75	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	940-005
67	不整楕円形	N-35°-E	0.39	0.31	0.23	近世	縄文土器	945-010
68	長方形	N-68°-W	1.37	0.80	0.23	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	950-010
69	不整長方形	N-35°-E	1.75	1.24	0.24	近世	縄文土器	950-005
70	不整形	N-30°-E	0.50	0.46	0.17	中・近世	陶器	950-005
71	楕円形	N-20°-E	0.88	0.60	0.31	中・近世	縄文土器	950-005
72	不整形	N-7°-E	2.84	1.00	0.23	近世	縄文土器、陶器、耕作用貯蔵穴	935-025
73	不整長方形	N-44°-W	0.64	0.20	0.08	近世		935-025
74	不整形	N-56°-W	0.66	0.42	0.11	近世		935-025
75(1)	長楕円形	N-78°-W	3.75	0.23	0.18	近世	耕作痕	945-010
(2)	長楕円形	N-78°-W	2.00	0.27	0.16	近世	耕作痕	945-010
76	-	-	-	-	-	-	縄文土器	-
77	長楕円形	N-80°-W	5.17	0.67	0.03	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	940-010
78	長楕円形	N-80°-W	10.13	0.82	0.14	近世	礫	940-010
79	長楕円形	N-80°-W	7.95	0.65	0.15	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	935-010
80	長楕円形	N-80°-W	3.30	0.49	0.08	近世	縄文土器、耕作痕の可能性有り	935-015
81	正方形	N-10°-E	0.46	0.46	-	-	縄文土器	940-995
82	不整形	N-34°-W	1.40	-	-	中・近世	縄文土器	935-020
83	-	-	-	-	-	近代	縄文土器、磁器	-
84	-	-	-	-	-	-	縄文土器	-
85	長方形	N-75°-W	0.85	0.88	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	930-005
86	長方形	N-90°	1.08	0.82	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	930-000
87	長楕円形	N-90°	1.70	0.43	0.20	近世	縄文土器	930-000
88	長方形	N-75°-W	1.34	0.84	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	930-000
89	正方形	N-40°-W	0.92	0.83	0.03	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	930-995
90	不整形	N-20°-E	0.86	0.30	0.07	近世	縄文土器	930-000
91	長方形	N-75°-W	2.68	0.60	0.14	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-995
92	不整長方形	N-74°-W	6.98	0.86	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-995
93	長方形	N-75°-W	5.38	0.88	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-995
94	不整楕円形	N-0°	0.38	0.30	0.08	近世	縄文土器、礫、耕作用貯蔵穴	940-995
95	不整形	N-45°-W	1.16	0.68	-	近世	縄文土器	930-995
96	不整長方形	N-24°-W	0.44	0.32	0.11	近世	縄文土器	935-995
97	正方形	N-30°-W	0.56	0.53	0.14	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	935-995
98	長方形	N-75°-W	4.17	0.38	0.10	近世	縄文土器、磁器、瓦、耕作痕か	945-010
99	不整長方形	N-45°-E	0.39	0.31	-	近世	縄文土器	945-000
100	不整形	N-46°-W	1.18	0.48	-	近世	縄文土器	930-995
101	不整長方形	N-78°-W	8.38	0.74	-	近世	縄文土器、石器、耕作用貯蔵穴	940-995
102	不整正方形	N-36°-W	1.08	0.88	0.19	近世	縄文土器	930-995
103	不整形	N-90°	1.06	0.78	-	近世	縄文土器	925-995
104	正方形	N-55°-E	1.00	1.00	-	近世	縄文土器、石器	925-990
105	不整正方形	N-25°-E	0.55	0.52	0.25	中・近世	縄文土器	920-995
106	不明	N-60°-E	-	-	-	近世	縄文土器、石器、118土坑内	920-995
107	不整長方形	N-32°-E	0.74	0.95	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	915-990
108	不整楕円形	N-56°-E	0.75	0.52	0.18	近世	縄文土器、石器	915-990
109	不整長方形	N-19°-E	0.92	0.72	0.15	近世	縄文土器、石器、耕作用貯蔵穴	915-990
110	正方形	N-10°-E	0.82	0.77	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	915-990
111	長方形	N-80°-E	1.22	0.79	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	945-990
112	-	-	-	-	-	-	縄文土器	-
113	不整形	N-60°-W	0.78	0.50	-	近世	石器	925-005
114	不整楕円形	N-0°	0.34	0.27	-	中・近世	縄文土器	945-030
115	不整形	N-25°-E	1.12	1.06	0.21	近世	縄文土器	945-985
116	不整楕円形	N-42°-E	0.36	0.25	0.13	中・近世		915-995
117	不整円形	N-0°	0.27	0.27	0.10	中・近世	縄文土器	915-995
118	正方形	N-60°-E	1.07	0.78	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	920-995
119	長方形	N-75°-E	4.33	0.82	0.43	近世	縄文土器、石器、耕作用貯蔵穴	930-985
120	長方形	N-90°	0.43	0.36	0.03	近世	縄文土器	945-995
121	長方形	N-80°-W	1.10	0.74	-	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	945-975
122	不整円形	N-75°-W	0.58	0.58	0.11	近世	縄文土器	935-990
123	楕円形	N-90°	0.64	0.50	0.17	中・近世	縄文土器	940-000
124	-	-	-	-	-	-	縄文土器	-
125	不整長方形	N-84°-W	1.80	1.05	0.12	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	945-005
126	-	-	-	-	-	-		-

第2節 中・近世の遺構

土坑番号	形状	主軸方向	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時代	出土遺物・特徴など	グリッド
127	不整形	N-23°-E	1.40	1.00	0.32	近世	縄文土器	955-075
128	不整楕円形	N-90°	0.80	0.72	0.32	—		955-060
129	長方形	N-8°-W	1.60	0.80	0.22	—		955-060
130	長方形	N-7°-E	2.40	1.40	0.34	近世	土師器、陶器、納屋、柱穴4基	950-055
131	長方形	N-98°-W	1.60	0.95	0.38	近世	陶器、礫	945-055
132	長方形	N-7°-W	1.60	0.95	0.38	近世	陶器(鉢)	940-060
133	—	—	—	—	—	—	縄文土器、瓦	—
134	—	—	—	—	—	—	縄文土器	—
135	長方形	N-10°-W	1.88	1.21	0.30	近世	縄文土器、須恵器、陶器、石器、耕作用貯蔵穴	955-040
136	円形	N-0°	1.34	1.34	0.54	近代	須恵器、陶器、軒瓦、磁器、肥やし溜	955-035
137	不整長方形	N-2°-E	2.12	0.96	0.17	近世	縄文土器、磁器、耕作用貯蔵穴	960-035
138	長方形	N-86°-W	2.68	0.68	0.23	近世	須恵器、瓦、耕作用貯蔵穴	960-030
139	長方形	N-80°-E	2.00	1.08	0.34	近世	縄文土器、陶器、磁器、耕作用貯蔵穴	965-035
140	楕円形	N-0°	1.48	1.39	0.63	近代	縄文土器、平瓦、石器、肥やし溜	965-040
141	円形	N-50°-W	1.40	1.30	0.41	近代	縄文土器、陶器、磁器、砥石、肥やし溜	965-040
142	楕円形	N-90°	1.55	1.32	0.66	近世	土師器、石器、肥やし溜	965-040
143	長方形	N-12°-W	1.88	1.64	0.28	近世	耕作用貯蔵穴	970-045
144	長方形	N-14°-W	2.21	0.70	0.18	近世	縄文土器、土師器、石器、耕作用貯蔵穴	970-045
145	長方形	N-14°-W	1.09	0.61	0.16	近世	耕作用貯蔵穴	970-045
146	長方形	N-20°-W	2.40	0.95	0.27	近代	須恵器、陶器、平瓦、砥石、耕作用貯蔵穴	970-040
147	長方形	N-12°-W	2.90	0.92	0.28	近代	縄文土器、須恵器、陶器、磁器、耕作用貯蔵穴	970-040
148	不整長方形	N-78°-E	2.50	1.22	0.26	近世	磁器、石器、耕作用貯蔵穴	970-040
149	不整長方形	N-20°-W	4.00	0.95	0.10	近世	縄文土器、陶器、耕作用貯蔵穴	970-040
150	長楕円形	N-15°-W	3.80	0.72	0.15	近代	縄文土器、陶器、耕作用貯蔵穴	970-040
151	不整長方形	N-25°-W	2.30	0.95	0.32	近世	縄文土器、磁器、耕作用貯蔵穴	975-035
152	長方形	N-60°-E	3.10	0.57	0.23	近代	縄文土器、土師器、磁器、耕作用貯蔵穴	975-035
153(1)	長方形	N-60°-E	2.00	0.55	0.24	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	975-040
(2)	長方形	N-78°-W	1.38	0.68	0.43	近世	耕作用貯蔵穴	955-020
154	長方形	N-87°-W	2.55	1.12	0.48	近代	縄文土器、陶磁器、耕作用貯蔵穴	960-015
155	—	—	—	—	—	—		—
156	不整長方形	N-72°-E	2.65	1.20	0.60	近代	縄文土器、陶器、瓦、磁器、石器、耕作用貯蔵穴	970-020
157	不整形	N-53°-E	1.35	1.30	0.39	中・近世	縄文土器、瓦	960-010
158	長方形	N-75°-W	2.32	0.85	0.19	近世	縄文土器、陶器、耕作用貯蔵穴	955-010
159	不整楕円形	N-87°-W	4.10	1.78	0.66	近代	縄文土器、コンロ(七輪)、瓦、火鉢、土師器、陶磁器、石器	960-030
160	長方形	N-1°-W	2.83	1.05	0.21	近世	縄文土器、土師器、陶器	965-005
161	長方形	N-85°-W	2.98	0.99	0.21	近世	縄文土器、須恵器、耕作用貯蔵穴	965-000
162	長方形	N-1°-E	1.67	0.97	0.26	近世	縄文土器、陶器、耕作用貯蔵穴	965-005
163	長方形	N-6°-E	2.68	1.18	0.17	近世	耕作用貯蔵穴	965-000
164	長方形	N-3°-E	2.74	1.13	0.35	近世	縄文土器、磁器、石器、耕作用貯蔵穴	965-000
165	長方形	N-86°-E	2.46	0.90	0.32	近世	耕作用貯蔵穴	960-000
166	長方形	N-10°-E	1.48	0.89	0.43	近世	耕作用貯蔵穴	960-990
167	楕円形	N-5°-E	0.97	0.83	0.10	中・近世		960-980
168	長方形	N-79°-W	2.72	1.58	0.38	近代	縄文土器、磁器、耕作用貯蔵穴	955-995
169	長方形	N-1°-E	2.20	0.80	0.44	近世	縄文土器、耕作用貯蔵穴	955-995
170	長方形	N-82°-W	2.00	0.76	0.39	近世	縄文土器、陶器、平瓦、耕作用貯蔵穴	960-995
171	長方形	N-7°-E	2.12	0.77	0.40	近世	耕作用貯蔵穴	955-995
172	長方形	N-85°-E	1.42	0.81	0.43	近世	耕作用貯蔵穴	970-005

第3節 検出された住居跡

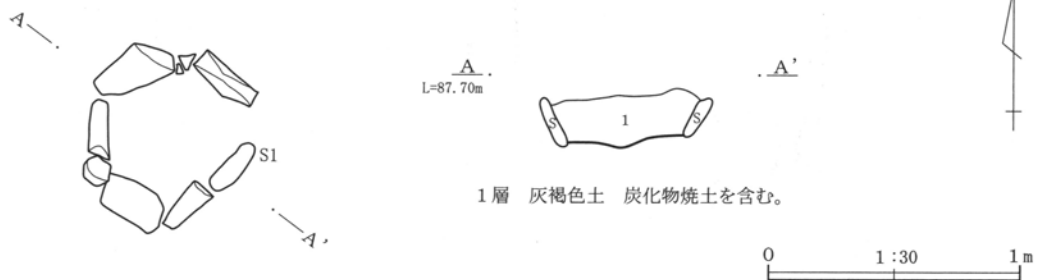
J-2 (第26~28図 PL7)

位置 X=944~949 Y=-998~002 重複 J-11 主軸 N-50°-E 形状 隅丸方形  
 規模 3.20m×2.88m×0.05m 柱穴 周礫の内側の四隅に支柱穴と思われるピットを4基検出した。深さは、床面より0.4~0.6mである。 覆土 現代の耕作により床面も削られていたため住居覆土は不明である。 床面 ローム漸移層まで掘り下げて壁際に周礫(0.3~0.6m幅)を敷き詰めている。西側及び北西側は現代耕作により周礫は一部欠落しているが、南側と同様に敷き詰められていたものと推測される。 貯蔵穴 炉のすぐ北東部に0.9m×0.7m×0.27mの土坑状の掘り込みを確認したが、住居に伴うものか特定しづらい。 炉 住居中央のやや南側より検出した。0.72m×0.64m×0.20mの大きさで不整長方形の石囲い炉である。 遺物 南西部周礫の際より加曽利E式の埋設土器を検出した。その埋甕覆土からの出土遺物はみられなかった。また、加曽利E式土器を多量に検出した。炉覆土及び周辺からは多孔石・台石や凹石その他の石器も出土した。南西部からは楕円形のドーナツ型の石製品も出土した。用途は不明ではあるが埋甕と対になる可能性も考えられる。 所見 壁際の床面を礫で巡らせた縄文中期後葉の敷石住居と考えられる。現代の耕作により西側及び北西側は、一部残りがよくないものの南西部に埋設土器があることから入り口と思われる。J-11の土器も先の埋設土器と同時期であり、入り口付近の土器として対ないし連結状に設置された可能性も考えられる。

J-5 (第29・30図 PL6)

位置 X=931~936 Y=-990~994 重複 J-31 主軸 N-60°-E 形状 隅丸方形  
 規模 4.35m×3.6m×0.71m 柱穴 炉の南側から2基のピットを検出した。規模はやや小さく浅い。位置的な規則性も認められない。そのため柱穴としては断定しづらい。 周溝 0.04m~0.13mの深さで巡る。 覆土 主体は、暗褐色土でローム土を含むものと灰黄褐色土で炭化物を含む土層である。 床面 ローム面まで掘り下げて、その上面にローム混じり暗褐色土層がのる。厚さ4~8cmの厚さで貼り床状に踏み堅められている。特に炉の周辺はよく締まっている。 炉 住居のほぼ中央に地床炉として設置されている。規模は、0.56m×0.58m×0.22mである。覆土から炭化物や焼土を多量に検出した。 遺物 勝坂式期から加曽利EIV式期までの土器を多量に検出した。中心は、加曽利E3・4式期の土器である。同時期の土製円盤や耳栓、用途不明の土製品も多く検出した。炉周辺では、大型の土器片や石器が集中して出土した。 所見 縄文中期後葉の住居である。

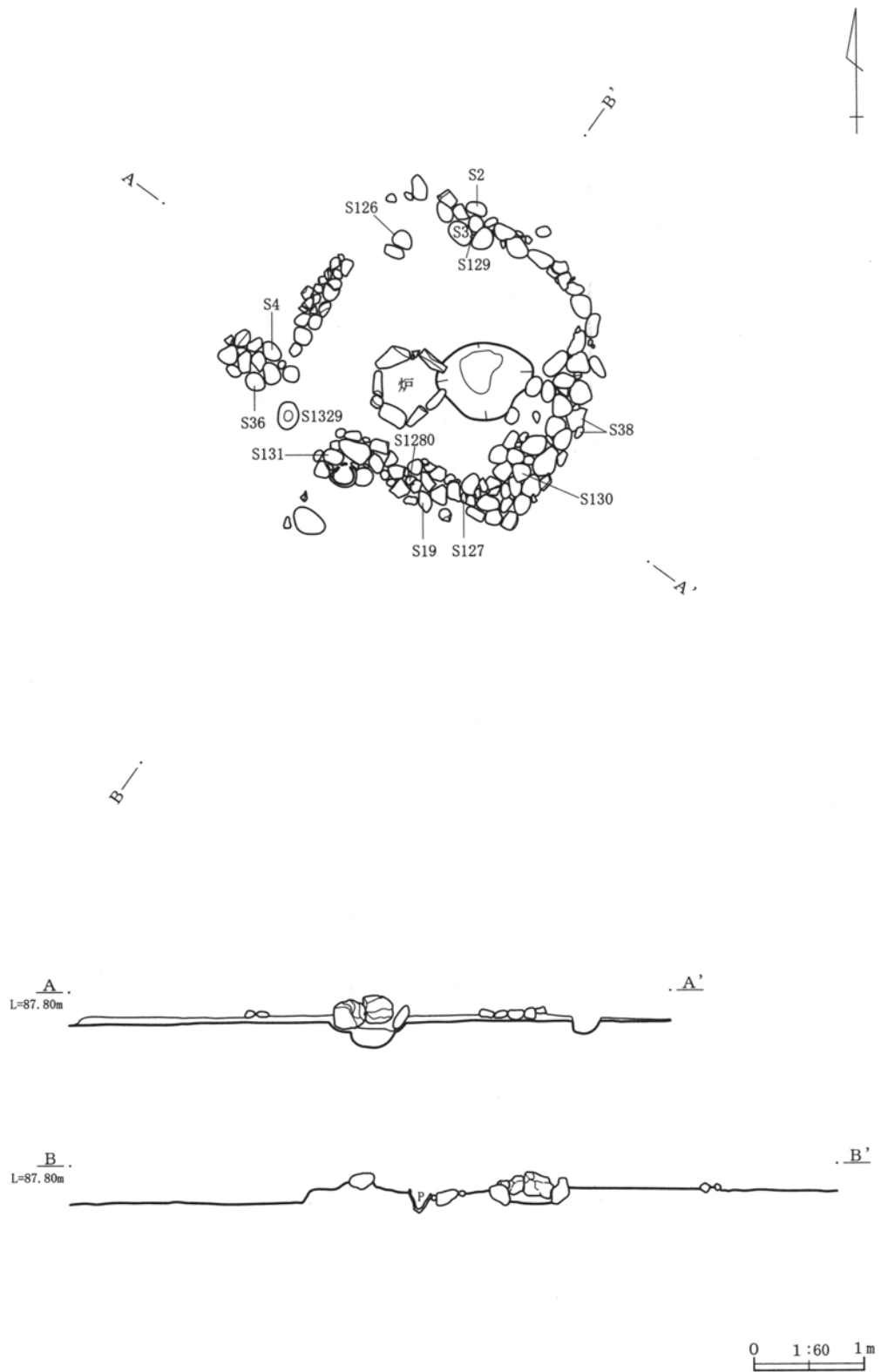
J-2 炉



第26図 J-2 (1)

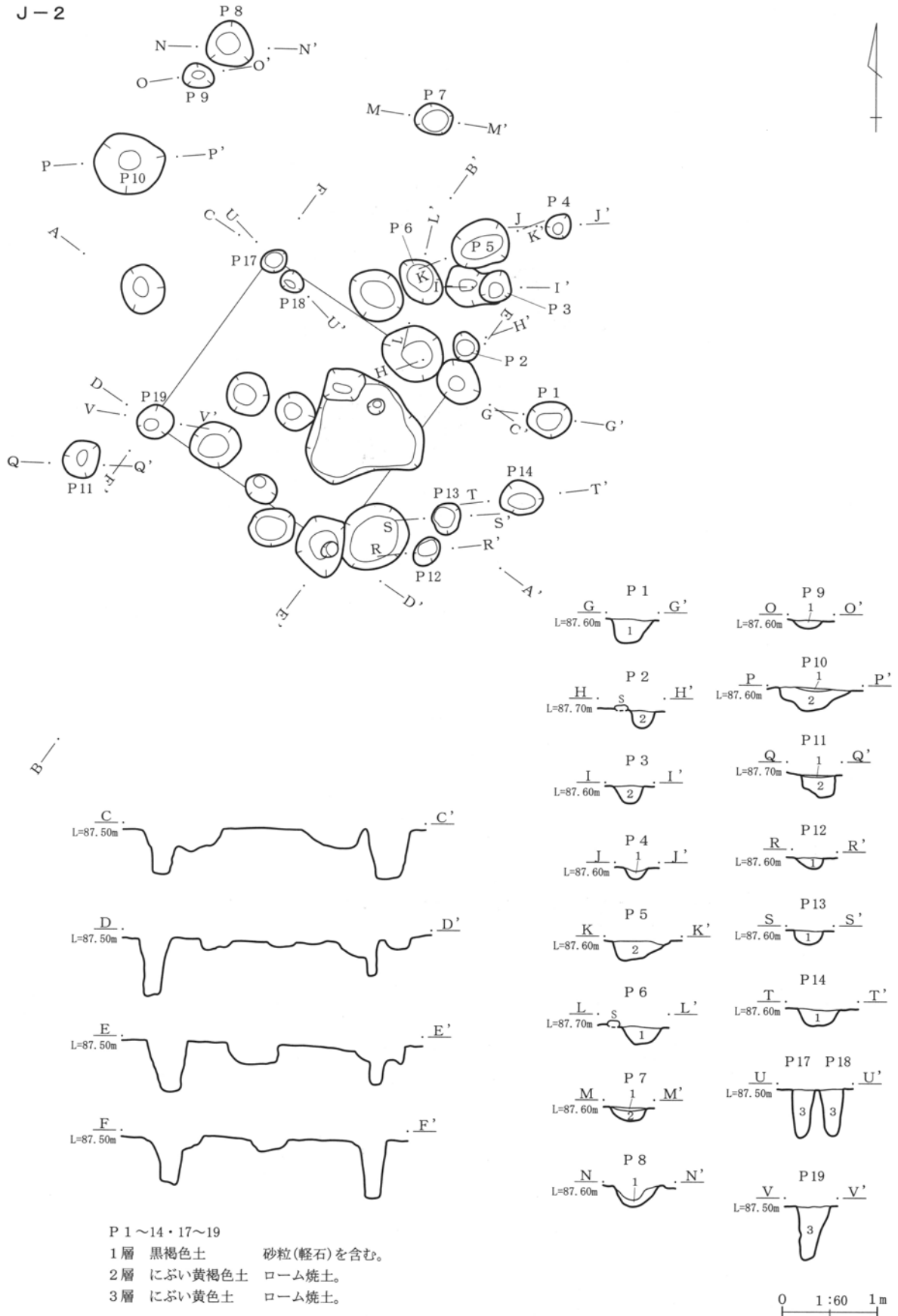


J-2



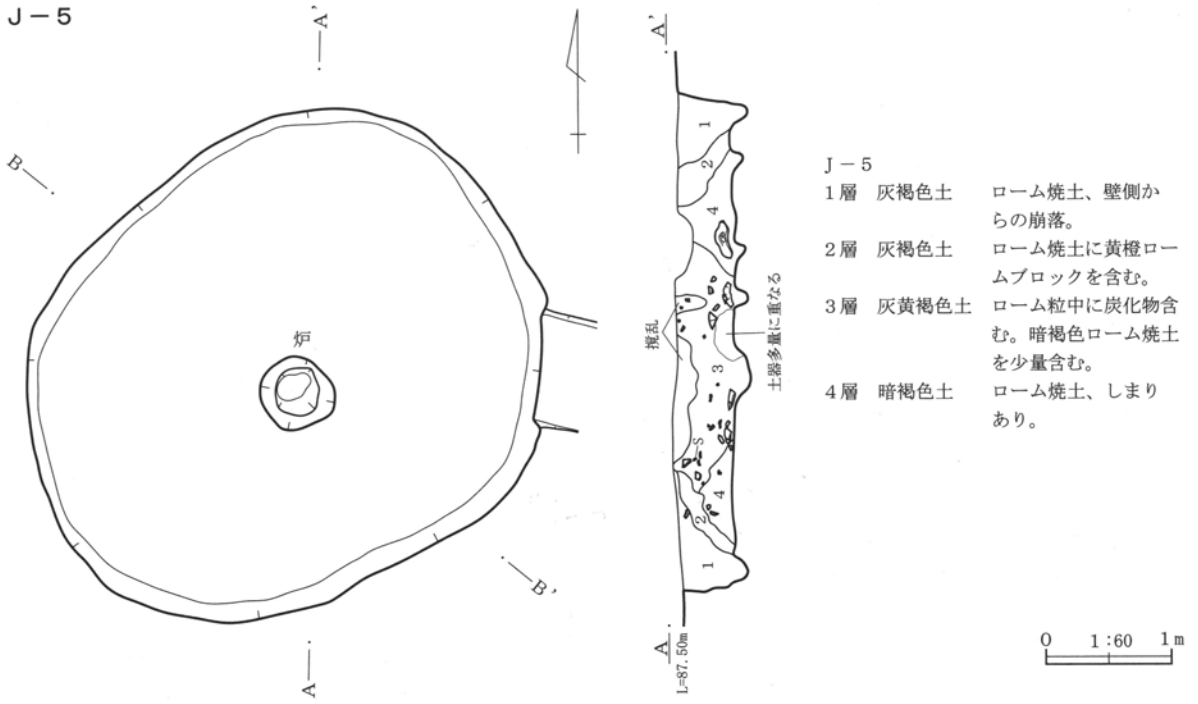
第27図 J-2 (2)

J-2

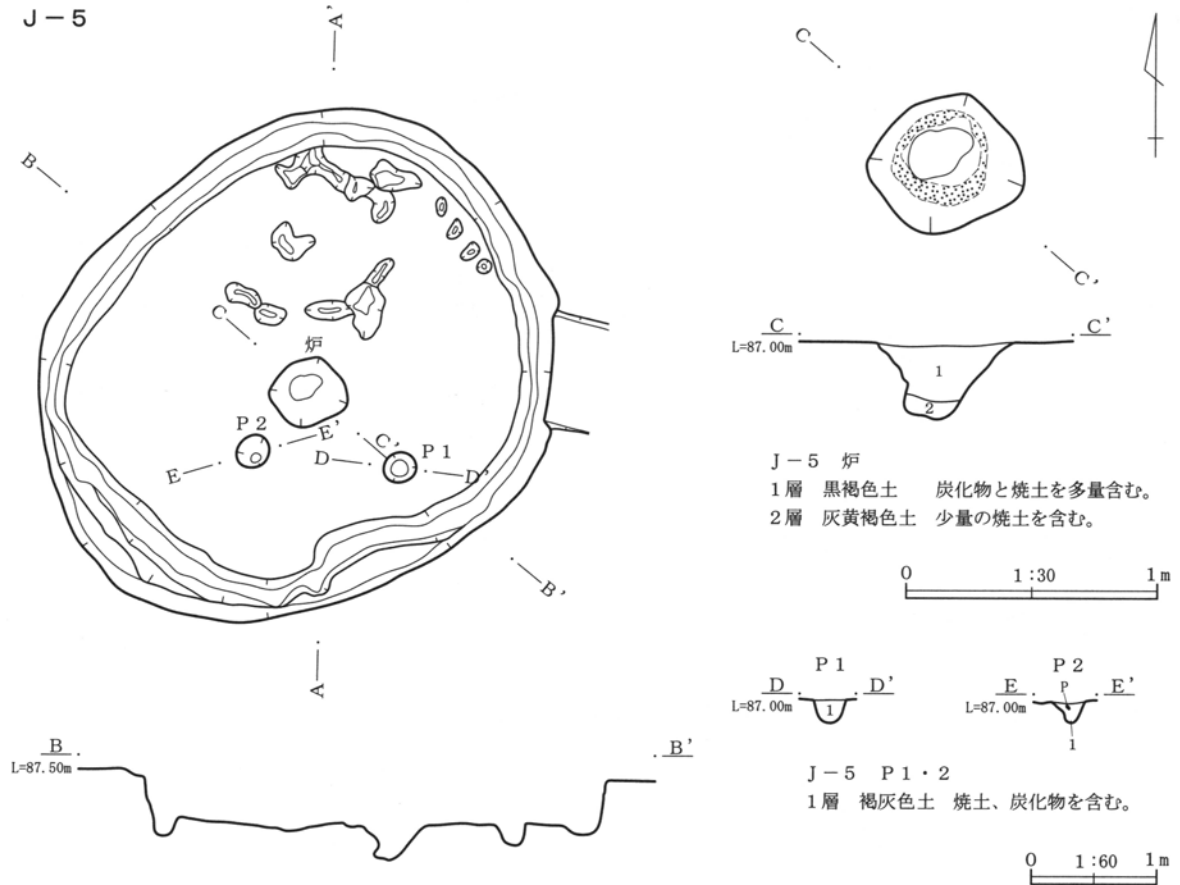


第28図 J-2 (3)

第3節 検出された住居跡



第29図 J-5 (1)



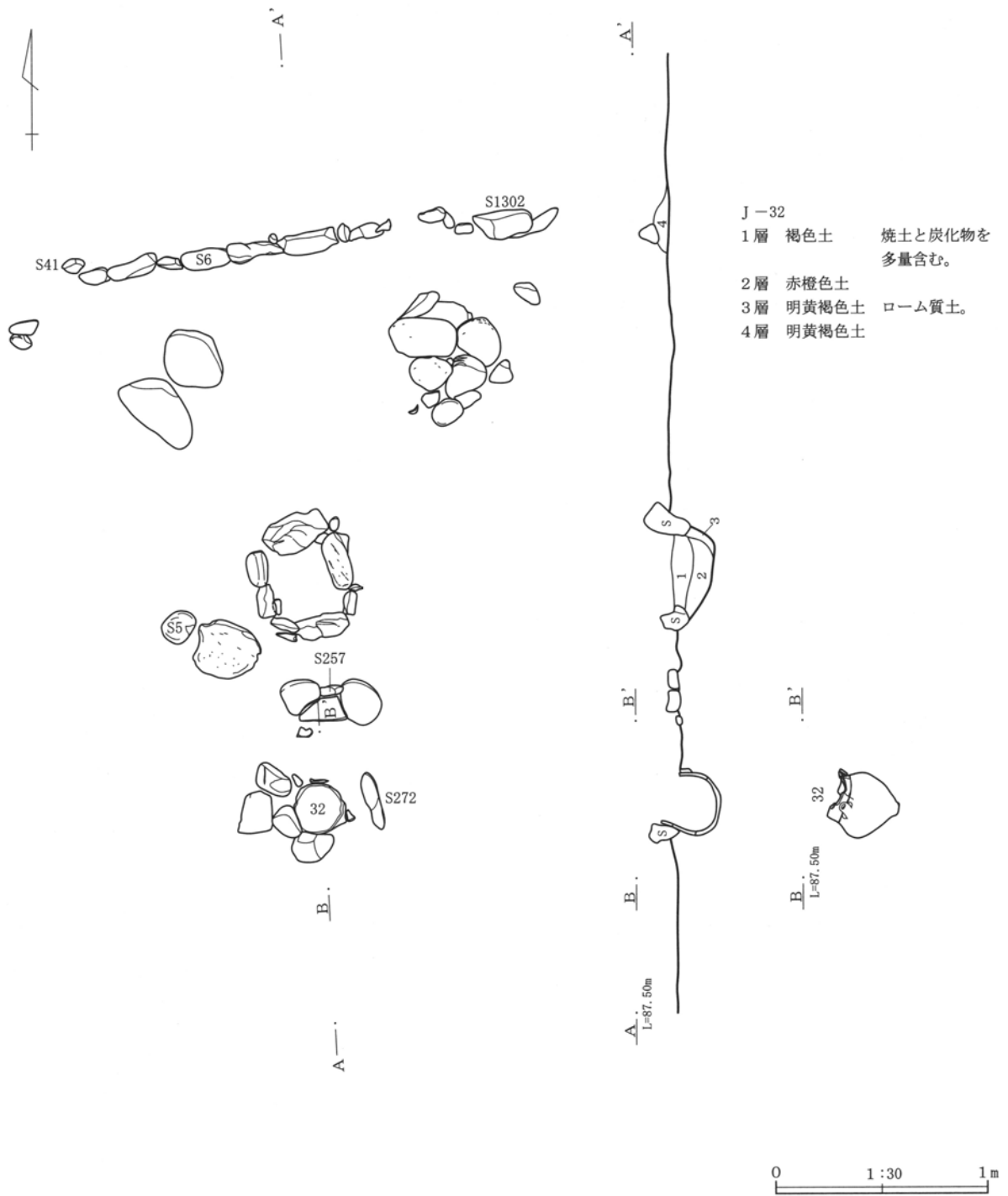
第30図 J-5 (2)

J-32 (第31・32図 PL6)

位置 X=935~940 Y=-996~000 重複 なし 主軸 N-20°-E 形状 削平された部分が多くはつきりしないが、敷石の状態から方形とも推定される。規模 4.8m×4.2m×-m 貯蔵穴 掘り方段階の調査で炉北側にピットを3つほど検出したものの貯蔵穴とは断定しづらい。柱穴 J-2付近から多数のピットを検出した。主柱穴は、方形と考えられる。住居のほぼ四隅に位置するピット 3・14・15・18である。柱穴の大きさは、いずれも径30~40cmであった。ピットが多いことから補助柱穴ないし柱の腐食などによりつけかえられた可能性も考えられる。覆土 現代の耕作により床面も削られている可能性があるため住居覆土は不明である。床面 ローム漸移層まで掘り込み、ほとんどそのまま床面としている。また、部分的に敷石していて、残りはあまりよくないが北壁際と考えられる一辺で10cm前後の川原石を並べている。炉 住居のほぼ中央に形状長方形、大きさ0.62m×0.48m×0.18mの石組み炉を検出した。炉覆土からは、焼土や炭化物が多量に検出した。炉の脇からは台石・磨り石や敲石も出土している。遺物 炉南側の埋甕は、加曾利E IV式期の橋状把手をもつ両耳壺でほぼ完形品で出土した。その埋土からは特に遺物を検出できなかった。その他に加曾利E 3~堀之内式期の土器を検出した。中心は、加曾利E III・IV式期の土器片で土製円盤も出土している。また、堀之内式期の注口土器片も出土している。多孔石・台石等の他に石鏃や不定形石器も出土した。所見 縄文中期後葉の敷石住居跡と考えられる。現代耕作などにより残存状況は良好とはいえないものの北側で一列の直線上の配石を検出した。壁際の床面に方形で一巡するように敷かれていた可能性も考えられる。炉の北東部にも敷かれていたように礫の集まっ

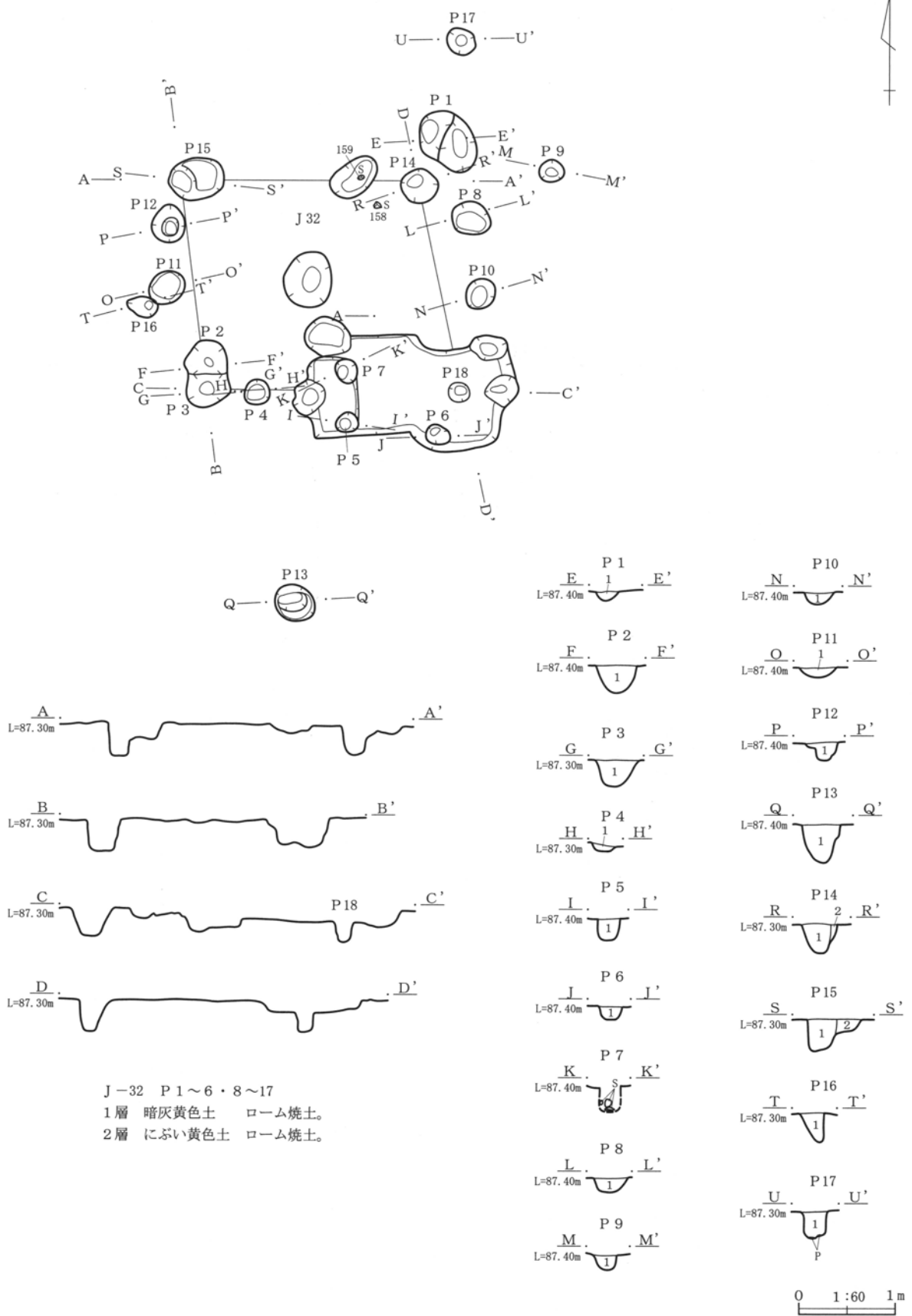
ている所があることから、炉の北側全体的に敷き詰められていたとも考えられる。また、埋甕付近が入り口と推測される。さらに礫の残りから入り口から炉まで通路状に敷石を設けていた可能性も考えられる。

J-32



第31図 J-32 (1)

J-32

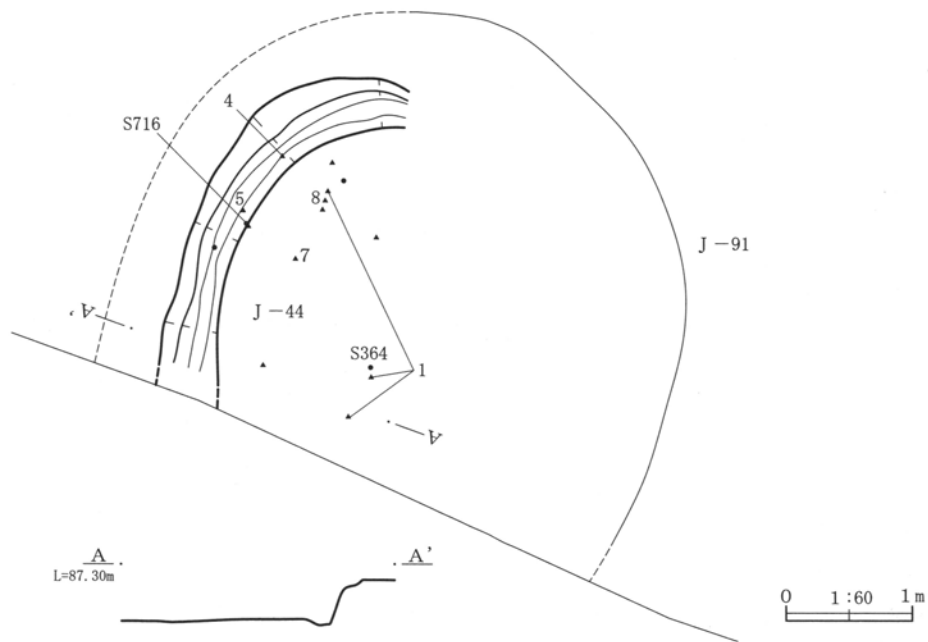


第32図 J-32 (2)

## J-44 (第33図 PL6)

位置 X=916~920 Y=-988~991 重複 J-91 (同一遺構)・J-96 主軸 N-13°-E  
 形状 楕円形 規模 2.70m×1.60m×0.34m 周溝 掘り方段階で上端0.2m、下端0.1m前後で検出した。覆土 暗褐色土層で淡色黒ボク土ブロックを含む。床面 ローム面まで掘り込んで、そのまま踏みかためるように床面になっている。炉 次年度調査で検出 (J-91) 遺物 加曾利E2~4式期の土器を多量に検出した。石核をはじめツール数点も検出した。所見 調査区を分割しての調査であるため、遺構全体の3分の1ほどの検出にとどまった。東側は後の調査によりJ-91を検出した。詳細はJ-91を参照されたい。

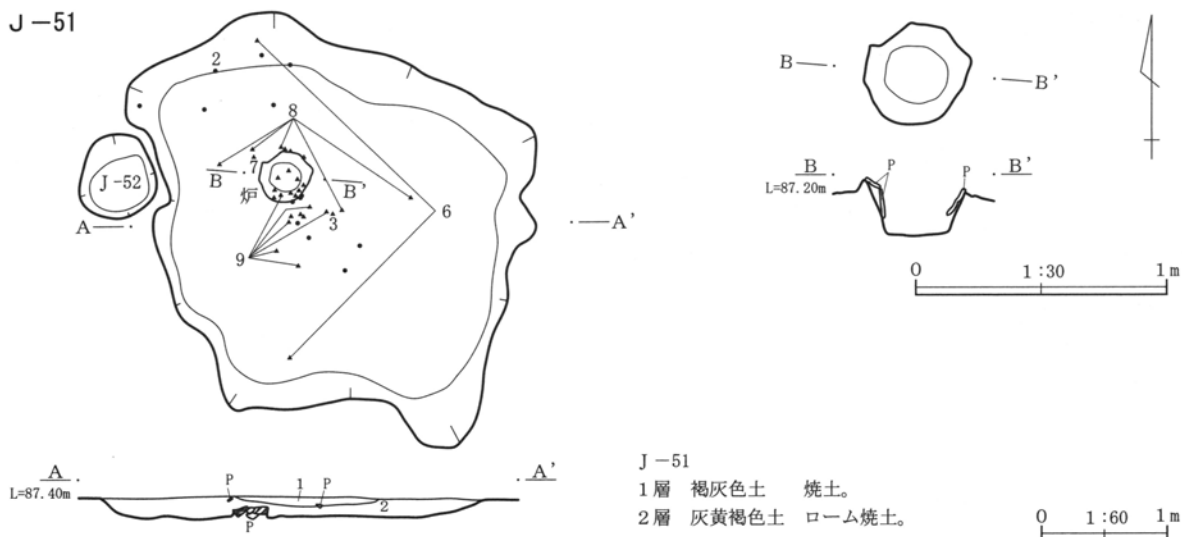
## J-44



第33図 J-44

## J-51 (第34図 PL8)

位置 X=920~925 Y=-990~995 重複 なし 主軸 N-26°-W 形状 不整形  
 規模 3.12m×3.05m×0.16m 覆土 やや粘質のある褐灰色土とローム土の混じる灰黄褐色土であった。床面 ローム面まで掘り込み、そのまま床面としている。炉 加曾利EⅢ式期の深鉢の上半を埋甕炉として転用している。規模は、0.42m×0.42m×0.17mである。遺物 勝坂式期から加曾利EⅣ式期までの土器片を検出した。中心は、E3式期の土器である。また、炉周辺からは、打製石斧や剥片などの石器も出土した。所見 表土から浅く現状が畑であったことから攪乱を多分に受けていると考えられる。そのため残りはあまりよくなく遺構の形状もはっきりしないが、隅丸方形ないし楕円形を呈していたと考えられる。またJ-52は、覆土が同様でやや近接していることから同一遺構という可能性もある。



第34図 J-51

J-65 (第35図 P L 8)

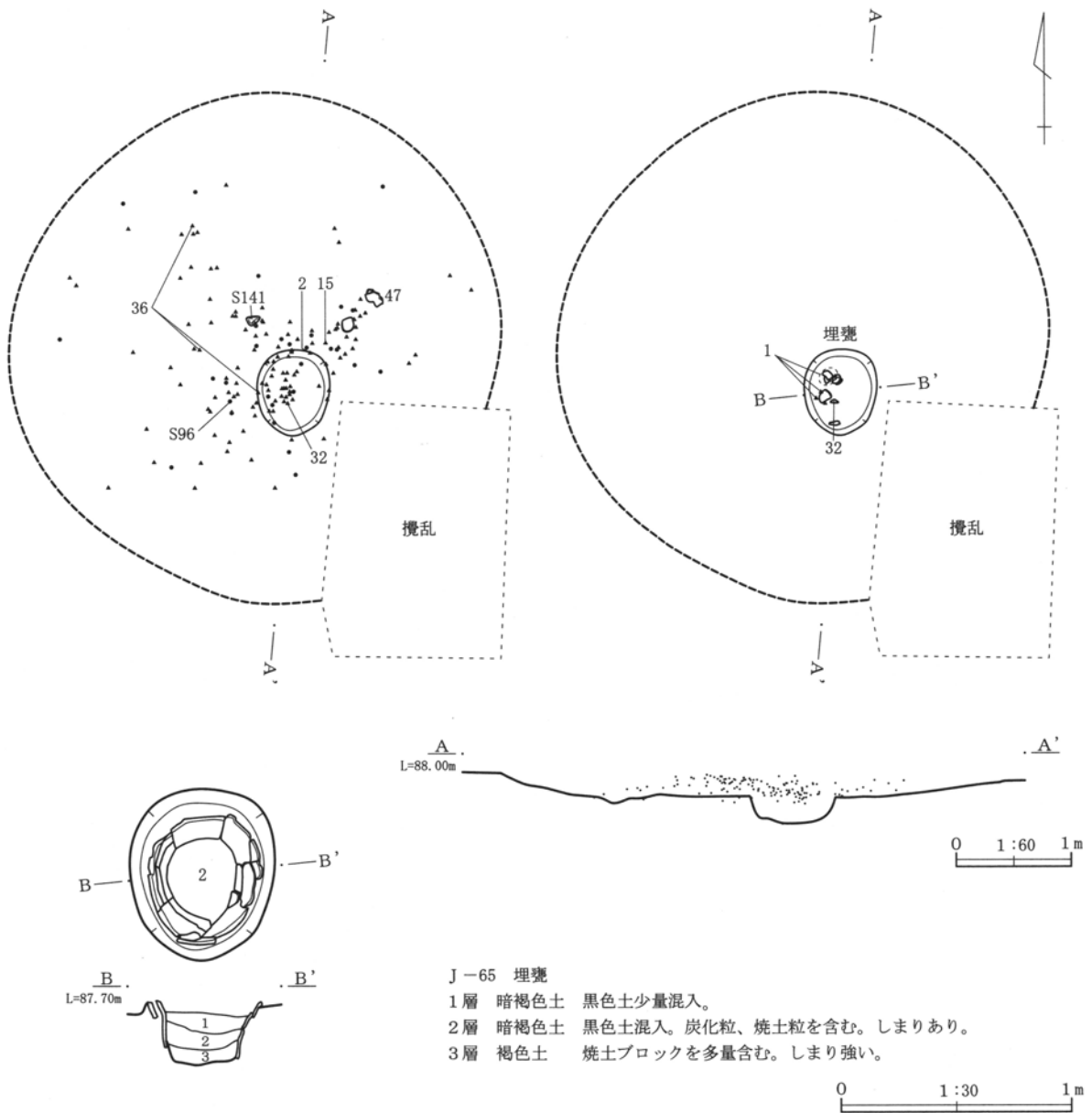
位置 X=970~975 Y=-996~001 重複 なし 主軸 N-7°-W 形状 不整円形  
 規模 4.45m×4.28m×0.45m 覆土 遺構の確認面から掘り方までの残りが非常に浅く、根などの攪乱も多分に受けていることからあまりはつきりしない。淡色黒ボク土の混じった暗褐色土が部分的に残っていた。床面 ローム漸移層まで掘られていて床面と考えられるがはつきりしない。やや中央部方向に傾斜する。炉 加曾利E3式期の深鉢上半を転用した埋甕炉で、規模は0.75m×0.63m×0.24mである。覆土には、焼土粒や炭化粒、炭化ブロックが多量に含まれていた。遺物 勝坂、阿玉台式期から加曾利E式期までの土器片を検出した。中心は、加曾利EⅢ式期のものである。曾利式期の土器片も少量出土した。黒曜石の石核、打製石斧、石鏃、スクレイパー、磨石も検出した。所見 加曾利E3式期の住居であると思われる。表土から浅く、現状が住宅であったことから攪乱を多分に受けている。南東部もコンクリートの基礎によって壊されていたため残りはあまりよくない。

J-66 (第36図 P L 8)

位置 X=962~968 Y=-992~998 重複 J-83 主軸 N-0° 形状 楕円形  
 規模 5.82m×5.35m×-m 覆土 遺構確認面から掘り方の残りが悪く覆土の残りも悪かった。部分的に残っている覆土は、ローム土、黒褐色土を含む暗褐色土であった。床面 ローム漸移層まで掘り下げて、そのまま床面としている。炉の周辺は、やや踏みかためられたような堅い部分がまばらに残っていた。しかし全体としては、残りが悪く不明瞭である。炉 住居のほぼ中央に位置している。加曾利EⅢ式期の深鉢の胴部を埋設して埋甕炉として使用していた。規模は、0.72m×0.58m×0.24mの掘り方である。炉の覆土からは、あまり炭化物や焼土はみられなかった。遺物 炉のすぐ南東部で加曾利E3式期の埋設土器を検出した。底部を欠損している。その他に勝坂式期から堀之内式期の土器片を検出した。中期後葉の土製円盤も出土した。また、石鏃や石錐などの石器、黒曜石の剥片も数点出土した。所見 残りが悪く、はつきりしたことは分からないものの埋設土器から加曾利E3式期から縄文中期後葉の住居と比定できる。遺物の出土位置を見ると炉の周辺と西側にやや多い。遺物からJ-83の住居の方が古いと考えられる。



J-65

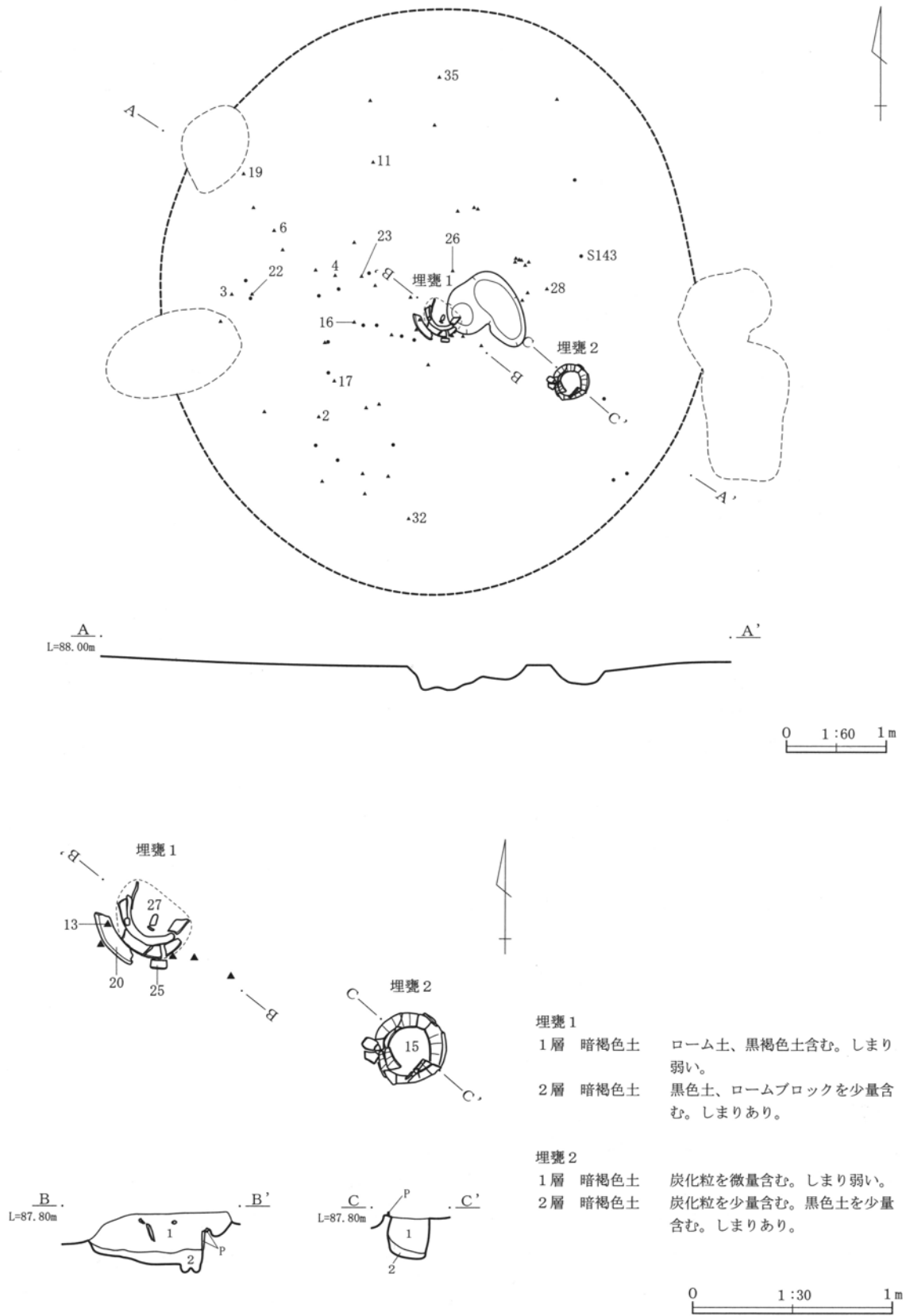


第35図 J-65

J-67 (第37図 PL8)

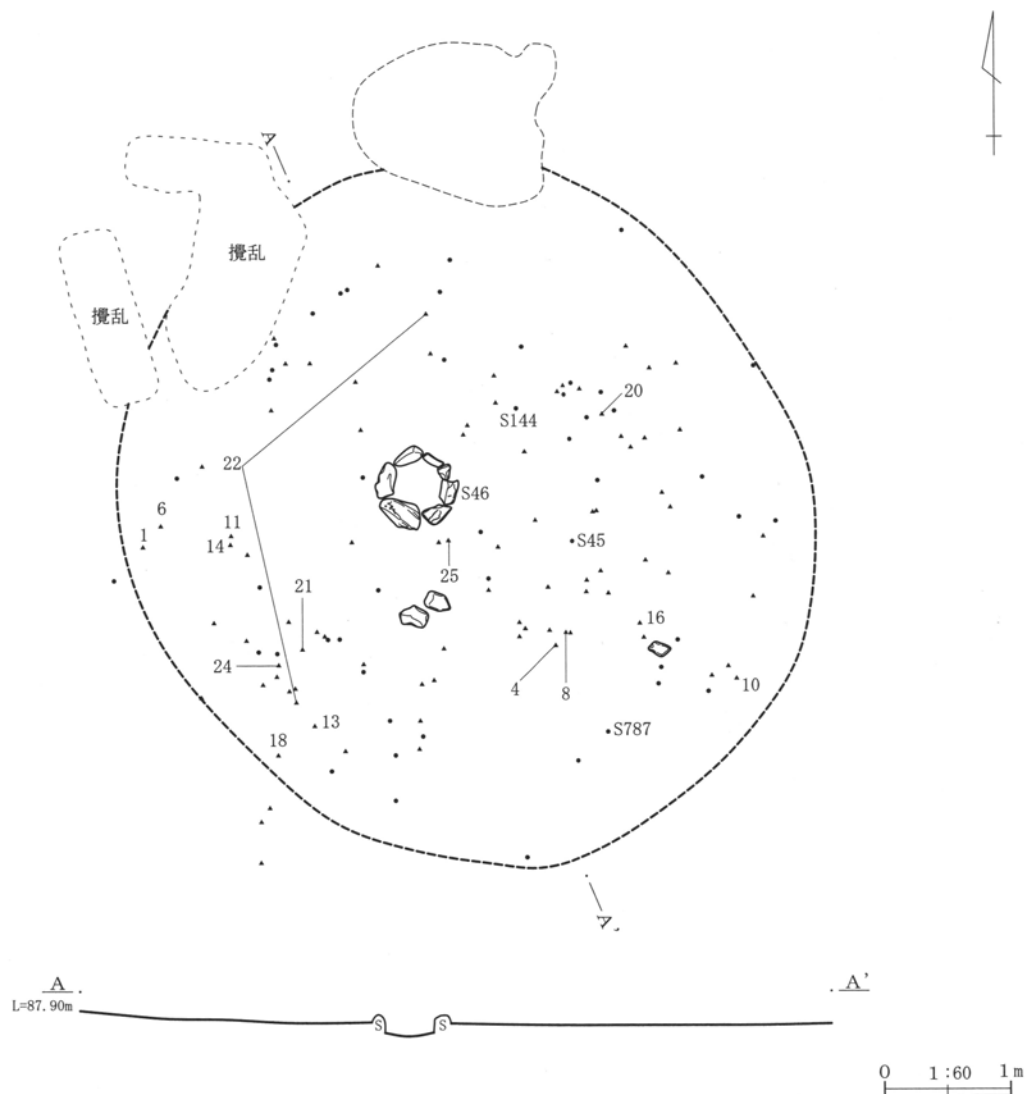
位置 X=957~963 Y=-000~007 重複 なし 主軸 N-22°-W 形状 楕円形  
 規模 5.68m×5.3m×-m 覆土 遺構確認面から掘り方の残りが悪く、覆土の残りも悪かった。  
 床面 ローム漸移層まで掘り下げて、そのまま床面としている。ほぼ平坦である。炉の周辺で一部踏みかた  
 められたような床面が残っていた。しかし全体としては、残りは悪くはつきりしない。 炉 住居のほぼ  
 中央に円形状に石を組んだ炉を検出した。石組炉は川原石や安山岩を利用している。炉石の一部は多孔石が  
 転用されている。 遺物 加曾利E3~4式期の土器片を多量に検出した。多孔石や打製石斧も数点ずつ  
 検出した。 所見 縄文中期後葉の住居に比定できる。

J-66



第36図 J-66

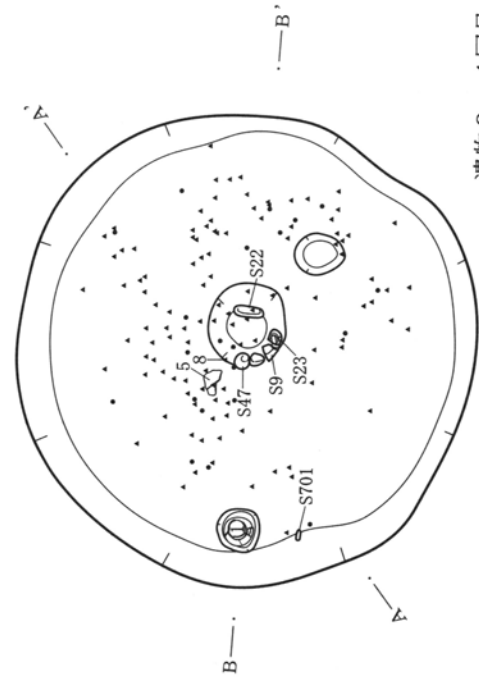
J-67



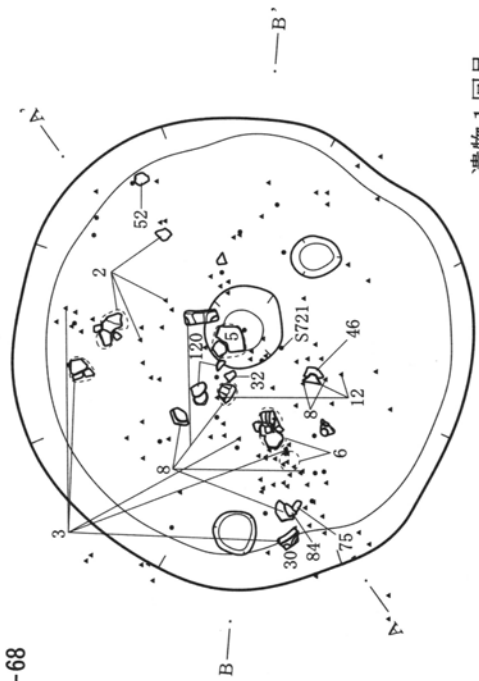
第37図 J-67

J-68 (第38図 PL9)

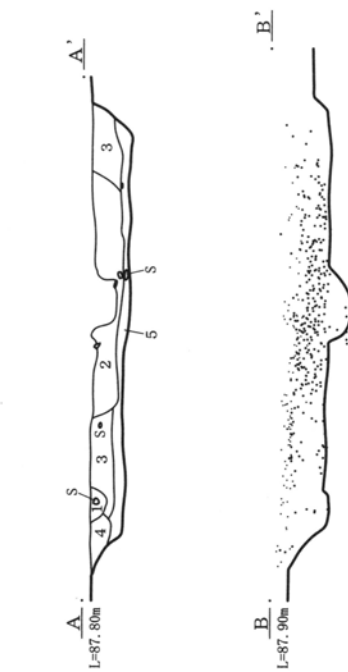
位置 X=970~975 Y=-016~021 重複 なし 主軸 N-54°-W 形状 円形  
 規模 3.75m×3.66m×0.38m 柱穴 炉の南東部にピットを検出した。大きさは、0.36m×0.32m×0.18mほどである。1基のみであるため柱穴かどうか不明である。 覆土 暗褐色土であり、黒褐色土と炭化物が部分的に含まれる。 床面 ローム漸移層まで掘り下げて、そのまま床面としている。ほぼ平坦である。炉の周辺は、踏みかためられたような堅い部分が残っていた。しかし全体としては、残りは悪くはつきりしない。 炉 住居のほぼ中央に位置し部分的に石で囲まれた石組炉である。そのほとんどの石は、安山岩系で石皿や多孔石の転用である。 遺物 勝坂、阿玉台式期から加曾利E4式期の土器を多量に検出した。中心は、加曾利E3・4式期の土器である。住居西壁際からは、加曾利E4式期の条線文の深鉢の上半部を伏せて埋設してある状態で検出した。また浅鉢形のミニチュア土器も検出した。多孔石や石皿の他に打製石斧や磨石など多くの石器や礫も出土した。 所見 縄文中期後葉の加曾利E4式期の住居と比定できる。



遺物3・4回目



遺物1回目

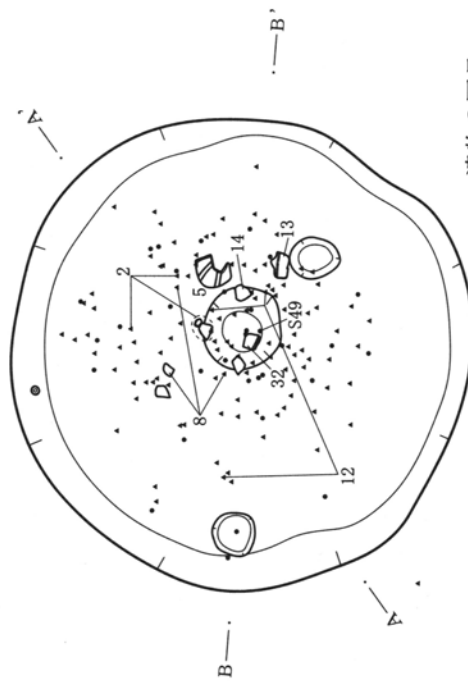


J-68

- 1層 暗褐色土 しまりなし。
- 2層 暗褐色土 炭化物を微量含む。
- 3層 暗褐色土 黒褐色土の混土。炭化物を多量含む。
- 4層 暗褐色土 黒褐色土を微量含む。
- 5層 暗褐色土 黒褐色土、炭化物を多量含む。粘性あり。



遺物2回目

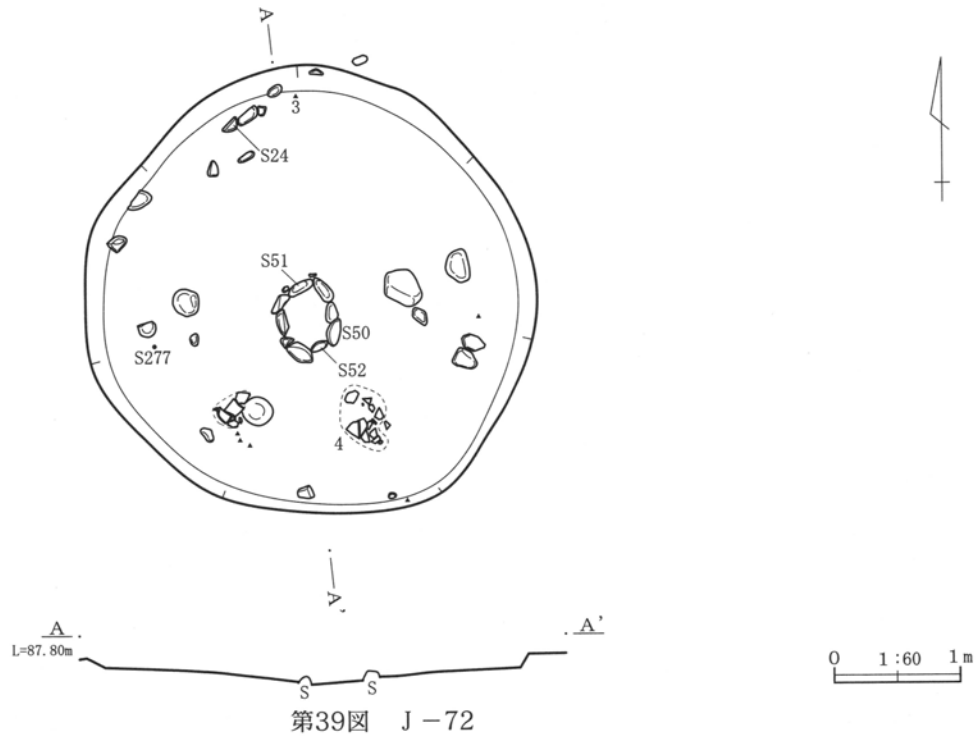


J-68

J-72 (第39図 PL10)

位置 X=954~959 Y=-014~019 重複 なし 形状 円形 規模 3.63m×3.56m×0.22m 覆土 表土から浅く、根などの攪乱も多いため不明瞭であった。床面 攪乱のためはっきりしないが、炉や大型礫の周辺で暗褐色土の床面を検出した。また、北西部壁際一部で河原石や安山岩系の石がいくつか列状に検出された。礫がやや多くみられることもあり部分的に周礫を設けて敷石住居状にしていた可能性もある。 炉 安山岩系のやや細長い石を長形状に組んだ石組み炉である。その石のうち3つを多孔石、1つを台石として利用している。規模は、0.60m×0.50m×0.05mほどである。根の攪乱などにより炉の覆土の残りはあまりよくない。 遺物 加曾利E4式期の両耳壺や同時期の土器片を検出した。炉の周辺には、台石、多孔石が置かれている。他に石皿の一部や打製石斧などの石器も少量出土した。 所見 縄文中期後葉の加曾利EIV式期の住居と比定できる。

J-72

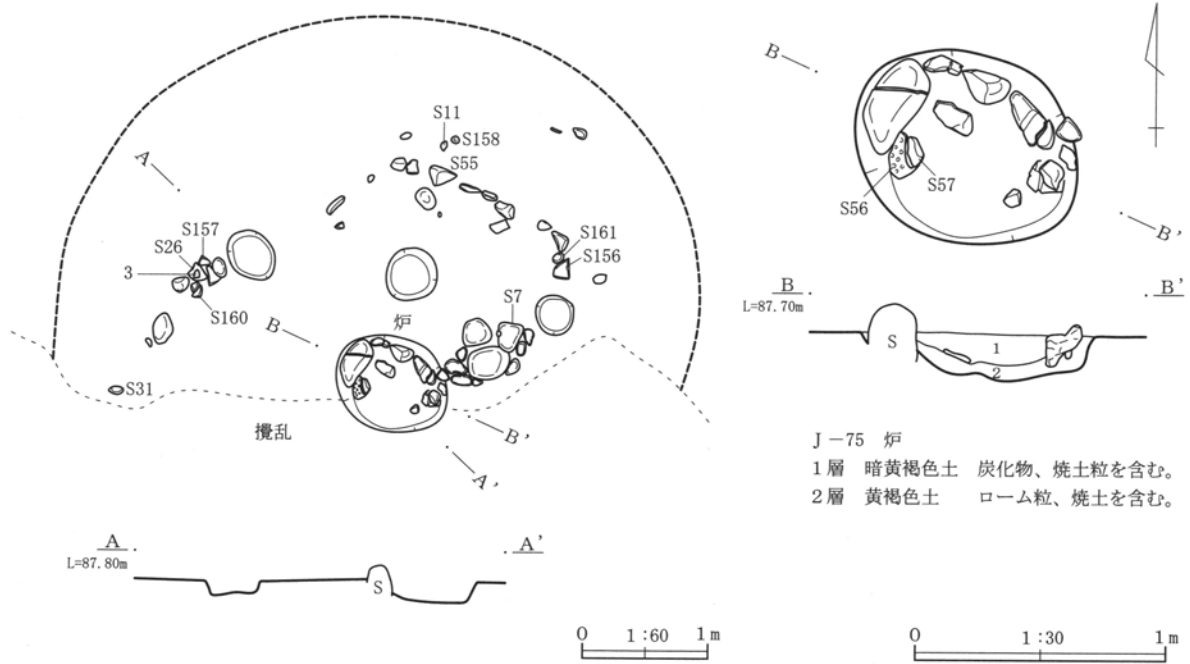


J-75 (第40図 PL10)

位置 X=950~954 Y=-979~984 重複 なし 形状 不明 規模 5.08m×(3.40m)×0.05m 柱穴 炉の北側に柱穴らしいピットを3つ検出した。残りがあまりよくないためはっきりしないが、攪乱で壊されている南側に対で存在する可能性もある。 周礫 北東部及び北西部に列状に礫が検出された。攪乱で大部分は失われたと考えられるが住居の壁からやや内側に敷かれた周礫か敷石の一部と考えられる。 覆土 表土から浅く残りはよくない。遺構の範囲も明確ではない。 床面 南側は、攪乱で残っていないが、炉の北側を中心に暗褐色土でローム粒の混じった踏みかためられた床面を検出した。 炉 南側半分を攪乱で壊されているものの北側の残りは良好である。川原石や安山岩系の礫を長方形に組んだ石囲い炉である。炉石の一部は、多孔石として利用している。脇からは、磨石の出土もあった。覆土は、にぶい黄褐色土と黄褐色土で炭化物や焼土粒も含まれていた。 遺物 加曾利E3・4式期の土器を検出した。炉のすぐ北東脇からは、礫を敷き詰めた部分を検出した。台石などが並べられていることから調理場

として使用したスペースであることが考えられる。 所見 縄文中期後葉の住居に比定できる。

J-75



第40図 J-75

J-83 (第41図 P L11)

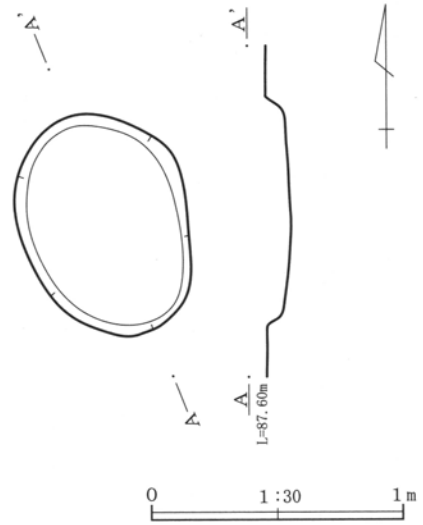
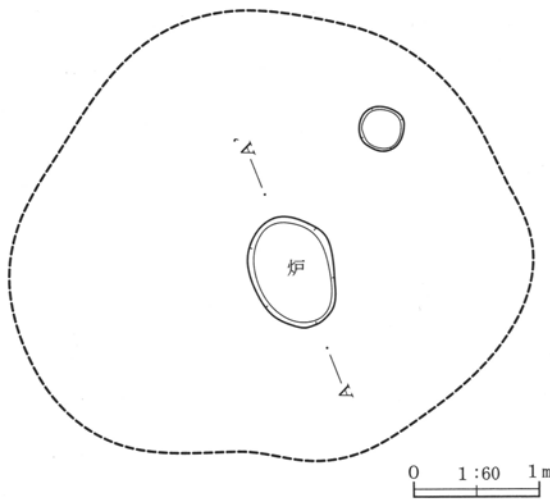
位置 X=963~967 Y=-994~999 重複 J-66 形状 不整円形 規模 4.2m×3.35m×0.11m 柱穴 炉の北東部に1基柱穴の可能性のあるピットを検出した。径約0.3m強で深さ0.1m弱であった。柱穴としては、やや浅く1基のみであるため断定しづらい。 覆土 遺構確認面から掘り方の残りが悪く覆土の残りも悪かった。一部残っていた覆土は、ローム土、黒褐色土を含む暗褐色土であった。床面 ローム漸移層まで掘り下げて、そのまま床面としている。炉の周辺は、やや踏みかためられたような堅い部分がまばらに残っていた。しかし全体としては、残りは悪くはっきりしない。 炉 住居の範囲もはっきりしないものの、ほぼ住居中央に床面をややレンズ状に下げた地床炉として検出した。大きさは0.9m×0.65mの楕円形を呈している。覆土の残りはあまりよくないものの炭化物や焼土粒を少量含み、使用面と思われるやや焼き締まった底面も見られ炉と判断した。 遺物 縄文前期末から中期後葉の加曾利E式期の土器片を検出した。石核、石鏃、不定形石器や剥片も少量出土した。 所見 J-66の住居と重複するが、覆土の残りは悪く、遺構範囲もはっきりしない。新旧関係は、出土遺物からJ-66の方が新しく、J-83は、縄文中期前葉から中葉の住居と比定できる。

J-86 (第41図 P L12)

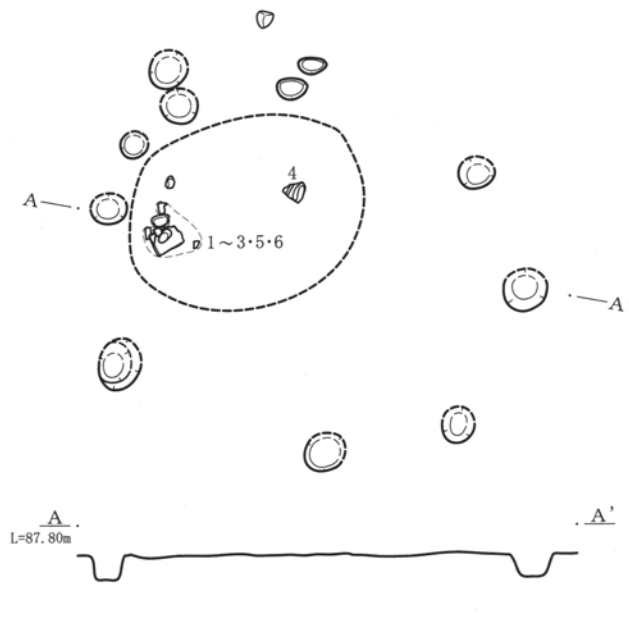
位置 X=960~965 Y=-986~990 重複 なし 形状 柱穴の配置から円形と推定される。規模 4.00m×3.80m×-m 柱穴 ピットを11基検出した。位置的に壁際に巡る形で支柱穴が存在したものと考えられる。柱穴としてやや小さいものは補助柱穴と思われる。

覆土 削平され不明である。 床面 大きめの土器片を集中して検出した周辺では、やや床らしい堅いローム粒の混じった暗褐色土を検出したが範囲が狭く不明瞭である。 炉 検出できなかった。浅い地床炉が削られてしまった可能性もある。 遺物 加曾利E3~4式期の土器を検出した。スクレイパーも1点出土した。 所見 加曾利E4式期の遺構である。ただ竪穴式の住居跡かどうかは、断定しづらい。炉の検出がなかったことや遺物がやや少ないこと、さらに周りの同時期の住居と柱穴等の本数や位置が違い造りが異質にも感じられることなどから、円形の掘立柱建物跡的な遺構の可能性もある。

J-83



J-86



第41図 J-83・86

第3章 II区 検出された遺構

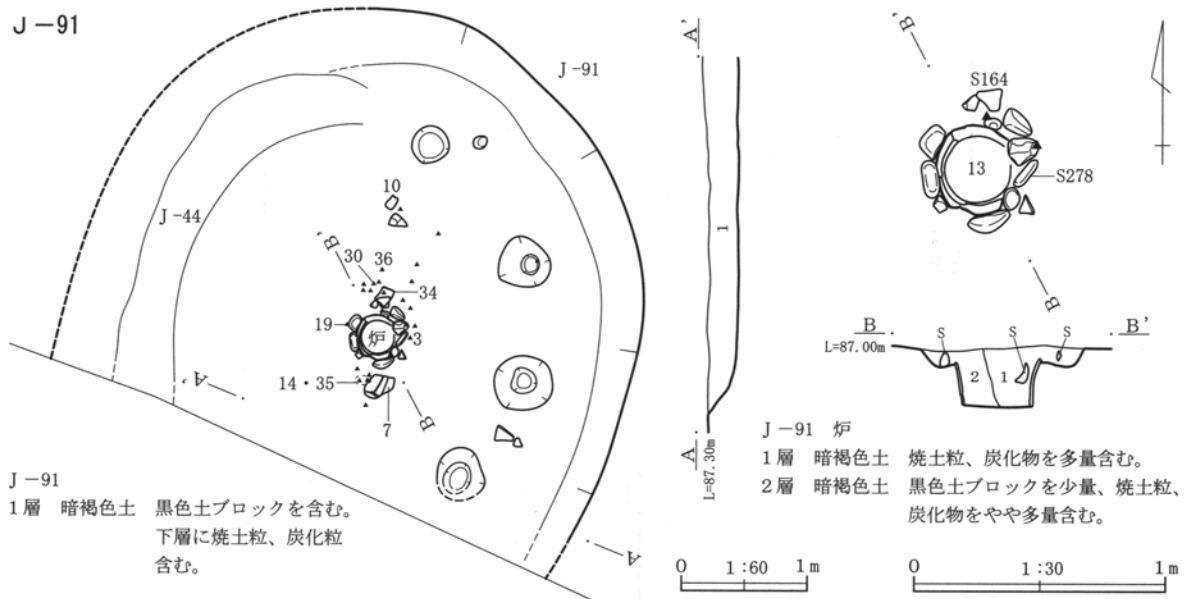
J-91 (第42・43図 P L11)

位置 X=915~920 Y=-986~989 重複 J-44 (同一遺構)・J-96 形状 楕円形  
 規模 3.42m×2.35m×0.23m 柱穴 径0.3~0.4mのピットを4基検出した。形状や大きさから柱穴と判断できる。周溝 前年度調査の西側(J-44)では、周溝を検出したが東側では、はっきりした周溝を検出できなかった。覆土 暗褐色土で淡色黒ボク土ブロックを含む。床面 ローム漸移層まで掘り込んで、そのまま踏みかためるように床面にしている。炉 検出した炉は、規模0.7m×0.65m×0.2mの石組みの埋甕炉である。深鉢の胴部を利用し、その周りに円形に礫を配置している。台石や敲石なども混入していた。覆土からは多量の焼土粒や炭化物を検出した。また、炉の平面図、断面図から判断すると炉は作り替えられている。もともと現炉のすぐ北東側にあり、その後現位置に再構築されたものと考えられる。遺物 埋甕炉として使われていた深鉢の胴部は、加曽利E3式期の土器である。加曽利E3~4式期の土器片を多量に検出した。台石や磨石の他に不定形石器や石鏃などを検出した。所見 縄文中期後葉の加曽利E4式期の住居と比定できる。前年度調査のJ-44と同一住居と考えられる。J-44からは柱穴を検出することができなかったものの壁の周りを巡るものと思われる。

J-92 (第43図 P L12)

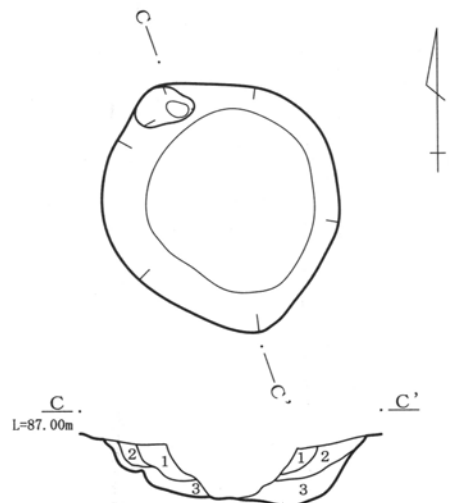
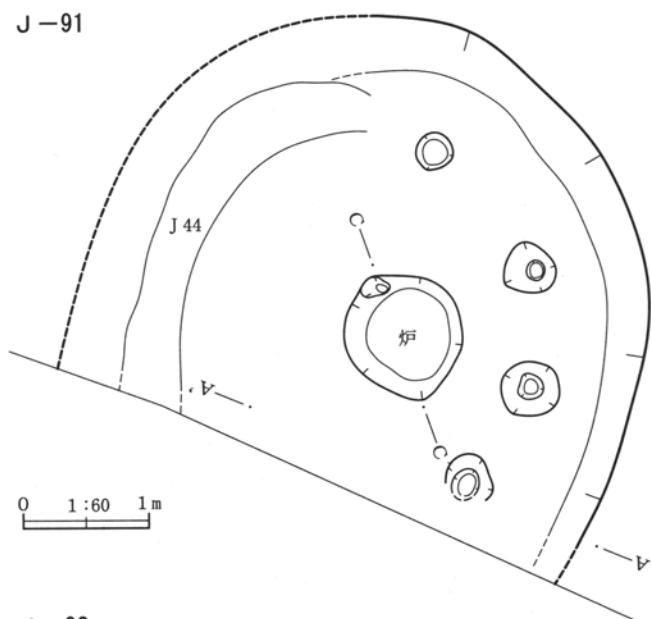
位置 X=919~925 Y=-984~989 重複 J-95 形状 楕円形 規模 4.78m×4.50m×0.32m 柱穴 ピットを数基検出したものの形状や掘り方などから柱穴と特定できるものはなかった。覆土 暗褐色土で淡色黒ボク土ブロックを含む。床面 ローム面まで掘り込んで、そのまま踏みかためるように床面にしている。根の攪乱などにより残存状況は良くない。また、炉の北側で2基の土坑状の掘り込みを検出した。住居に伴うものかどうか不明である。炉 攪乱により礫が移動されてはいるものの、石囲いの埋甕炉であったと考えられる。規模は、1.12m×0.96m×0.14mである。炉の覆土からは炭化物や焼土粒はあまりみられなかった。遺物 阿玉台式期から加曽利E4式期の土器片を検出した。中心は、加曽利E3・4式期の土器である。石鏃4点、楔形石器4点、磨石、多孔石なども出土している。所見 縄文中期後葉の住居と比定できる。

J-91

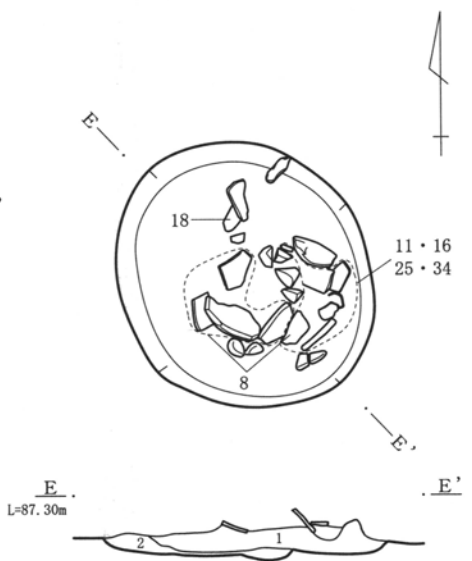
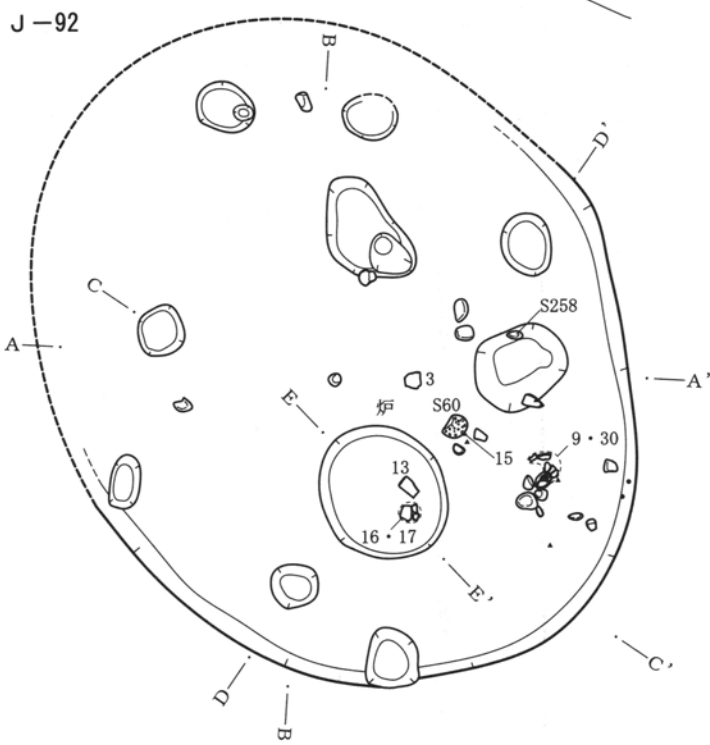
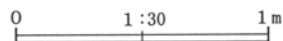


第42図 J-91 (1)

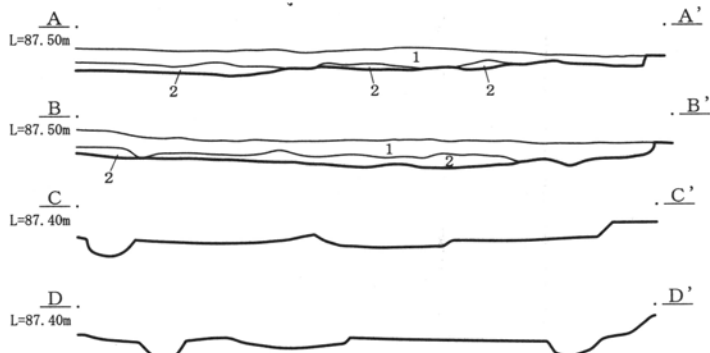
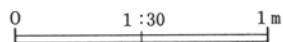




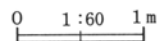
J-91 炉2  
 1層 暗褐色土 黒色土、ローム土、ロームブロックを含む。焼土粒、炭化物を含む。  
 2層 暗褐色土 ローム土、炭化物を少量含む。  
 3層 暗褐色土 ロームブロックを含む。



J-92 炉  
 1層 暗褐色土 黒色土、ローム土を少量含む。  
 2層 暗褐色土 ロームブロック、ローム土を含む。



J-92  
 1層 暗褐色土 黒色土ブロックを含む。  
 2層 暗褐色土 黒色土、ロームブロックを含む。



第43図 J-91 (2)・92

第3章 II区 検出された遺構

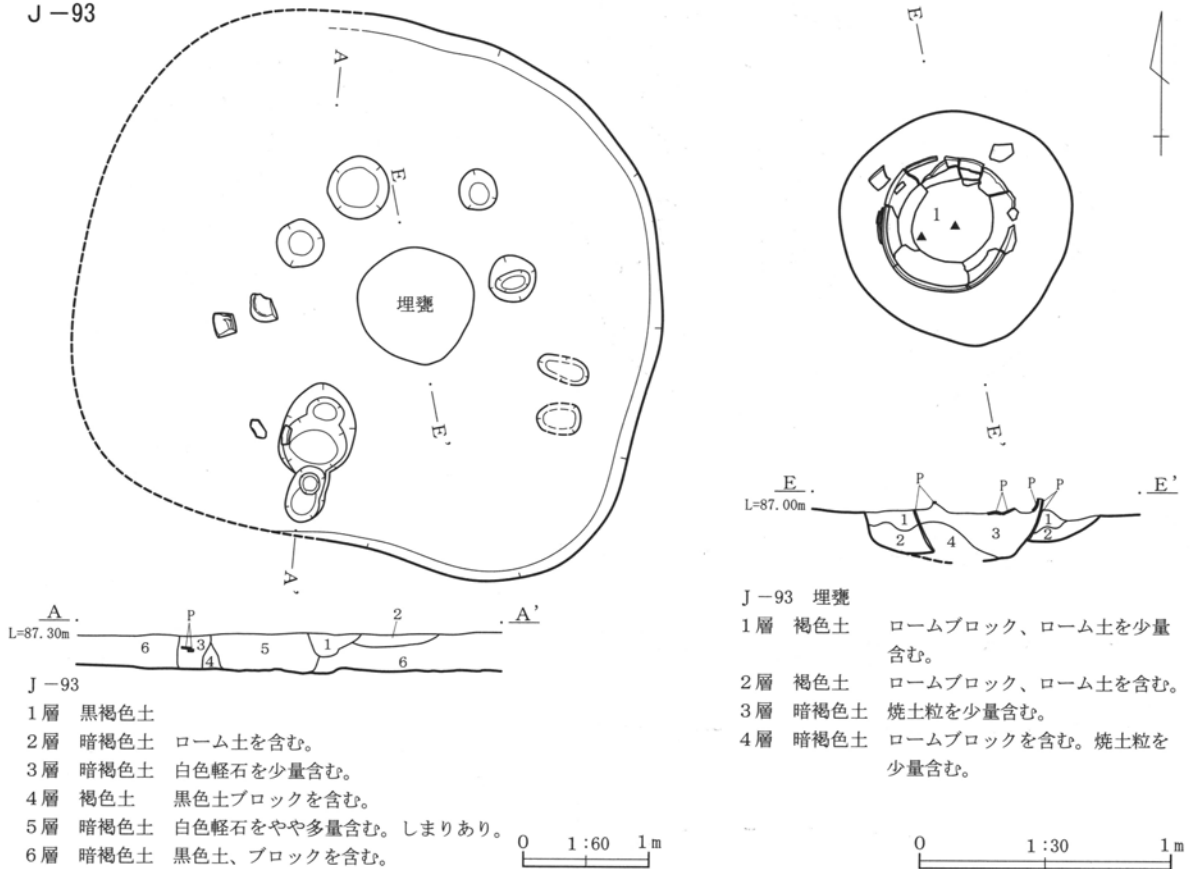
J-93 (第44・45図 P L13)

位置 X=916~921 Y=-977~982 重複 なし 形状 楕円形 規模 4.25m×4.2m×0.7m 柱穴 炉の周辺から5基の柱穴と思われるピットを検出した。南側の小土坑、ピットの重なりは、柱穴を付け替えた跡の可能性もある。柱穴の規模は、径0.3~0.4mで深さ0.4mほどであった。覆土 暗褐色土でローム土、白色軽石や淡色黒ボク土を含む。床面 ローム面まで掘り込んで、そのまま踏みかためるように床面にしている。炉 加曾利EⅢ式期の深鉢の上半を利用して埋甕炉としている。掘り方の径は約0.8mで深さは約0.2mほどである。遺物 加曾利E3・4式期の土器片を多量に検出した。スクレイパーや石錐、石鏃などの石器も出土した。所見 縄文中期後葉の住居と比定できる。

J-98 (第46・47図 P L14)

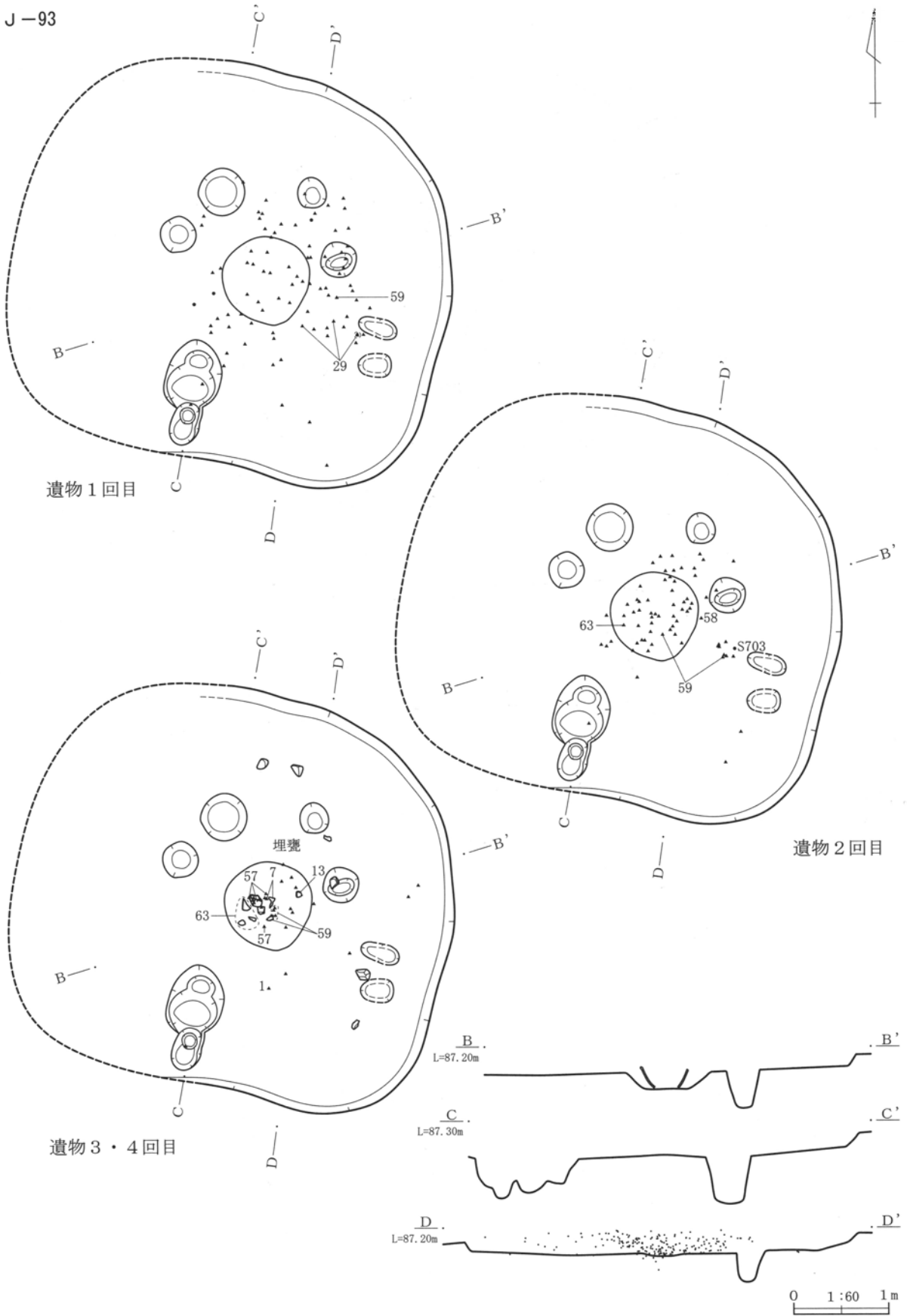
位置 X=929~934 Y=-979~985 重複 なし 形状 楕円形 規模 5.0m×4.22m×0.45m 柱穴 壁際から3基のピットを検出している。覆土や形状から柱穴と断定できないものもある。覆土 表土から浅く現代耕作により覆土ははっきりしない。床面 ローム漸移層まで掘り込んで、そのまま踏みかためるように床面にしているが不明瞭である。炉 住居のやや南東部よりの位置に埋甕炉として検出した。炉の掘り方は、やや広めで北西に長い同一の覆土で土層の切り合い関係がはっきりしないものの、作り変えられている可能性もある。遺物 加曾利E3・4式期の土器を多量に検出した。埋甕炉として利用されていたのは、加曾利E4式期の深鉢である。また、その南東部の埋甕も同時期の深鉢である。石鏃、磨石、多孔石などの石器も出土した。所見 縄文中期後葉の住居に比定できる。

J-93



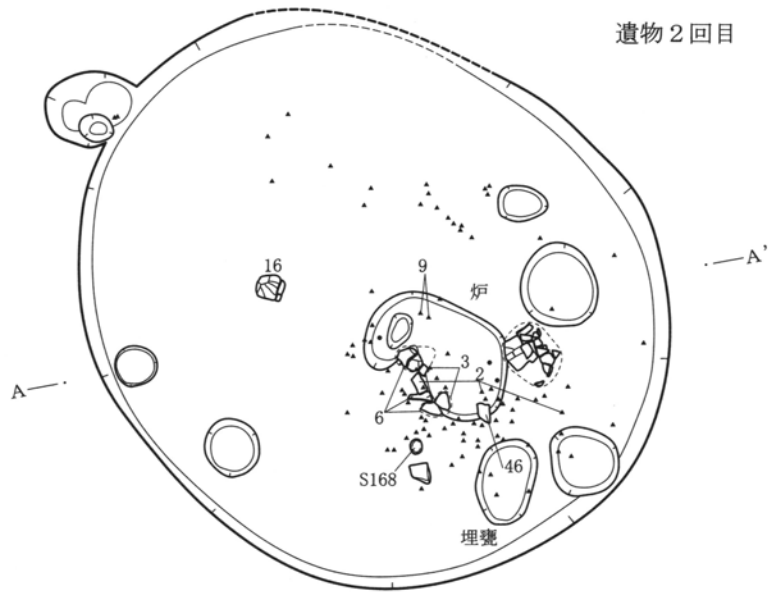
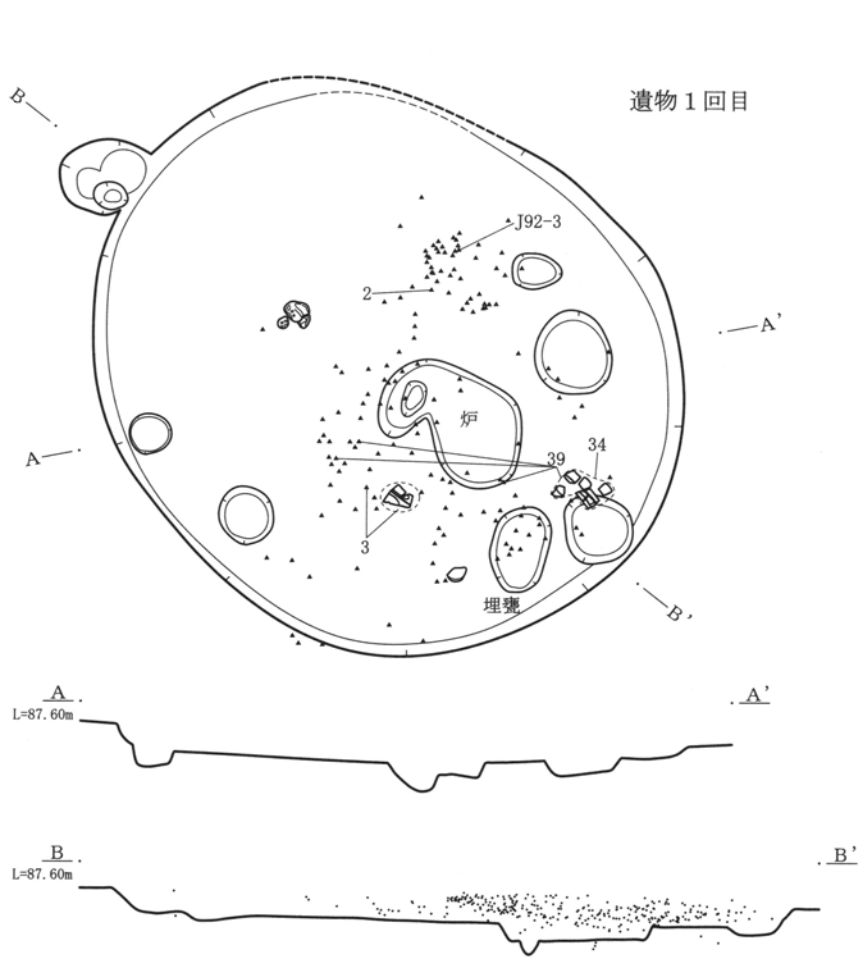
第44図 J-93 (1)

J-93



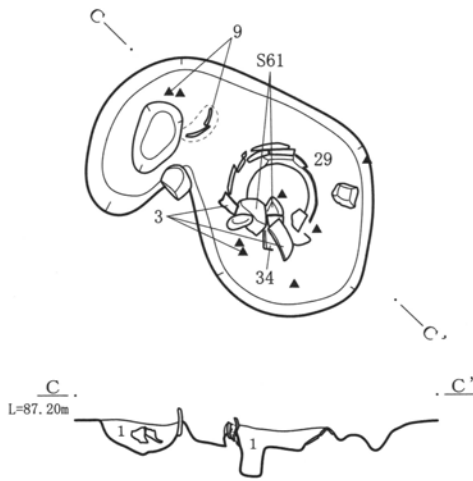
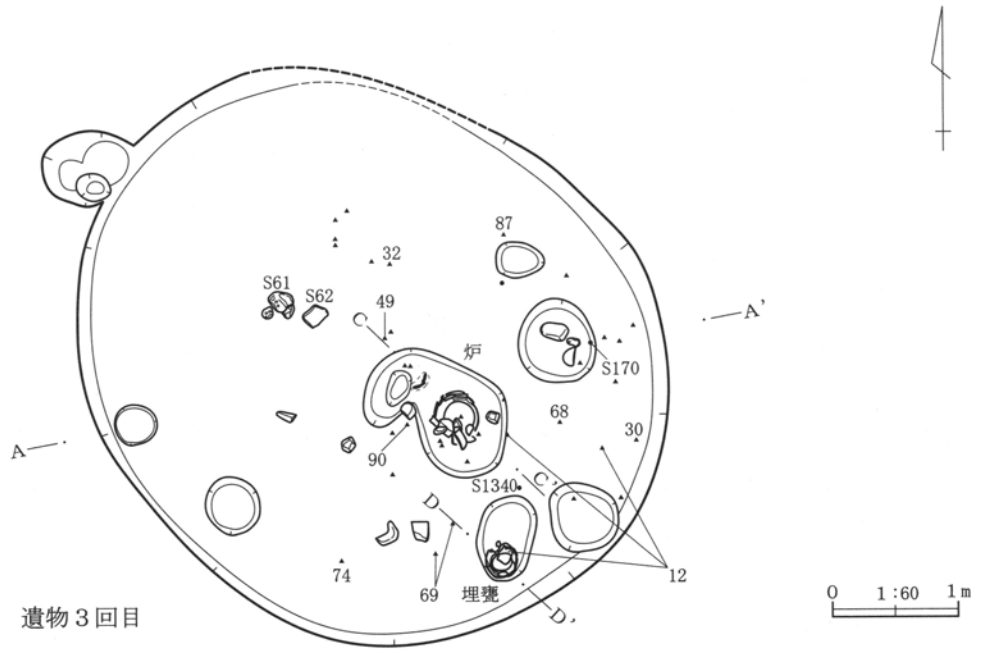
第45図 J-93 (2)

J-98

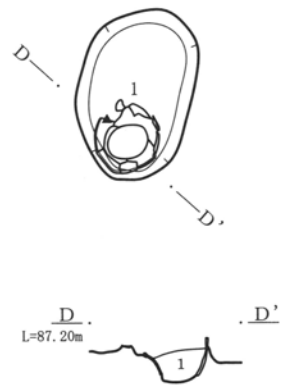


第46図 J-98 (1)

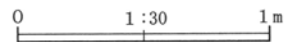
J-98



J-98 炉  
1層 暗褐色土 黒色土、ローム土を少量含む。



J-98 埋甕  
1層 暗褐色土 白色軽石を少量含む。



第47図 J-98 (2)

第4節 検出された土坑・その他の遺構

J-9 (遺物集中箇所・第48図 PL15)

位置 X=943~945 Y=-997~998 重複 なし 主軸 N-30°-W 形状 楕円形

規模 0.60m×0.28m×-m 遺物 加曾利E3~4式期の土器片や多孔石、礫を検出した。

所見 遺構としての掘り方ははっきりしないものの、遺物の出土範囲から形状・規模を記載した。

J-10 (遺物集中箇所・第48図 PL15)

位置 X=943 Y=-994~995 重複 なし 主軸 N-90° 形状 楕円形

規模 0.56m×0.24m×-m 遺物 加曾利E3~4式期の土器や多孔石などの石器や礫を検出した。

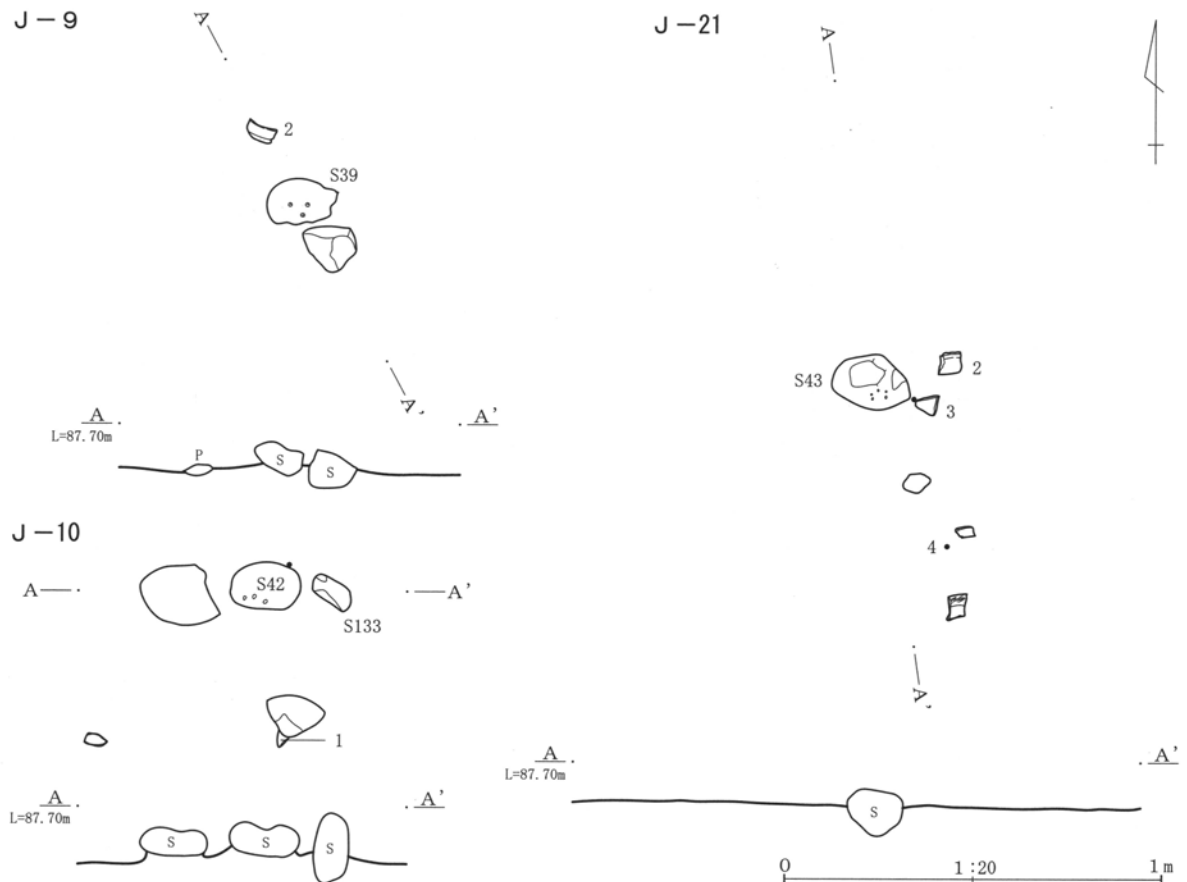
所見 遺構としての掘り方は、はっきりしないものの、遺物の出土範囲から形状・規模として記載した。石器の出土状況から、作業場としての機能が考えられる。

J-21 (遺物集中箇所・第48図 PL17)

位置 X=940~942 Y=-998~000 重複 J-17 主軸 N-10°-W 形状 楕円形

規模 1.40m×0.50m×-m 遺物 加曾利E3~4式期の土器片や多孔石を検出した。

所見 J-17の上から検出した。遺物集中箇所ではほぼ中程に多孔石を据えてある状態で検出した。掘り込みは、はっきりしない。全体のプランもはっきりしない。



第48図 J-9・10・21

J-1 (埋甕・第49図 PL15)

位置 X=934 Y=-996 重複 J-15 主軸 N-70°-E 形状 円形 規模 0.42m×0.35m×0.34m 遺物 埋甕土器は、加曽利E4式期の土器で下半を検出した。周りからも加曽利E式期の土器片を多量に検出した。また、磨石、多孔石、凹石、石錐、石鏃や打製石斧も出土している。

所見 縄文中期後葉の遺構である。埋甕の周りからはいくつかの礫を検出した。そのうち2個については、甕を固定するように据え付けられている。もともと石組みの埋甕になっていた可能性もある。また、J-15の埋甕と併設されたものと考えてほぼ間違いはない。連結の炉ないし貯蔵用等の埋設土器で住居内施設の一部とも考えられる。

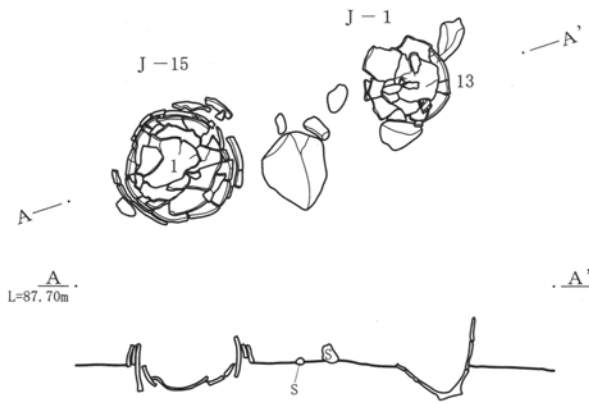
J-15 (埋甕・第49図 PL16)

位置 X=934 Y=-996 重複 J-1 主軸 N-70°-E 形状 円形 規模 0.53m×0.45m×0.32m 遺物 加曽利E4式期の深鉢の口縁から胴部を埋甕として利用している。その他にも同時期の土器片を検出した。所見 縄文中期後葉の遺構である。深鉢の胴部を利用して埋甕にしている。掘り方と埋甕との間には、同時期の深鉢の胴部片が二重三重に差し込まれている部分もあった。口縁部は、埋甕の底に重ねるように敷いている。J-1の埋甕と併設すると考えられ、住居内施設で炉の可能性もあり得る。

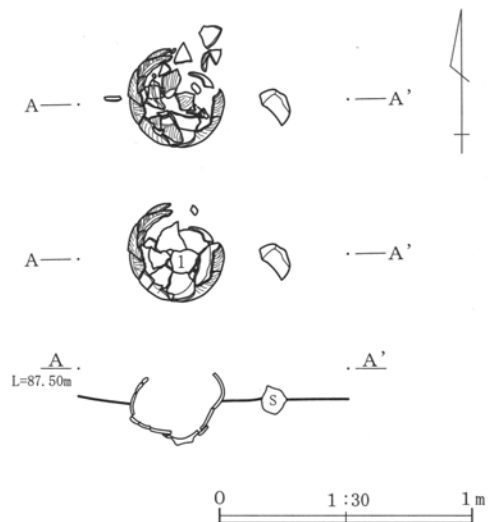
J-3 (埋甕・第49図 PL15)

位置 X=938 Y=-991 重複 J-43 主軸 N-90° 形状 円形 規模 0.4m×0.36m×0.29m 遺物 加曽利E4式期の両耳壺、礫、石鏃や剥片数点を検出した。所見 縄文中期後葉の埋設土器であり、すぐ東側にある石も併設されていた礫の一部の可能性もある。土器内の埋土から焼土などは検出されていない。住居内の炉、貯蔵用の埋甕ないし胎衣壺などの可能性もある。J-43との新旧関係は、不明である。

J-1・15



J-3



第49図 J-1・3・15

第3章 II区 検出された遺構

J-4 (土坑・第50図 P L15)

位置 X=947~948 Y=-988~989 重複 なし 主軸 N-0° 形状 不整円形

規模 0.25m×0.15m×0.08m 遺物 阿玉台式期から加曾利E2式期までの土器片を多量に検出した。石鏃も1点出土した。 所見 土器片の集中箇所であったが、住居や土坑としての掘り込みは不明であった。縄文中期前葉から中葉にかけての遺構と考えられる。集中箇所の土器片が口縁部で直立していることから加曾利E1式期の埋甕との推測もできる。また土器片の時期にも差があることから、窪地に設けられた土器捨て場のような場所であった可能性もある。

J-6 (土坑・第50図 P L15)

位置 X=939 Y=-006 重複 なし 主軸 N-0° 形状 円形 規模 0.46m×0.40m×0.22m 遺物 加曾利E4式期の深鉢の上半とEⅢ~Ⅳ式期の土器片を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の埋甕土器と考えられる。下半がないことと覆土に焼土を含んでいたことから炉として使われていた可能性も考えられる。

J-11 (遺物集中箇所・第51図 P L16)

位置 X=944~945 Y=-001~002 重複 なし 主軸 N-130°-E 形状 楕円形

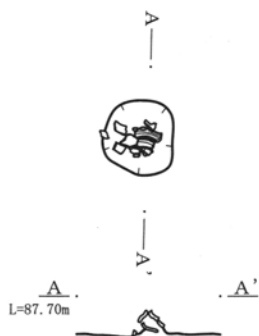
規模 0.42m×0.34m×-m 遺物 加曾利E4式期の深鉢を横置きで上からつぶされたような状態で検出した。口縁を欠損しているものの頸部から底部まで存在した。その他に同時期の土器片などを少量検出した。 所見 遺構としての掘り方はみられない。深鉢の出土状況と合わせて考えると、埋甕土器の可能性は低いように思える。住居内か竪穴状遺構に置かれていたものが倒れて埋土により割れたか、口縁部を欠損して破棄された可能性が考えられる。

J-12 (土坑・第51図 P L16)

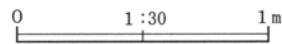
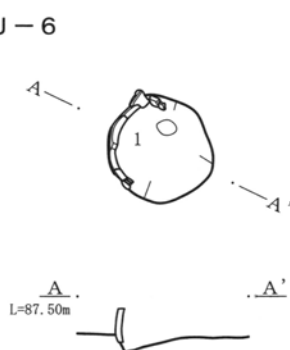
位置 X=944~946 Y=-000~001 重複 なし 主軸 N-50°-E 形状 楕円形

規模 0.75m×0.40m×-m 遺物 加曾利E4式期の双耳になる橋状把手のつく深鉢のほぼ完形品を横位の状態で検出した。北東部からは大きな川原石も見つかっている。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。川原石は、焼けた跡などははっきりしないが、据え付けられたように置かれていることから住居ないし、祭祀施設などに持ち込まれた礫とも考えられる。甕周辺の掘り方は、確認が困難で遺構範囲も不明瞭である。

J-4

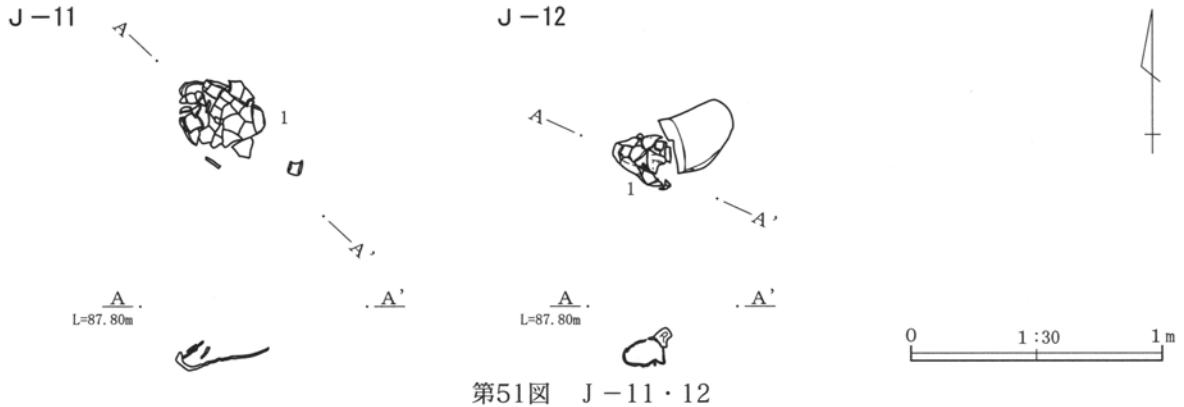


J-6



第50図 J-4・6





第51図 J-11・12

J-13 (埋甕・第52図 PL16)

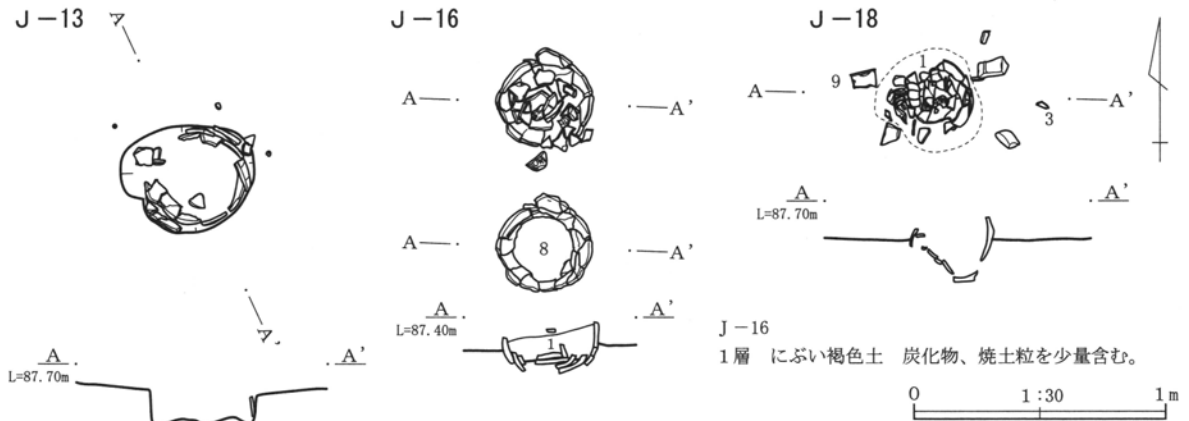
位置 X=946~948 Y=-996~998 重複 なし 主軸 N-70°-E 形状 不整楕円形  
 規模 0.53m×0.42m×0.14m 遺物 加曾利E3式期の深鉢の上半を埋設された状態で検出した。土器埋土中より勝坂式期から加曾利E4式期までの土器小片を数点検出した。黒曜石の石器、剥片も出土した。  
 所見 掘り方はローム漸移層まで掘り、上半の深鉢を据え付けている。縄文中期後葉の遺構に比定できる。

J-16 (埋甕・第52図 PL16)

位置 X=927~928 Y=-989~990 重複 なし 主軸 N-5°-E 形状 円形  
 規模 0.39m×0.39m×0.20m 遺物 加曾利E3式期の深鉢の上半を埋設してある状態で検出した。周辺から同時期の土器片を多量に検出した。石鏃や不定形石器なども出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。埋甕の覆土は、にぶい褐色土で炭化物と焼土粒を含む。炉として使われた可能性もある。

J-18 (埋甕・第52図 PL16)

位置 X=943 Y=-995~996 重複 なし 主軸 N-40°-W 形状 不整円形  
 規模 0.4m×0.4m×0.25m 遺物 埋設されていたのは、加曾利E4式期の橋状把手を対にもつ両耳壺で周りには加曾利E式期の土器片も出土した。 所見 埋甕の周りの土器形式及び出土レベルはJ-8・9・10とほぼ同じことから住居や祭祀に関わる同一遺構である可能性も考えられる。



第52図 J-13・16・18

第3章 II区 検出された遺構

J-19 (土坑・第53図 PL16)

位置 X=937~940 Y=-991~995 重複 なし 主軸 N-47°-W 形状 長方形

規模 2.32m×1.66m×0.25m 遺物 埋甕は、加曾利E4式期の深鉢の胴部である。その他にも同時期の土器片を検出した。石器も数点出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。埋設土器は、加曾利E4式期の土器の胴部を平らに打ち欠き据えられたものである。底部がなく埋土から焼土粒や炭化物を検出していることから炉の可能性が高い。すぐ南東部の土器も加曾利E4式期の土器である。覆土も先と同様であることからもともと併設して据えられていたものとも考えられるが、埋設土器のレベルよりやや高い。そのため炉際に貯蔵用などとしておかれていた深鉢が倒れてつぶれたものとも考えられる。

J-22 (埋甕・第53図 PL17)

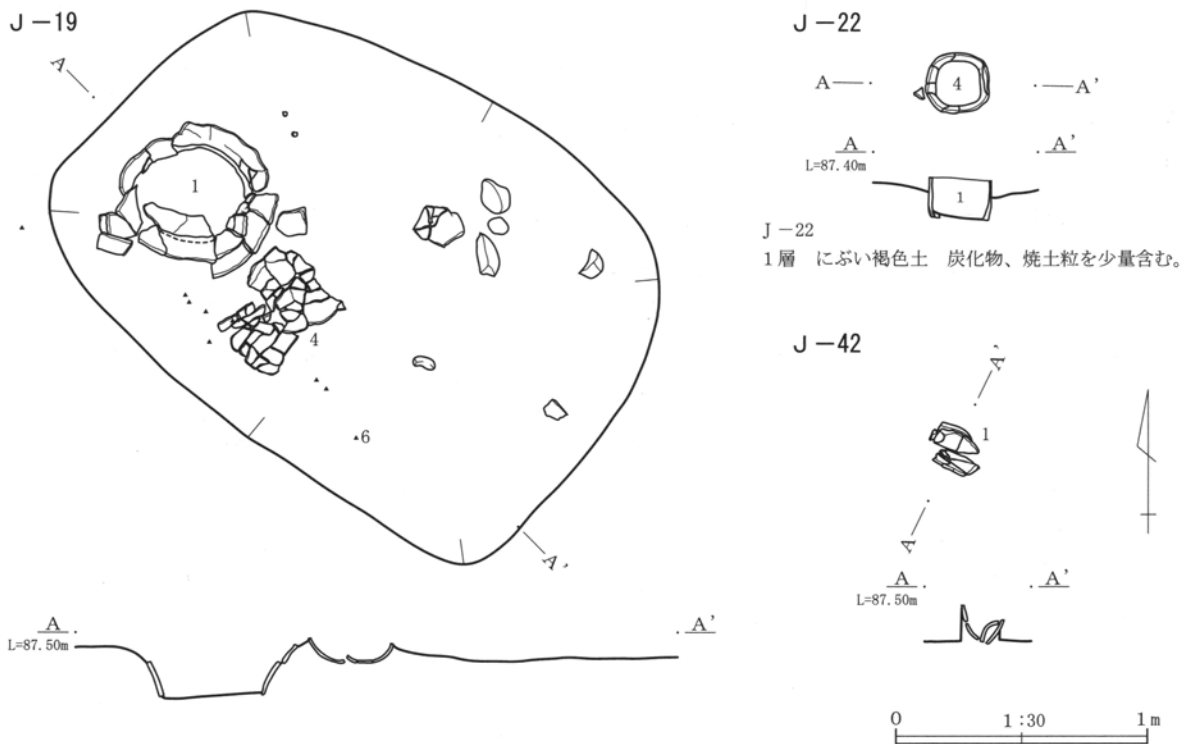
位置 X=927~929 Y=-990~991 重複 なし 主軸 N-0° 形状 円形

規模 0.25m×0.24m×0.17m 遺物 加曾利E3式期の深鉢の胴部を平らに欠き埋設している。周りからE3~4式期の土器片や石器も少量出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。埋設土器の埋土から焼土粒、炭化物を検出したことから炉の可能性もある。J-16の埋甕との関連も考えられるが不明である。

J-42 (埋甕・第53図 PL17)

位置 X=936~937 Y=-984~985 重複 なし 主軸 N-40°-W 形状 円形

規模 0.26m×0.18m×0.16m 遺物 加曾利E3式期の土器片を検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。掘り込みは、確認できなかった。



第53図 J-19・22・42

J-64 (埋甕・第54図 PL18)

位置 X=938~939 Y=-992~993 重複 なし 主軸 N-0° 形状 不整形

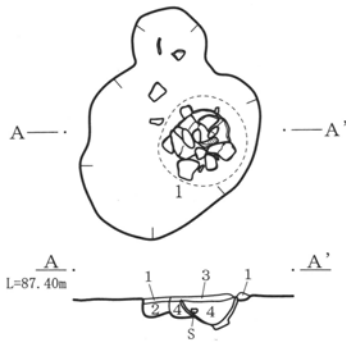
規模 1.82m×1.30m×0.28m 遺物 加曽利E3式期の深鉢の下半と磨石1点を検出した。埋甕の覆土からは特に遺物の検出はみられなかった。

J-94 (埋甕・第54図 PL20)

位置 X=918~920 Y=-985~987 重複 なし 主軸 N-60°-W 形状 円形

規模 0.90m×0.84m×0.19m 遺物 加曽利E3式期の深鉢の上半を利用して埋設している。

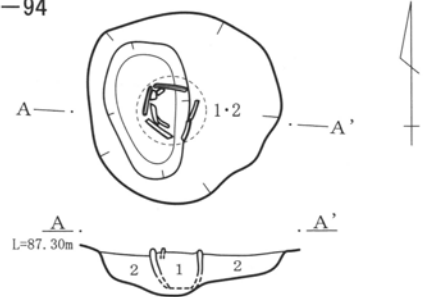
J-64



J-64

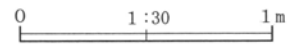
- 1層 暗褐色土 炭化物を少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム土を含む。
- 3層 暗褐色土 黒褐色土をやや多量、炭化物を含む。
- 4層 暗褐色土 黒褐色土を多量含む。

J-94



J-94

- 1層 暗褐色土 黒色土を少量含む。
- 2層 暗褐色土 黒色土、ロームブロック、ローム土を少量含む。



第54図 J-64・94

J-7 (土坑・第55図 PL15)

位置 X=942~944 Y=-005~007 重複 なし 主軸 N-35°-E 形状 楕円形

規模 1.83m×1.71m×0.45m 遺物 勝坂式期から加曽利E4式期までの土器を多量に検出した。

所見 土器片が多量に出土することや各レベルからある程度均等に出土することから、縄文時代中期後葉の土器捨て用の土坑の可能性も考えられる。上層には、少量の炭化物が含まれていた。

J-8 (遺物集中箇所・第55図 PL15)

位置 X=941~944 Y=-996~998 重複 なし 主軸 N-30°-W 形状 楕円形

規模 2.20m×1.70m×-m 遺物 勝坂、阿玉台式期から加曽利E4式期までの土器片を多く検出した。中心は、加曽利E3・4式期のものである。磨石、凹石、スクレイパーなど石器も出土した。所見土器片や礫を集中して検出した。掘り方は、確認できなかったが、遺物の範囲を形状・規模として記載した。J-9・10の礫と出土レベルがほぼ同位で土器片も加曽利E3・4式期であることから同一住居の一部とも考えられる。J-18の埋甕も加曽利E4式期のものであるため同一遺構の一部の可能性もある。

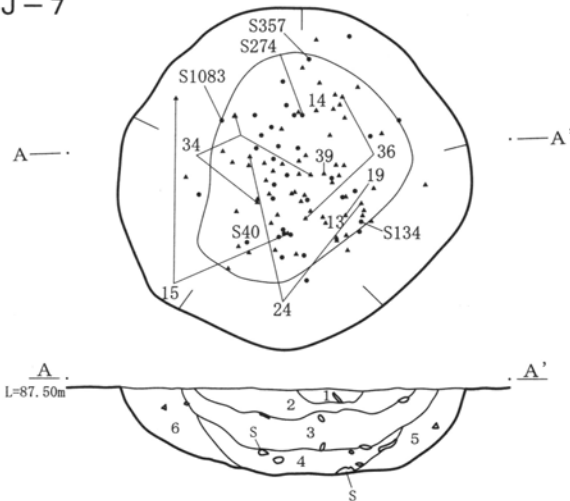
J-14 (土坑・第56図)

位置 X=949~951 Y=-998~000 重複 なし 主軸 N-15°-E 形状 楕円形

規模 0.98m×0.90m×0.20m 遺物 加曽利E3~4式期の土器片を多量に検出した。石器剥片も数点出土した。所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

第3章 II区 検出された遺構

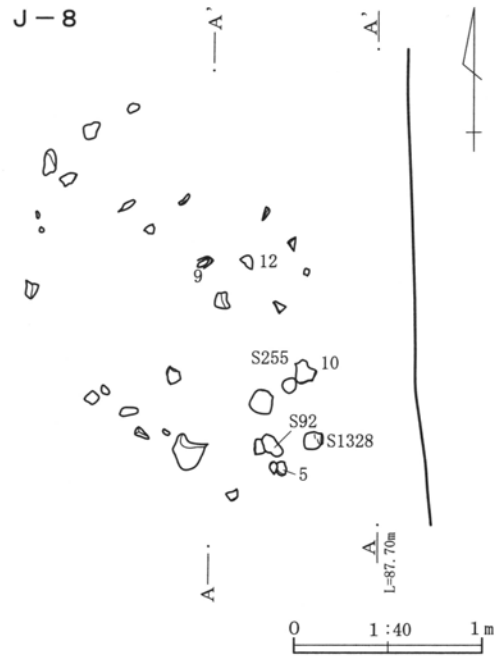
J-7



J-7

- |         |              |         |
|---------|--------------|---------|
| 1層 褐色土  | 橙色焼土、炭化物を含む。 | 4層 黒褐色土 |
| 2層 褐色土  | 炭化物を少量含む。    | 5層 黒褐色土 |
| 3層 黒褐色土 |              | 6層 暗褐色土 |
- にぶい黄橙ロームブ  
ロックを少量含む。

J-8



第55図 J-7・8

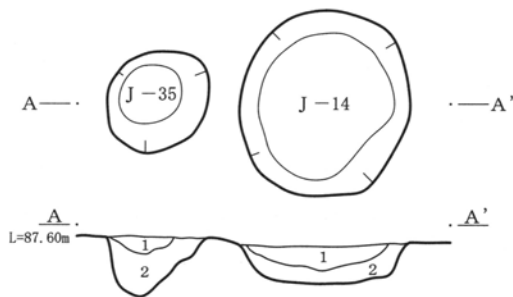
J-35 (土坑・第56図)

位置 X=949~951 Y=-997~999 重複 なし 主軸 N-50°-E 形状 楕円形  
 規模 0.61m×0.48m×0.31m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。石錐も1点出土した。  
 所見 縄文中期の遺構と比定できる。

J-17 (土坑・第56図 PL16)

位置 X=940~943 Y=-997~001 重複 J-21 主軸 N-50°-W 形状 楕円形  
 規模 2.31m×2.04m×0.62m 遺物 勝坂式期から加曾利E式期までの土器片を多量に検出した。石器も数点出土した。  
 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。土坑壁は垂直でローム面まで掘り抜いている。

J-14・35



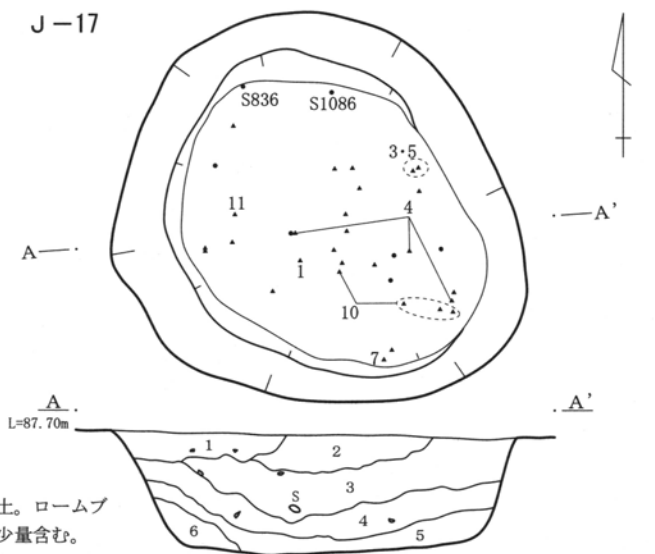
J-14・35

- |            |        |
|------------|--------|
| 1層 褐灰色土    |        |
| 2層 にぶい黄橙色土 | ローム焼土。 |

J-17

- |         |        |         |            |
|---------|--------|---------|------------|
| 1層 褐色土  | ローム焼土。 | 5層 黒褐色土 | ローム焼土。ロームブ |
| 2層 暗褐色土 | ローム焼土。 |         | ロックを少量含む。  |
| 3層 黒褐色土 | ローム焼土。 | 6層 褐色土  | 壁際崩落土。     |
| 4層 黒褐色土 | ローム焼土。 |         |            |

J-17

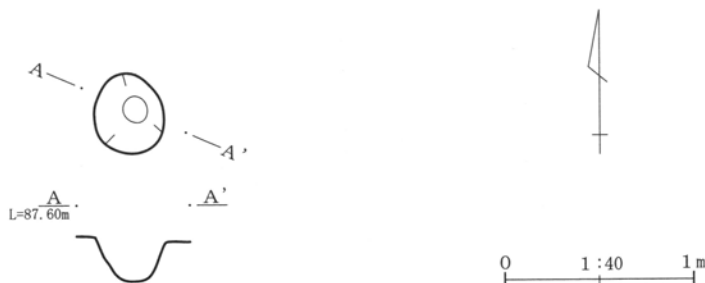


第56図 J-14・17・35

J-20 (土坑・第57図)

位置 X=941~942 Y=-995 重複 なし 主軸 N-20°-W 形状 楕円形  
 規模 0.42m×0.35m×0.21m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。 所見 形状・規模から縄文土器中期後葉の柱穴の可能性が高いが不明である。

J-20



第57図 J-20

J-23 (土坑・第58図 PL17)

位置 X=926~928 Y=-988~990 重複 J-56・62 主軸 N-60°-E 形状 不整形  
 規模 0.68m×0.46m×0.18m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。 所見 J-56・62より新しい縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-25 (土坑・第58図 PL17)

位置 X=926~927 Y=-989~991 重複 J-56 主軸 N-90° 形状 楕円形  
 規模 0.66m×0.56m×0.22m 遺物 加曽利E 3~4式期の土器片を検出した。石鏃も1点出土した。  
 所見 J-56の土坑よりも新しい縄文中期後葉の遺構である。

J-56 (土坑・第58図 PL17)

位置 X=925~927 Y=-988~991 重複 J-23・25・62 主軸 N-60°-E  
 形状 円形 規模 1.35m×1.35m×0.80m 遺物 加曽利E 3~4式期の深鉢片、器台片などを検出した。石器も2点出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。ローム面までしっかり掘り抜き、深さもある。壁も地平面にほぼ垂直でしっかりしている。覆土の層位もはっきりしていて人為的に埋め戻している。堅果類の出土はないものの、中心部の掘り込みは、円筒形になり貯蔵穴と考えられる。J-62よりも新しい。

J-62 (土坑・第58図 PL17)

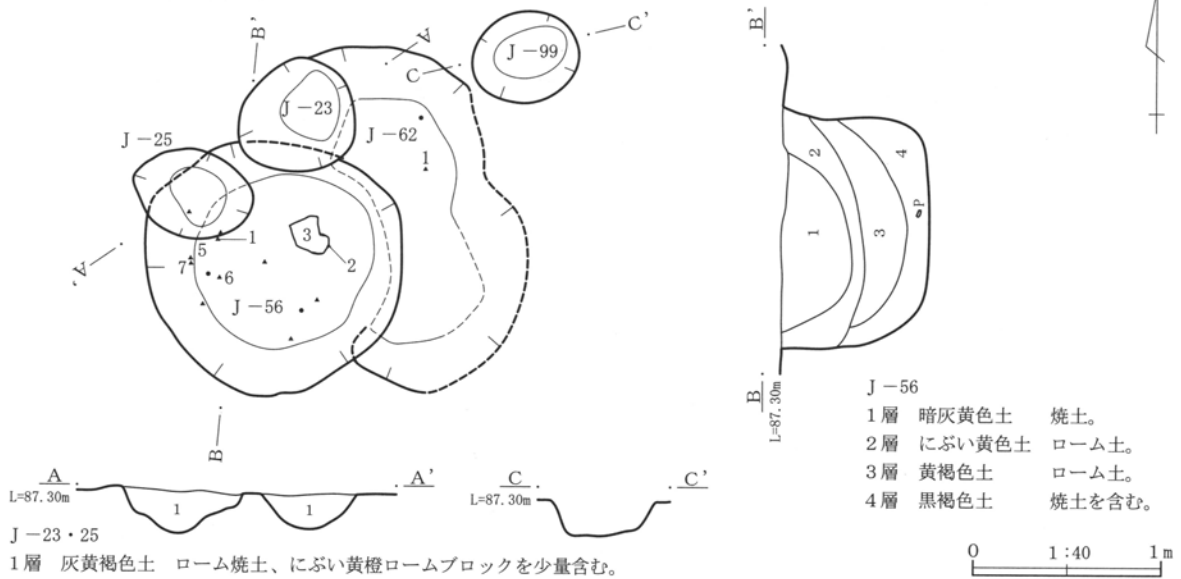
位置 X=925~928 Y=-988~990 重複 J-23・56 主軸 N-24°-W 形状 不整形  
 円形 規模 1.90m×0.50m×0.38m

J-99 (土坑・第58図)

位置 X=926~928 Y=-987~989 重複 なし 主軸 N-90° 形状 楕円形  
 規模 0.55m×0.48m×0.21m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。

第3章 II区 検出された遺構

J-23・25・56・62・99



第58図 J-23・25・56・62・99

J-24 (土坑・第59図)

位置 X=930~932 Y=-992~994 重複 なし 主軸 N-40°-W 形状 不整楕円形  
規模 1.45m×1.10m×0.23m 遺物 加曽利E式期の土器片を検出した。石器も少量出土した。  
所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-26 (土坑・第59図)

位置 X=931~932 Y=-990~992 重複 J-48 主軸 N-30°-W 形状 楕円形  
規模 0.75m×0.54m×0.27m 遺物 加曽利E3~4式期の土器片及び石鏃、石錐などの石器も数点出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。J-48との新旧関係は不明である。

J-27 (土坑・第59図)

位置 X=930~931 Y=-990~932 重複 なし 主軸 N-64°-W 形状 楕円形  
規模 0.84m×0.35m×0.22m 遺物 加曽利E3~4式期の土器片を少量検出した。石棒も1点出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-28 (土坑・第59図)

位置 X=930~931 Y=-991~993 重複 なし 主軸 N-20°-E 形状 楕円形  
規模 0.85m×0.70m×0.32m 遺物 加曽利E3式期の土器片を少量検出した。 所見 J-29と隣接する。切り合い関係はみられず、覆土もほぼ同様に、縄文中期後葉の土坑と比定できる。

J-29 (土坑・第59図)

位置 X=930~931 Y=-991~992 重複 なし 主軸 N-15°-W 形状 楕円形  
規模 0.70m×0.40m×-m 遺物 加曽利E3~4式期の土器片を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

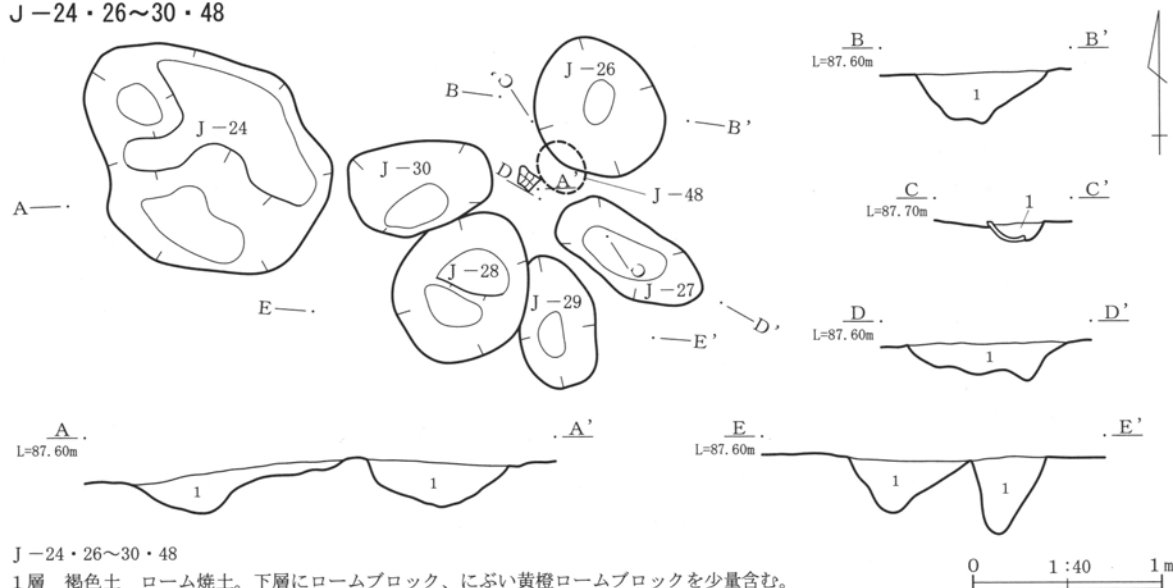
J-30 (土坑・第59図)

位置 X=930~932 Y=-991~993 重複 なし 主軸 N-90° 形状 楕円形  
 規模 0.75m×0.48m×0.22m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-48 (埋甕・第59図)

位置 X=930~932 Y=-991~992 重複 J-26 形状 円形 規模 0.28m×0.28m×-m  
 遺物 加曾利E4式期の深鉢の口縁部片を検出した。 所見 土器片の残りが悪く、片側口縁のみであるため埋甕と断定することはできない。浅い小土坑の底に土器片が入り込んで埋設した可能性もある。

J-24・26~30・48



J-24・26~30・48

1層 褐色土 ローム焼土。下層にロームブロック、にぶい黄橙ロームブロックを少量含む。

第59図 J-24・26~30・48

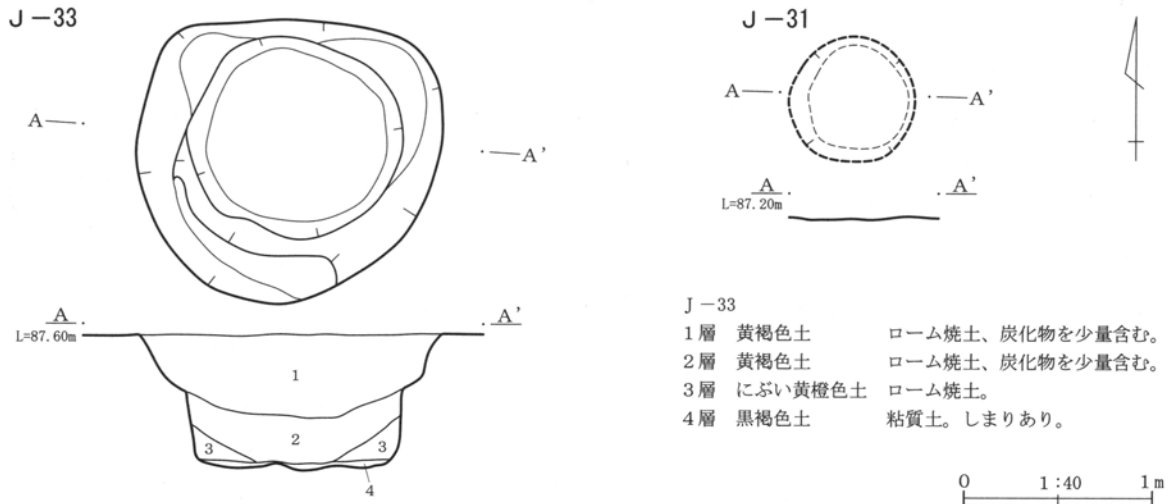
J-31 (土坑・第60図)

位置 X=931~933 Y=-992~994 重複 J-5 主軸 N-90° 形状 円形  
 規模 0.70m×0.66m×-m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量、同時期の信州系の帯縄文の土器片も含む。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-33 (土坑・第60図 PL17)

位置 X=946~948 Y=-984~987 重複 なし 主軸 N-35°-E 形状 不整円形  
 規模 1.68m×1.60m×0.71m 遺物 加曾利E3~4式期の土器片を検出した。石器の剥片も少量出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。ローム土層まで深く掘り抜いている。土坑下半は円形で、壁面をほぼ垂直に掘っている。底面は踏みかためられたような黒褐色土が平らに貼り付けられた様になっていた。遺物は出土していないが、形状と大きさから貯蔵穴ないし墓坑の可能性が考えられる。そして土坑上半は断面がレンズ状に広がっていることから、後にもう一度掘り直され、土坑として再利用された可能性もある。

第3章 II区 検出された遺構



第60図 J-31・33

J-34 (土坑・第61図)

位置 X=950~952 Y=-995~997 重複 なし 主軸 N-23°-E 形状 不整形円形  
 規模 1.30m×1.03m×0.23m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-36 (土坑・第61図)

位置 X=949~951 Y=-994~996 重複 J-37 主軸 N-65°-E 形状 不整形円形  
 規模 1.34m×1.08m×0.16m 遺物 加曾利E式期の土器片を多数検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。重複遺構との新旧関係は、J-37の方が新しい。

J-37 (土坑・第61図)

位置 X=950 Y=-995 重複 J-36 主軸 N-0° 形状 楕円形 規模 0.38m×0.27m×0.44m  
 遺物 加曾利E式期の土器片、土製円盤を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。J-36が埋没してから掘削された遺構である。

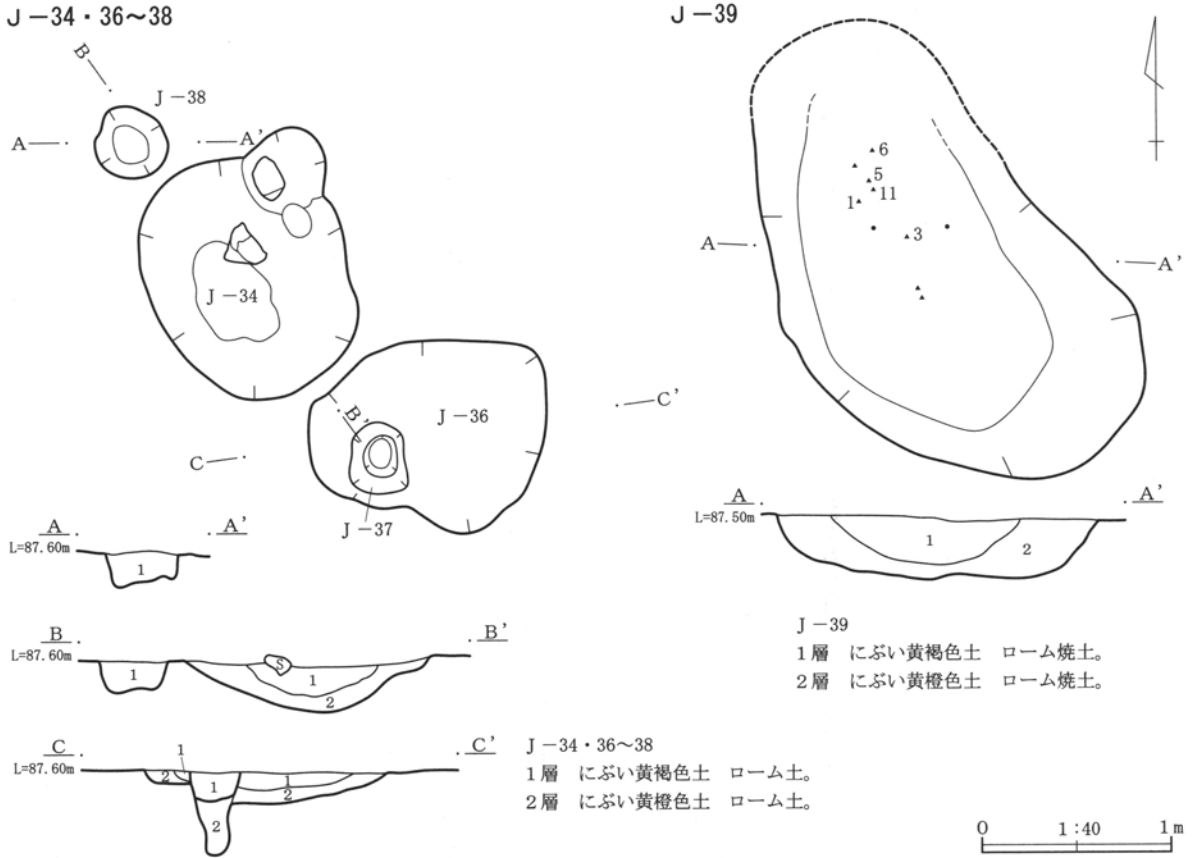
J-38 (土坑・第61図)

位置 X=951~952 Y=-996~997 重複 なし 主軸 N-90° 形状 円形  
 規模 0.36m×0.36m×0.18m 遺物 縄文土器片、土製円盤を少量検出した。

J-39 (土坑・第61図 PL17)

位置 X=949~951 Y=-987~990 重複 なし 主軸 N-70°-W 形状 不整形円形  
 規模 2.06m×1.30m×0.33m 遺物 双耳の環状把手をもつ加曾利E4式期の深鉢のほぼ完形品をはじめ、阿玉台式期から加曾利E4式期までの土器片を検出した。打製石斧1点等の石器も数点出土した。  
 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。また、形状や大きさ、遺物などから墓坑の可能性も考えられる。





第61図 J-34・36~39

J-40 (土坑・第62図 P L17)

位置 X=933~935 Y=-982~984 重複 なし 主軸 N-7°-W 形状 楕円形

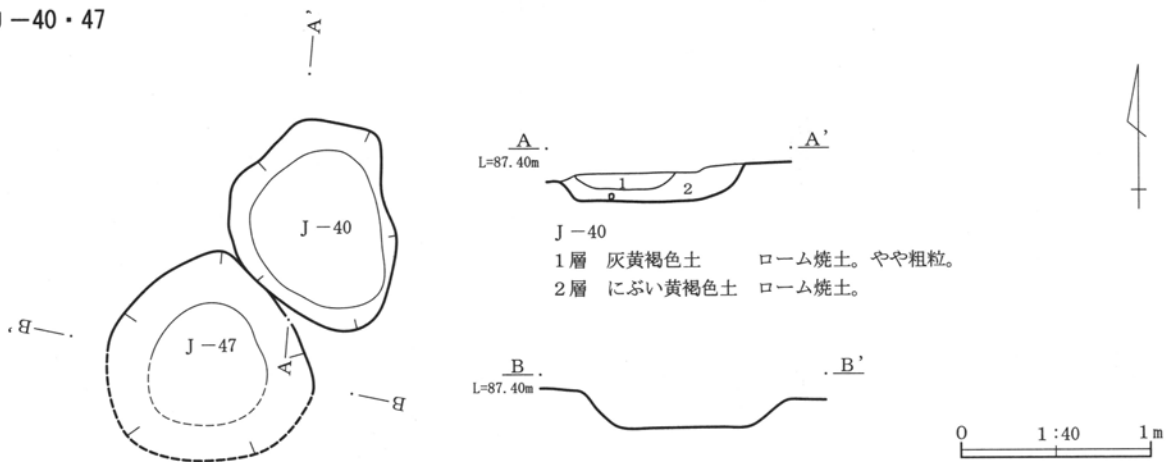
規模 1.12m×0.81m×0.18m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。

J-47 (土坑・第62図 P L17)

位置 X=933~935 Y=-982~984 重複 なし 主軸 N-80°-W 形状 不整円形

規模 1.12m×1.12m×0.3m 遺物 加曾利E式期の小土器片を少量検出した。スクレイパー1点の出土もあった。

J-40・47



第62図 J-40・47

第3章 II区 検出された遺構

J-41 (土坑・第63図)

位置 X=939~941 Y=-982~984 重複 なし 主軸 N-51°-E 形状 楕円形  
 規模 1.60m×0.87m×0.51m 遺物 縄文土器の小片を少量検出した。

J-43 (土坑・第63図 PL17)

位置 X=938~940 Y=-989~992 重複 J-3 主軸 N-50°-E 形状 楕円形  
 規模 1.44m×1.06m×0.32m 遺物 加曽利E3~4式期の土器片を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。J-3との新旧関係は、はっきりしない。

J-45 (土坑・第64図)

位置 X=930~934 Y=-995~997 重複 なし 主軸 N-2°-E 形状 不整楕円形  
 規模 2.46m×1.42m×0.32m 遺物 勝坂、阿玉台式期から加曽利E3式期までの土器を多量に検出した。打製石斧や石鏃など数点の石器も出土した。 所見 縄文中期後葉の土坑と比定できる。規模や周りに墓坑の可能性のある土坑がいくつかまとまることから墓坑の可能性もある。

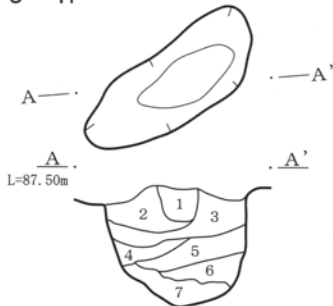
J-46 (土坑・第64図)

位置 X=930~932 Y=-002~004 重複 なし 主軸 N-0° 形状 不整形  
 規模 1.2m×1.18m×0.20m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。

J-50 (土坑・第64図 PL18)

位置 X=932~934 Y=-988~990 重複 なし 主軸 N-20°-W 形状 楕円形  
 規模 1.08m×0.91m×0.44m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。

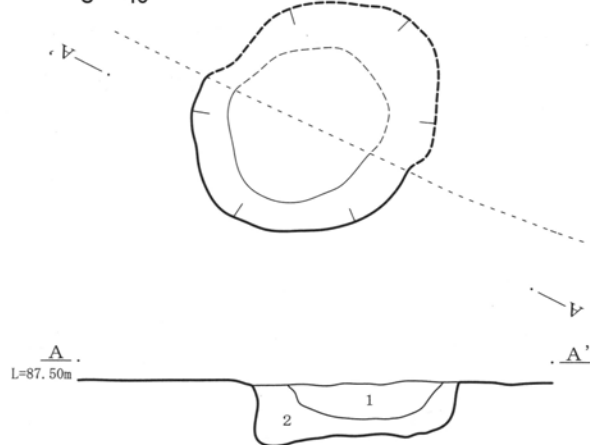
J-41



J-41

- 1層 黄橙色土 ロームブロック。
- 2層 褐灰色土 ローム焼土。
- 3層 褐灰色土 焼土。
- 4層 黄橙色土 ロームブロック。
- 5層 褐灰色土 焼土にロームブロックを含む。
- 6層 褐灰色土 焼土。
- 7層 褐灰色土 焼土に黒色粘焼土を含む。

J-43



J-43

- 1層 褐灰色土 漸移層土。
- 2層 にぶい黄橙色土 ローム焼土。

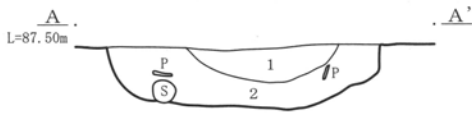
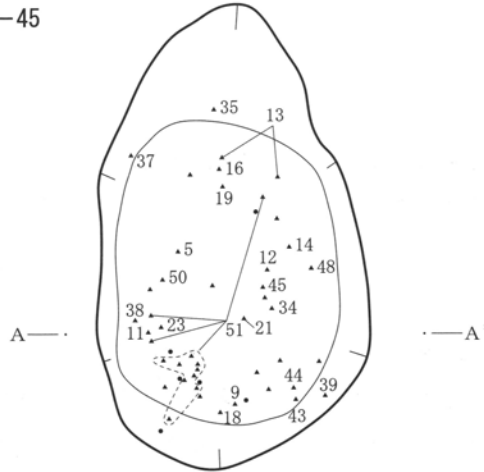
0 1:40 1m

第63図 J-41・43

J-52 (土坑・第64図)

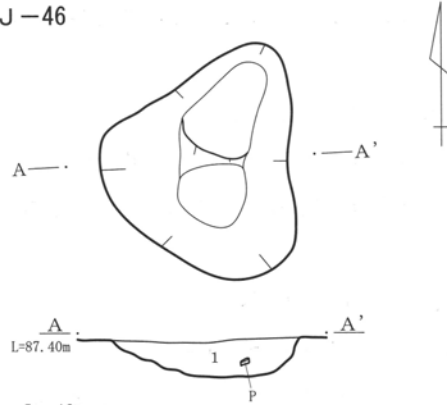
位置 X=922~924 Y=-994~995 重複 なし 主軸 N-O° 形状 不整円形  
 規模 0.66m×0.61m×0.14m 遺物 加曾利E3式期の土器片を少量検出した。 所見 覆土が隣りあうJ-51(住居)と同様であったことから同一の遺構の可能性もある。

J-45



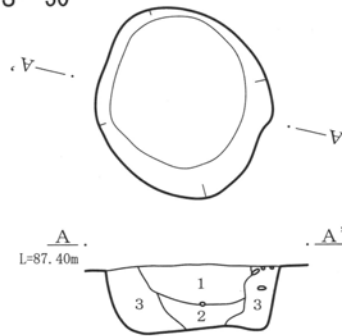
J-45  
 1層 褐灰色土 焼土。  
 2層 灰黄褐色土 ローム焼土。

J-46



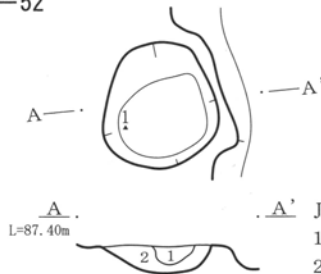
J-46  
 1層 暗灰黄色土 ローム焼土。

J-50



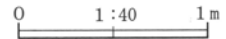
J-50  
 1層 褐灰色土 焼土。粘性あり。  
 2層 褐灰色土 下層にロームブロックを多量含む。  
 3層 褐灰色土 ロームブロックを少量含む。

J-52



J-52  
 1層 褐灰色土 焼土。  
 2層 灰黄褐色土 ローム焼土。

第64図 J-45・46・50・52



J-53 (土坑・第65図 P L18)

位置 X=924~927 Y=-993~995 重複 なし 主軸 N-14°-W 形状 不整円形  
 規模 2.11m×1.95m×0.88m 遺物 加曾利E4式期の深鉢の上半を2個体検出した。その他に加曾利E3・4式期の土器片を多量に、石器を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。土坑の掘り方をみると段状に3段になっている。覆土からは土坑の重複、新旧関係は、不明であった。遺物が中段の覆土に多かったことから考えて3つの土坑の重複と考えられる。最下段の土坑は貯蔵用の土坑で、中段の土坑は周りの住居の同時期の土器捨て場的な土坑、最上段は、遺物が少ないこともあり貯蔵用の土坑という可能性もある。

第3章 II区 検出された遺構

J-54 (土坑・第65図 PL18)

位置 X=926~929 Y=-995~997 重複 なし 主軸 N-80°-W 形状 円形

規模 1.68m×1.60m×0.76m 遺物 加曾利E式期の土器片を多量に検出した。中心は、加曾利E4式期のものである。また、石鏃、磨石や楔形石器を1点ずつ検出した。 所見 縄文中期後葉の加曾利E4式期の土坑と比定できる。底近くのレベルから深鉢の大きな土器片を出土したことや周りに墓坑の可能性のある土坑がいくつかまとまることから墓坑の可能性もある。

J-55 (土坑・第66図)

位置 X=931~932 Y=-997~998 重複 なし 主軸 N-0° 形状 円形

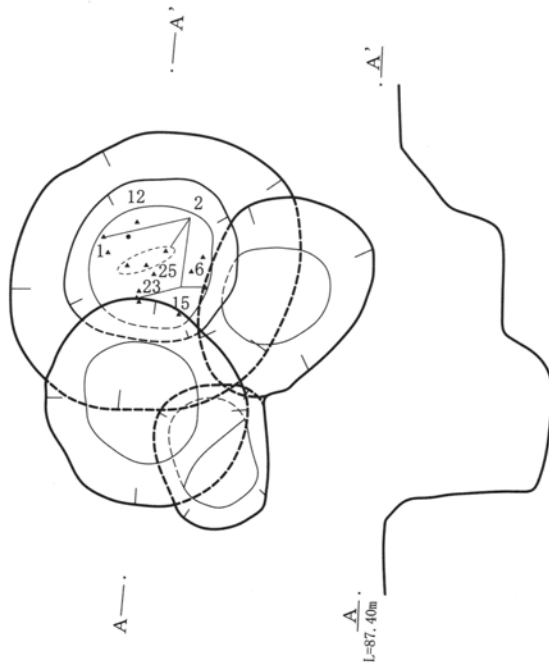
規模 0.65m×0.65m×0.14m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。

J-57 (土坑・第66図)

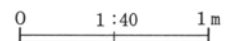
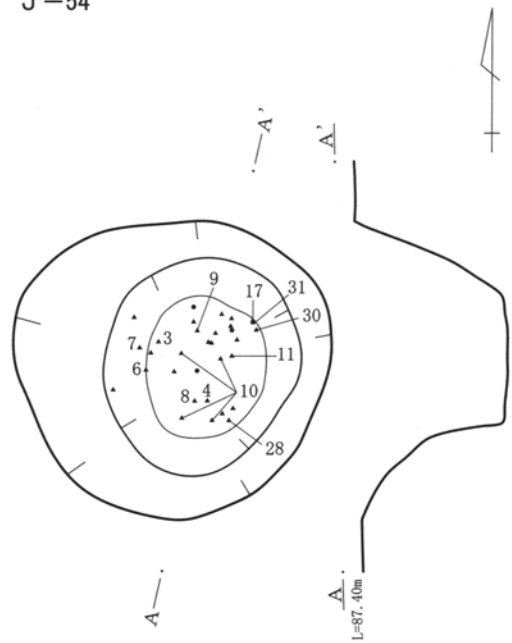
位置 X=923~925 Y=-997~999 重複 なし 主軸 N-25°-E 形状 楕円形

規模 1.20m×0.9m×-m 遺物 加曾利E式期の土器片を検出した。 所見 大きめの礫の周りから土器片をやや集中的に検出した。丁寧に遺構の範囲を確認すべく掘削していったものの、表土から浅く遺構の残りは非常に悪かった。そのため範囲を確定することもできなかった。また、炭化物や焼土粒などの出土もあまりみられなかった。石組や石囲いなどの礫の連なりもみられなかった。そのため遺構の性質などについてははっきりしない。

J-53



J-54



第65図 J-53・54

J-58 (土坑・第66図)

位置 X=927~929 Y=-996~998 重複 なし 主軸 N-20°-W 形状 不整円形  
 規模 0.92m×0.81m×0.21m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。

J-59 (土坑・第66図 PL18)

位置 X=928~930 Y=-989~991 重複 なし 主軸 N-26°-E 形状 不整形  
 規模 1.08m×1.05m×0.22m 遺物 加曽利E3・4式期の土器片を検出した。 所見 縄文中期後葉の土坑と比定できる。

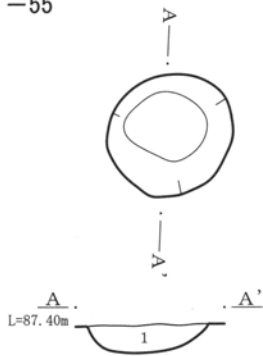
J-60 (土坑・第66図)

位置 X=928~929 Y=-987~988 重複 なし 主軸 N-10°-E 形状 円形  
 規模 0.65m×0.60m×0.23m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の土坑に比定できる。

J-61 (土坑・第66図 PL18)

位置 X=928~930 Y=-990~992 重複 なし 主軸 N-75°-W 形状 円形  
 規模 1.00m×0.93m×0.20m 遺物 加曽利E式期の土器片を検出した。 所見 縄文中期後葉の土坑に比定できる。

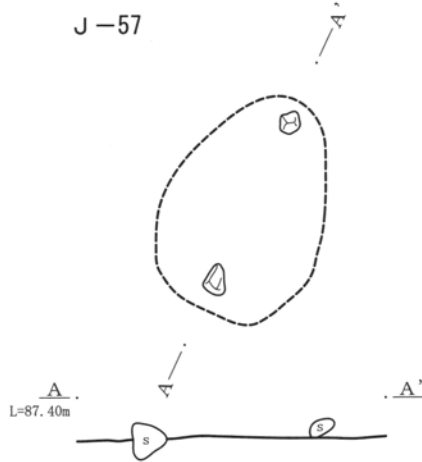
J-55



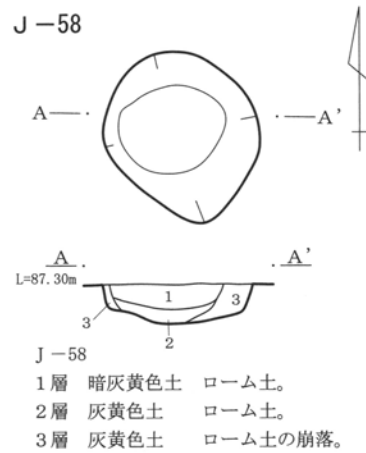
J-55

1層 灰黄褐色土 焼土。しまりあり。

J-57



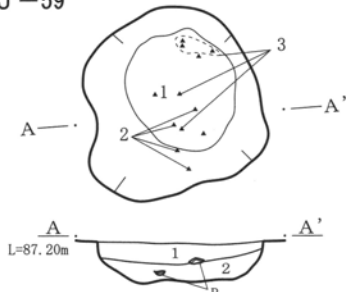
J-58



J-58

1層 暗灰黄色土 ローム土。  
 2層 灰黄色土 ローム土。  
 3層 灰黄色土 ローム土の崩落。

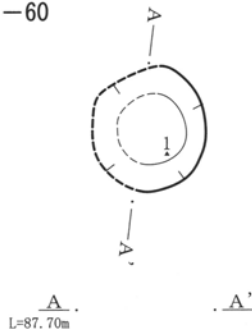
J-59



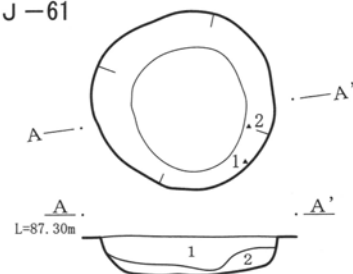
J-59

1層 黄褐色土 ローム土。  
 2層 灰黄色土 ローム土。

J-60



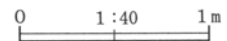
J-61



J-61

1層 褐灰色土 ローム質焼土。  
 2層 にぶい黄橙色土 ローム土。

第66図 J-55・57~61



第3章 II区 検出された遺構

J-63 (土坑・第67図)

位置 X=926~927 Y=-992~993 重複 なし 主軸 N-90° 形状 円形

規模 0.38m×0.34m×0.08m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。

J-69 (埋甕・第67図 PL18)

位置 X=960~961 Y=-025~027 重複 なし 主軸 N-78°-W 形状 楕円形

規模 0.85m×0.52m×0.12m 遺物 加曾利E4式期の深鉢の下半を検出した。埋甕の覆土からは、特別な遺物を検出することはできなかった。所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-70 (土坑・第67図 PL18)

位置 X=964~966 Y=-002~004 重複 J-79 主軸 N-3°-E 形状 楕円形

規模 0.80m×0.65m×-m 遺物 加曾利E3~4式期の土器片を検出した。所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。

J-71 (遺物集中箇所・第68図 PL18)

位置 X=955~958 Y=-000~002 重複 なし 主軸 N-21°-W 形状 楕円形

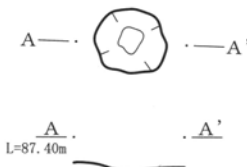
規模 2.18m×1.18m×-m 遺物 加曾利E3・4式期の土器片を検出した。川原石や安山岩系の礫も数点出土した。台石として利用した石器も1点出土した。所見 縄文中期後葉の加曾利E4式期の遺構と比定できる。大きめの礫も出土し、据え付けられていたような礫もみられることから配石等の遺構の一部の可能性もある。

J-73 (土坑・第68図 PL19)

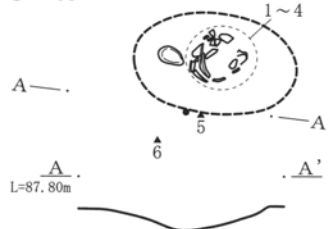
位置 X=978~983 Y=-018~022 重複 なし 主軸 N-0° 形状 円形

規模 3.82m×3.58m×0.45m 遺物 勝坂、阿玉台式期、加曾利E式期の土器片を少量検出した。黒曜石の石核、多孔石、石錐、剥片それぞれ1点ずつと石鏃2点も出土した。所見 縄文中期後葉の遺構と考えられる。大きき的には、住居にも匹敵する大きさであるが、炉の検出はなかった。掘り方は、しっかりしてローム層上面まで掘り抜いていて、特に西側では、ほぼ垂直な掘り方を呈している。覆土からは、多量の炭化物と焼土を検出している。北側には、径1m前後の大きな掘り込みを検出した。

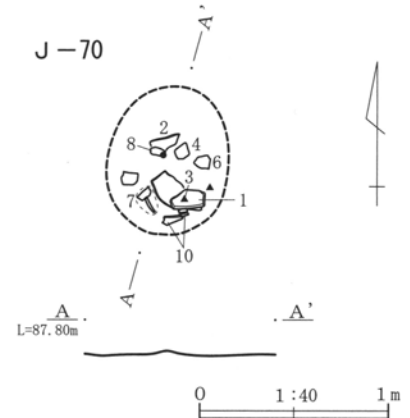
J-63



J-69



J-70



第67図 J-63・69・70

J-74 (土坑・第69図 PL19)

位置 X=960~962 Y=-019~021 重複 なし 主軸 N-0° 形状 楕円形

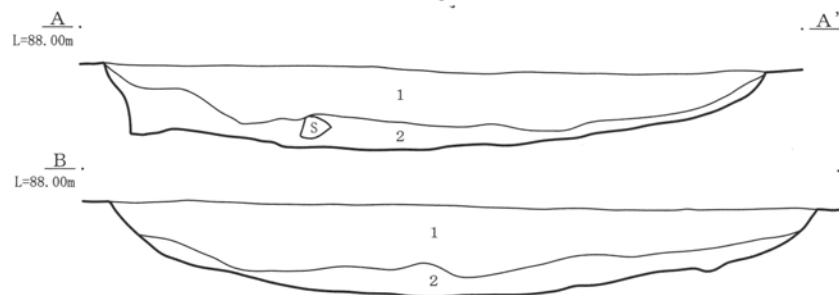
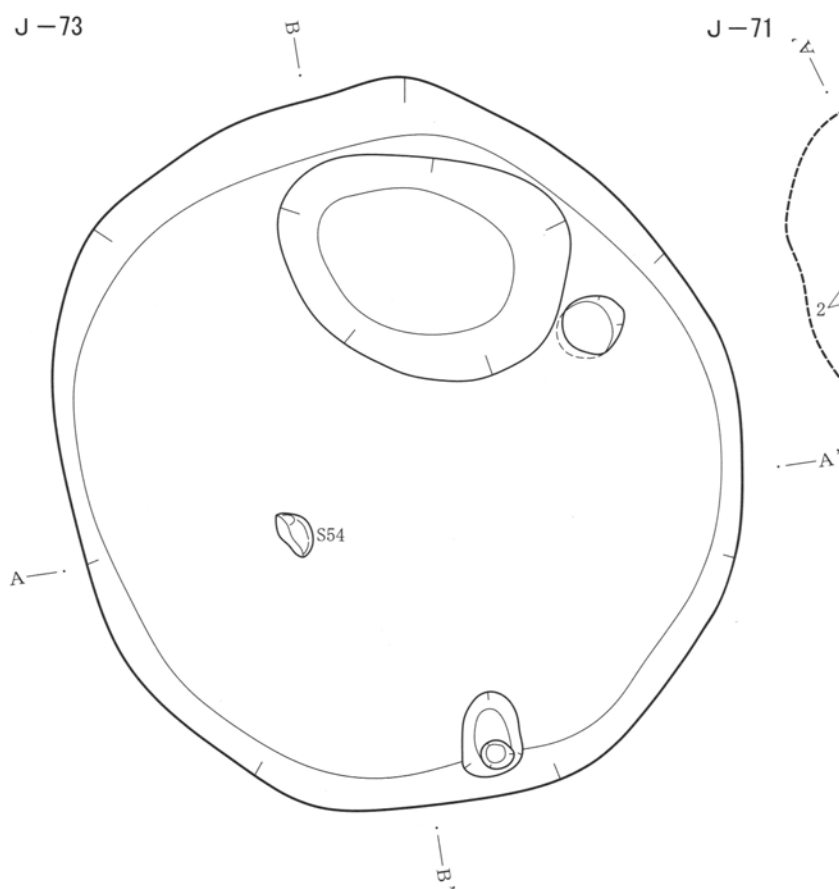
規模 1.15m×0.96m×0.14m 遺物 縄文中期の小土器片を少量検出した。磨石3点と多孔石1点も出土した。

J-76 (遺物集中箇所・第69図 PL19)

位置 X=954~956 Y=-978~980 重複 なし 主軸 N-50°-E 形状 楕円形

規模 1.28m×0.64m×0.03m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。打製石斧と台石1点ずつも出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。遺構の範囲ははっきりしないものの、やや大きめの礫がいくつかまとまって出土していることから住居ないし配石などの一部であった可能性もある。

J-73

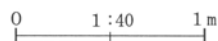


J-71



J-73

- 1層 暗褐色土 黒褐色土を少量、炭化物、焼土を多量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロックを少量、炭化物、焼土を微量含む。



第68図 J-71・73

第3章 II区 検出された遺構

J-77 (土坑・第69図 PL19)

位置 X=956~958 Y=-987~990 重複 なし 主軸 N-37°-W 形状 楕円形

規模 1.35m×1.18m×0.20m 遺物 縄文土器片を少量検出した。 所見 縄文中期の遺構と比定できる。2段の掘り込みで南側は楕円状に下がる。

J-78 (土坑・第69図 PL19)

位置 X=953~956 Y=-986~989 重複 J-80 主軸 N-53°-E 形状 楕円形

規模 1.50m×1.30m×0.24m 遺物 縄文土器片を少量検出した。

J-79 (土坑・第70図 PL19)

位置 X=963~965 Y=-001~004 重複 J-70 主軸 N-88°-W 形状 不整形円形

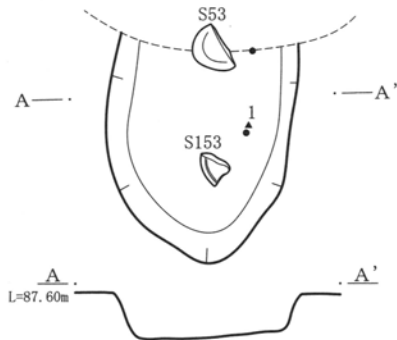
規模 1.48m×1.20m×0.32m 遺物 加曽利E式期の土器片を少量検出した。打製石斧、楔形石器も1点ずつ出土した。

J-80 (土坑・第69図 PL19)

位置 X=953~955 Y=-986~988 重複 J-78 主軸 N-50°-E 形状 楕円形

規模 1.08m×0.82m×0.30m 遺物 縄文土器片を少量検出した。

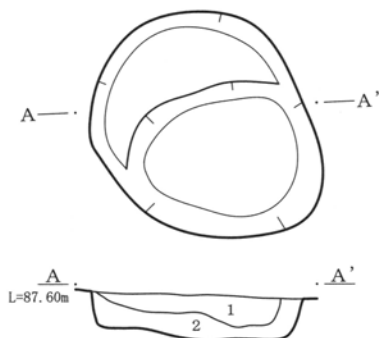
J-74



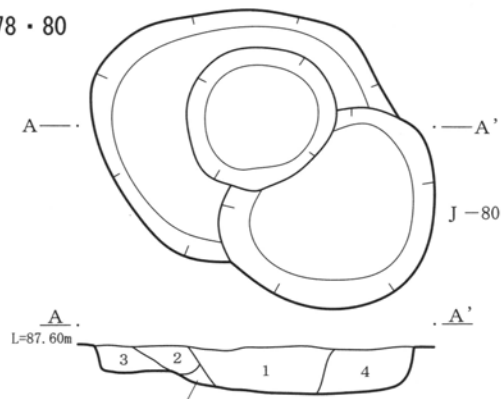
J-76



J-77



J-78・80

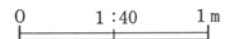


J-78

- 1層 暗褐色土 黒色土を少量含む。
- 2層 暗褐色土 黒色土ブロックを含む。
- 3層 暗褐色土 黒色土ブロックを含む。ロームブロックを少量含む。
- 4層 暗褐色土 黒色土ブロックを含む。ローム土、白色軽石を含む。

J-77

- 1層 暗褐色土 ローム土を少量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック、ローム土を含む。しまりあり。



第69図 J-74・76~78・80



J-81 (土坑・第70図 PL19)

位置 X=952~954 Y=-999~002 重複 なし 主軸 N-60°-E 形状 楕円形

規模 1.98m×1.33m×0.38m 遺物 阿玉台式期、加曾利E3・4式期の土器片を少量検出した。磨石と打製石斧1点ずつも出土した。

J-82 (土坑・第70図 PL19)

位置 X=979~982 Y=-014~018 重複 なし 主軸 N-0° 形状 円形

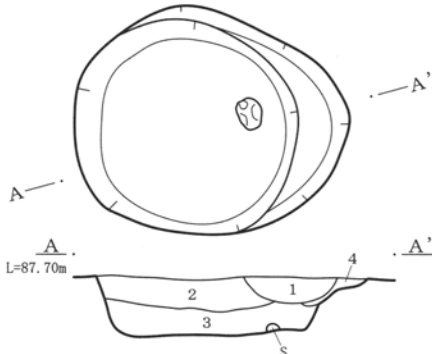
規模 2.37m×2.20m×0.36m 遺物 縄文前期の羽状縄文系土器片と阿玉台式期の土器片を少量検出した。スクレイパー、磨石と剥片も少量出土した。 所見 縄文中期中葉の土坑と比定できる。

J-84 (土坑・第70図 PL20)

位置 X=963~965 Y=-979~981 重複 なし 主軸 N-0° 形状 楕円形

規模 1.22m×1.08m×0.40m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。 所見 縄文中期後葉の遺構で、中心部は、円筒形になり貯蔵穴と考えられる。

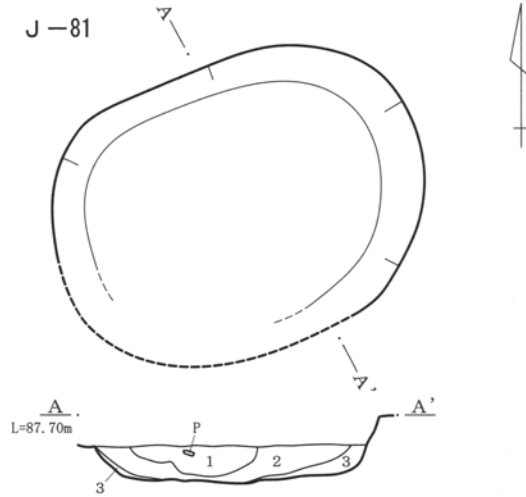
J-79



J-79

- 1層 暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む。
- 2層 暗褐色土 黒色土ブロックを含む。
- 3層 暗褐色土 黒色土ブロック、ローム土を含む。しまりあり。
- 4層 褐色土 ロームブロックを多量含む。

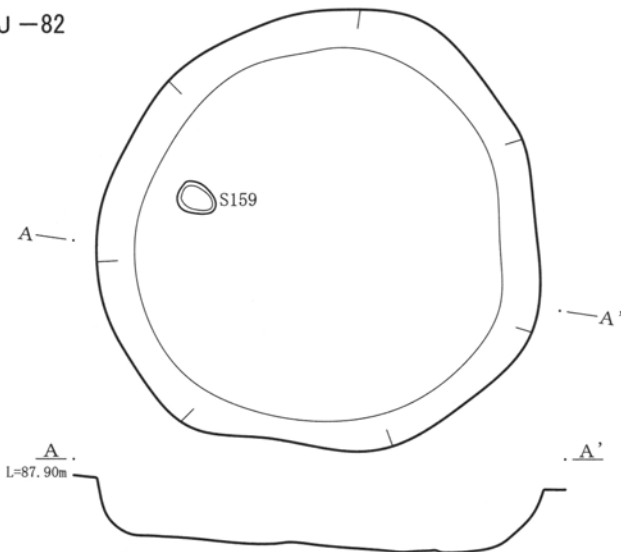
J-81



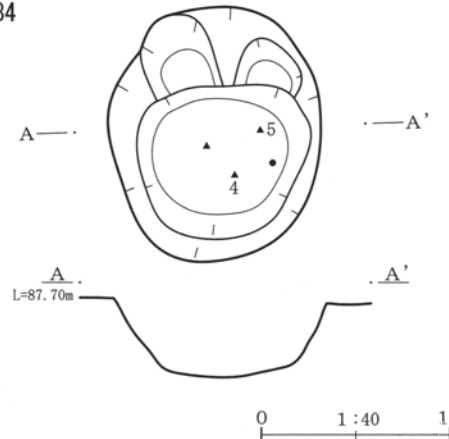
J-81

- 1層 暗褐色土 黒色土を含む。
- 2層 暗褐色土 黒色土を多量含む。
- 3層 褐色土 ロームブロックを含む。

J-82



J-84



第70図 J-79・81・82・84

第3章 II区 検出された遺構

J-85 (土坑・第71図 PL20)

位置 X=974~976 Y=-001~004 重複 なし 主軸 N-55°-E 形状 円形  
 規模 1.62m×1.58m×0.15m 遺物 前期諸磯式、勝坂式、加曾利E式期の土器片を少量検出した。  
 礫と多孔石も出土した。

J-87 (土坑・第71図 PL20)

位置 X=964~968 Y=-975~979 重複 なし 主軸 N-45°-E 形状 楕円形  
 規模 3.25m×2.98m×0.30m 遺物 縄文土器片を少量検出した。 所見 円筒形になり貯蔵穴と  
 考えられる。

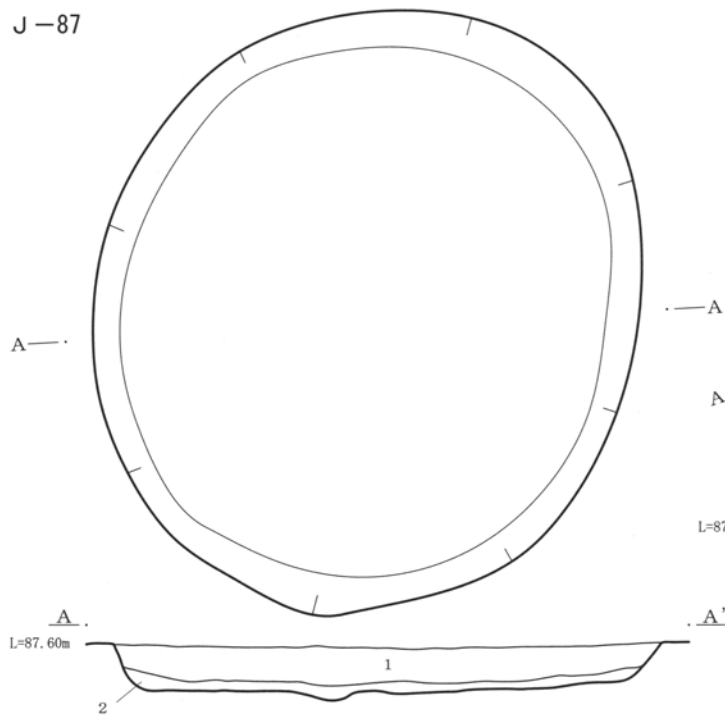
J-88 (土坑・第72図 PL20)

位置 X=953~955 Y=-014~015 重複 なし 主軸 N-0° 形状 円形  
 規模 0.78m×0.72m×-m 遺物 称名寺式期の土器片を検出した。

J-89 (埋甕・第72図 PL20)

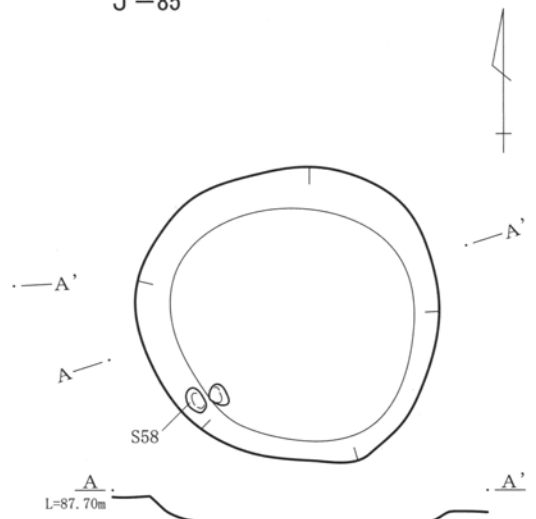
位置 X=947~949 Y=-975~978 重複 なし 主軸 N-70°-W 形状 楕円形  
 規模 1.27m×1.05m×0.20m 遺物 加曾利E3式期の深鉢の口縁から胴部上半にかけて検出した。  
 その他に加曾利E4式期の土器片も検出した。 所見 縄文中期後葉の埋甕と比定できる。掘り方は、や  
 や広く楕円形状にローム漸移層まで掘り下げてその中央に深鉢の上半を据え付けるように埋設している。覆  
 土から炭化物や焼土粒の出土はほとんど見られなかった。

J-87



1層 黒褐色土 暗褐色土を多量含む。炭化物を微量含む。  
 2層 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまりあり。

J-85



0 1:40 1m

第71図 J-85・87

J-90 (埋甕・第72図 P L20)

位置 X=946~948 Y=-975~977 重複 なし 主軸 N-90° 形状 円形

規模 1.00m×0.96m×0.18m 遺物 加曾利E3式期の深鉢の口縁から胴部にかけての上半部を埋甕として検出した。その他に多孔石の出土も見られた。所見 縄文中期後葉の埋甕と比定できる。掘り方は、やや広めに円形にローム漸移層まで掘りさげて、その中央に深鉢の上半を据え付けるように埋設している。埋甕の形式的にも掘り方のレベル的にもJ-89の埋甕と非常にならしていることもあり、連結した埋甕ないし、同一住居の一部とも考えられる。

J-95 (埋甕・第72図 P L20)

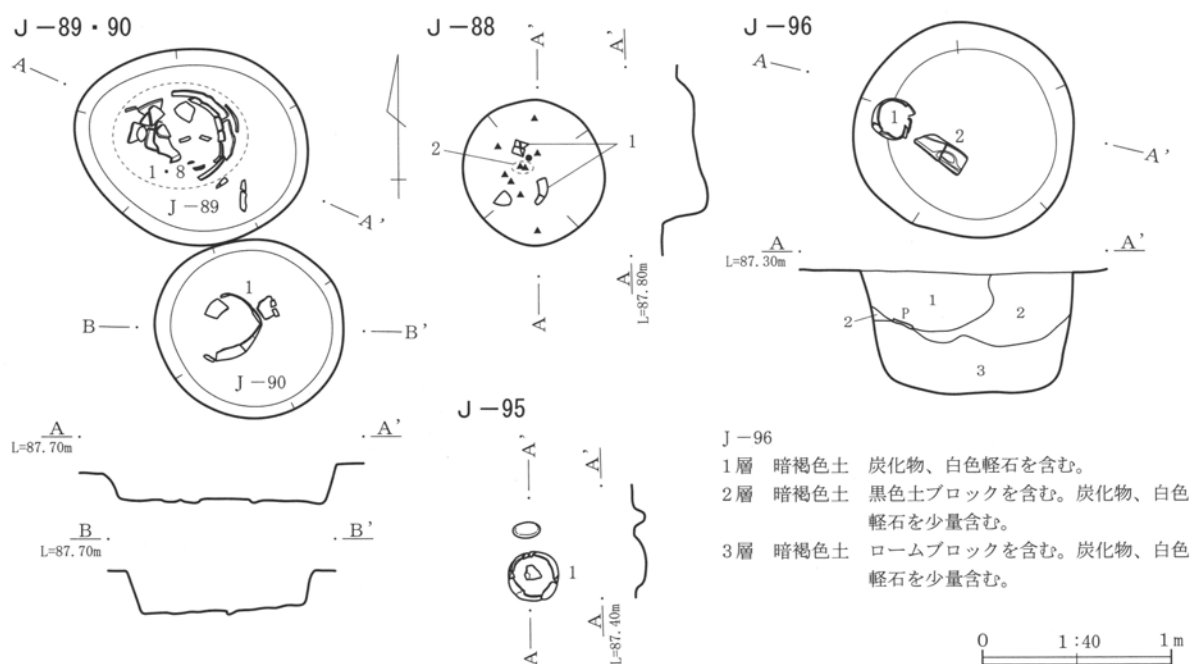
位置 X=920~921 Y=-985~986 重複 J-92 主軸 N-0° 形状 楕円形

規模 0.44m×0.25m×-m 遺物 加曾利E4式期の深鉢の上半を埋甕として埋設している。その他に同時期の土器片、勝坂式期の土器片も少量検出した。黒曜石の剥片も1点出土した。所見 埋甕は縄文中期後葉の加曾利E4式期のものと比定できる。J-95はJ-92住居と重複する。J-92の遺物も加曾利E4式期のもので住居に併設する埋甕とも考えられる。位置的には、炉の南東部に位置し、住居の出入り口の埋甕の可能性が高い。

J-96 (土坑・第72図 P L21)

位置 X=918~921 Y=-987~989 重複 J-91 主軸 N-54°-W 形状 円形

規模 1.65m×1.30m×0.60m 遺物 加曾利E4式期の深鉢の上半を検出した。その他に加曾利E3・4式期の土器片を検出した。所見 縄文中期後葉の遺構に比定できる。形状は、土坑の中位レベルで中段をもつ2段構造を呈する。加曾利E4式期の深鉢の上半部が底の近くから出てきたこともあり、貯蔵用の土坑という可能性もある。J-91住居と重複するがJ-91の方が新しい。



第72図 J-88~90・95・96

第3章 II区 検出された遺構

J-97 (土坑・第73図 PL21)

位置 X=925~928 Y=-974~976 重複 なし 主軸 N-82°-W 形状 楕円形

規模 1.20m×1.52m×0.20m 遺物 加曾利E4式期の土器片を検出した。石鏃1点など数点の石器も出土した。

J-100 (土坑・第73図)

位置 X=922~924 Y=-979~981 重複 なし 主軸 N-35°-W 形状 楕円形

規模 1.05m×0.87m×0.19m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。

J-101 (土坑・第73図)

位置 X=914~915 Y=-975~977 重複 なし 主軸 N-72°-E 形状 楕円形

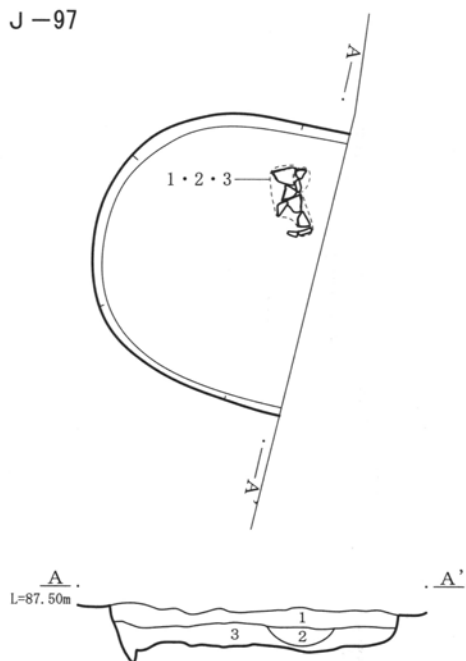
規模 0.93m×0.80m×0.14m 遺物 加曾利E式期の土器片を少量検出した。不定形石器1点も出土した。

J-102 (遺物集中箇所・第73図)

位置 X=930~932 Y=-973~974 重複 なし 主軸 N-45°-E 形状 不整形

規模 0.84m×0.64m×-m 遺物 阿玉台式、加曾利E式期の土器片を少量検出した。また、礫も数点出土した。 所見 縄文中期後葉の遺構と比定できる。配石遺構の可能性もある。

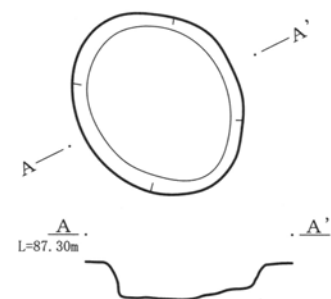
J-97



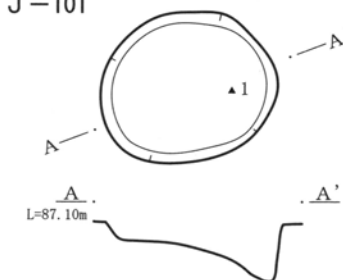
J-97

- 1層 暗褐色土 ローム土、白色軽石を少量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック、ローム土を少量含む。
- 3層 褐色土 ロームブロック、ローム土を含む。

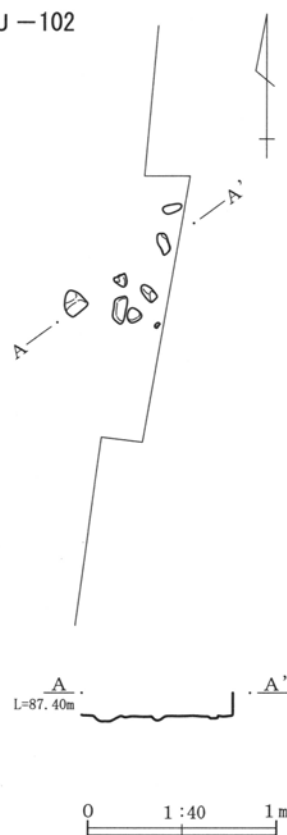
J-100



J-101



J-102



第73図 J-97・100~102

II区本線遺構一覧表(縄文面)

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	出土遺物・特徴など	グリッド
J-1	埋藏	円形	N-70°-E	0.42	0.35	0.34	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-15と重複	930-995
J-2	住居	隅丸方形	N-50°-E	3.20	2.88	0.05	縄文中期後葉	縄文土器、石器、敷石住居、J-11と重複	945-000
J-3	埋藏	円形	N-90°	0.40	0.36	0.29	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-43と重複	935-990
J-4	土坑	不整円形	N-0°	0.25	0.15	0.08	縄文中期前葉から中葉	縄文土器、石器	945-985
J-5	住居	隅丸方形	N-60°-E	4.35	3.60	0.71	縄文中期後葉	縄文土器、土製円盤、耳栓、石器、J-31と重複	930-990
J-6	土坑	円形	N-0°	0.46	0.40	0.22	縄文中期後葉	縄文土器	935-005
J-7	土坑	楕円形	N-35°-E	1.83	1.71	0.45	縄文中期後葉	縄文土器、石器	940-005
J-8	遺物集中箇所	楕円形	N-30°-W	2.20	1.70	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器	940-995
J-9	遺物集中箇所	楕円形	N-30°-W	0.60	0.28	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器	940-995
J-10	遺物集中箇所	楕円形	N-90°	0.56	0.24	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器	940-990
J-11	遺物集中箇所	楕円形	N-130°-E	0.42	0.34	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-2と重複	945-000
J-12	土坑	楕円形	N-50°-E	0.75	0.40	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器	940-000
J-13	埋藏	不整楕円形	N-70°-E	0.53	0.42	0.14	縄文中期後葉	縄文土器、石器	945-995
J-14	土坑	楕円形	N-15°-E	0.98	0.90	0.20	縄文中期後葉	縄文土器、土製円盤、石器	950-995
J-15	埋藏	円形	N-70°-E	0.53	0.45	0.32	縄文中期後葉	縄文土器、J-1と重複	930-995
J-16	埋藏	円形	N-5°-E	0.39	0.39	0.20	縄文中期後葉	縄文土器、石器	925-985
J-17	土坑	楕円形	N-50°-W	2.31	2.04	0.62	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-21と重複	940-995
J-18	埋藏	不整円形	N-40°-W	0.40	0.40	0.25	縄文中期後葉	縄文土器、石器	940-995
J-19	土坑	長方形	N-47°-W	2.32	1.66	0.25	縄文中期後葉	縄文土器、石器	935-990
J-20	土坑	楕円形	N-20°-W	0.42	0.35	0.21	縄文中期後葉	縄文土器	940-995
J-21	遺物集中箇所	楕円形	N-10°-W	1.40	0.50	-	縄文中期後葉	縄文土器、J-17と重複	940-995
J-22	埋藏	円形	N-0°	0.25	0.24	0.17	縄文中期後葉	縄文土器、石器	925-990
J-23	土坑	不整円形	N-60°-E	0.68	0.46	0.18	縄文中期後葉	縄文土器、J-56、62と重複	925-985
J-24	土坑	不整楕円形	N-40°-W	1.45	1.10	0.23	縄文中期後葉	縄文土器、石器	930-990
J-25	土坑	楕円形	N-90°	0.66	0.56	0.22	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-56と重複	925-985
J-26	土坑	楕円形	N-30°-W	0.75	0.54	0.27	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-48と重複	930-990
J-27	土坑	楕円形	N-64°-W	0.84	0.35	0.22	縄文中期後葉	縄文土器	930-990
J-28	土坑	楕円形	N-20°-E	0.85	0.70	0.32	縄文中期後葉	縄文土器	930-990
J-29	土坑	楕円形	N-15°-W	0.70	0.40	-	縄文中期後葉	縄文土器	930-990
J-30	土坑	楕円形	N-90°	0.75	0.48	0.22	縄文中期後葉	縄文土器	930-990
J-31	土坑	円形	N-90°	0.70	0.66	-	縄文中期後葉	縄文土器、J-5と重複	930-990
J-32	住居	方形	N-20°-E	4.80	4.20	-	縄文中期後葉	縄文土器、土製円盤、石器、敷石住居	935-995
J-33	土坑	不整円形	N-35°-E	1.68	1.60	0.71	縄文中期後葉	縄文土器、石器	945-985
J-34	土坑	不整円形	N-23°-E	1.30	1.03	0.23	縄文中期後葉	縄文土器、石器	950-995
J-35	土坑	楕円形	N-50°-E	0.61	0.48	0.31	縄文中期	縄文土器、石器	950-995
J-36	土坑	不整楕円形	N-65°-E	1.34	1.08	0.16	縄文中期後葉	縄文土器、J-37と重複	950-990
J-37	土坑	楕円形	N-0°	0.38	0.27	0.44	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-36と重複	950-990
J-38	土坑	円形	N-90°	0.36	0.36	0.18	縄文中期後葉	縄文土器、土製円盤	950-995
J-39	土坑	不整楕円形	N-70°-W	2.06	1.30	0.33	縄文中期後葉	縄文土器、石器	950-985
J-40	土坑	楕円形	N-7°-W	1.12	0.81	0.18	縄文中期後葉	縄文土器	930-980
J-41	土坑	楕円形	N-51°-E	1.60	0.87	0.51	縄文時代	縄文土器	935-980

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	出土遺物・特徴など	グリッド
J-42	埋藏	凹形	N-40°-W	0.26	0.18	0.16	縄文中期後葉	縄文土器	935-980
J-43	土坑	楕円形	N-50°-E	1.44	1.06	0.32	縄文中期後葉	縄文土器、J-3と重複	935-990
J-44	住居	楕円形	N-13°-E	2.70	1.60	0.34	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-91と同一遺構、J-96と重複	915-985
J-45	土坑	不整楕円形	N-2°-E	2.46	1.42	0.32	縄文中期後葉	縄文土器、石器	930-995
J-46	土坑	不整形	N-0°	1.20	1.18	0.20	縄文時代	縄文土器	930-000
J-47	土坑	不整形	N-80°-W	1.12	1.12	0.30	縄文中期後葉	縄文土器、石器	930-980
J-48	埋藏	凹形	-	0.28	0.28	-	縄文中期後葉	縄文土器、J-26と重複	930-990
J-49	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-
J-50	土坑	楕円形	N-20°-W	1.08	0.91	0.44	縄文中期後葉	縄文土器	930-985
J-51	住居	不整形	N-26°-W	3.12	3.05	0.16	縄文中期後葉	縄文土器、石器	920-990
J-52	土坑	不整形	N-0°	0.66	0.61	0.14	縄文中期後葉	縄文土器	920-990
J-53	土坑	不整形	N-14°-W	2.11	1.95	0.88	縄文中期後葉	縄文土器、石器	925-990
J-54	土坑	凹形	N-80°-W	1.68	1.60	0.76	縄文中期後葉	縄文土器、石器	925-995
J-55	土坑	凹形	N-0°	0.65	0.65	0.14	縄文中期後葉	縄文土器	930-995
J-56	土坑	凹形	N-60°-E	1.35	1.35	0.80	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-23、25、62と重複	925-985
J-57	土坑	楕円形	N-25°-E	1.20	0.90	-	縄文中期後葉	縄文土器	920-995
J-58	土坑	不整形	N-20°-W	0.92	0.81	0.21	縄文時代	縄文土器	925-995
J-59	土坑	不整形	N-26°-E	1.08	1.05	0.22	縄文中期後葉	縄文土器	925-985
J-60	土坑	凹形	N-10°-E	0.65	0.60	0.23	縄文中期後葉	縄文土器	925-985
J-61	土坑	凹形	N-75°-W	1.00	0.93	0.20	縄文中期後葉	縄文土器	925-990
J-62	土坑	不整楕円形	N-24°-W	1.90	0.50	0.38	縄文中期後葉	縄文土器、J-23、56と重複	925-985
J-63	土坑	凹形	N-90°	0.38	0.34	0.08	縄文時代	縄文土器	925-990
J-64	埋藏	不整形	N-0°	1.82	1.30	0.28	縄文中期後葉	縄文土器、石器	935-990
J-65	住居	不整形	N-7°-W	4.45	4.28	0.45	縄文中期後葉	縄文土器、石器	970-995
J-66	住居	楕円形	-	5.82	5.35	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-83と重複	960-995
J-67	住居	楕円形	N-22°-W	5.68	5.30	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器	960-000
J-68	住居	凹形	N-54°-W	3.75	3.66	0.38	縄文中期後葉	縄文土器、石器	970-015
J-69	埋藏	楕円形	N-78°-W	0.85	0.52	0.12	縄文中期後葉	縄文土器、ミニチュア土器、石器	960-025
J-70	土坑	楕円形	N-3°-E	0.80	0.65	-	縄文中期後葉	縄文土器	960-000
J-71	遺物集中箇所	楕円形	N-21°-W	2.18	1.18	-	縄文中期後葉	縄文土器、J-79と重複	955-000
J-72	住居	凹形	-	3.63	3.56	0.22	縄文中期後葉	縄文土器、石器	955-015
J-73	土坑	凹形	N-0°	3.82	3.58	0.45	縄文中期後葉	縄文土器、石器	980-020
J-74	土坑	楕円形	N-0°	1.15	0.96	0.14	縄文中期後葉	縄文土器、石器	960-020
J-75	住居	不明	-	5.08	3.40	0.05	縄文中期後葉	縄文土器、石器	950-980
J-76	遺物集中箇所	楕円形	N-50°-E	1.28	0.64	0.03	縄文中期後葉	縄文土器	955-975
J-77	土坑	楕円形	N-37°-W	1.35	1.18	0.20	縄文中期	縄文土器	955-985
J-78	土坑	楕円形	N-53°-E	1.50	1.30	0.24	縄文時代	縄文土器、J-80と重複	950-985
J-79	土坑	不整形	N-88°-W	1.48	1.20	0.32	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-70と重複	960-000
J-80	土坑	楕円形	N-50°-E	1.08	0.82	0.30	縄文時代	縄文土器、J-78と重複	950-985
J-81	土坑	楕円形	N-60°-E	1.98	1.33	0.38	縄文中期後葉	縄文土器、石器	950-000
J-82	土坑	凹形	N-0°	2.37	2.20	0.36	縄文中期後葉	縄文土器、石器	980-015
J-83	住居	不整形	-	4.20	3.35	0.11	縄文中期前葉から中葉	縄文土器、石器、J-66と重複	960-995

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	時期	出土遺物・特徴など	グリッド
J-84	土坑	楕円形	N-0°	1.22	1.08	0.40	縄文中期後葉	縄文土器	960-980
J-85	土坑	円形	N-55°-E	1.62	1.58	0.15	縄文中期後葉	縄文土器、石器	970-000
J-86	住居	円形	-	4.00	3.80	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器	960-985
J-87	土坑	楕円形	N-45°-E	3.25	2.98	0.30	縄文時代	縄文土器	965-975
J-88	土坑	円形	N-0°	0.78	0.72	-	縄文中期後葉	縄文土器	950-010
J-89	埋甕	楕円形	N-70°-W	1.27	1.05	0.20	縄文中期後葉	縄文土器	945-975
J-90	埋甕	円形	N-90°	1.00	0.96	0.18	縄文中期後葉	縄文土器、石器	945-975
J-91	住居	楕円形	-	3.42	2.35	0.23	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-44と同一遺構、J-96と重複	915-985
J-92	住居	楕円形	-	4.78	4.50	0.32	縄文中期後葉	縄文土器、土製円盤、石器、J-95と重複	920-985
J-93	住居	楕円形	-	4.25	4.20	0.70	縄文中期後葉	縄文土器、石器	915-975
J-94	埋甕	円形	N-60°-W	0.90	0.84	0.19	縄文中期後葉	縄文土器	915-985
J-95	埋甕	楕円形	N-0°	0.44	0.25	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-92と重複	920-985
J-96	土坑	円形	N-54°-W	1.65	1.30	0.60	縄文中期後葉	縄文土器、石器、J-91と重複	915-985
J-97	土坑	楕円形	N-82°-W	1.20	1.52	0.20	縄文中期後葉	縄文土器、石器	925-970
J-98	住居	楕円形	-	5.00	4.22	0.45	縄文中期後葉	縄文土器、土製円盤、石器	930-980
J-99	土坑	楕円形	N-90°	0.55	0.48	0.21	縄文時代	縄文土器	925-985
J-100	土坑	楕円形	N-35°-W	1.05	0.87	0.19	縄文時代	縄文土器	920-980
J-101	土坑	楕円形	N-72°-E	0.93	0.80	0.14	縄文中期後葉	縄文土器、石器	910-975
J-102	遺物集中箇所	不整形	N-45°-E	0.84	0.64	-	縄文中期後葉	縄文土器、石器	930-970

## 第4章 出土遺物

### 第1節 出土土器

I区においては、近世の溝・土坑が発見されたほか、明瞭な縄文時代遺構は確認されなかった。また近世の遺構からの遺物は少量が検出された。発見された縄文時代の遺物は、調査区の中を縄文時代の谷地地形があり、縄文土器包含層が形成されている。この縄文谷から出土した土器は、中期後半のものが主体である。

II区では、近世の溝・土坑・畑状遺構が発見され、これらの遺構から陶磁器類が若干発見されている。縄文時代では、遺構が調査区東半部に集中しており、縄文土器包含層も西側で薄く、東側で厚くなっている。このため調査区東側での遺物出土が多く見られた。土器の編年の位置は、前期後葉の諸磯c式土器、中期中葉の勝坂・阿玉台式～加曽利E式、後期前半の称名寺・堀之内式土器が検出されている。このうち出土量の多い主体となる土器は、加曽利E式である。

本報告書の土器観察表に付いては、各項目を次の要領で記載した。

色調・記号については、土器全体の平均的な色合いについて標準土色帖（財団法人日本色彩研究所色票監修）により比較記載した。胎土については、土器に含まれる砂粒などの粒子について記載した。焼成については、現段階で硬質で、器面の土があまり遊離しないものを「良」として、表面の土がザラツキ遊離するものを「普通」、土器全体がもろく表面の土が多く遊離するものを「不良」とした。撚りについては、縄文原体の撚り方向を記載し、縄文が施文されているが撚りの判明しないものについては、不明とした。また、条線や沈線施文のものについては、「条」地文の無いものについては「-」で表記した。原体方向は、原体の施文方向について記載したが、方向の定まらないものについては、記載しないものもある。土器の分類については、次項の基準で分類して記載した。ただし、次項の分類基準に当てはまらないものも多く、それらについては、土器型式名を記すことにした。

#### 縄文土器の分類と出土傾向

I区・II区の出土土器の大半が縄文土器で、前期後半から後期前半の土器が出土している。その中で、中期後半の加曽利E式土器が主体的に出土していることから本項では、加曽利E式土器を中心に分類した。それ以外の土器型式については、縄文土器辞典等の概念に従った。

#### 諸磯式土器

本遺跡からの出土量は少ない。遺構覆土やグリッド・表採遺物に混じって少量出土している。諸磯aから諸磯b前半のものは少なく、諸磯b後半～c式が出土している。

#### 阿玉台・勝坂式土器

本遺跡からは、住居跡等の遺構は確認されていない。土坑覆土中に他時期の土器と混在して出土している。その他、グリッド・表採遺物として出土している。阿玉台式土器と勝坂式土器については、少量の出土のため、本遺跡では、編年的細分・位置づけをせず、一括して観察表中では概観した。

#### 加曽利E式土器

本遺跡で主体となる土器である。住居跡・土坑など各遺構から出土している。

土器文様や形から次のように分類した。

I群 口縁部に太い隆線や沈線で、楕円区画や渦巻状等の文様を作る。文様帯が口縁部と頸部、胴部に区画される。主に加曽利E式土器の古段階の土器。



II群 口縁部文様帯に楕円区画を持つ。口縁部文様帯と胴部文様帯に区画線、或いは明瞭な段を持つことで、文様帯を分ける。加曽利E式の古段階の土器。

III群 口縁部に楕円区画を持つ。口縁部文様帯と胴部文様帯の区画が明瞭でなくなる土器。口縁部楕円区画から胴部に直接縦位の区画線が施文される。加曽利E式土器の中段階の土器群。

－1類 口縁部に、舌状の突起を持つ波状口縁の土器。

－2類 舌状の突起を持たない平口縁の土器。

IV群 口縁部文様帯の楕円区画が「∞」状に変わる。口縁部文様帯に接続するように胴部文様の縦位の区画線が施文される。加曽利E式土器の中段階から新段階の土器群。

－1類 口縁部に、舌状の突起を持つ波状口縁の土器。

－2類 舌状の突起を持たない平口縁の土器。

V群 口縁部文様帯が狭くなる。列点状の刺突が加えられたりする。口縁部文様帯と胴部文様帯は、連続し胴部へ続く縦位の区画線になる。加曽利E式土器の新段階の土器。

－1類 口縁部に舌状突起の退化した突起を持つ。

－2類 舌状の突起を持たない平口縁の土器。

VI群 口縁部文様帯は、横位の沈線・隆線で区画された幅狭区画になる。文様施文は、沈線や断面三角の細かい隆線で描かれる。胴部は、縦位区画を基調とした「|」状の文様を描き、磨り消し縄文の無文部が大きくなる。加曽利E式土器の新段階以降の土器。

－1類 舌状突起が口縁部と一体となり波状口縁になる。

－2類 口縁部に橋状把手が付く。

－3類 口縁波状口縁。

VII群 両耳壺。橋状の把手を持ち、壺状になる土器群。

－1類 頸部に楕円区画、胴部に縦位の区画線を持つ。

－2類 頸部に微隆起線が巡り胴部と区画する。

VIII群 地文に条線を持つのを特徴とし、他地域の影響を受けた土器群。

－1類 舌状の突起を持たないキャリパー形の平口縁の土器。口縁部文様帯に楕円区画を持つ。口縁部楕円区画から胴部に直接縦位の区画線が施文される。胴部文様帯との区画が明瞭ではなくなる。

－2類 地文に条線を持つ。器形はキャリパー形になる。

－3類 浅鉢状になり、口縁部に無文帯を持つ。

－4類 加曽利E式土器と並行する、他地域の型式及び影響を受けたと思われるその他の土器。

以上加曽利E式土器とそれに伴う土器群について細分したが、これらの範疇に入らないものや分類しがたい土器片などについては、加曽利Eと土器観察表中には記載した。

#### 称名寺式土器

明確な遺構からの出土は少ない。出土傾向を見ると称名寺の古い段階のものは少なく、新しいものが多い。小破片のものが多く、器形を復元できるものが少ない。

#### 堀之内式土器

称名寺式同様遺構からの出土は少ない。称名寺式に継続する形で、堀之内式土器が本遺跡では出土しているように見られる。小破片のものが多く、器形を復元できるものが少ない。



第74図 縄文土器の分類

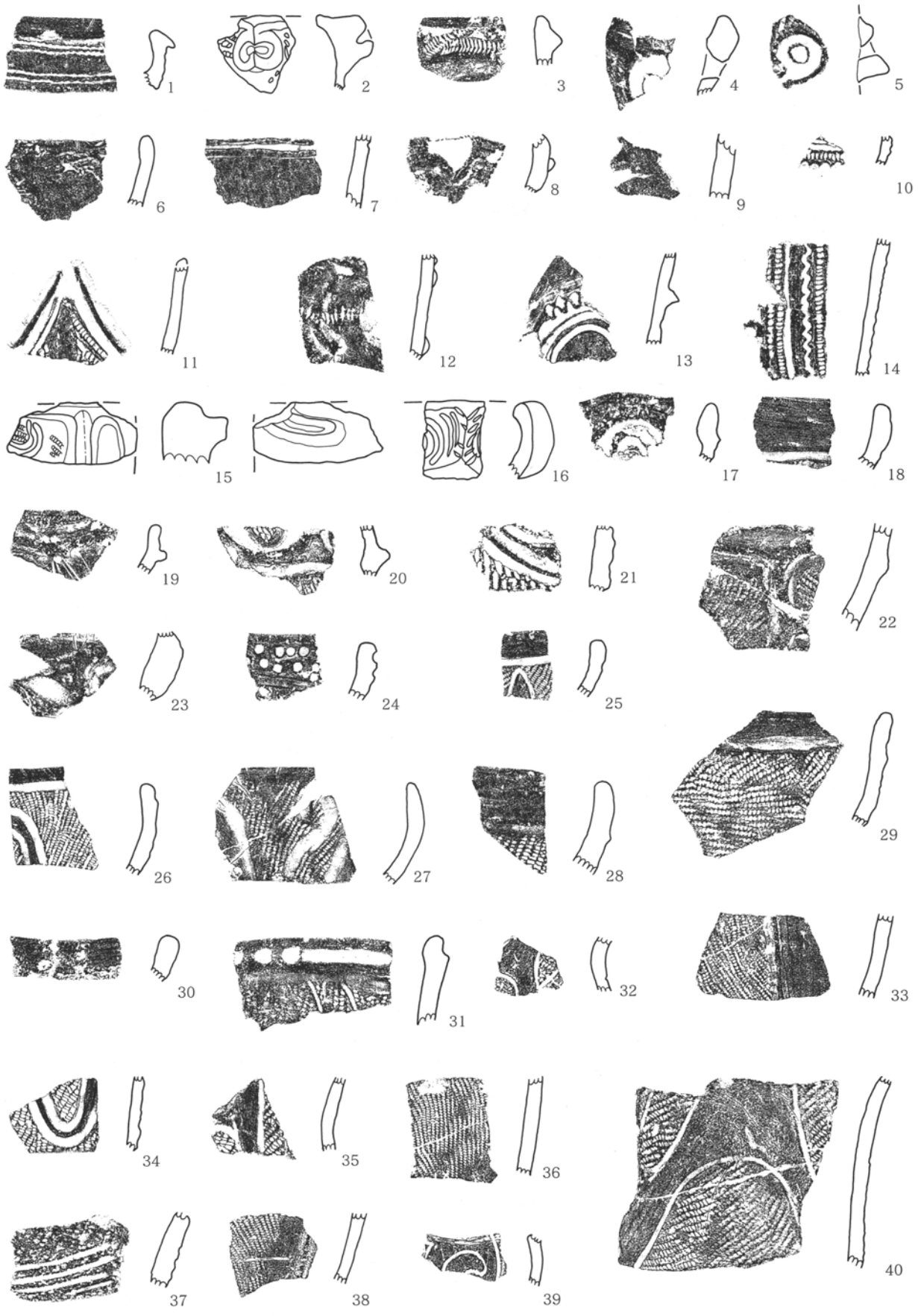
I区出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	口唇部断面は、外面に突き出た三角形になる。口縁部に2列2組のペン先状工具による押し引き文を横位に施文。	
2	深鉢	突起	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリ前後の砂粒、石英粒	普通	—		勝坂	双環状突起を貼り付ける。ペン先状工具による押し引き文と刺突を施文。	
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒、角閃石	普通	—		勝坂	太さ6ミリの隆線に刻みを持つ三角状区画。	
4	深鉢	突起	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	良	—		勝坂	環状になる突起。	
5	深鉢	突起	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	環状になる突起に刻みを施文。ペン先状工具による押し引き文。	
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	無文。	
7	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		勝坂	ペン先状工具による幅3ミリと1ミリの横位の沈線。	
8	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/8	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	口縁部を覆うように隆帯状に粘土が貼り付く。V字状の隆線を施文。	
9	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		阿玉台	無文。	005-125
10	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	幅4ミリの半截竹管による爪形の刻み列。さらに弧状の沈線を施文。	
11	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒	良	—		阿玉台	口縁部突起。縁辺に幅4ミリの隆線とそれに沿う半截竹管による爪形文・沈線。1列のペン先状工具による押し引き文。	
12	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—		阿玉台	太さ10ミリの隆線による縦位弧線。横位に爪形文施文。	005-125
13	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒、金雲母	普通	—		勝坂	幅9ミリの隆線による弧状の突起で上面に刻み列を施文。それに沿う形で太さ3ミリの沈線を2条施文する。	
14	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、石英粒	不良	—		勝坂	幅6ミリの縦位の隆起線に沿った幅3ミリの半截竹管による沈線と爪形の刻み列。縦位の波状文。	
15	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	幅10ミリの隆帯による内外面の突起。太さ2ミリの沈線による渦巻文。	
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	幅10ミリ前後の隆線による楕円状区画。半截竹管による斜位の刺突を矢羽状に施文する。	
17	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	不明		加曾利E	幅8ミリの沈線による2重の渦巻文。	
18	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	口縁部横位の整形。太さ4ミリの沈線による横位区画。	
19	有孔罎付土器	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ6ミリの隆線による区画。隆線貼り付け部に筒状の孔を持つ。	
20	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	良	LR	横	Ⅲ群	太さ8ミリの隆帯と太さ6ミリの沈線による渦巻状区画。	
21	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	太さ6ミリの沈線による重弧文。縦位の刺突状沈線。	
22	深鉢	口縁~胴部	暗灰黄	2.5Y4/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦横	加曾利E	太さ6ミリの隆線による横位、楕円区画。	
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ10ミリの隆線による横位の楕円区画。	

第4章 出土遺物

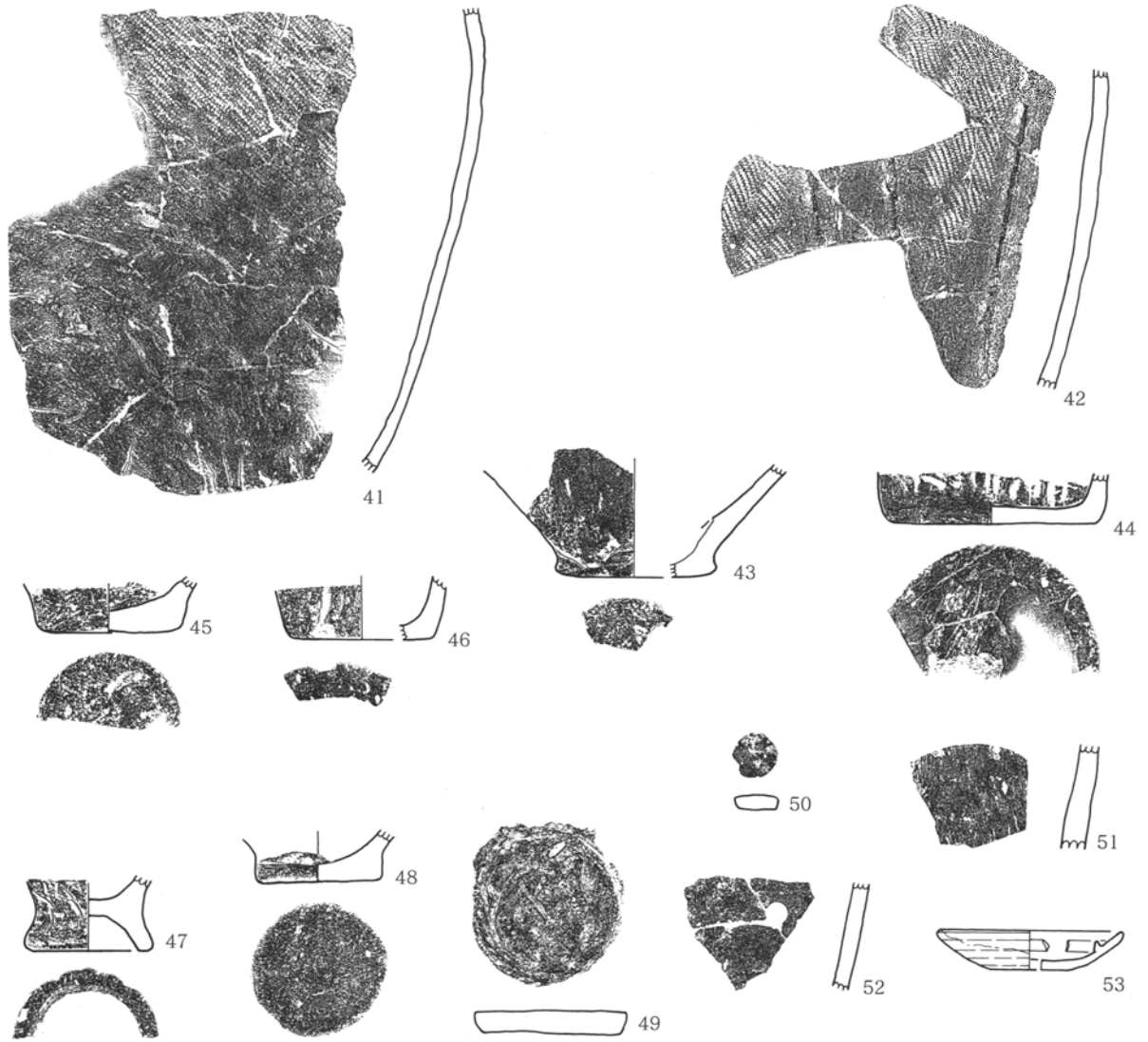
I区出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
24	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリの砂粒	普通	—		V群	φ6ミリの棒状工具により刺突を口縁部に巡らす。胴部は太さ6ミリの沈線による楕円区画。	
25	深鉢	口縁	黄褐	2.5Y5/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL		V群	太さ6ミリの沈線により口縁部無文帯を区画。太さ3ミリの沈線による楕円区画。	
26	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL	縦斜	V群	太さ6ミリの沈線による横位区画と二重の楕円区画。	
27	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	V群	太さ8ミリの沈線による波状文と、「J」状文様。	
28	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	口縁に太さ4ミリの隆起線による横位の区画。	
29	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	不良	RL	縦斜	V群	太さ3ミリの隆起線により口縁部無文帯を区画。	
30	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~2ミリの砂粒、角閃石	普通	—		加曾利E	無文。表面整形痕。	
31	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	口縁部太さ7ミリの沈線による横位施文後棒状工具による刺突。胴部は太さ2ミリの沈線による楕円区画。	
32	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	斜	加曾利E	太さ2ミリの沈線による「U」「∩」状区画文。	
33	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。	
34	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による二重の楕円区画。	
35	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画と楕円区画。	
36	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	斜	加曾利E		
37	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による横位区画。	
38	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	L		加曾利E	太さ3ミリの隆起線による縦位区画。地文燃糸文。	
39	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、角閃石	良	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。	
40	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	不良	LR	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。	
41	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群		
42	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	太さ4ミリの隆起線による文様区画と磨り消し縄文。	
43	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	外面整形。	
44	深鉢	胴部~底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、石英粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
45	深鉢	胴部~底部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	外面整形。	
46	深鉢	胴部~底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	—			加曾利E	外面整形。	
47	深鉢	胴部~底部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	外面整形。高台。	
48	深鉢	胴部~底部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	無文。外面整形。	
49	土製円盤		にぶい橙	5YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		阿玉台	底部片を利用して土製円盤にしている。	
50	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E		000-125
51	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	無文。外面整形。	
52	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒、金雲母	普通	—		阿玉台	外側より削ってあけた孔を持つ。	



第75圖 I区出土土器(1)

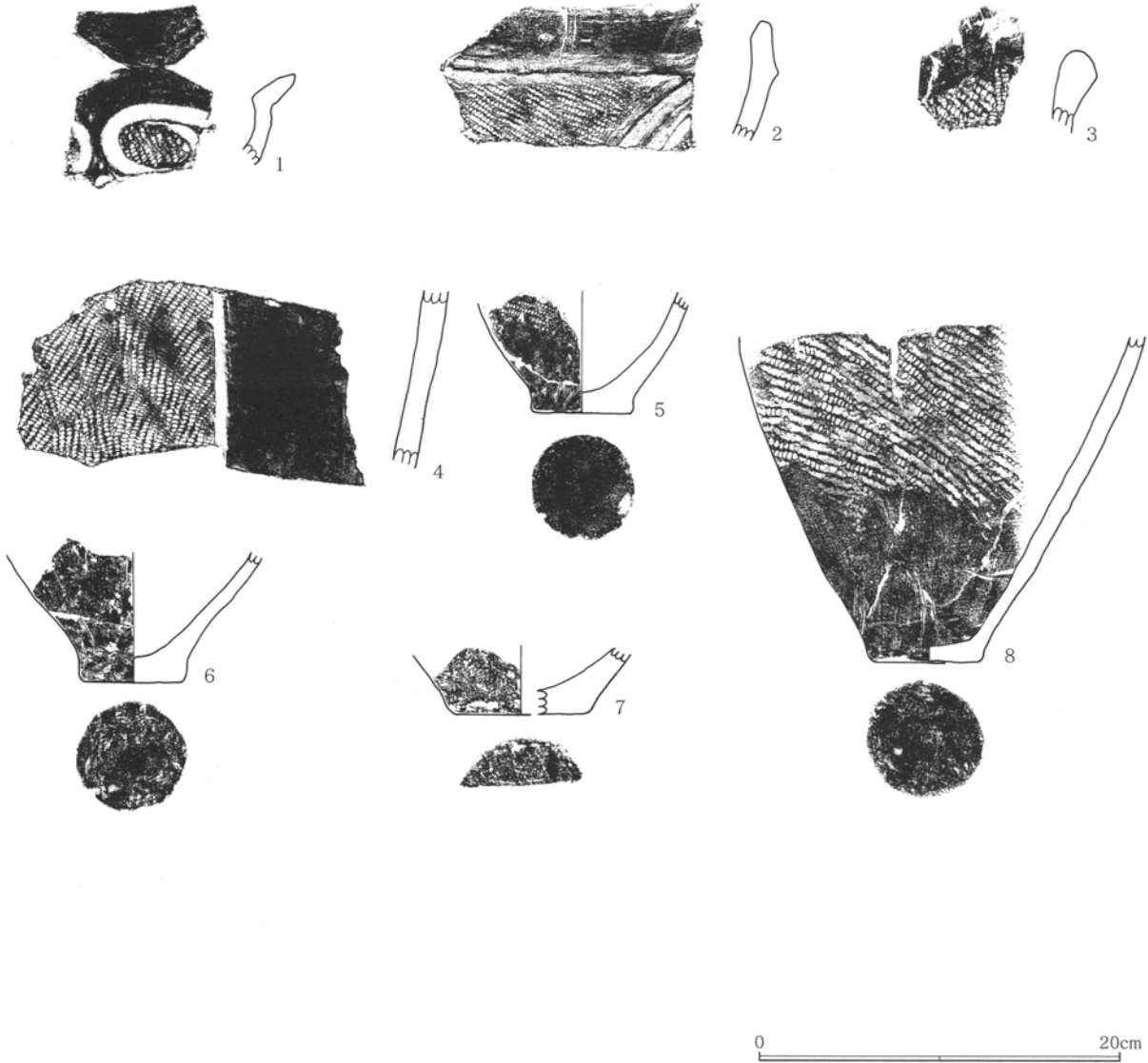
0 20cm



第76図 I区出土土器(2)

I区出土土器観察表

図版No	器種	製作地	特徴
53	陶器・灯明受け皿	瀬戸・美濃	外面口縁部以下回転篋削り。外面口縁部以下釉を拭い取る。19世紀前半から中頃。



第77図 J-2出土土器

J-2出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅲ群1類	太さ7~8ミリの沈線による渦巻文様。	舌状突起様。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	LR	縦	Ⅳ群1類	口縁部に微隆起線が巡り、口縁部無文帯を作る。胴部は楕円形の文様を描く。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	良	RL	横	Ⅵ群1類	小波状口縁頂部に突起、隆起線で口縁部無文帯を作る。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	斜	Ⅵ群3類	太さ7ミリの沈線で縦位の区画。	
5	深鉢	胴部~底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E		
6	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	良	-	-	加曾利E		
7	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	-	-	加曾利E		
8	深鉢	胴部~底部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石、砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	縄文を縦方向に帯状に施文。下半部は縦位の整形。	

第4章 出土遺物

J-5出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1～3ミリの小石、白色粒	不良	RL	横斜	Ⅲ群2類	隆・沈線により口縁部文様を楕円区画。胴部は太さ4ミリの沈線による縦位の区画。胴部下半には条線による波状文。	
2	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒多い	不良	RLR	横縦	Ⅲ群1類	隆・沈線で口縁部に楕円区画と渦巻文。胴部は縦位の区画。	舌状突起
3	深鉢	口縁～胴部	黒褐	10YR3/2	φ1～2ミリの白色粒	普通	RL	横縦	Ⅲ群1類	口縁部は、隆線と沈線による楕円区画。口縁には舌状の突起が付く。胴部は太さ6～8ミリの沈線による縦位の区画。	舌状突起
4	深鉢	ほぼ完形	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	横縦	V群1類	4単位の突起。口縁には、φ8ミリの円形刺突。太さ6ミリの沈線による連弧文。文様内には、円形と逆「J」文。同下半には「∩」状の文様。	突起
5	深鉢	ほぼ完形	明褐	7.5YR5/6	φ1～2ミリの小石、砂粒	普通	RL	斜	V群2類	太さ5ミリの沈線で口縁部文様帯を区画する。口縁部には、2列の列点が施文される。胴部は、太さ5ミリの沈線が「∩」状に施文される。文様間にはφ4ミリの刺突が加えられる。	底部欠損
6	深鉢	口縁～胴部	灰白	10YR8/2	φ1～3ミリの小石多い	普通	—	—	Ⅷ群4類	幅15ミリの櫛状工具を片側を支点に縦位のコンパス文にし波状に描いている。	
7	深鉢	口縁～胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1～2ミリの小石	良	RL	斜	Ⅲ群1類	隆・沈線により口縁部文様を渦巻と楕円区画文。波状口縁頂部に舌状突起が付く。	舌状突起
8	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	V群1類	口縁部にφ5ミリの刺突列。太さ3ミリの沈線による方形区画。	小突起
9	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの白色粒、小石	普通	—	—	Ⅷ群3類	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡り、無文帯と区画。胴部には幅16ミリに6本の沈線による条線施文。	
10	深鉢	口縁～胴部	淡赤橙	2.5YR7/3	φ1～5ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	Ⅳ群1類	口縁部文様は、太い隆・沈線で渦巻き、楕円区画を作る。胴部は、太さ8ミリの沈線による縦位の区画。区画間には、波状文が施文。	下半部欠損・舌状突起
11	深鉢	ほぼ完形	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	—	—	Ⅳ群1類	4単位の波状口縁。波長部下に円形の区画。間に楕円の区画文。	
12	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	不良	RL	横縦	Ⅲ群1類	口縁部楕円区画。胴部は浅い沈線による縦位の区画。	舌状突起
13	深鉢	口縁～胴部	黒褐	7.5YR2/2	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅳ群1類	口縁は、波状口縁で舌状の突起が付く。隆線と沈線で渦巻、「∩」の文様が連続する。胴部は、太さ5～8ミリの沈線による縦区画と「J」文が施文される。	
14	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	断面三角の隆線による区画。幅6ミリの平行沈線による押し引きの結節沈線。	
15	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	断面三角の隆線で横位に文様帯を区画し、楕円文様を作る。文様区画内には列点状の刺突文。	
16	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	幅8ミリの平行沈線による楕円文様区画。	
17	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒多い	良	—	—	勝坂	太さ1ミリの沈線を矢羽状に施文。頸部には鋸歯状に施文。	



J-5出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
18	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	太さ3ミリの沈線による渦巻、屈曲部には横位の刻み列。	
19	深鉢	口縁～胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1～3ミリの小石	良	LR	横縦	Ⅲ群1類	太さ3～5ミリの隆・沈線で口縁部文様帯を楕円区画する。胴部は太さ3～4ミリの沈線で縦位の区画。	舌状突起
20	深鉢	口縁～胴部	灰褐	5YR4/2	φ1～3ミリの小石	不良	LR	縦	Ⅳ群2類	口縁部に楕円区画。胴部は沈線による縦位の区画。	
21	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦	Ⅳ群2類	隆・沈線による楕円区画。	
22	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	—		Ⅱ群	太さ8ミリの隆線による楕円区画と渦巻文様区画内に縄文充填。	
23	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	RL	横縦	Ⅳ群	太さ8～12ミリの沈線で口縁部に楕円区画を作る。胴部は、縦位の区画。	
24	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ4～5ミリの隆・沈線で口縁楕円区画。胴部は、太さ3～4ミリの沈線による縦位の区画。	
25	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	突起部下に円形の区画。太さ4ミリの沈線が2条対になり縦位の区画を作る。	舌状突起
26	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通		縦	Ⅲ群	隆線による円形区画。	舌状突起
27	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	RL	横縦	Ⅲ群2類	太さ6ミリの沈線による半円状の区画。胴部は、太さ5ミリの沈線で縦位の区画。	
28	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅲ群1類	波状口縁の舌状突起部下には隆線による円形の文様区画とそれに続く楕円区画。	舌状突起
29	深鉢	口縁	灰白	10YR7/1	φ1～2ミリの小石、白色粒	普通	—		Ⅷ群1類	太さ12ミリの沈線による楕円区画、区画内には櫛状工具による条線が支点を交互にしてコンパス文様に施文。	
30	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	横	Ⅱ群	太い隆・沈線による楕円区画と渦巻文様。区画内に縄文を充填。	
31	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	—	横縦	Ⅳ群1類	太さ6～8ミリの沈線で口縁部に渦巻文様を描く。	舌状突起 赤色塗彩
32	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1～3ミリの小石	普通	LR	横縦	Ⅳ群1類	波状口縁下に渦巻文様と楕円区画が続く。胴部は、沈線で縦位の区画。	舌状突起
33	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黄色粒	普通	RL	縦	Ⅳ群1類	隆・沈線による渦巻文様。突起内面にも施文される。胴部は、太さ3～4ミリの浅い沈線が縦位に施文される。	舌状突起
34	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	不良	RL	横	Ⅲ群	隆線による口縁部文様区画。胴部には、太さ3ミリの沈線で縦位の区画。	
35	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	細かい砂粒	普通	—		Ⅷ群1類	太さ7～8ミリの沈線で楕円区画と渦巻文様。区画内には細線が充填。	舌状突起
36	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横縦	Ⅳ群2類	口縁部に隆・沈線による渦巻、楕円区画。	
37	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横縦	Ⅳ群2類	太い隆・沈線による楕円区画と渦巻文様。	
38	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	良	RL	横	Ⅳ群2類	太さ10～20ミリの隆・沈線による楕円区画。	
39	深鉢	口縁	灰白	5Y8/2	φ1～2ミリの白色粒	普通	—		Ⅳ群	太さ4ミリの沈線による文様。	
40	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石	普通	RL	斜	Ⅳ群	隆・沈線による楕円区画。渦巻文様。	
41	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	LR	斜	Ⅳ群	口縁に太さ8～10ミリの隆線が巡る。楕円形、三角形の区画。	

第4章 出土遺物

J-5出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
42	深鉢	口縁～胴部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～2ミリの小石、砂粒	普通	LR	横斜	Ⅷ群	口縁部に無節の縄文を施文。胴部は、太さ3ミリの沈線が間隔を開けて縦位の区画を作る。	
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	不良	RL	横縦	Ⅲ群	太さ10～12ミリの隆線で口縁部に楕円区画を作る。胴部は、太さ8ミリの沈線で縦位の区画。胴部には条線が施文される。	
44	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—		Ⅲ群	舌状突起による装飾。	舌状突起
45	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅵ群	隆線による楕円区画。突起は、「J」文の形。	舌状突起
46	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	斜	V群	φ7ミリの刺突が口縁部に巡る。胴部には波状の線が施文される。	
47	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	良	RL	縦	V群	φ6ミリの円形刺突列が口縁に巡る。太さ4ミリの沈線が波状に施文される。波状の沈線間には「J」文の沈線。	
48	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	V群	口縁部に浅い沈線が巡り、楕円形の区画が作られる。	
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、白色粒	不良	RL	斜	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線で渦巻を描く。	
50	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線で「∩」状の文様を描く。	新段階
51	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの小石、白色粒多い	良	RL	横	V群	太さ5ミリの浅い沈線による楕円文様。口縁部には、太さ4ミリの浅い沈線が巡る。口唇に爪形文列が巡る。	
52	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	V群	口縁に沿って太さ3ミリの沈線が巡る。その下にφ5ミリの円形刺突が施文される。	
53	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR5/1	φ1～2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	V群	太さ7ミリの沈線による「∩」状の文様施文。口縁部は、刺突が施文される。	舌状突起
54	深鉢	口縁	灰白	10YR8/1	細かい砂粒	不良	RL		V群	太さ2ミリの沈線により楕円形の区画、口唇にφ3ミリの円形刺突。	
55	深鉢	口縁	オリーブ褐	2.5Y4/3	φ1～2ミリの小石多い	不良	RL	斜	V群	幅7ミリの爪形文が口唇に巡る。胴部には、沈線で「∩」状の文様。	
56	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による方形区画。	
57	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1ミリの小石、白色粒	不良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線2条が対になり弧線を描く。	
58	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ7ミリの沈線による「J」の文様と無文帯を作る。口縁に沈線が巡る。	
59	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの小石、白色粒	不良	LR	横縦	Ⅵ群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。太さ2ミリの浅い沈線で文様帯を区画。	
60	深鉢	胴部	灰白	5Y8/2	φ1～2ミリの小石	不良	RL	横	Ⅲ群	浅い隆線で口縁部を区画する。	
61	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅲ群	太さ6ミリの沈線による縦位の区画。	
62	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	白色粒を含む	普通	RL	縦	Ⅲ群	太さ6ミリの沈線を3条対にして無文帯を作り、縦位の区画。原体は、前段で太さの異なるものを合わせている。	
63	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅲ群	太さ6ミリの沈線を2条対にして無文帯を作り、縦位の区画。	
64	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅲ群	太さ4～6ミリの沈線による縦位の区画。	
65	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの小石、砂粒	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ6～8ミリの沈線2条で縦位に無文帯を作り区画する。	

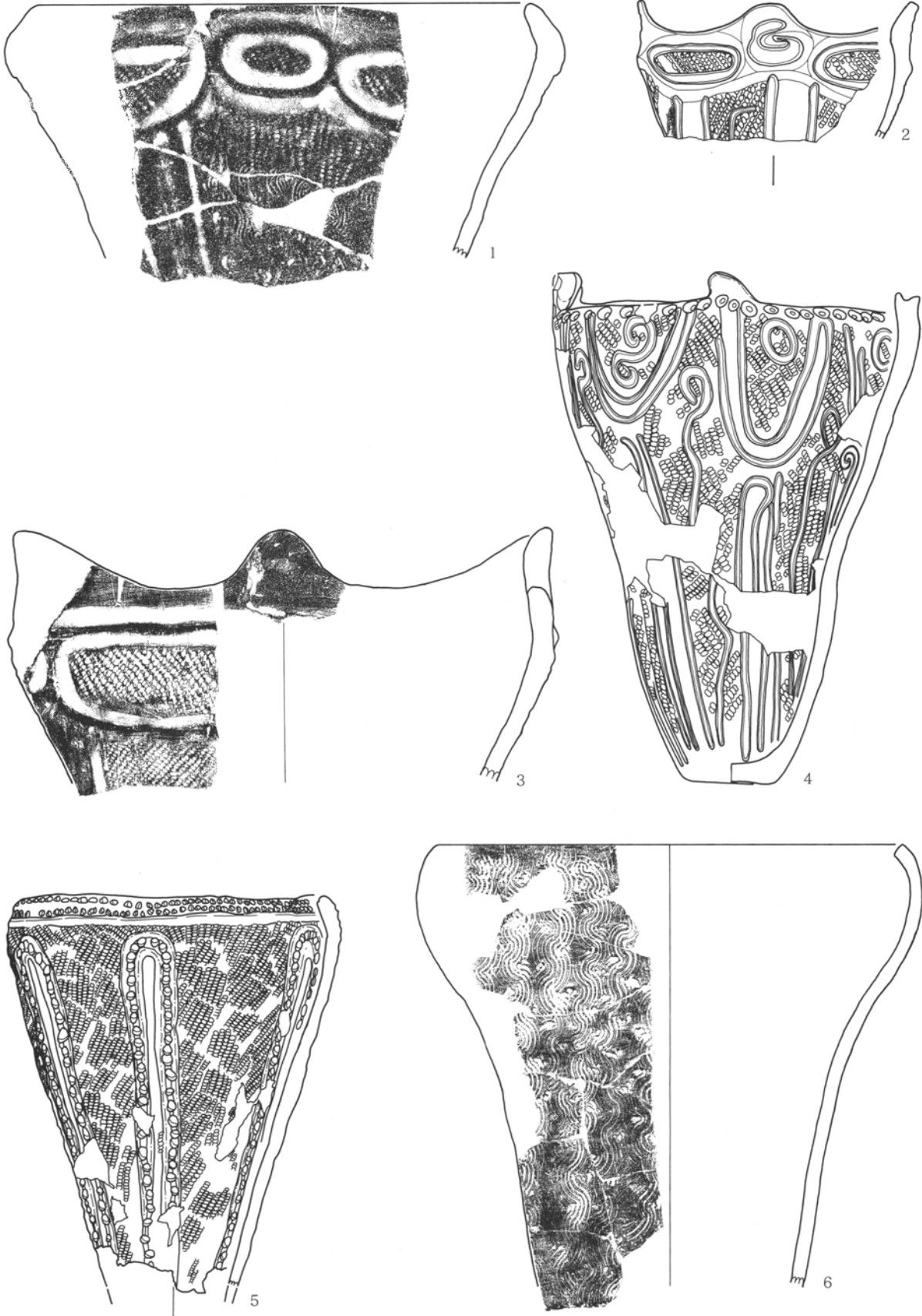
J-5出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
66	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅲ群	太さ5ミリの沈線2条を対にして無文帯を作り縦位に区画する。	
67	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	RL		Ⅲ群	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
68	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅲ群	断面三角の低い隆線2条が対になり無文帯を作り縦位の区画。	
69	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、黄色粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	太さ3~4ミリの沈線3条で縦位の無文帯を作り区画する。	
70	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	白色粒を含む	普通	RL	縦	Ⅲ群	太さ6ミリの沈線を2条対にして無文帯を作り、縦位の区画。原体は、前段で太さが異なる。	
71	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ5ミリの沈線による無文帯で、縦位に区画する。	
72	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅲ群	幅8ミリの平行沈線による楕円文様区画。	
73	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅲ群	太さ4~6ミリの沈線3条で縦位の区画。	
74	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
75	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	斜	Ⅲ群	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。	
76	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ4ミリの沈線2本が対になり無文帯を作り縦位の区画をする。	
77	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒多い	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ10~12ミリの沈線により胴部に楕円区画を作る。頸部は、長さ12ミリの刻み列で区画し無文帯になる。	
78	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの砂粒	良	RL	斜	Ⅲ群	隆線による楕円区画。	大木系
79	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による楕円区画内に細文を充填する。	
80	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの小石	不良	RL	横縦	Ⅵ群	太さ5ミリの断面三角形の隆線による楕円文。	
81	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦斜	加曾利E	上部に浅い沈線による文様施文。	
82	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	不良	RL	斜	加曾利E	太さ4ミリの沈線による「U」状の文様。	
83	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利E		
84	深鉢	口縁~胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	口縁部に太さ6ミリの浅い沈線が巡る。	
85	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	沈線と円形の刺突により縦位の区画。	
86	深鉢	胴部	青黒	5B1.7/1	白色粒	良	RL	横	加曾利E		
87	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL?		加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線2条で無文帯を作り縦位の区画。	
88	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	良	—		加曾利E	条線施文。	
89	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	不良	—	縦	加曾利E	幅3ミリの平行沈線を数本重ねて波状に施文。	信州系
90	浅鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	普通	—		Ⅷ群3類	太さ6~8ミリの浅い沈線で口縁部無文帯を区画。胴部は細い条線が施文。	
91	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石多い	良	—	横	Ⅷ群3類	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡る。胴部は、条線が矢羽状に施文。	
92	両耳壺	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	RL	縦	Ⅶ群1類	隆線による文様区画。上部は無文帯。胴部は太さ6ミリの沈線による縦位の区画。	橋状把手

第4章 出土遺物

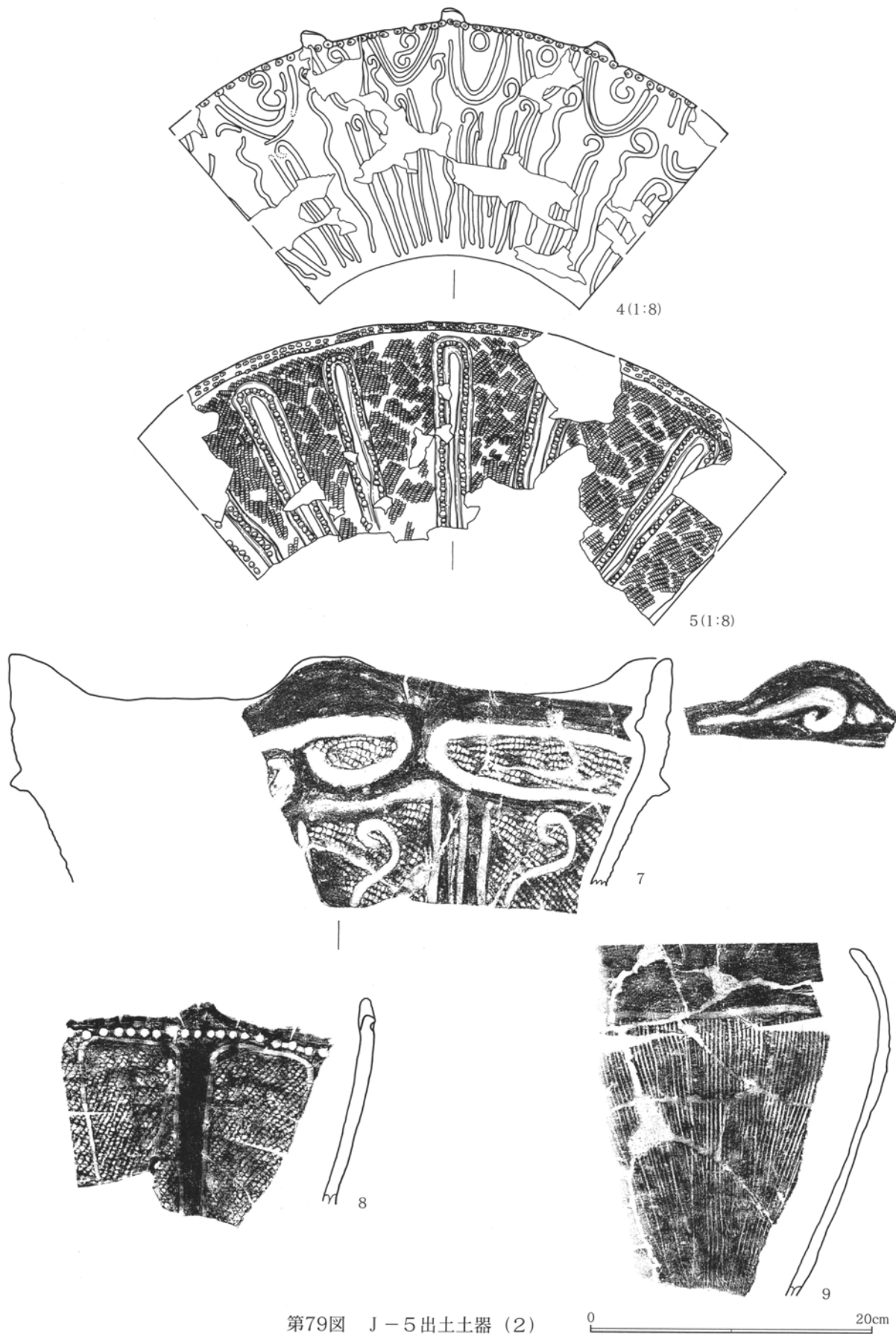
J-5出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
93	浅鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~2ミリの小石	良	-		Ⅷ群3類	口縁部は無文帯になり、胴部に細かい条線が引かれる。	
94	浅鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	白色粒	良	-		Ⅷ群3類	太さ7~8ミリの沈線が口縁部に巡り無文帯を区画。胴部は条線が施文される。	
95	浅鉢	口縁~ 胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	-		Ⅷ群3類	口縁部に太さ8ミリの浅い沈線が巡り無文帯を区画する。胴部は太さ3ミリの沈線による区画に条線が充填される。	
96	浅鉢	口縁~ 胴部	橙	5YR6/8	細かい白色粒、 砂粒多い	普通	-		Ⅷ群3類	口縁部に8ミリの沈線が巡り無文帯と区別する。胴部は幅15~16ミりに8本程の沈線による条線。	
97	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石、 白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの浅い沈線2本で無文帯を作り、縦位に区画する。	
98	深鉢	胴部~ 底部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの白色粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	3ミリの沈線で無文帯を作り、縦位の区画。	
99	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石、 白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線で縦位の区画。	
100	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	細かい白色粒	良	-		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
101	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	磨り消し縄文による無文帯で縦位の区画を作る。	
102	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、 白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線による縦位の区画。	
103	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
104	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石多い	不良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
105	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	太さ2~5ミリの沈線による無文帯で縦位の区画を作る。	
106	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		
107	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	無文。縦位の整形痕。	
108	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒多い	良	-			無文。	
109	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石	不良	-		加曾利E	無文。	
110	深鉢	胴部~ 底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、 白色粒多い	良	-		加曾利E	沈線による縦位の区画がわずかに見られる。	
111	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの白色粒多い	不良	-		加曾利E	無文。	
112	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1~3ミリの小石	良	-		加曾利E	無文。横位の整形痕が見られる。	
113	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	-		加曾利E	無文。	
114	深鉢	底部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	-		加曾利E	無文。	
115	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	-		加曾利E	無文。縦位の整形痕が見られる。	
116	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	-		加曾利E	無文。縦位の整形痕。	
117	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	普通	-		加曾利E	縦位の整形痕。	
118	器台	台面~ 脚部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	-		加曾利E	上面は、スベスベしている。脚面は縦位の整形痕。透かし孔を持つ。	
119	耳栓		褐灰	7.5YR6/1	φ1ミリの白色粒	不良			加曾利E		
120	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	-		加曾利E	幅2ミリの平行沈線で条線施文。	
121	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良			加曾利E		
122	土製円盤		灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒、 白色粒	普通	-		加曾利E	条線施文。縁辺は、磨っている。	
123	土製円盤		淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	良	-		勝坂	幅7ミリの爪形文。	

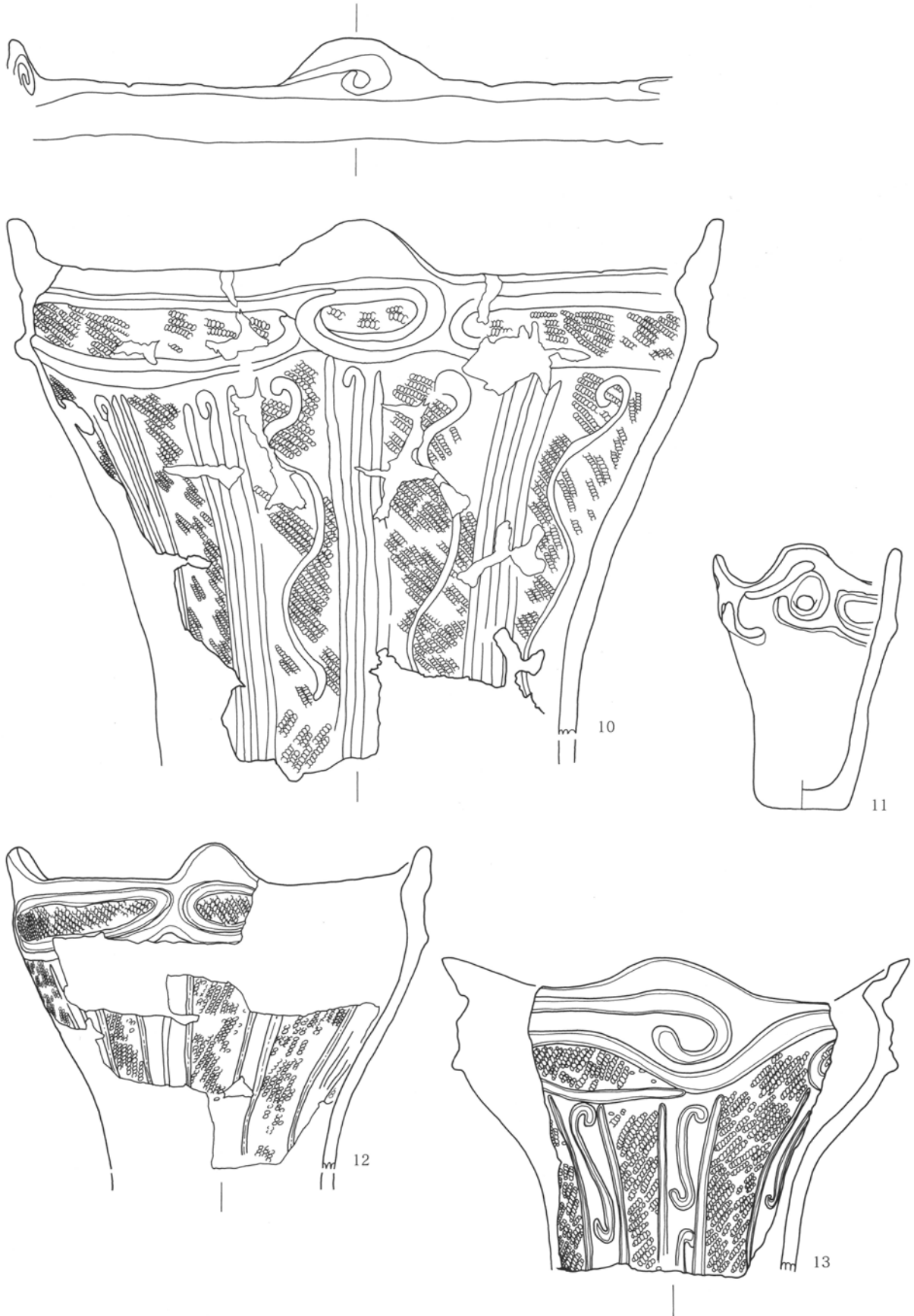


第78図 J-5出土土器(1)

0 20cm

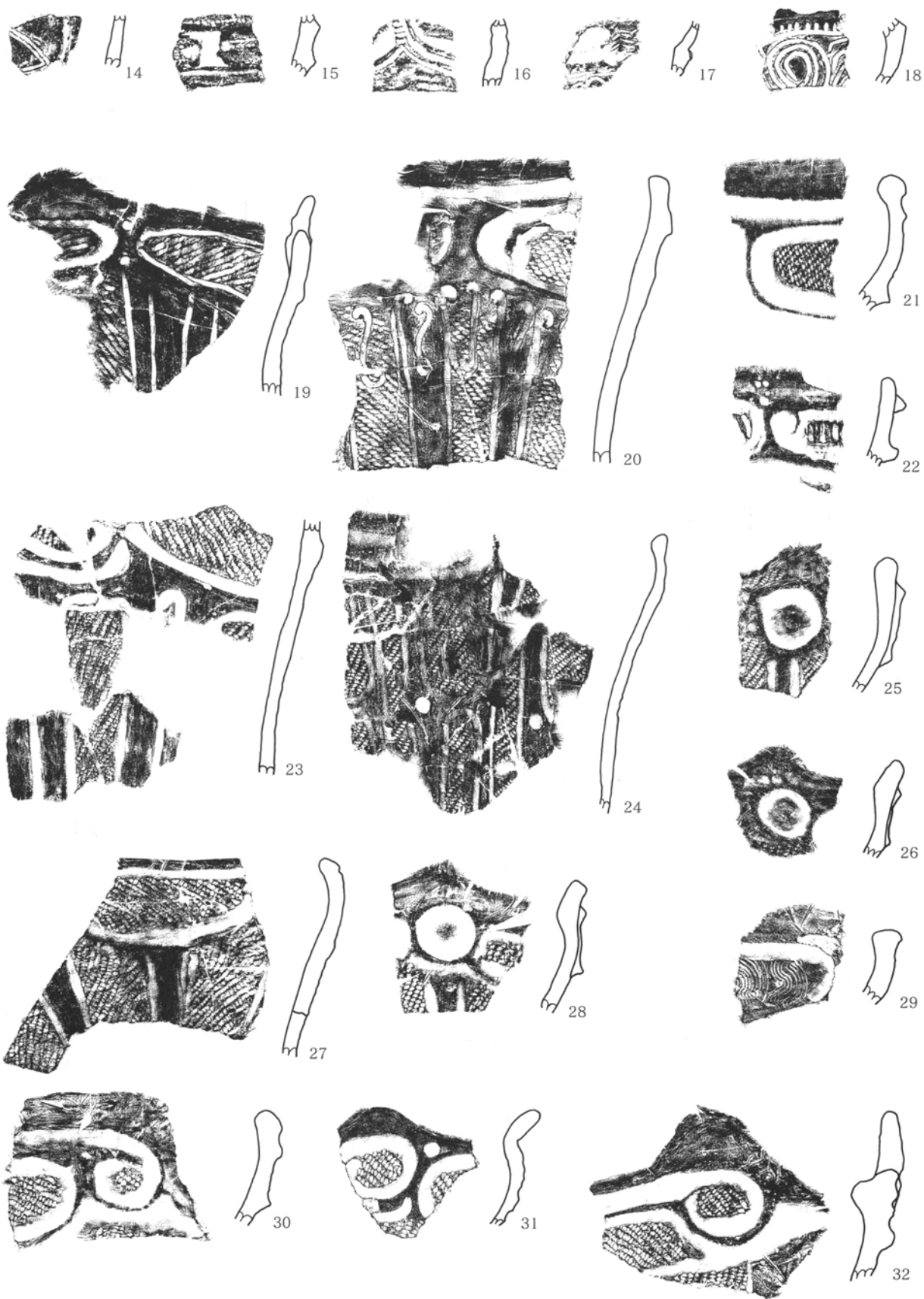


第79図 J-5出土土器(2)



第80圖 J-5出土土器(3)

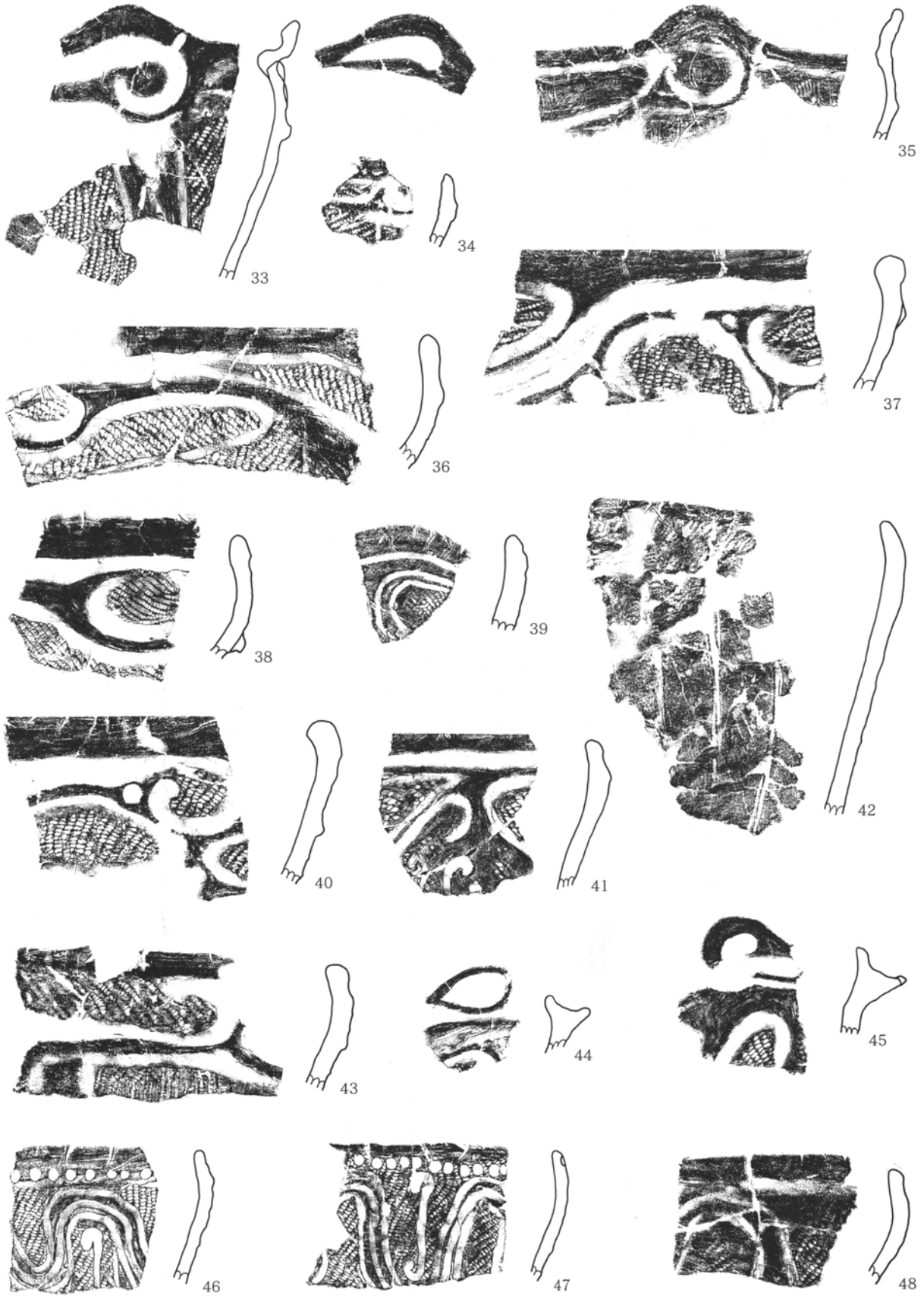
0 20cm



第81图 J-5出土土器(4)

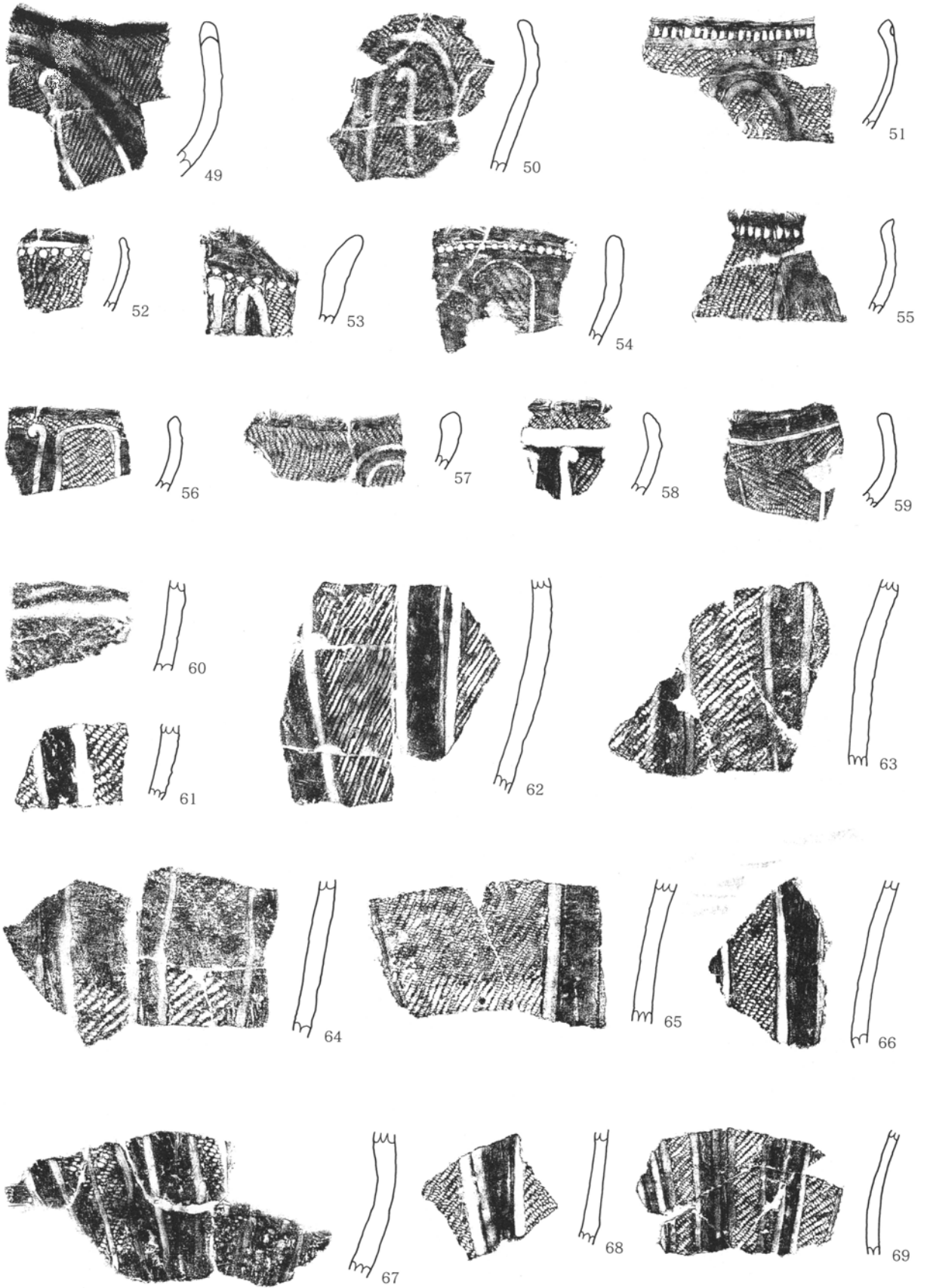
0 20cm





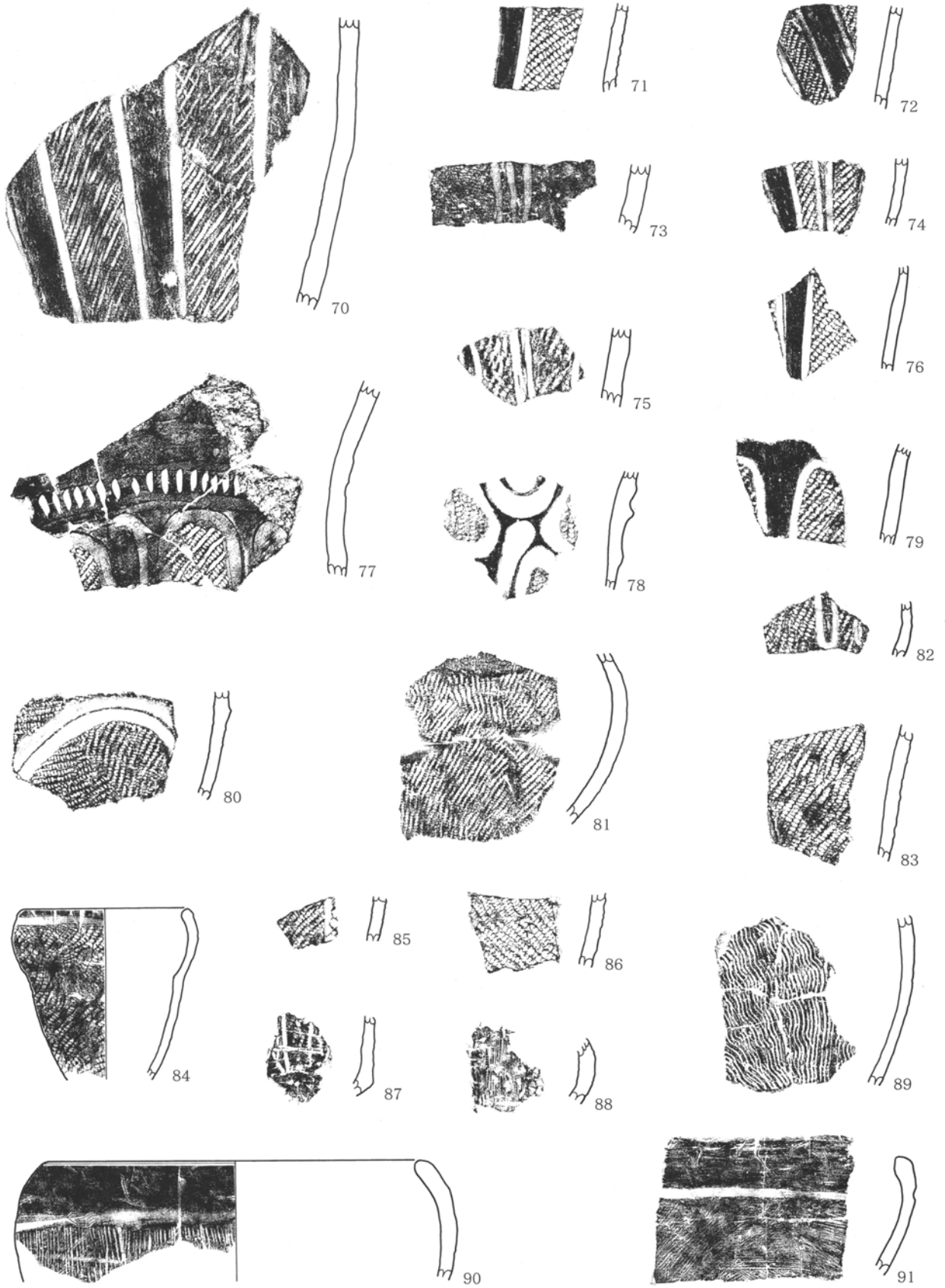
第82図 J-5出土土器 (5)

0 20cm



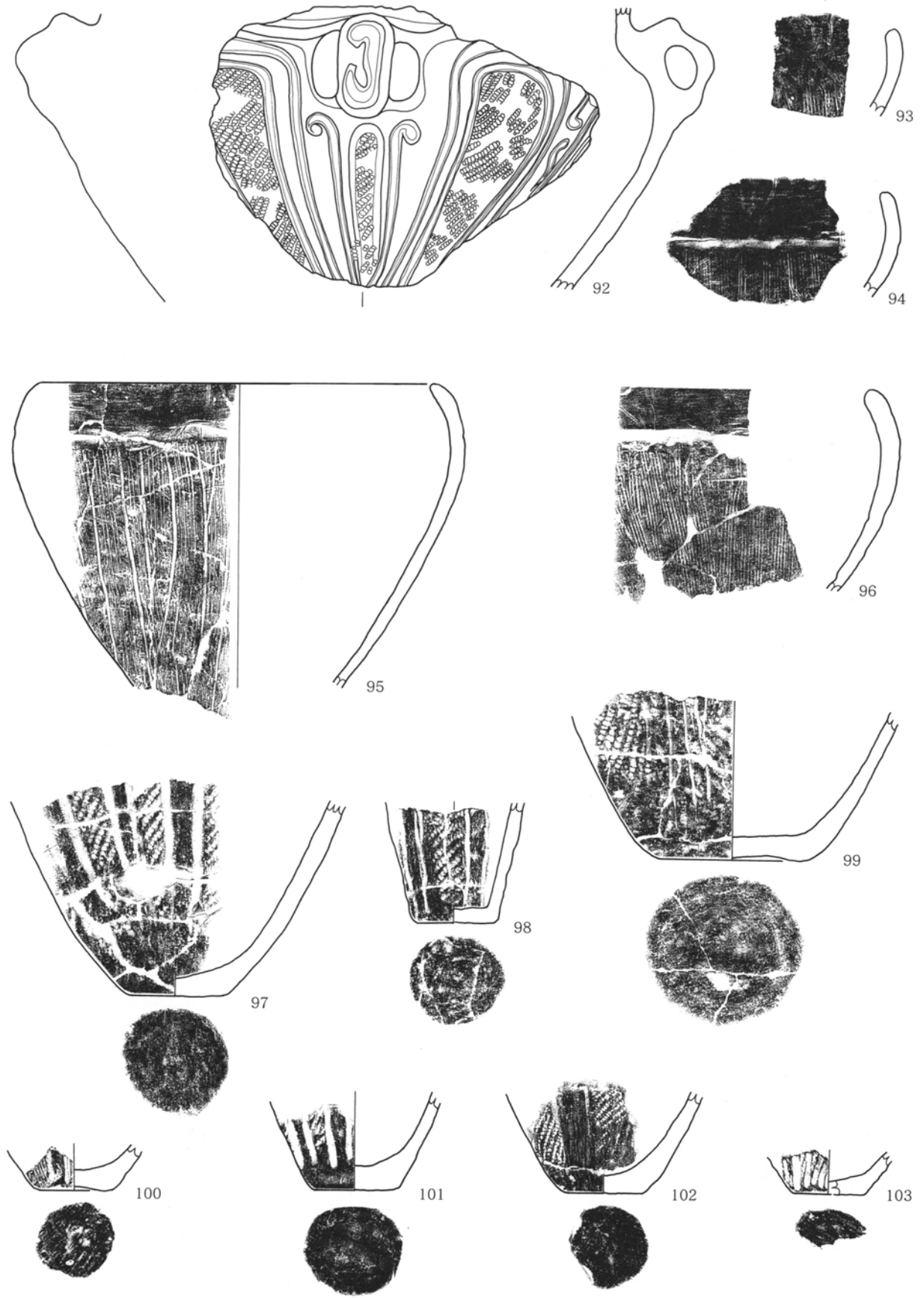
第83圖 J-5出土土器(6)

0 20cm



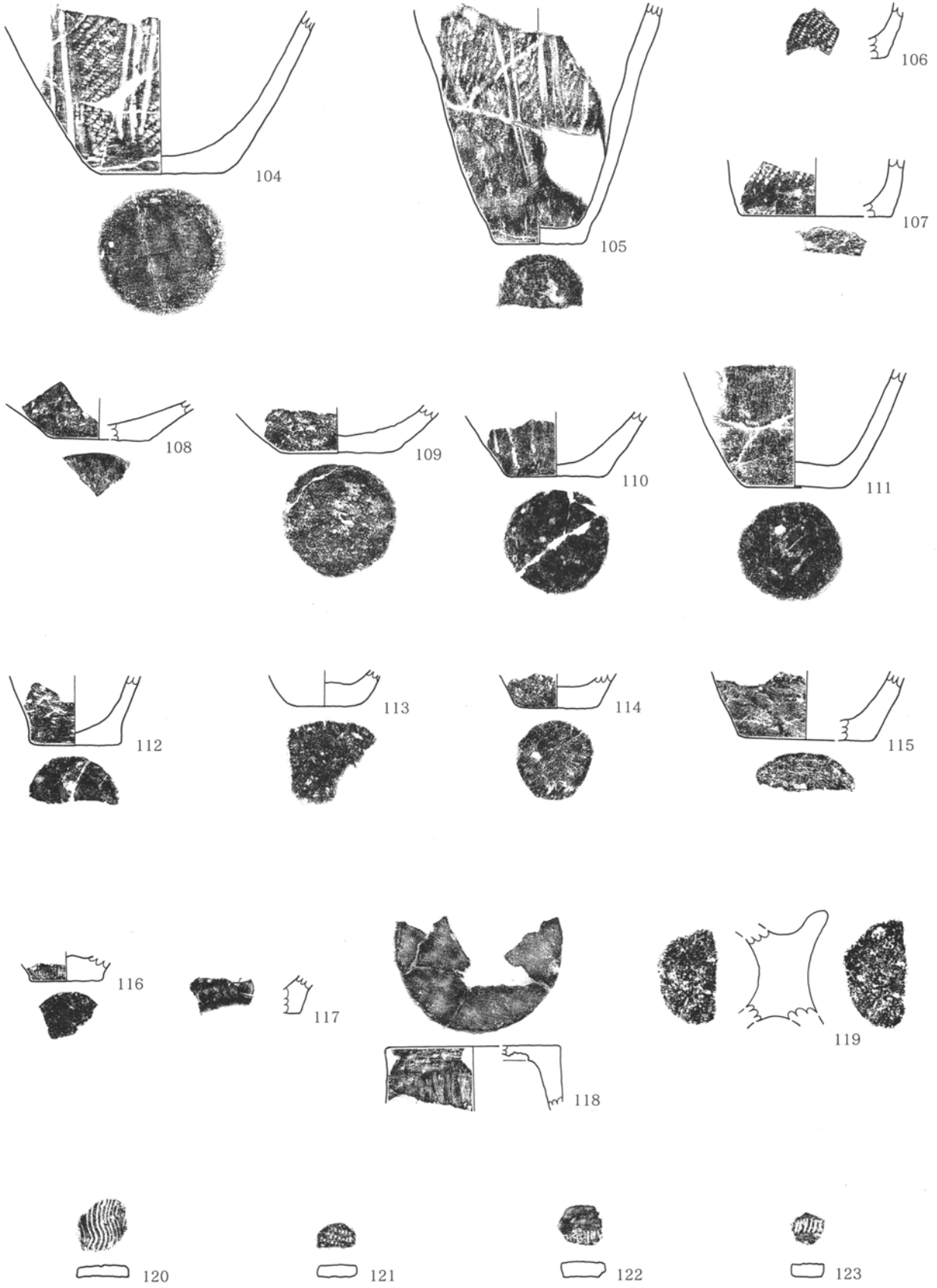
第84圖 J-5出土土器(7)

0 20cm



第85図 J-5出土土器(8)

0 20cm



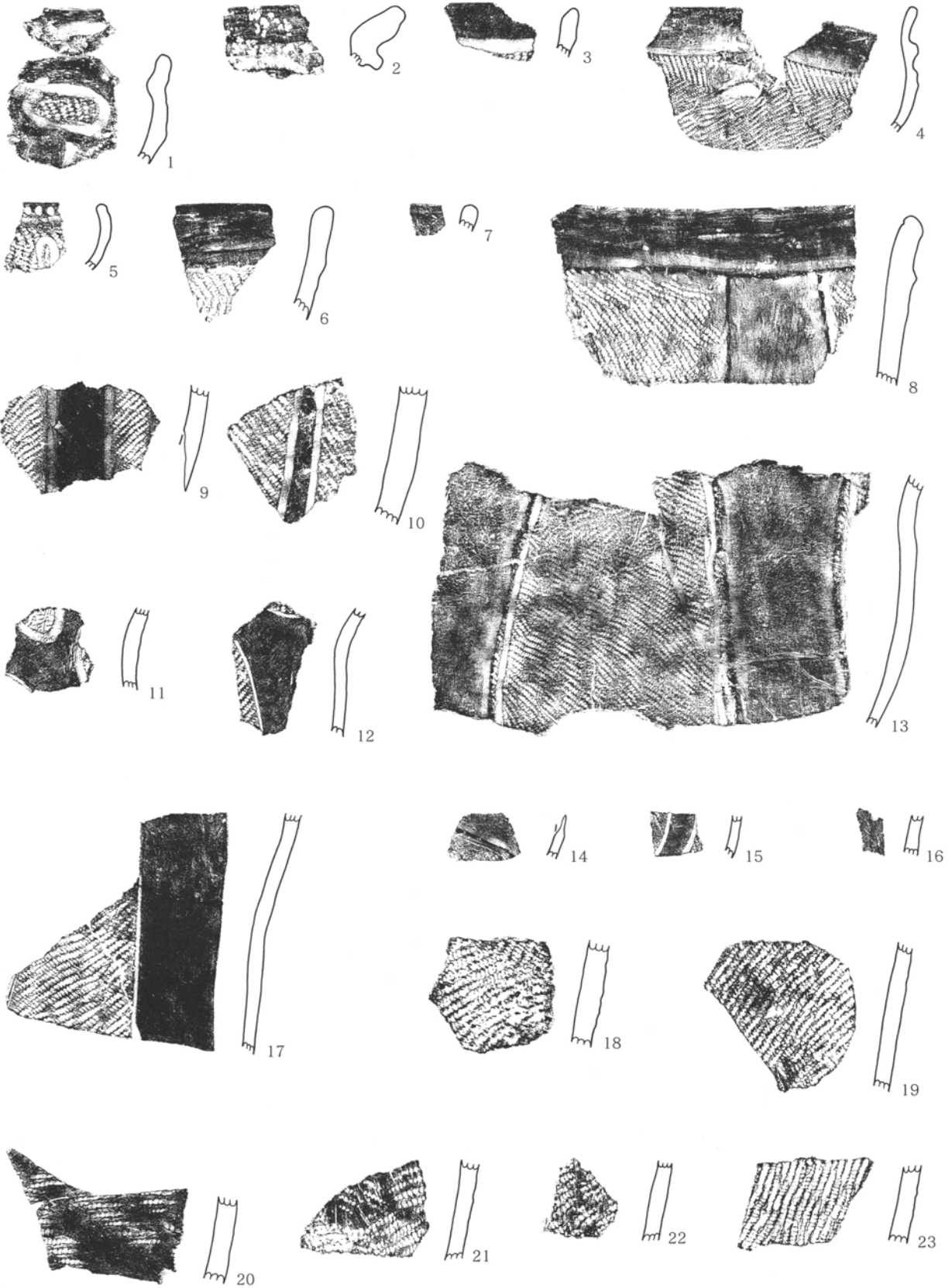
第86圖 J-5出土土器(9)

0 20cm

第4章 出土遺物

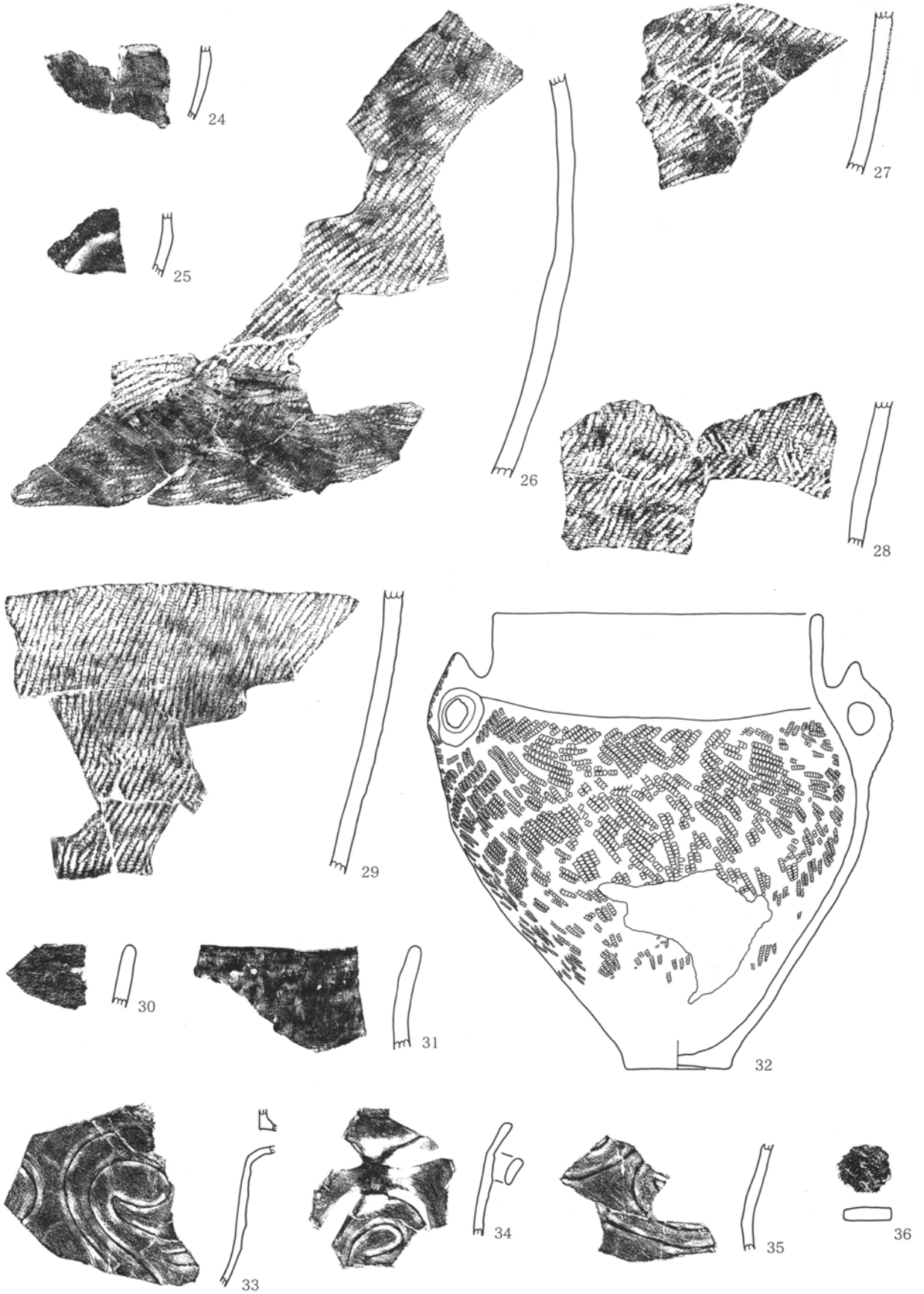
J-32出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群1類	太さ6ミリの沈線による口縁部楕円区画。舌状突起内面に「J」文の沈線。	舌状突起
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	-		Ⅲ群	隆線による弧線を描く。	
3	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	普通			Ⅲ群	太さ7ミリの浅い沈線が口縁部に巡る。	
4	深鉢	口縁	黄褐	2.5Y5/3	φ1~2ミリの小石、白色粒多い	普通	RL	縦横	Ⅵ群3類	口縁部に微隆起線が巡り口縁部無文帯を区画する。	
5	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの小石	良	RL		Ⅵ群3類	口縁部に太さ4ミリの沈線による区画線に沿って刺突列が巡る。沈線による「∩」状の文様。	
6	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群3類	口縁部に微隆起線が巡り口縁部無文帯を区画する。	
7	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	-		加曾利E	無文。	
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	横	Ⅵ群3類	太さ6ミリの断面三角形の隆線により口縁部無文帯を区画。同じ隆線で胴部を縦位に区画。磨り消し縄文による無文帯を作る。	
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅳ群4類	太さ3~4ミリの浅い沈線による縦位区画。	
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	LR	縦	Ⅳ群4類	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL		Ⅵ群1類	太さ5ミリの沈線で楕円文様を描き、縄文を充填する。無文部は磨り消し縄文。直前段合摺り。	
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒多い	良	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ2ミリの沈線による長楕円区画。区画内に縄文を充填する。	
13	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒多い	普通	LR	縦	Ⅵ群3類	太さ5~6ミリの隆線による縦位区画。無文帯と縄文帯を交互に作る。	
14	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	-		Ⅵ群3類	断面三角の隆線による文様施文。	
15	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	LR		Ⅵ群	太さ1ミリの沈線による楕円区画。	
16	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	-		Ⅵ群	無文。	
17	深鉢	胴部	褐灰	10YR6/1	φ1ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群4類	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	
18	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	縄文施文。	
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	良	RL	縦	加曾利E	縄文施文。	
20	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	LR	縦	加曾利E	縄文を間隔を開けて帯状に施文し、無文部を作る。	
21	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	縄文施文。	
22	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	縄文施文。	
23	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	縄文施文。	
24	注口	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	-		堀之内	断面三角の太さ2~3ミリの隆線で渦巻文様を描く。	25・33~35 と同一個体
25	注口	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	-		堀之内	断面三角の太さ2~3ミリの隆線で渦巻文様を描く。	24・33~35 と同一個体
26	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石	良	LR	横	Ⅵ群4類	縄文を帯状に施文し、無文部を作る。	
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	LR	横	Ⅵ群4類	縄文を帯状に施文する。	
28	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群4類	縄文施文。	
29	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群4類	縄文施文。	
30	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	-		加曾利E	無文。	
31	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	-		加曾利E	外面部横位の整形。	



第87图 J-32出土土器(1)

0 20cm



第88圖 J-32出土土器(2)

0 20cm



J-32出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
32	両耳壺	完形	にぶい橙	5YR7/3	φ1~3ミリの小石、白色粒多い	饜	LR	縦	Ⅶ群2類	頸部に断面三角の隆線が巡り、口縁部無文帯を区画する。橋状把手が付く。	橋状把手
33	注口	注口部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	断面三角の太さ2~3ミリの隆線で渦巻文様を描く。	24・25・34・35と同一個体
34	注口	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	断面三角の太さ2~3ミリの隆線で渦巻文様を描く。紐をかける突起が付けれらる。	24・25・33・35と同一個体
35	注口	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	断面三角の太さ2~3ミリの隆線で渦巻文様を描く。	24・25・33・34と同一個体
36	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	外縁を打ち欠いて成形している。	

J-44出土土器観察表

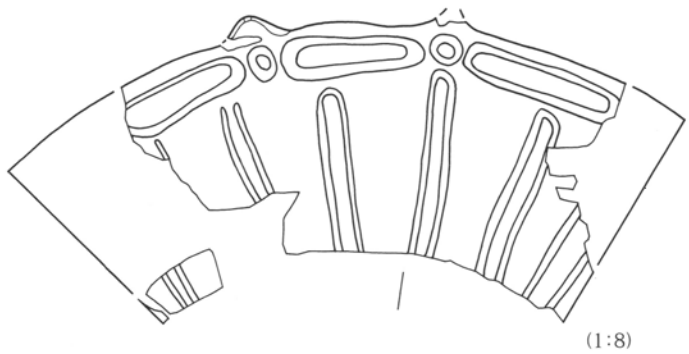
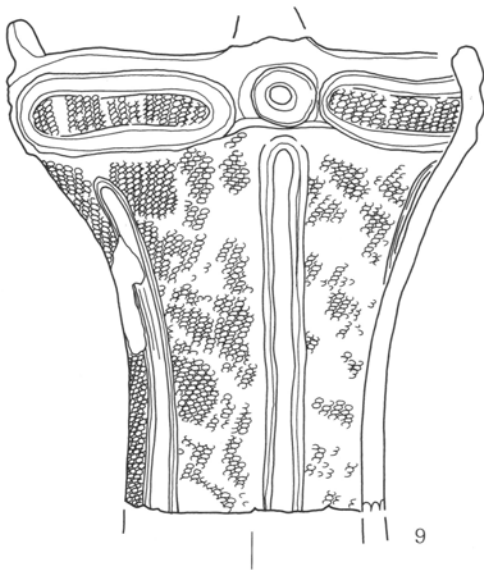
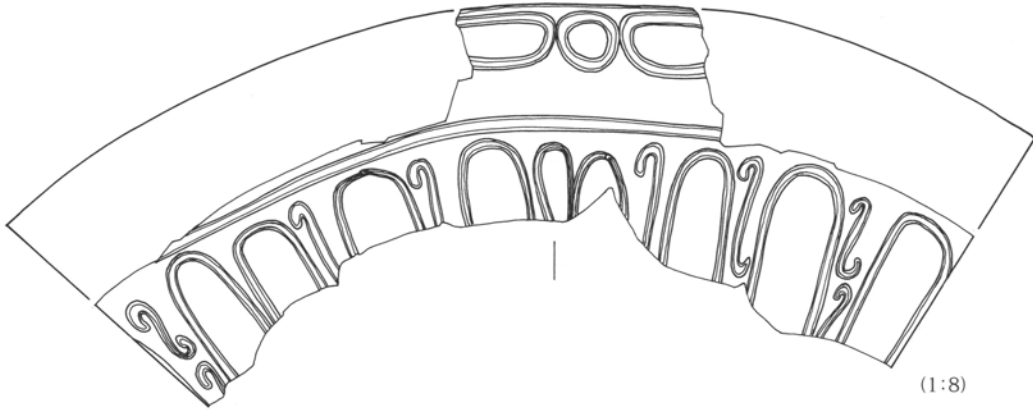
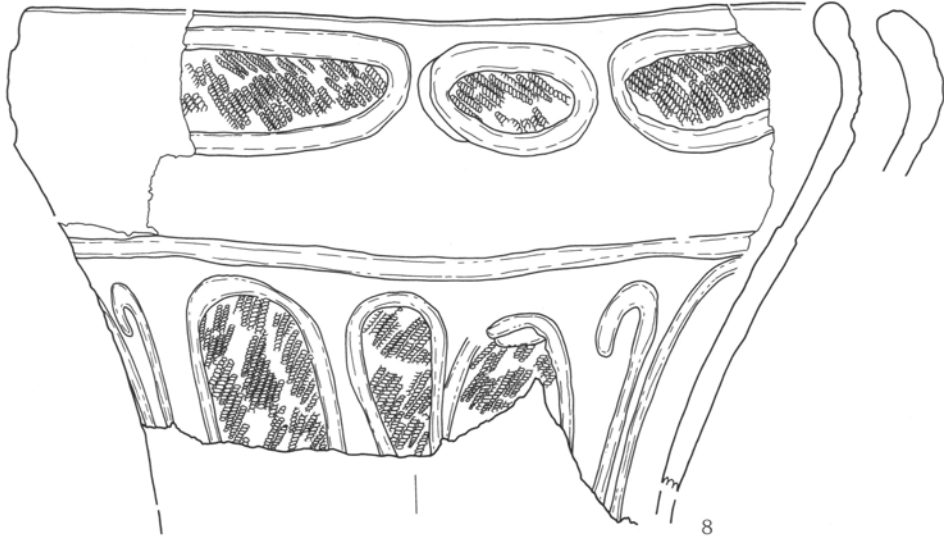
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅳ群1類	口縁部太さ10ミリの隆線により横位楕円。渦巻、「∞」文の区画。胴部は、太さ7ミリの沈線2本を対にした縦位の区画。	
2	器台	脚	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	無文。整形痕。	
3	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒、角閃石	良	—	—	加曾利E	口縁部無文帯横位の整形。頸部に太さ10ミリの沈線が巡る。	
4	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリ前後の小石	普通	LR	縦	Ⅶ群2類	弧線状の隆帯貼付後太さ4ミリの沈線により隆帯中央とそれに沿うように外側を施文する。	
5	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリ前後の砂粒	普通	LR	横	Ⅲ群2類	頸部に太さ6ミリの隆線による三角状区画とそれに沿う1条の沈線文。口縁部太さ3ミリの沈線が施文。	
6	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅲ群2類	頸部太さ7ミリの隆起線により横位区画。胴部に沈線が垂下する。縄文は、0段多条。	
7	深鉢	口縁~胴部	灰白	5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横斜	Ⅶ群4類	頸部に太さ6ミリの隆起線により弧状区画。胴部は、太さ7ミリの沈線2本を対にして縦位の区画。	
8	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	—	—	Ⅲ群2類	櫛状工具による条線文。	
9	深鉢	胴部	淡黄	5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	Ⅲ群2類	胴部太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
10	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1ミリ前後の小石、角閃石	普通	RL	縦	Ⅲ群2類	胴部太さ4ミリの3条1組の沈線による縦位の区画。	

J-51出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	口縁部幅5ミリの半截竹管による爪形文。	
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	V群2類	口縁部波状で、棒状工具による刺突が横位に巡る。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	V群2類	口縁部太さ3ミリの2本の沈線を横位に巡らし、その間をペン先状工具で刺突。頸部は、太さ5ミリの沈線により弧状区画。	



第89図 J-44・51出土土器(1)



0 20cm

第90図 J-51出土土器 (2)

第4章 出土遺物

J-51出土土器観察表

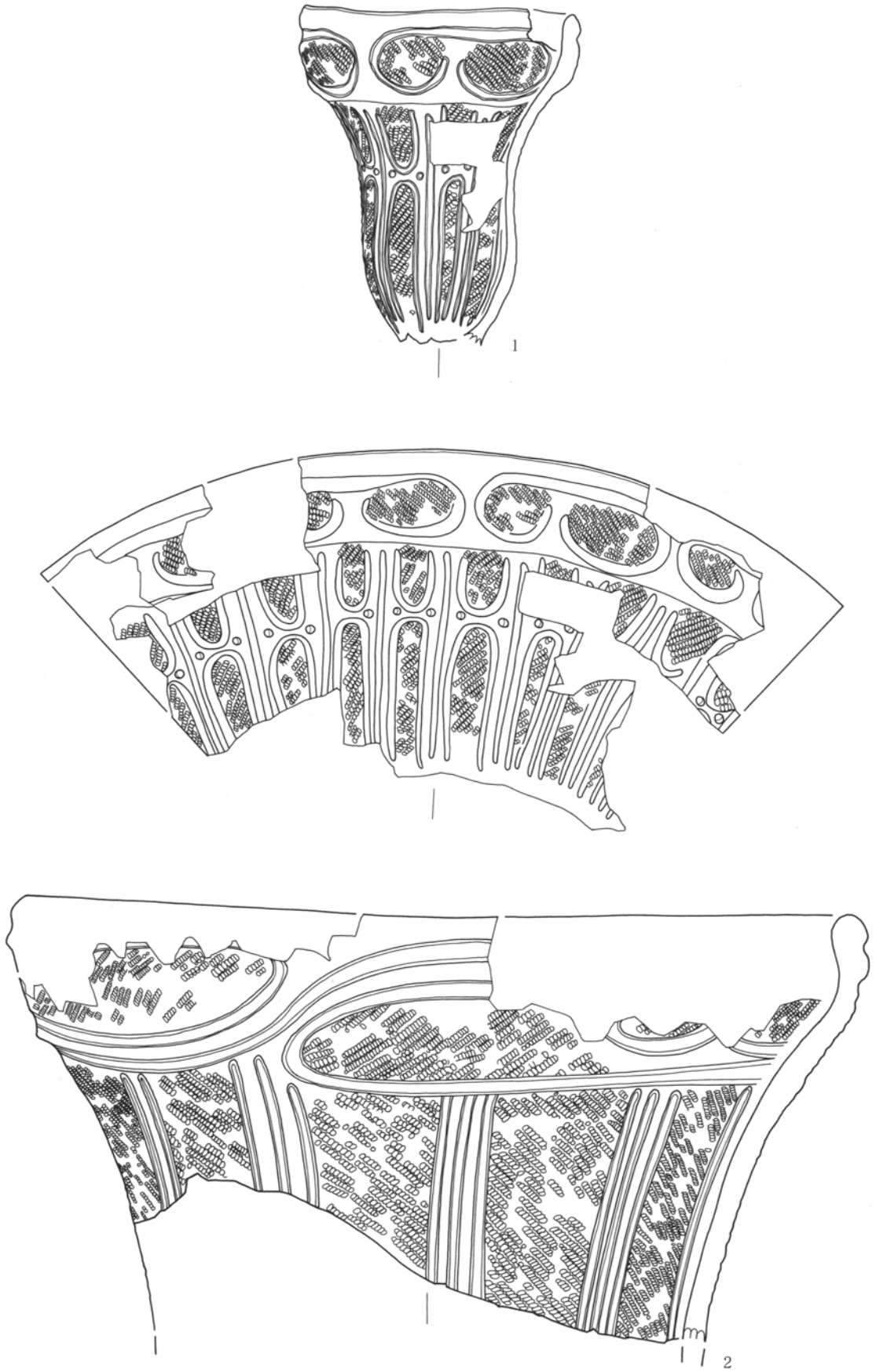
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
4	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	良	—	—	V群2類	口縁部太さ2ミリの2条の沈線により横位施文。その間に竹管による円形の刺突を巡らす。下部には、幅2ミリの平行沈線により三角の文様区画。	
5	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	横	IV群3類	胴部太さ7ミリの沈線による縦位区画。	
6	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄	2.5Y6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	IV群3類	無文。	
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦	IV群3類	胴部太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
8	深鉢	口縁～ 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの砂 粒	良	RL	—	III群2類	口縁部に太さ10～12ミリの沈線による楕円区画。頸部に沈線が巡り、口縁部文様との間に無文帯を持つ。胴部は、楕円区画。文様間に磨り消し縄文による無文帯。	
9	深鉢	口縁～ 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの砂 粒	普通	RL	縦	III群1類	4単位の突起。突起下に円形の文様と楕円区画。胴部は、太さ4～6ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯を作る。	

J-65出土土器観察表

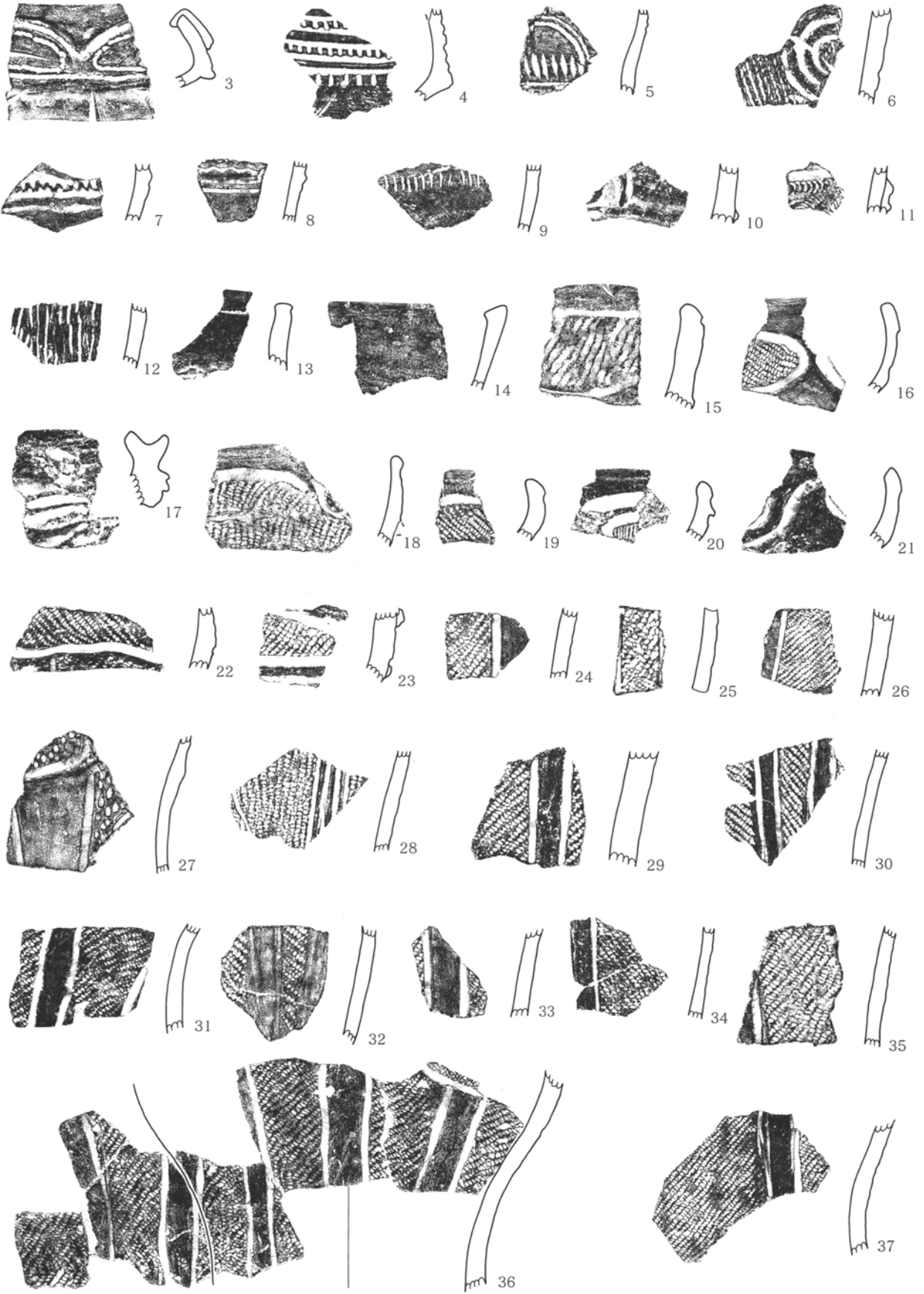
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～ 胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	II群	口縁部楕円区画。胴部は、太さ4ミリの沈線による縦位の区画。区画間に「U」「∩」状の文様。	底部欠損
2	深鉢	口縁～ 胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1～3ミリの小 石	良	LR	縦	IV群2類	太い隆・沈線による「の」文を連続させた楕円区画。胴部は、太さ5ミリの沈線3条による縦位区画。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒、軽 石粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	口縁部隆線により三角形モチーフとそれに沿う2列の半截竹管による押し引き文。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	勝坂	口縁部太さ3ミリの沈線を横位施文後、ペン先状工具により刺突列を等間隔に巡らす。	
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 金雲母	普通	—	—	阿玉台	口縁部ペン先状工具により2列の押し引き列を施文し、半月状の区画。幅15ミリの刻み列。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの砂 粒	不良	L	—	I群	太さ4ミリの沈線3条とその間の太さ6ミリの2条の隆線による弧状区画。撚糸。	
7	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	勝坂	口縁部太さ6ミリの隆線により縦位の区画。頸部2条の隆線を横位に貼り付け上部隆線には交互刺突を巡らす。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小 石、石英、金雲 母	普通	—	—	阿玉台	太さ5ミリの隆線とそれに沿う半截竹管により2条の波状沈線と2条の横位沈線を巡らす。	
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽 石粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	胴部幅10ミリの刻み列を横位施文する。	
10	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽 石粒	普通	—	—	阿玉台	口縁部隆線により二重の渦巻文様。頸部に太さ8ミリの隆線による楕円区画。	
11	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小 石	普通	—	—	勝坂	太さ7ミリの隆線により三角形の区画。上面半截竹管による爪形文。隆線に沿って刻み列を施文する。	

J-65出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
12	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒	普通	R		勝坂	撚糸地文。	
13	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		勝坂	口縁部無文帯。横位の整形。	
14	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1ミリの砂粒	不良	—		勝坂	口縁部無文帯。横位の整形。	
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	口縁部太さ3ミリの沈線による横位楕円区画。	
16	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	良	RL	横	加曾利E	口縁部太さ5ミリの沈線と隆線による楕円区画。	
17	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—		加曾利E	口縁部太さ10ミリの隆線とその下部には太さ20ミリの隆線を横位に貼りその上に2条の沈線を施文。	
18	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	口縁部太さ8ミリの隆線とそれに沿う両側の沈線による渦巻状区画。	
19	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁部太さ5ミリの沈線による弧状区画。	
20	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリの砂粒	良	—		加曾利E	口縁部太さ8ミリの沈線とその間に隆線による楕円区画。区画内に櫛状工具による条線を充填する。	
21	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリの砂粒、 角閃石	普通	—		加曾利E	口縁部太さ6ミリの隆線とそれに沿う太さ7ミリの沈線による横位渦巻文様。	
22	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅲ群	太さ5ミリの沈線による横位の区画。区画下から垂下する沈線による縦位の区画。	
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁部太さ10ミリの隆線とそれに沿う内側の太さ4ミリの沈線による横位楕円区画。	
24	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
25	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	不良	RL	縦	加曾利E	沈線による縦位区画。	
26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ3ミリの沈線による縦位区画。	
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	不良	—		加曾利E	頸部太さ10ミリの隆線により楕円区画文。区画内は、刺突を充填。胴部は、太さ5ミリの沈線により縦位の区画。刺突を充填する区画と磨り消し縄文の区画。	
28	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	幅8ミリの半截竹管により平行沈線を縦位施文する。	
29	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線による縦位の区画。	
30	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの2条の沈線を対にして縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
31	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線により縦位区画。	
32	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、角閃石	普通	LR	縦	加曾利E	胴部太さ3ミリの2条の沈線を対にして縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	
33	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
34	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	
35	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
36	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	口縁部太さ4ミリの沈線により横位の楕円区画。胴部は、同じ沈線により縦位の区画、磨り消し縄文により無文部を作る。	



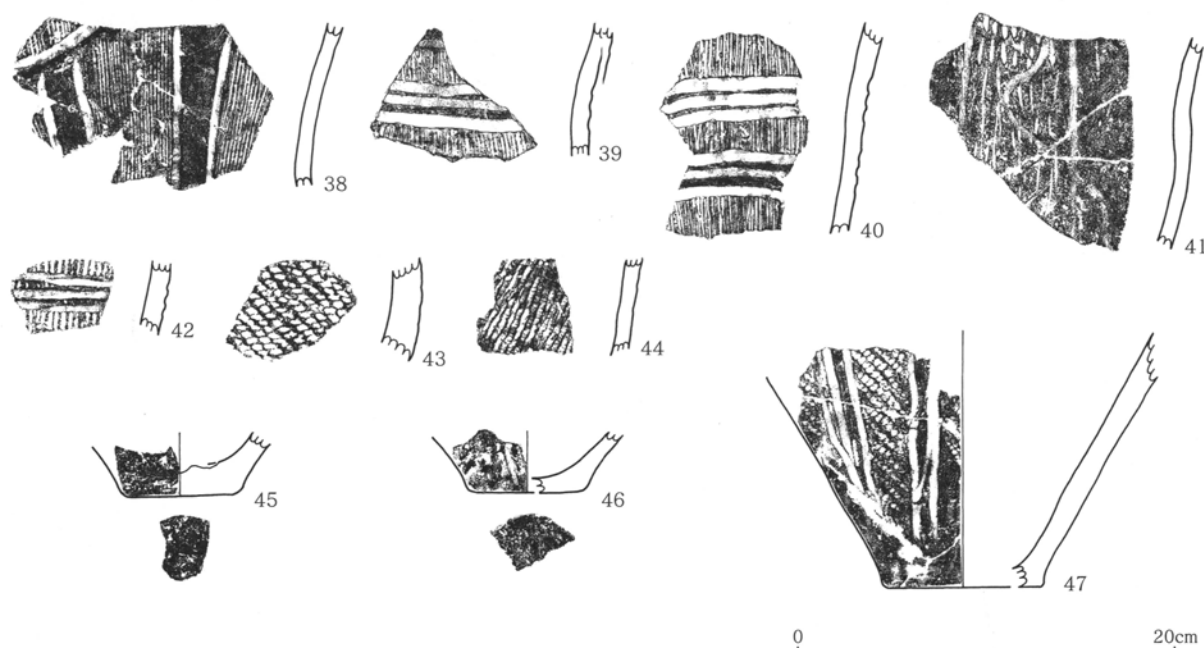
第91図 J-65出土土器 (1) 0 20cm



第92図 J-65出土土器(2)

0 20cm

第4章 出土遺物



第93図 J-65出土土器(3)

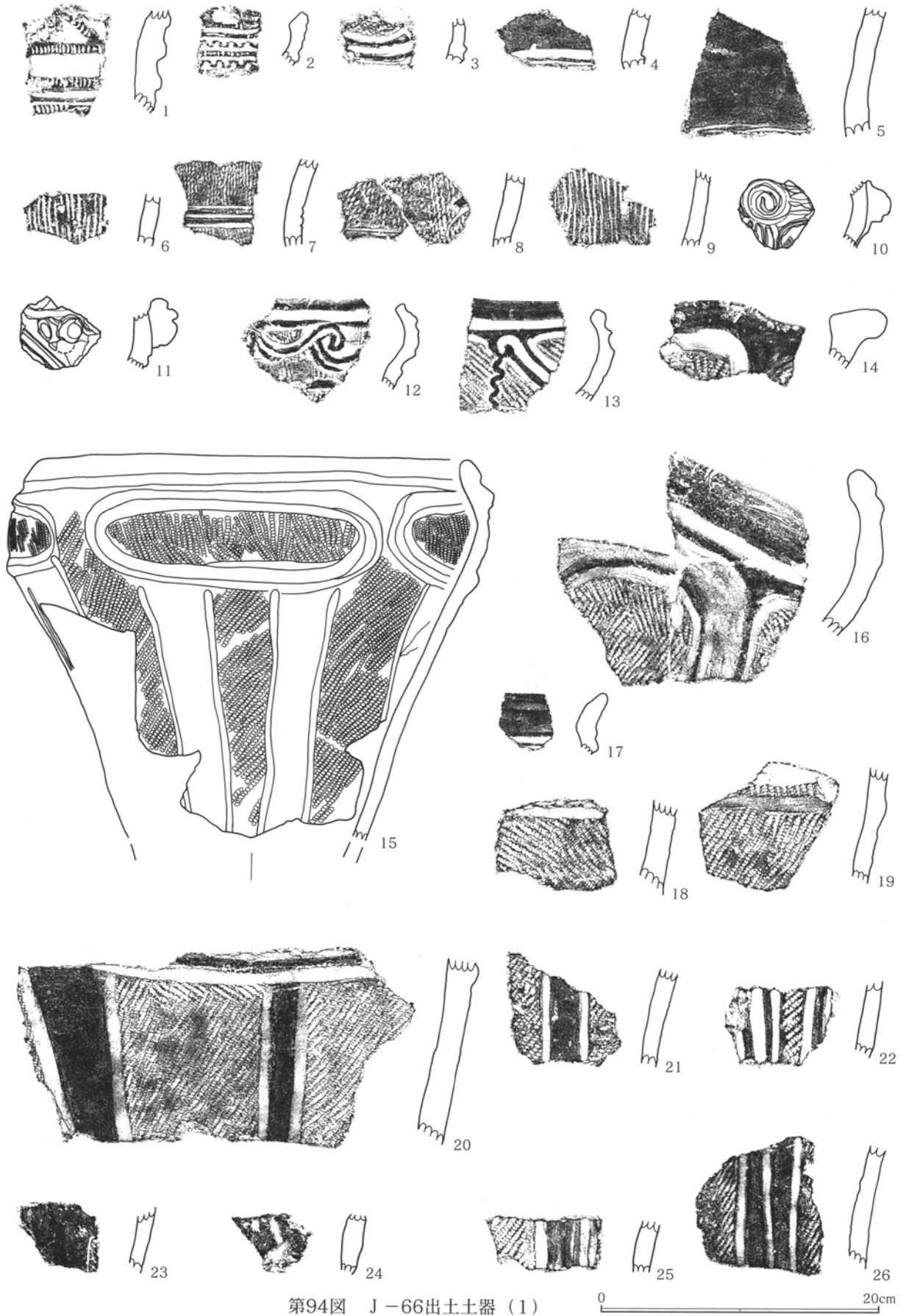
J-65出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
37	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの砂粒	良	RL	縦	加曾利E	胴部太さ3ミリの2条の沈線を対にして縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
38	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部太さ7ミリの沈線により横位楕円区画。区画内半截竹管による平行沈線を充填。胴部太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
39	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	—	—	加曾利E	太さ5ミリの沈線による横位区画。地文は、櫛状工具による条線文。	
40	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	加曾利E	櫛状工具による条線文施文後太さ7ミリの沈線を3条ずつ2組横位施文する。	
41	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	Ⅷ群4類	胴部太さ3ミリの沈線により縦位の波状沈線。縦位の刺突とヘラ状工具による縦位の条線。	
42	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	Ⅷ群4類	太さ3ミリの3条の沈線により横位区画。沈線間に刻み列を巡らす。	
43	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E	縄文施文。	
44	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL	縦			
45	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	外面整形。	
46	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	無文。	
47	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	胴下部太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	

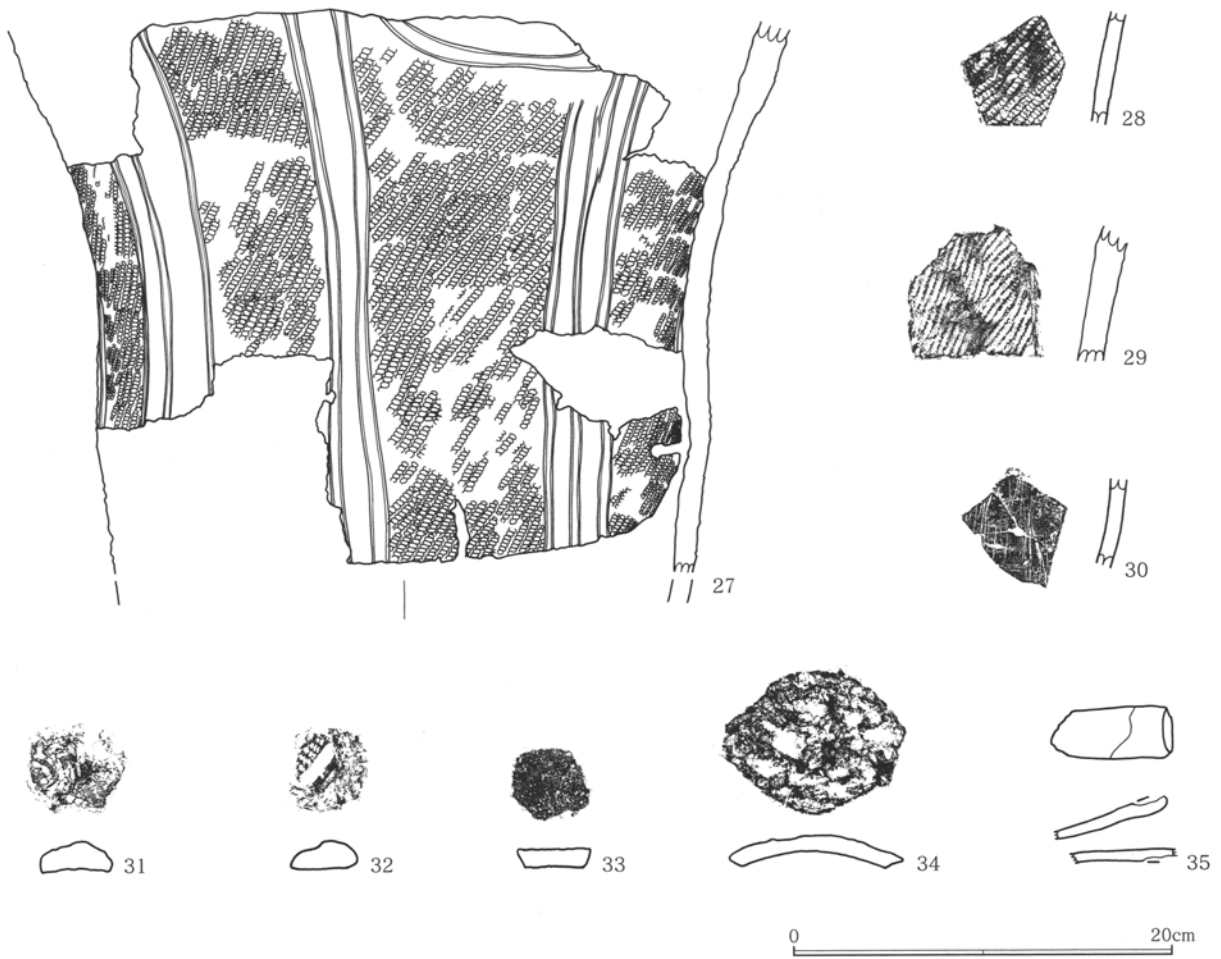


J-66出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	勝坂	太さ8~10ミリの隆線による横位の区画、三角形の区画を作る。	
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	I群	口縁部に交互刺突による連続「コ」の字文。	
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	—	加曾利E	隆線による弧線区画。	
4	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石、砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線が頸部に巡り、無文帯を区画する。	
5	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	頸部に沈線が巡り無文帯を作る。	
6	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	—	I群	撚糸。	
7	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	LR	—	I群	幅6ミリの平行沈線による胴部の文様区画。撚糸。	
8	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの小石	良	LR	—	I群	細い沈線で胴部を横位に区画。隆線による半円の区画。撚糸。	
9	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、白色粒	不良	LR	—	I群	撚糸。	
10	深鉢	口縁	暗赤褐	2.5YR3/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	—	I群	隆線による渦巻文様。楕円区画。	
11	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	I群	隆線による施文。口縁部に双円の突起。	
12	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	—	I群	太さ3~4ミリの隆線により「の」の文様を連結させ半円形状の区画を作る。頸部には隆線で横位の区画。撚糸。	
13	深鉢	口縁	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	良	RL	横	I群	口縁に太さ4ミリの沈線が巡る。太さ3~4ミリの隆線による半円状の区画と波状の垂線が施文される。	
14	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒多い	良	—	—	Ⅲ群1類	小波状口縁になる。口縁部に楕円区画。	
15	深鉢	口縁~胴部	黒褐	7.5YR3/2	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅲ群2類	太さ8ミリの隆・沈線により口縁部を楕円区画。胴部は太さ7ミリの沈線を垂下させ縦位の区画。磨り消し縄文により縄文施文部と無文部を交互にする。	ほぼ完形
16	深鉢	口縁	黄橙	10YR8/6	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦横	Ⅲ群2類	太さ10ミリの沈線が口縁部に巡る。太さ5~6ミリの隆線で楕円区画を作り区画内に縄文を充填する。	
17	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	—	—	Ⅲ群2類	口縁部に隆線で横位の区画。	
18	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	Ⅲ群2類	太さ12ミリの沈線で口縁部を区画。	
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅲ群2類	太さ12ミリの沈線で口縁部を区画。	
20	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦横	Ⅲ群2類	太さ7~8ミリの沈線により口縁部区画。胴部は、2条対になる沈線で縦位の区画。	
21	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線により2条対になる沈線で縦位の区画。	
22	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ6~7ミリの沈線による縦位の区画。	
23	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線による区画。区画内に縄文を充填。	
24	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	沈線による縦位の区画。	
25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ7~8ミリの沈線で無文帯を作り、縦位の区画。	



第94图 J-66出土土器(1)



第95図 J-66出土土器(2)

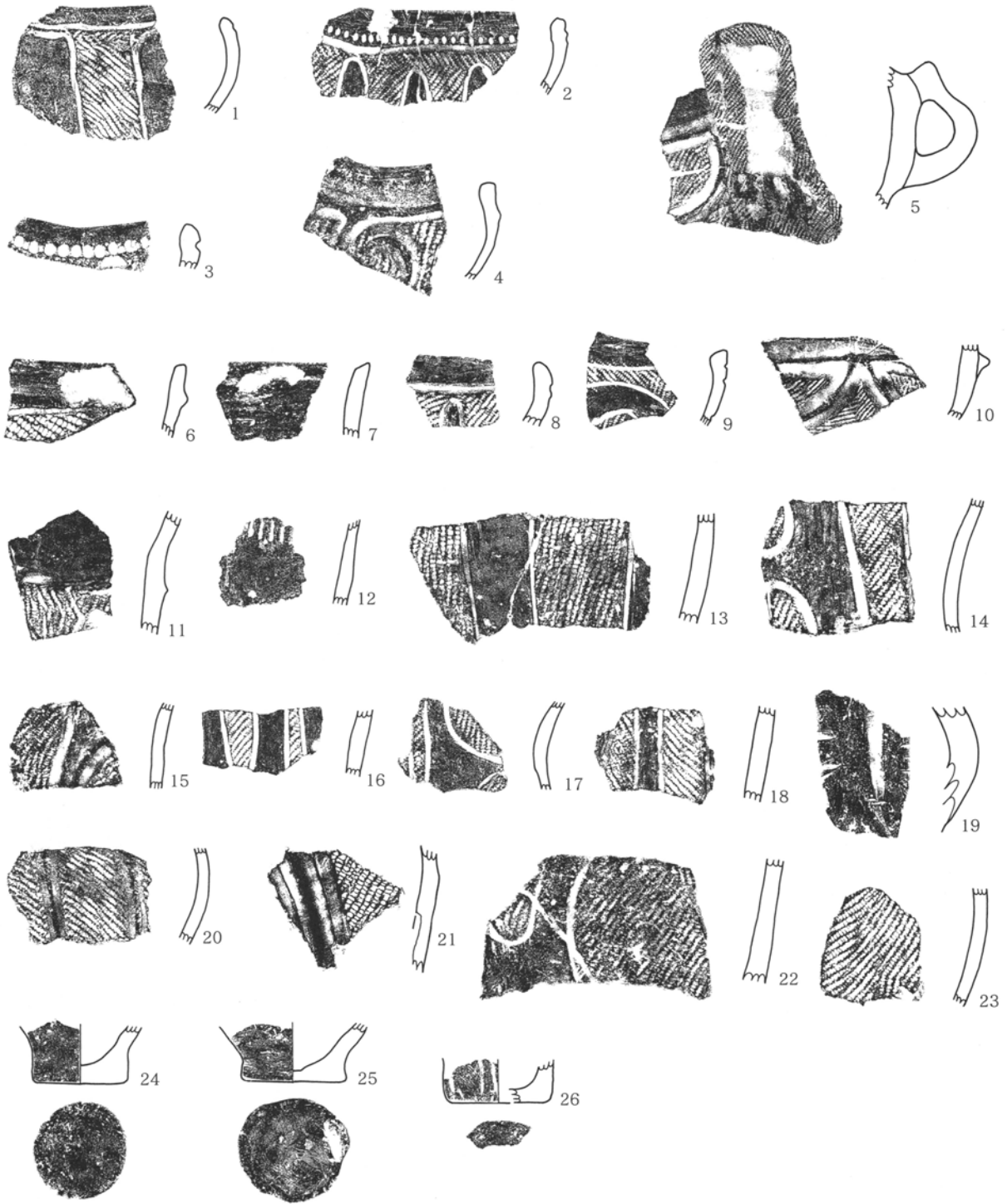
J-66出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
26	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線3条で無文帯を作り、縦位の区画。	
27	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	IV群2類	口縁部は隆・沈線による楕円区画。胴部は太さ6~8ミリの沈線で縦位の区画。磨り消し縄文により縄文施文部と無文部を交互に作る。	口縁・底部欠損
28	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	縄文を縦位に带状に施文。	
29	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利E	沈線による縦位の区画。縄文を斜位方向に带状に施文。	
30	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/2	細かい砂粒	良	-	-	加曾利E	細い沈線で縦位に乱雑に施文。	
31	土製円盤		にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	-	-		縁辺を打ち欠いて円盤に加工している。	
32	土製円盤		明黄褐	10YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	良	-	-		縁辺を打ち欠いて円盤に加工している。	
33	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	良	-	-		縁辺を打ち欠いて円盤に加工している。	
34	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの白色粒多い	良	-	-		縁辺を打ち欠いて円盤に加工している。	
35	注口	注口	黄褐	2.5Y5/3	細かい砂粒	良	-	-	堀之内	無文。	

第4章 出土遺物

J-67出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	不良	LR	縦 横	Ⅵ群1類	口縁部太さ3ミリの沈線による横位区画。頸部から胴部に方形区画。	
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦 横	Ⅵ群1類	口縁部ベン先状工具による刺突列。その下部に太さ3ミリの沈線により横位施文。胴部太さ2ミリの沈線により波状区画。	
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、角 閃石	普通	—		Ⅵ群1類	口縁部φ5ミリの棒状工具による刺突列。太さ4ミリの沈線による「∩」状の文様。	
4	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽 石粒、角閃石	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	口縁部波状。太さ5ミリの隆線により横位区画。区画から連続して渦巻状文様を構成する。	
5	両耳壺	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦 横	Ⅵ群2類	口縁部無文帯横位の整形。頸部太さ3ミリの隆線による横位半月状の区画と幅50ミリの橋状把手。	橋状把手
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの 砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅵ群1類	口縁部無文帯。横位の整形。頸部太さ7ミリの隆線による横位区画。	
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽 石粒、角閃石	普通	—		Ⅵ群1類	口縁部無文帯。横位の整形。	
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	口縁部無文帯に太さ3ミリの沈線が巡る。胴部は「∩」状の文様。	
9	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽 石粒	良	RL	縦 横	Ⅵ群1類	口縁波状。太さ2ミリの沈線により横位区画・楕円区画。磨り消し縄文。	
10	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	LR	縦 横	Ⅵ群3類	口縁部太さ3ミリの隆線による横位区画と弧線状区画。	舌状突起 赤色塗彩
11	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽 石粒	普通	LR	縦 斜	Ⅵ群1類	口縁部無文帯横位の整形。頸部太さ4ミリの隆線による横位の区画。	
12	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの 砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	幅12ミリの刻み列。	
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
14	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線による縦位の区画と「U」「∩」状文様。	
15	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦 斜	加曾利E	胴部太さ7ミリの沈線とその間の隆起線による重弧状区画。	
16	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	胴部太さ2ミリの沈線による縦位の区画。0段多条。	
17	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ3ミリの沈線による縦位の区画と「U」「∩」状の文様。	
18	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。0段多条。	
19	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、角 閃石	普通	—		加曾利E	幅40ミリの橋状把手。中央部に太さ7ミリの沈線。	橋状把手
20	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1～3ミリの 砂粒、小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの断面三角の隆線による縦位の区画。	
21	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの断面三角の隆線による重弧状区画。	
22	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による楕円区画と「∩」状の文様。	
23	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦 斜	加曾利E	縄文を带状に施文。	
24	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの 砂粒、小石	普通	—		加曾利E	無文。	
25	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	無文。	
26	深鉢	底部	灰白	5Y7/2	φ1～3ミリの小 石、白色粒多い	普通	LR		加曾利E	太さ1ミリの沈線による縦位の区画。	



第96圖 J-67出土土器(1)

第4章 出土遺物

J-68出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	灰白	7.5YR8/2	φ1～2ミリの小石多い	不良	—		Ⅶ群4類	櫛状工具による条線。	底部欠損
2	深鉢	胴部	浅黄橙・暗褐	7.5YR8/4 7.5YR3/3	φ1～3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	Ⅲ群2類	太さ7～8ミリの隆線2条を対にして、口縁部に楕円区画を作る。頸部のくびれ部には櫛状工具による波状文が施文される。	口縁・底部欠損
3	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	5YR7/3	φ1～3ミリの小石、白色粒多い	普通	RL	縦横	Ⅵ群1類	口縁に隆線による楕円区画。太さ4ミリの沈線による「U」「∩」状の文様施文。区画内は磨り消し縄文による無文帯。	
4	深鉢	ほぼ完形	赤褐	2.5YR4/6	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	—		Ⅳ群	口縁部に太さ1ミリの沈線が巡る。器面は、縦位の整形。	
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅳ群	太さ3～5ミリの断面三角の隆線による楕円区画と胴部磨り消し縄文による「∩」状文様。	
6	両耳壺	口縁～胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	Ⅶ群2類	頸部に低い隆線が巡り口縁無文帯を区画する。胴部は、縄文施文。	橋状把手を区画する。胴部は、縄文施文。橋状把手が一对付けられる。
7	深鉢	胴部～底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群3類	断面三角の太さ8ミリの隆線による縦位の区画。	
8	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1～2ミリの小石、黒色粒	良	RL	横縦	Ⅵ群1類	太さ5ミリの断面三角の隆線による楕円区画文様。隆帯間に幅広い磨り消し縄文による無文帯を作る。	
9	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	良	RL	横縦	Ⅲ群2類	太さ6～8ミリの沈線で楕円区画を作る。口縁文様帯から胴部に縦位の沈線が施文される。	
10	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石、白色粒、雲母	普通	LR		Ⅲ群1類	太さ6～8ミリの沈線による渦巻文。	赤色塗彩
11	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	φ1～3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦横	Ⅲ群	太さ6ミリの沈線による楕円区画。	
12	深鉢	口縁～胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1～3ミリの小石	良	RL		Ⅲ群2類	波状口縁で、頂部に突起が付く。太さ6ミリの沈線で口縁部楕円区画。胴部は、太さ4ミリの沈線で縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
13	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL		Ⅲ群1類	口縁部波状になり舌状の突起。太さ4～6ミリの沈線で楕円区画。	舌状突起21と同一個体
14	深鉢	口縁～胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい白色粒	良	RL	縦横	Ⅲ群	隆・沈線による口縁部楕円区画。胴部太さ6ミリの沈線による蔵手文。	
15	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	—		Ⅲ群	浅く太い沈線による文様施文。	舌状突起
16	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良	LR	横	Ⅲ群	太さ6ミリの沈線による楕円文様区画。	
17	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅲ群	口縁に太さ12ミリの沈線で文様区画。	
18	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ6～8ミリの沈線による楕円区画。胴部は、縦位の区画。	
19	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい白色粒	良	RL	横	Ⅲ群	口縁に太さ7ミリの沈線による文様区画。	
20	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1～2ミリの小石、白色粒	普通	RL		Ⅲ群	太さ4～8ミリの沈線による渦巻文。	

J-68出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
21	深鉢	口縁	オリーブ黒	10Y3/1	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL		Ⅲ群1類	太さ6~10ミリの沈線で楕円文様を描く。突起部には「の」状の文様。	舌状突起13と同一個体
22	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL		加曾利E	太さ7~8ミリの隆線による楕円区画。区画内に縄文施文。	
23	深鉢	口縁~胴部	暗赤褐	5YR3/3	φ1~2ミリの小石	良	—		Ⅶ群4類	太さ8ミリの沈線が口縁部に巡る。その下位にφ8ミリの円錐状になる刺突を2列加え、沈線3条を鋸歯状に施文。地文は、条線。	
24	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	砂粒多い	普通	RL		加曾利E	太さ5~8ミリの沈線による楕円区画。	
25	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石、白色粒	普通	RL		加曾利E	波状口縁。隆線と沈線による楕円区画。	
26	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	RL		加曾利E	口縁部太さ6ミリの断面三角の隆線が巡り、口縁部を区画する。横位の隆線から縦位の隆線が接続する。	
27	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL		Ⅵ群3類	太さ10ミリの隆線が口縁部に巡る。胴部は、隆線による楕円区画。	
28	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群3類	口縁部に断面三角で太さ5ミリの隆線が巡り、区画する。	
29	壺	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	普通	—		Ⅵ群3類	幅2ミリの平行沈線を数本重ねて弧線を引いている。把手が付けられるが欠損している。	
30	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅵ群1類	太さ6ミリの隆線と沈線で口縁部を区画する。胴部には、太さ5ミリの沈線が巡る。	
31	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの小石、白色粒	普通	RL	斜	Ⅵ群3類	太さ10ミリの断面三角の隆線が口縁部に巡る。胴部は、隆線2条を対にして弧線が施文される。	
32	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL		Ⅵ群3類	太さ10ミリの沈線が口縁部に巡る。胴部には、断面三角の太さ5ミリの隆線による楕円区画。	
33	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	細かい白色粒	不良	—		加曾利E	太さ8ミリの沈線が口縁部に巡る。	
34	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	白色粒	良	RL		Ⅵ群3類	太さ6~10ミリの沈線で楕円文様を描く。	
35	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒多い	不良	RL		Ⅵ群3類	口縁部に隆線が巡る。楕円区画の文様を描く。	
36	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL		Ⅵ群3類	口縁部に太さ5ミリの断面三角の隆線が巡り、無文帯を区画する。	
37	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒、黄色粒	良	RL	縦	Ⅵ群1類	波状口縁の頂部から粘土紐による突起が貼り付けられる。口縁部には、刺突列2条が巡る。	
38	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群1類	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡る。同じ沈線で楕円区画。	
39	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR2/2	細かい白色粒	良	RL		Ⅵ群1類	口縁に2条の刺突列を持つ。太さ2ミリの沈線による「∩」状の文様。	
40	浅鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい白色粒	普通	—		加曾利E	外面横位の整形。	
41	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	外面横方向の整形。	
42	浅鉢	口縁	橙	5YR6/8	細かい白色粒	良	—		加曾利E	外面横方向の整形。	
43	浅鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	不良	—		加曾利E	外面横方向の整形。	
44	浅鉢	口縁	橙	5YR6/8	φ1~3ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	内外面横位のミガキ整形。	
45	浅鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの小石、白色粒	普通	—		加曾利E	内外面横位の整形。	
46	浅鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	不良	—		加曾利E	無文。横位の整形。	

第4章 出土遺物

J-68出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
47	両耳壺	口縁	黄澄	10YR8/6	φ1~2ミリの小石	良	RL		Ⅵ群2類	太さ10ミリの沈線による渦巻文が口縁に沿って施文される。胴部は、「∩」状の文様。把手には「J」状の沈線文。	橋状把手
48	両耳壺	把手	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL		Ⅵ群2類	把手部に「J」状に太く浅い沈線による文様。	橋状把手
49	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒、小石	不良	—		Ⅷ群4類	浅い条線が波状に施文される。	
50	深鉢	突起	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒多い	良	—		Ⅲ群	表面に浅い沈線による文様施文。	
51	深鉢	突起	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	不良	LR		Ⅲ群2類	波状口縁突起。カップ状に凹む。	
52	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石、黄色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。「U」「∩」状の文様。磨り消し縄文による無文帯。	
53	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ5~7ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文部には、沈線で「J」の文様が施文される。	
54	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの浅い沈線で縦位に区画。	
55	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	白色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6~8ミリの隆線2条を対にして縦位区画を作る。	
56	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの断面三角の隆線による縦位の区画。	
57	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの小石	良			加曽利E	太さ3~4ミリの断面三角の隆線2条を対にして縦位の区画。	
58	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6~8ミリの浅い沈線で縦位の区画。	
59	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの隆線が縦位に施文。	
60	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ15ミリの粘土紐を貼り付け縦位の区画を作る。	
61	深鉢	胴部	灰白	10YR7/1	細かい白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの隆線が2条対になり、縦位の区画。	
62	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒多い	不良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの断面三角の隆線が横位に巡る。	
63	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y5/1	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL		加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
64	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	不良	LR		加曽利E	太さ3ミリの沈線2条を対にして縦位の区画をする。	
65	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	白色粒多い	不良	RLR	縦	加曽利E	縄文原体は、複節になる。太さ5~6ミリの沈線3条による縦位の区画。	
66	深鉢	胴部	黄褐	10YR5/6	細かい砂粒	良	RL		加曽利E	太い隆線で横位の区画。	
67	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線2本を対にして縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。縄文原体は、前段で太さの異なるものを使用。	
68	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい白色粒多い	不良	—		加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。地文条線。	
69	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒多い	不良	—		加曽利E	細い沈線による条線が縦位に施文される。	
70	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	隆線2条を対にして縦位の区画。	
71	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位の区画。	
72	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石、砂粒	普通	—		加曽利E	無文。外面縦位の整形。	
73	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒	良	—		Ⅷ群4類	太さ5~6ミリの沈線3条が横位に巡る。地文条線。	
74	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石	普通	—		Ⅷ群2類	幅10ミリに6条の条線の入る工具で波状に施文。	



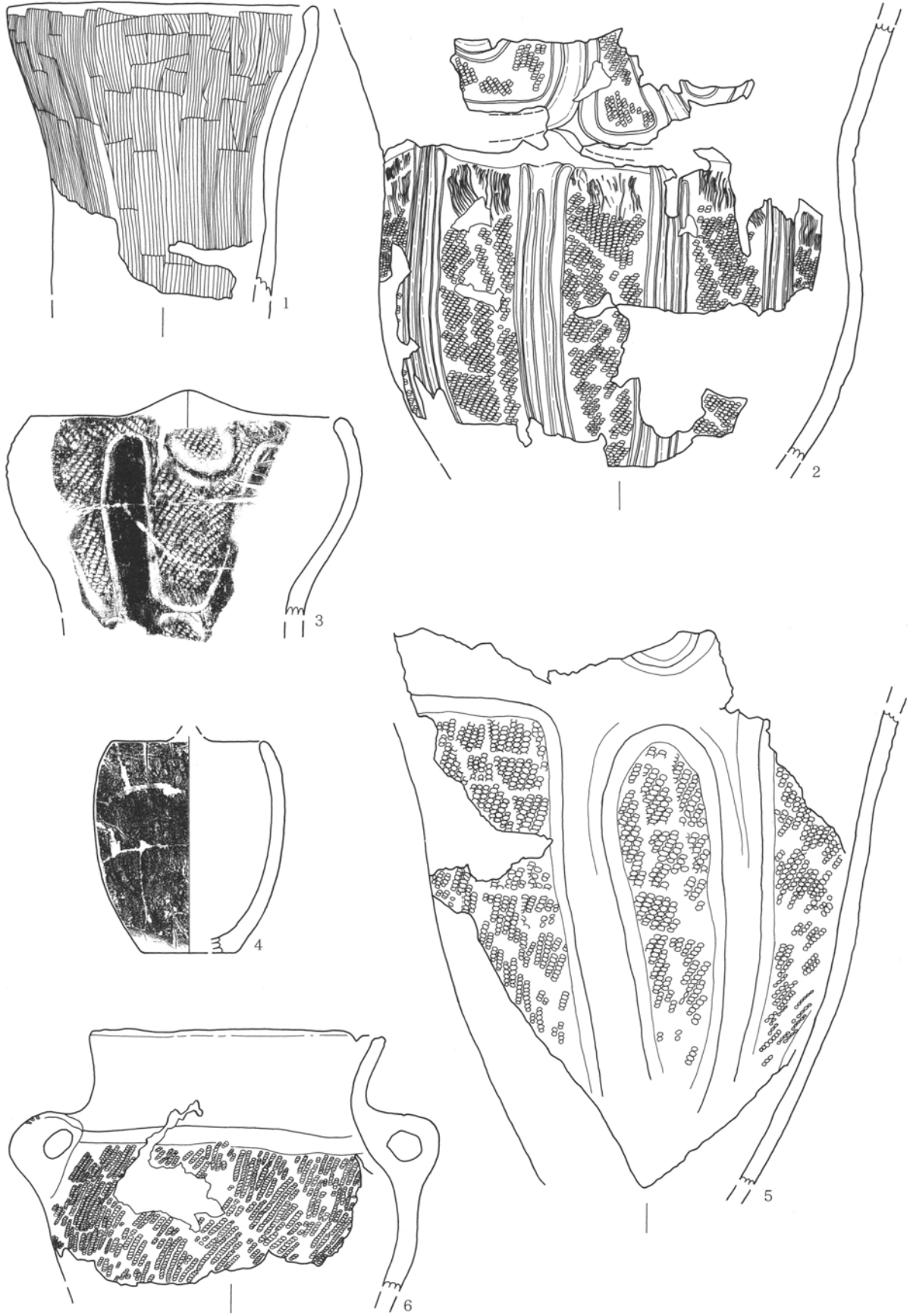
J-68出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
75	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	断面三角の太さ8ミリの隆線による縦位弧線文様。	
76	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ7~8ミリの浅い沈線による縦位の区画。	
77	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	縄文を無文帯と交互に帯状に施文。	
78	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	不良			加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	
79	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良			加曾利E	太さ3ミリの浅い沈線による縦位の区画。	
80	深鉢	底部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	不良			加曾利E	太さ1~2ミリの沈線による縦位の区画。	
81	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による弧線。	
82	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~5ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ4ミリの沈線で弧線・垂線を引き、磨り消し縄文による文様施文。	
83	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ3ミリの沈線による曲線・弧線の区画。	
84	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	不良	RL		Ⅵ群1類	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	
85	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	普通	RL	横	Ⅵ群1類	太さ4ミリの沈線による楕円区画。無文部は、磨り消し縄文。	
86	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ4ミリの沈線による楕円区画。無文部は、縦位の整形による磨り消し縄文。	
87	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、黄色粒	良	LR	縦	Ⅵ群1類	太さ3ミリの沈線による文様区画。「U」「∩」状の文様。磨り消し縄文による無文帯。	
88	深鉢	口縁	黄褐	2.5Y5/4	φ1~3ミリの小石、雲母	良	—		阿玉台	口縁部に帯状に粘土紐を貼り付け突起を作る。接合痕が残る。	
89	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	白色粒多い	良	—		阿玉台	粘土紐による「X」字状の貼り付け。これに沿ってペン先状刺突。	
90	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通			勝坂	太い隆線が弧状に付けられそれに沿って、幅10ミリの刻み列と、幅3ミリの結節沈線が2条施文される。	
91	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石多い、雲母	良	—		阿玉台	太い隆線に刻みを加える。	
92	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1ミリの黄色粒	良	—		阿玉台	太さ4ミリの押し引き沈線により、渦巻文様を描く。	
93	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	太さ2ミリの押し引きによる結節沈線が2条対になって施文される。	
94	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良			阿玉台	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。太さ1ミリの細い結節沈線。	
95	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	白色粒、金雲母	良	—		阿玉台	幅8ミリの爪形文による横位施文。	
96	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	太さ5~6ミリの隆線に押圧爪形文が横位に施文。	
97	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	—		阿玉台	大波状口縁突起部。側縁に太さ3~6ミリの沈線による「J」の文様。	
98	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	—		勝坂	地文に太さ1ミリの沈線による斜線。粘土紐貼り付けによる渦巻文。	
99	深鉢	胴部	黒褐	5YR2/1	細かい砂粒	良	—		勝坂	太さ1~2ミリの沈線による波状文。	
100	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	φ1~2ミリの小石	普通	RL		勝坂	太さ8~12ミリの粘土紐を貼り付ける。撚糸。	
101	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	RL		阿玉台	幅7ミリの爪形文が隆線に沿って施文される。	

第4章 出土遺物

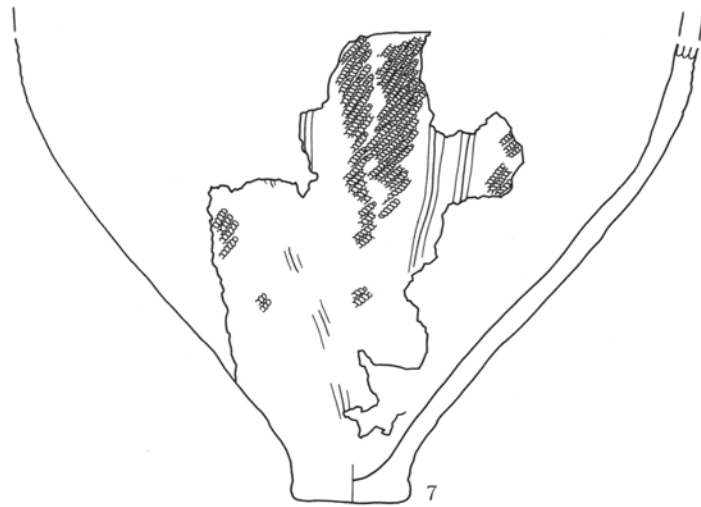
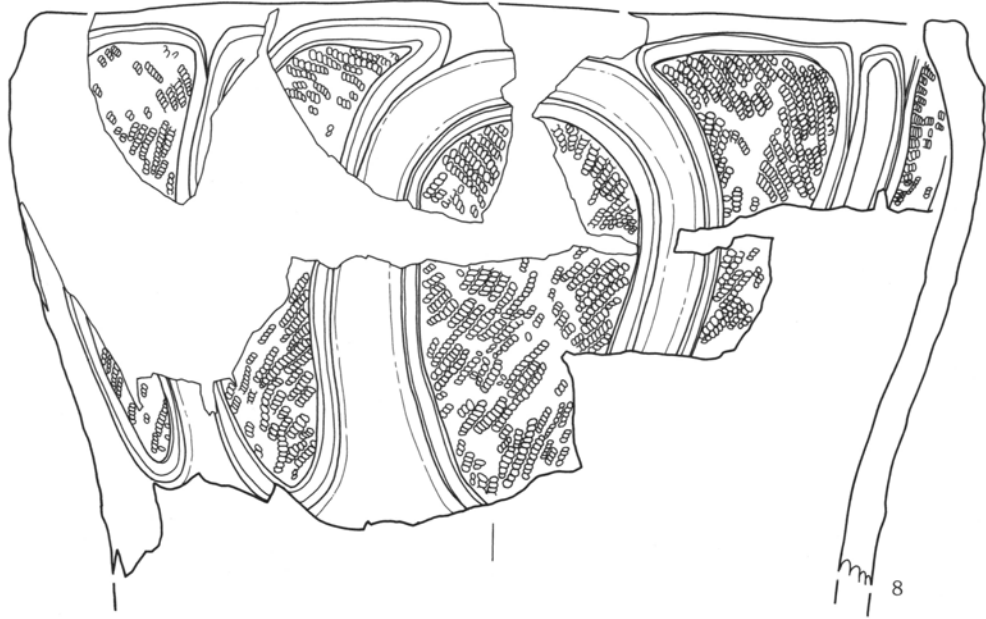
J-68出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
102	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	白色粒	普通	—		加曾利E	浅い沈線による施文。	
103	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	細かい白色粒	良	—		加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文される。	
104	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒	良	—		I群	口縁部に太さ5ミリの隆線が巡る。その下位に幅4ミリの平行沈線と交互刺突による「コ」の字文が施文される。	
105	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒	良	—		I群	幅5ミリの平行沈線と交互刺突による連続「コ」の字文。	
106	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	LR		I群	波状口縁に沿って粘土紐が貼り付けられる。頭部には、太さ4ミリの沈線が巡る。燃糸。	
107	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	白色粒	良	RL		加曾利E	太さ6ミリの隆線で弧線を作る。隆線上にも縄文が施文される。隆線に沿って幅6ミリの平行沈線施文。	
108	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL		勝坂	幅5ミリの平行沈線による縦位の区画。間に太さ2ミリの沈線が波状に施文。	
109	深鉢	突起	淡黄	2.5Y8/3	白色粒	良	—		加曾利E	渦巻状になる突起。	
110	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒多い	良			加曾利E	無文。外面縦位の整形。	
111	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	外面縦位の整形。	
112	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	浅い沈線2条で縦位の区画。	
113	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~5ミリの白色粒多い、金雲母	良			阿玉台	無文。外面横位の整形。	
114	深鉢	底部	黄橙	10YR8/6	φ1~3ミリの小石、白色粒多い	良			加曾利E	無文。外面縦位の整形。	
115	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通			加曾利E	無文。外面ミガキ整形。	
116	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通			加曾利E	無文。外面横位のミガキ整形。	
117	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの小石、白色粒多い	不良			加曾利E	無文。外面縦位の整形。	
118	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	良			加曾利E	外面縦位の整形。	
119	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良			加曾利E	無文。外面縦位の整形。	
120	深鉢	胴部~底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ2ミリの沈線で縦位の区画。	
121	深鉢	胴部~底部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。	
122	深鉢	胴部~底部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	R		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
123	浅鉢	完形	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒	普通	—			浅鉢形のミニチュア土器。外面無文。	ミニチュア土器
124	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	底部の縁を打ち欠いて土製円盤に成形している。	
125	土製円盤		橙	5YR6/6	白色粒、金雲母	良				外縁を磨いて成形している。	

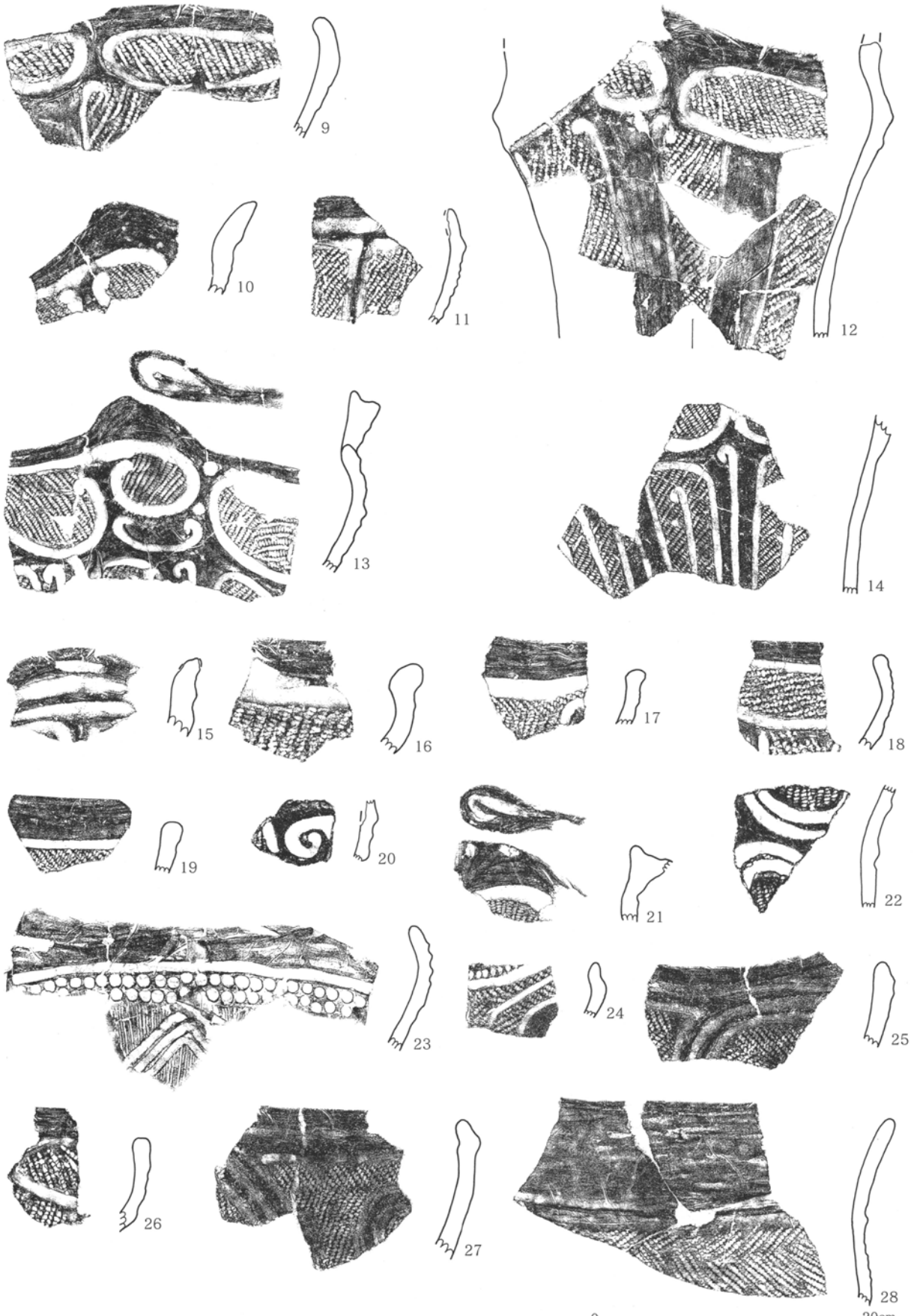


第97图 J-68出土土器 (1)

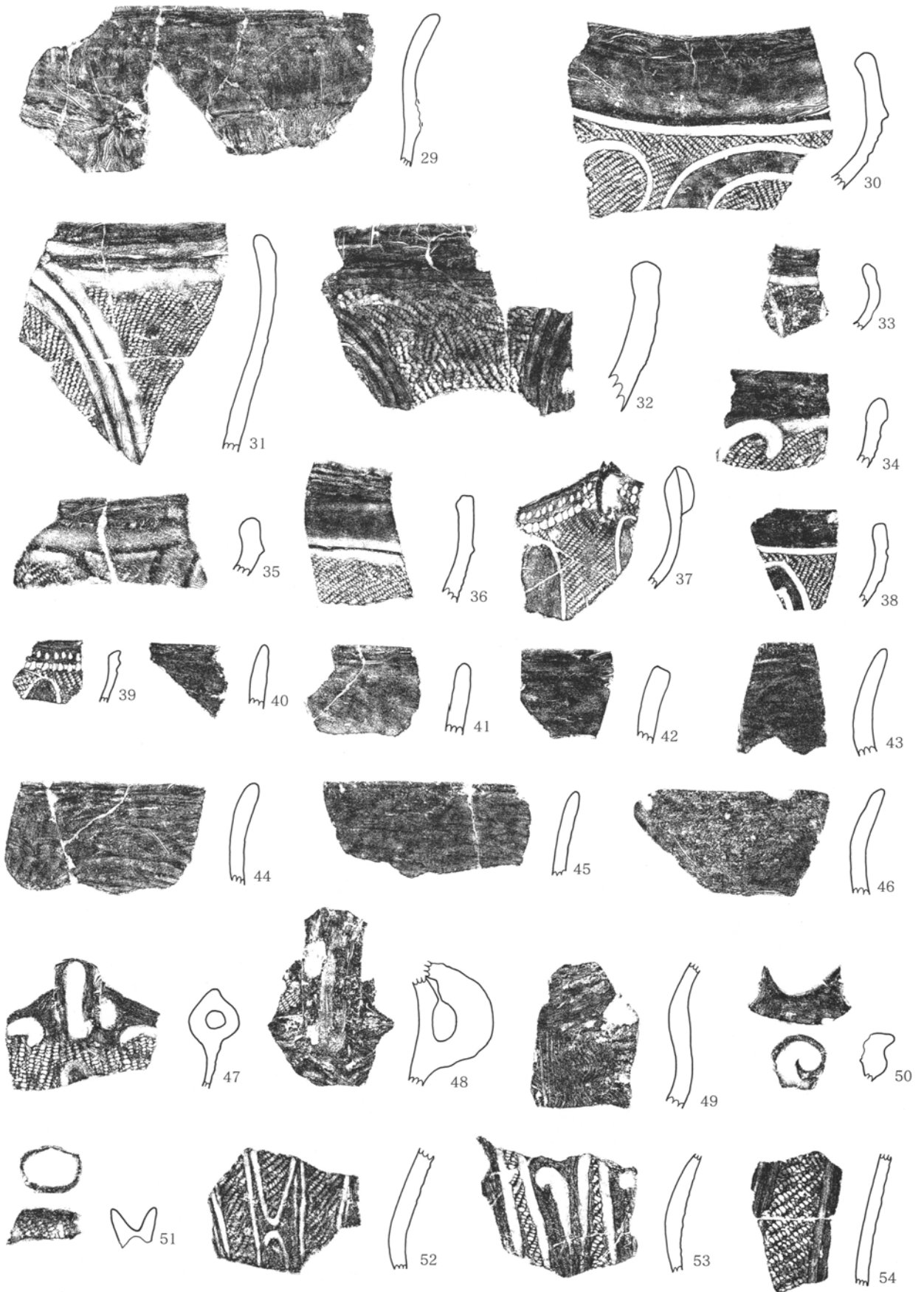
0 20cm



第98図 J-68出土土器(2) 0 20cm

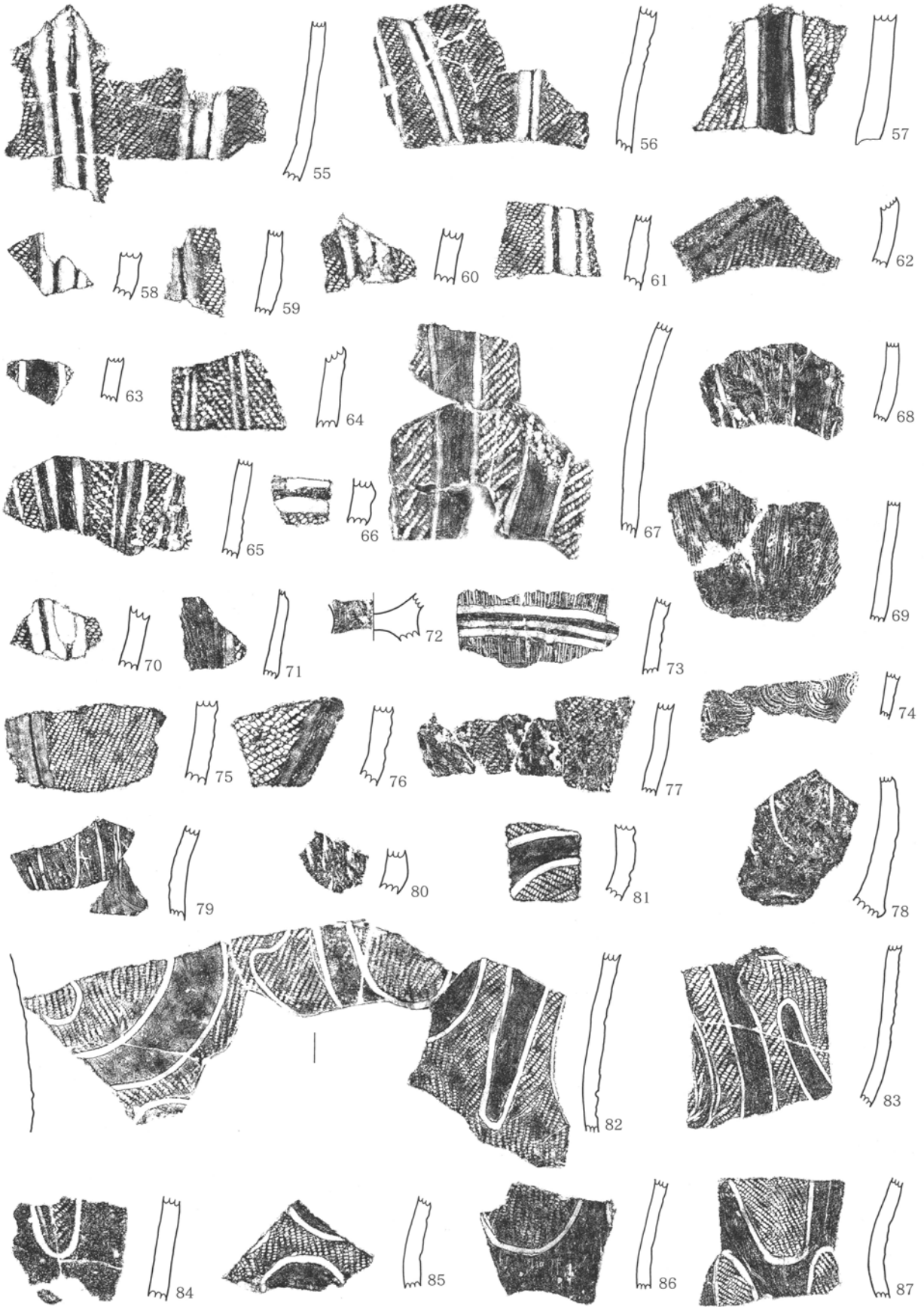


第99圖 J-68出土土器(3)



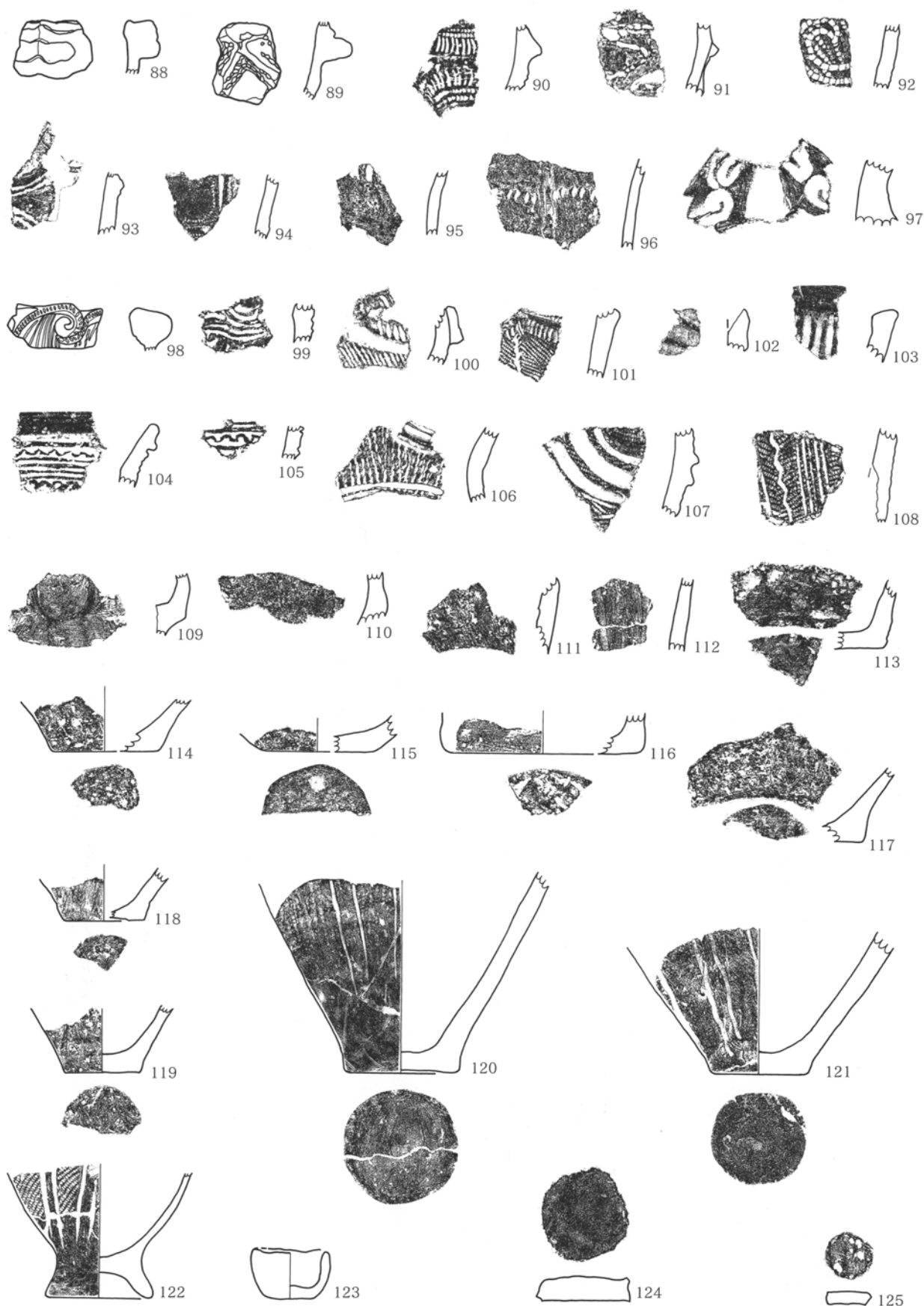
第100図 J-68出土土器(4)

0 20cm



第101圖 J-68出土土器 (5)

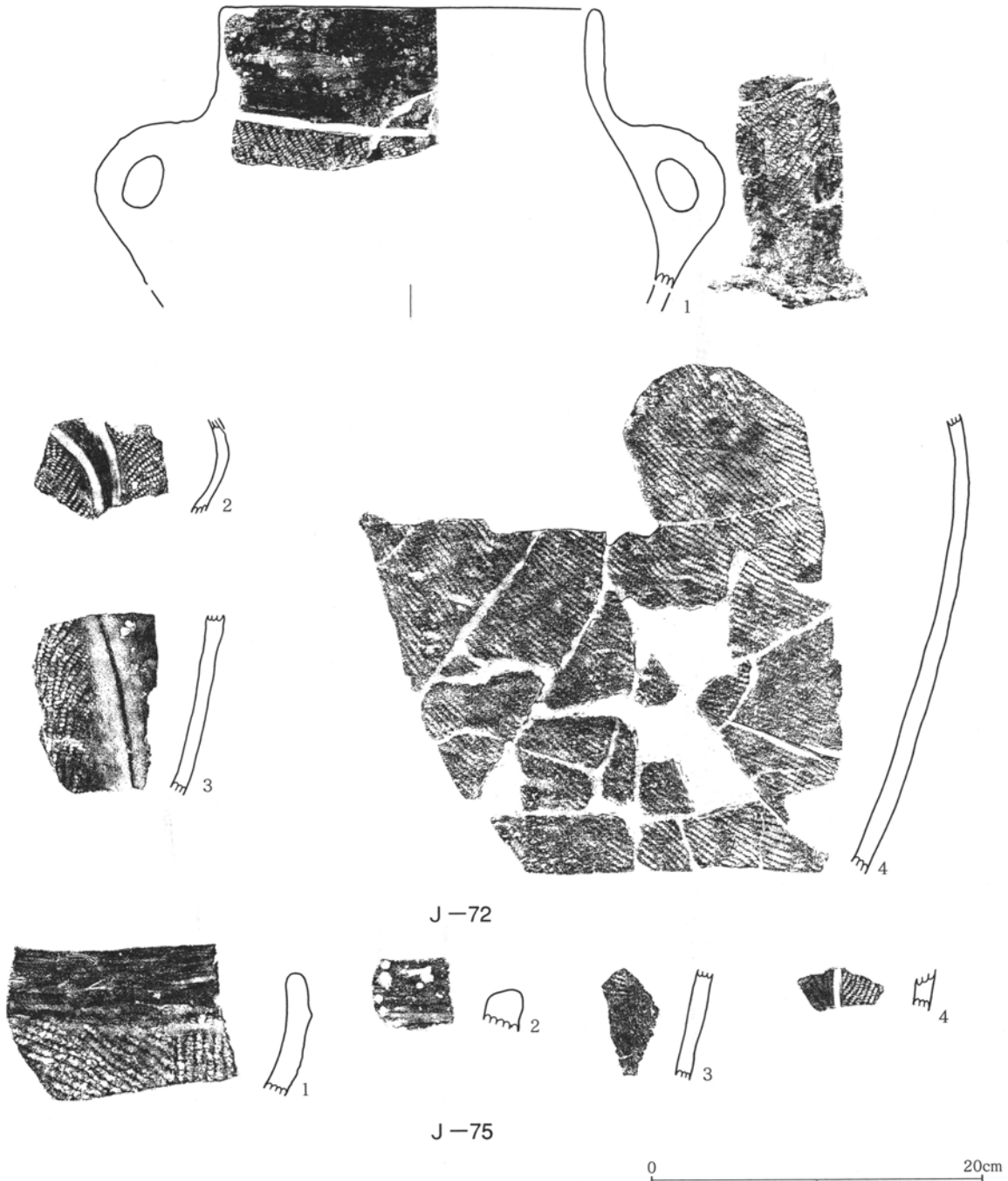
0 20cm



第102图 J-68出土土器(6)

0 20cm

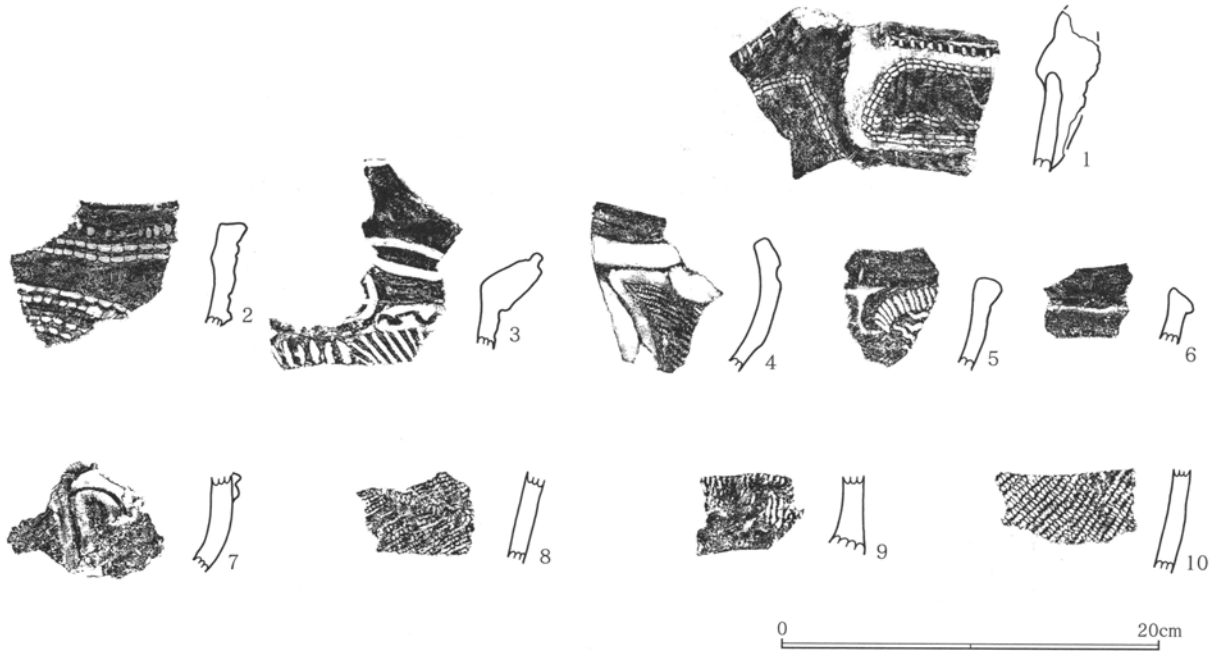




第103図 J-72・75出土土器

J-72出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	両耳壺	口縁～胸部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒多い	普通	RL	横	Ⅶ群2類	太さ5ミリの沈線が頸部に巡り無文帯と区画する。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群1類	太さ5ミリの沈線による重弧状の文様。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群3類	太さ3ミリの断面三角の隆線による縦位、弧状区画。	
4	両耳壺	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1～2ミリの砂粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群3類	縄文施文。	



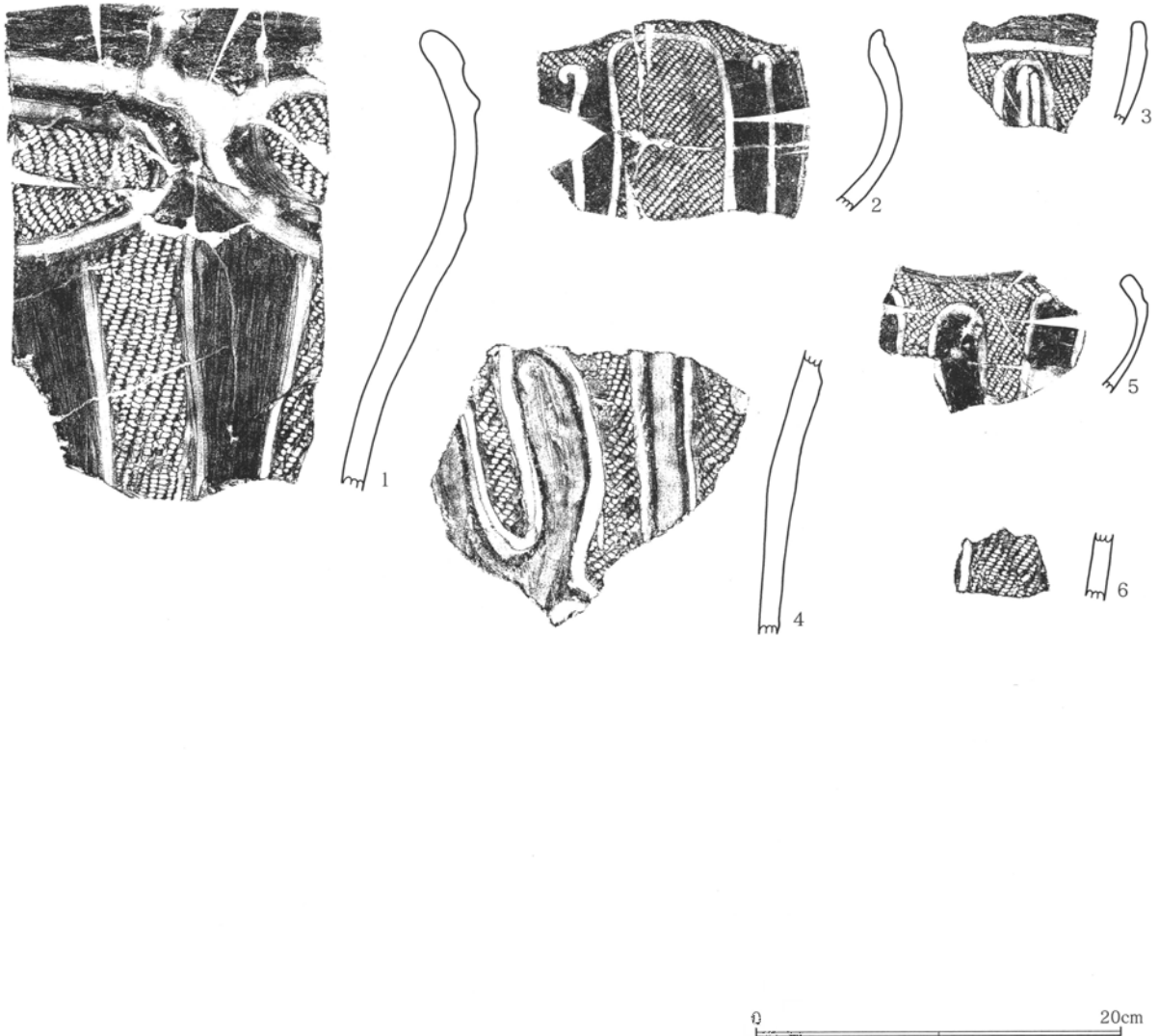
第104図 J-83出土土器

J-75出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦斜	VI群3類	波状口縁。頸部に太さ5ミリの隆起線による口縁部無文帯。無文帯は、横位のナデ整形。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通			VI群3類	波状口縁。頸部に太さ5ミリの隆起線により口縁部無文帯を区画する。無文帯は、横位のナデ整形。	
3	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	胴部無文帯を縦位の整形。	
4	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	

J-83出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの小石	良	—		阿玉台	口唇部に刻み。口縁部には、突起とそれから続く隆線で方形区画。幅5ミリの半截竹管による押し引きの沈線施文。	
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~3ミリの白色粒	良	—		阿玉台	口唇部に刻み。幅6ミリの半截竹管による押し引きの波状文様。	
3	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	良	—		I群	大波状口縁。橋状把手くびれ部に、交互刺突による連続「コ」の字文。胴部下には太さ3ミリの沈線。	橋状把手
4	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	LR	横	VI群1類	断面三角の隆線による文様区画。	
5	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		勝坂	幅10ミリの爪形文と鋸歯文様。	
6	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	折り返し口縁。無文。	
7	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—		阿玉台	隆線により、弧線を描く。	
8	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	LR	横	前期末	付加条縄文の結束。	
9	深鉢	胴部~底部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E		
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E		



第105図 J-86出土土器

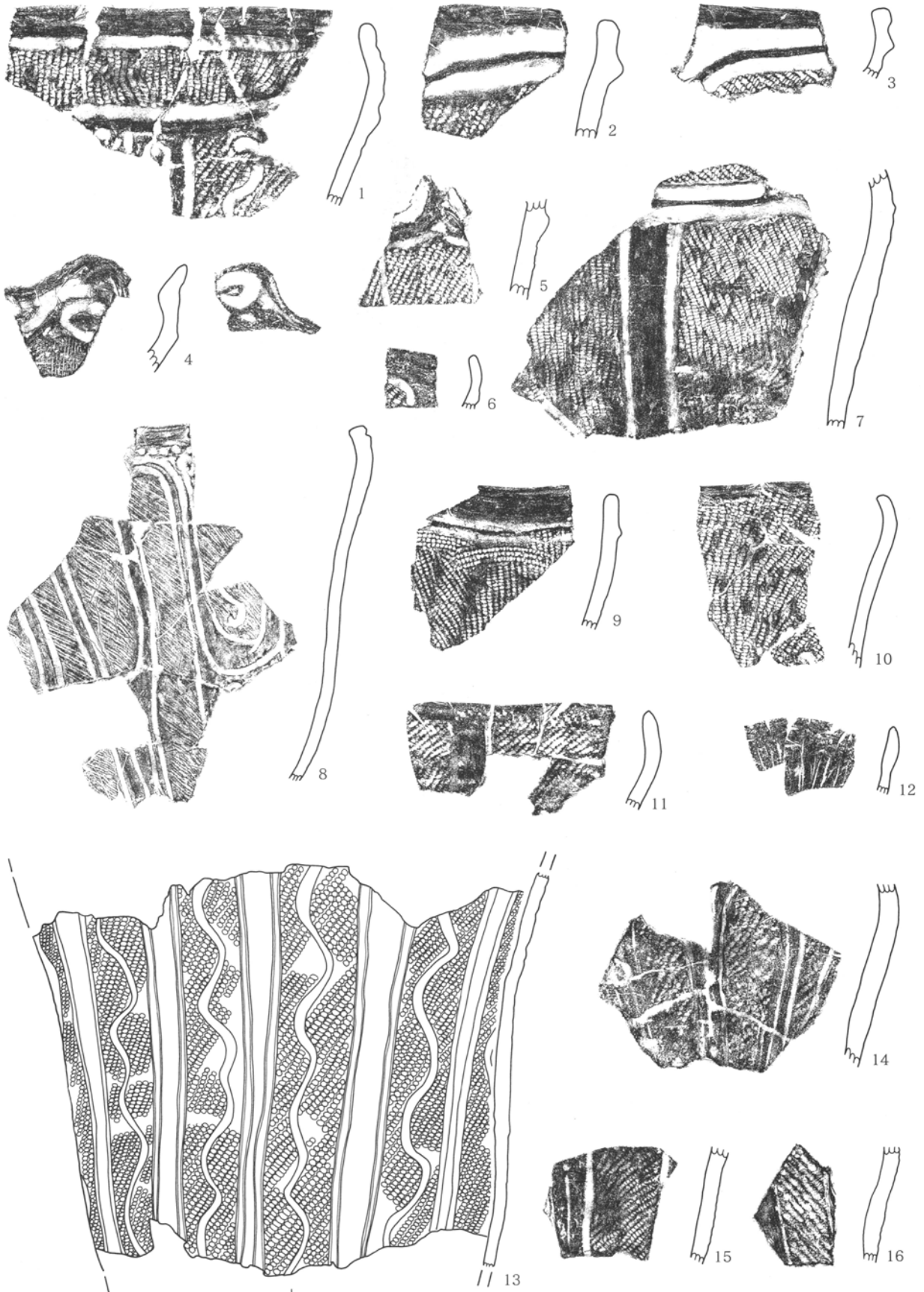
J-86出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横縦	Ⅲ群2類	口縁部は、太さ10～12ミリの隆・沈線による楕円区画。胴部は、口縁区画から6ミリの沈線による垂線で縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
2	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦横	Ⅳ群1類	太さ5ミリの沈線による楕円区画と蕨手文様。小波状口縁になる。	
3	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	Ⅳ群1類	小波状口縁。口縁部に太さ6ミリの沈線が巡り、無文帯を区画する。横位の沈線下には、「∩」状の文様。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅳ群1類	太さ5ミリの断面三角の隆線による曲線文様。	
5	深鉢	口縁～胴部	暗赤褐	5YR3/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	Ⅳ群1類	太さ4ミリの沈線による楕円区画。蕨手文様。区画内は、磨り消し縄文による無文帯。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線で縦位の区画。	

第4章 出土遺物

J-91出土土器観察表

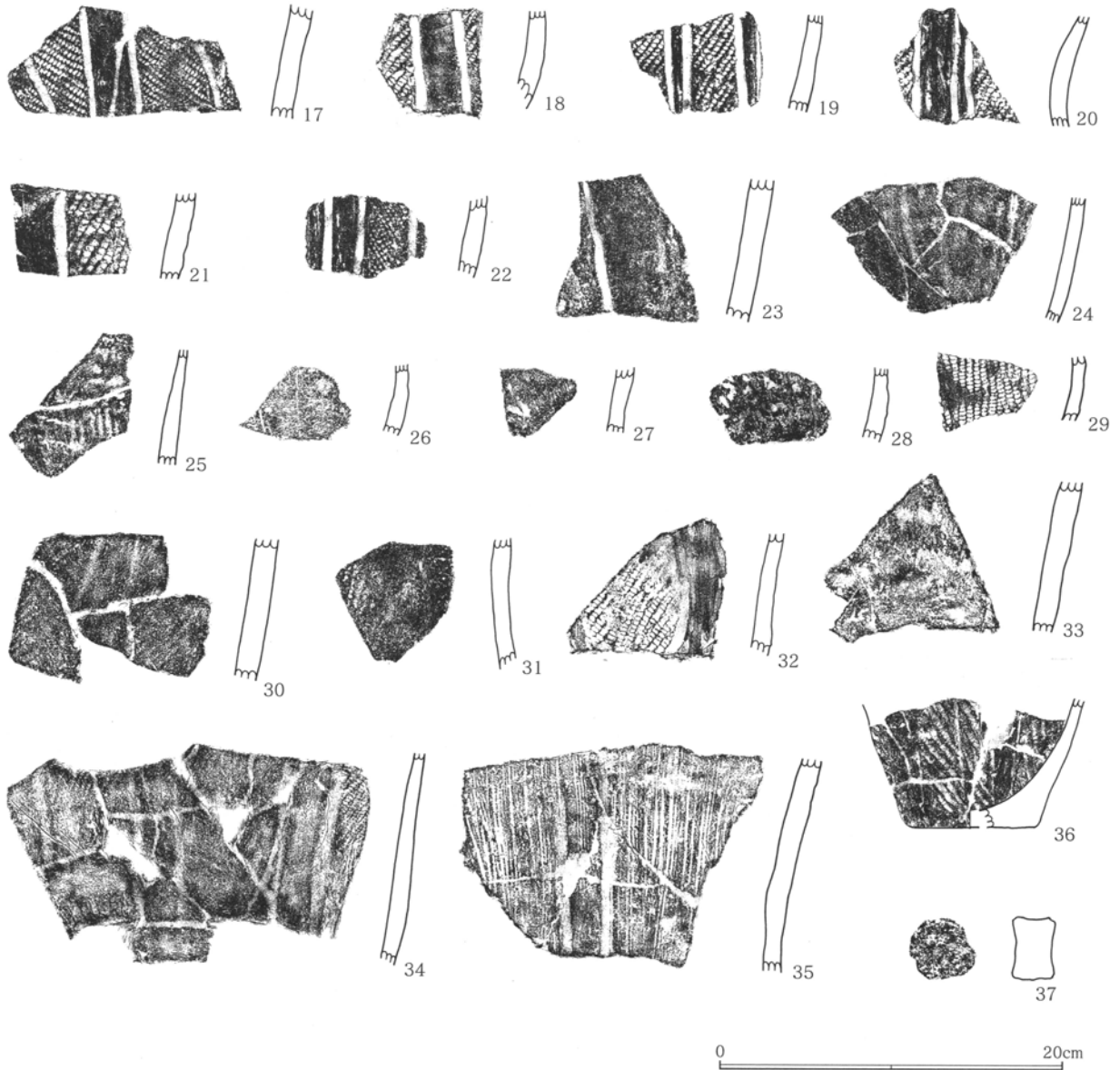
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	黄褐	10YR5/6	φ1～2ミリの白色粒	良	RL	縦	Ⅲ群2類	太さ5ミリの沈線により縦位の区画を作る。磨り消し縄文による無文帯。縄文帯には、波状の沈線が垂下する。	
2	深鉢	口縁	灰オリーブ	5Y5/2	φ1～2ミリの砂粒多い	不良	RL	縦	Ⅲ群2類	口縁部に太さ12ミリの隆線で楕円区画を作る。	
3	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR7/3	φ1～3ミリの小石、白色粒多い	良	RL	横	Ⅲ群2類	太さ7～10ミリの隆・沈線で楕円区画する。	
4	深鉢	口縁	淡橙	5YR8/4	φ1～3ミリの小石	良	—		Ⅲ群1類	太さ6～8ミリの沈線で渦巻を描く。舌状突起突起内面に渦巻文。地文条線。	舌状突起
5	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅲ群2類	太さ10ミリの隆線で楕円区画。太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅲ群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	
7	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1～3ミリの小石、白色粒多い	普通	RL	横	Ⅲ群2類	太さ5～6ミリの隆線で口縁部文様区画。胴部は、太さ6～8ミリの沈線2条が対になり、縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
8	深鉢	口縁～胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの砂粒、小石	良	LRL	縦	V群2類	原体直前段合攪り。口縁部にφ6ミリの刺突列。胴部文様は、太さ5ミリの沈線2条が対になり、「U」「∩」状の文様。沈線間は、磨り消し縄文による無文帯。	
9	深鉢	口縁	黄橙	7.5YR7/8	φ1ミリの細かい砂粒	良	LR	縦	Ⅵ群3類	口縁部に断面三角形の微隆起線が巡り、無文部を区画する。縄文は、縦位に間隔を開けて帯状に施文。	
10	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部は、無文帯になる。ナデによる整形。	
11	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	不良	LR	横	Ⅵ群	縄文を帯状に施文した無文帯を作る。	
12	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒多い	不良	—		加曽利E	細い沈線が条線状に施文される。	ミニチュア土器
13	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1～3ミリの小石多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線により縦位の区画を作る。縄文帯と無文帯を交互に構成し、縄文帯には波状の沈線が垂下する。	
14	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒多い	不良	RL	縦	加曽利E	太さ2～3ミリの沈線で縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
15	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ4～5ミリの沈線で縦位の区画を作る。	
16	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR6/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2～3ミリの沈線で縦位の区画。	
17	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒多い	普通	LR	縦	加曽利E	太さ4～5ミリの沈線2条が対になり縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
18	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1～2ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5～6ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
19	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線2条が対になり縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
20	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
21	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	細かい砂粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線で縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
22	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線2条が対になり縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
23	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	—		加曽利E	太さ5ミリの沈線で、縦位の区画。	
24	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒多い	不良			加曽利E	太さ4～6ミリの浅い沈線で縦位の区画を作る。	



第106圖 J-91出土土器 (1)

0 20cm

第4章 出土遺物



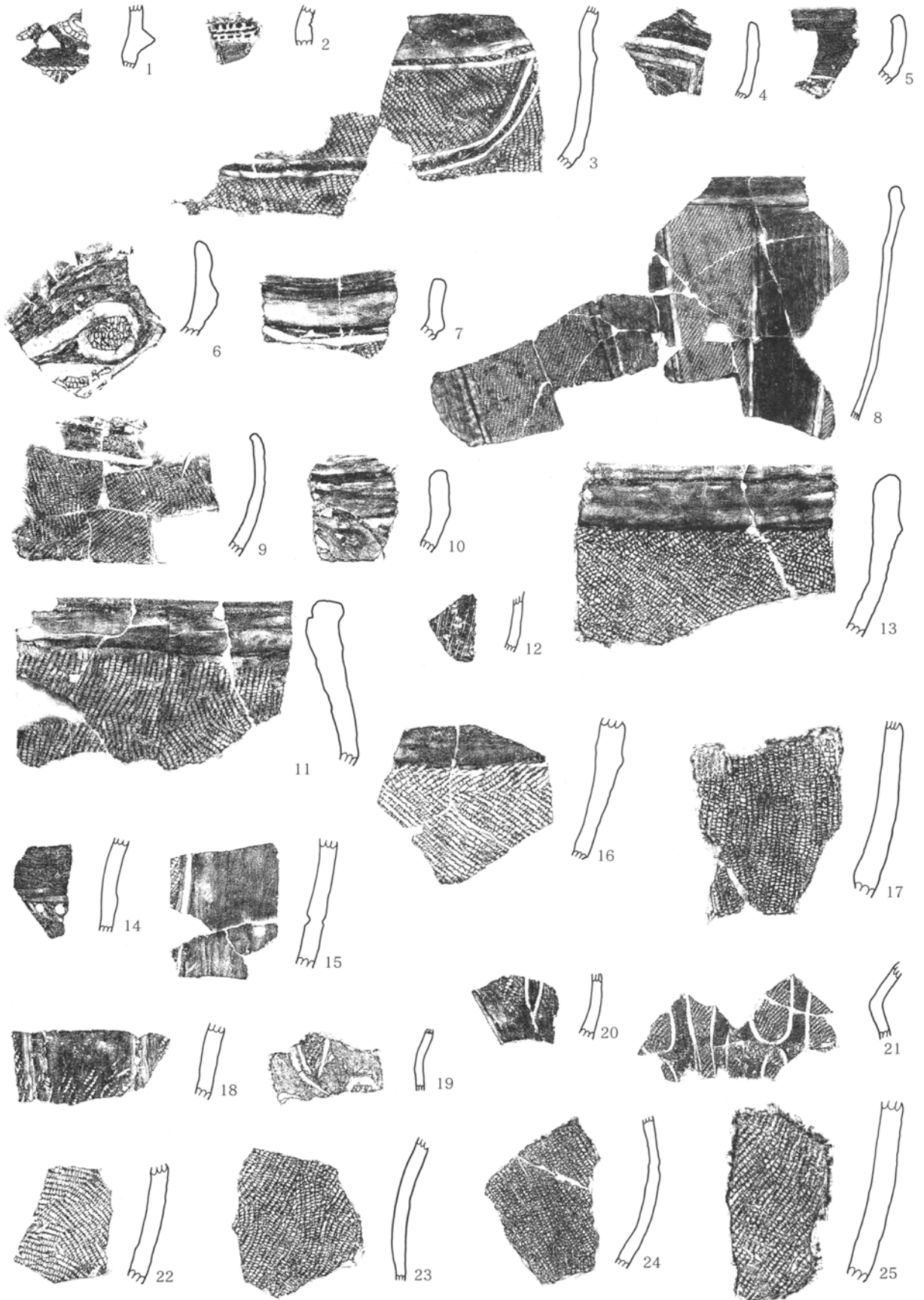
第107図 J-91出土土器 (2)

J-91出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
25	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良			加曾利E	太さ1ミリの沈線による楕円区画。	
26	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	細い沈線による縦位の区画。	
27	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	無文。	
28	深鉢	胴部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	無文。	
29	深鉢	胴部	黒褐	5YR3/1	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E	縄文施文。	
30	深鉢	胴部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒多い	不良	—		Ⅵ群1類	浅い沈線で縦位の区画。	
31	深鉢	胴部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	不良	—		Ⅵ群1類	縄文施文。全体に摩滅。	
32	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ6~8ミリの沈線で楕円区画。無文部には、縦位の整形。	
33	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線で縦位の区画。	
34	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石、砂粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
35	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	—		Ⅷ群4類	太さ5ミリの沈線で縦位の区画。	
36	深鉢	胴部~底部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線で縦位の区画。	
37	耳飾り		浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通				無文。両面が凹む。	

J-92出土土器観察表

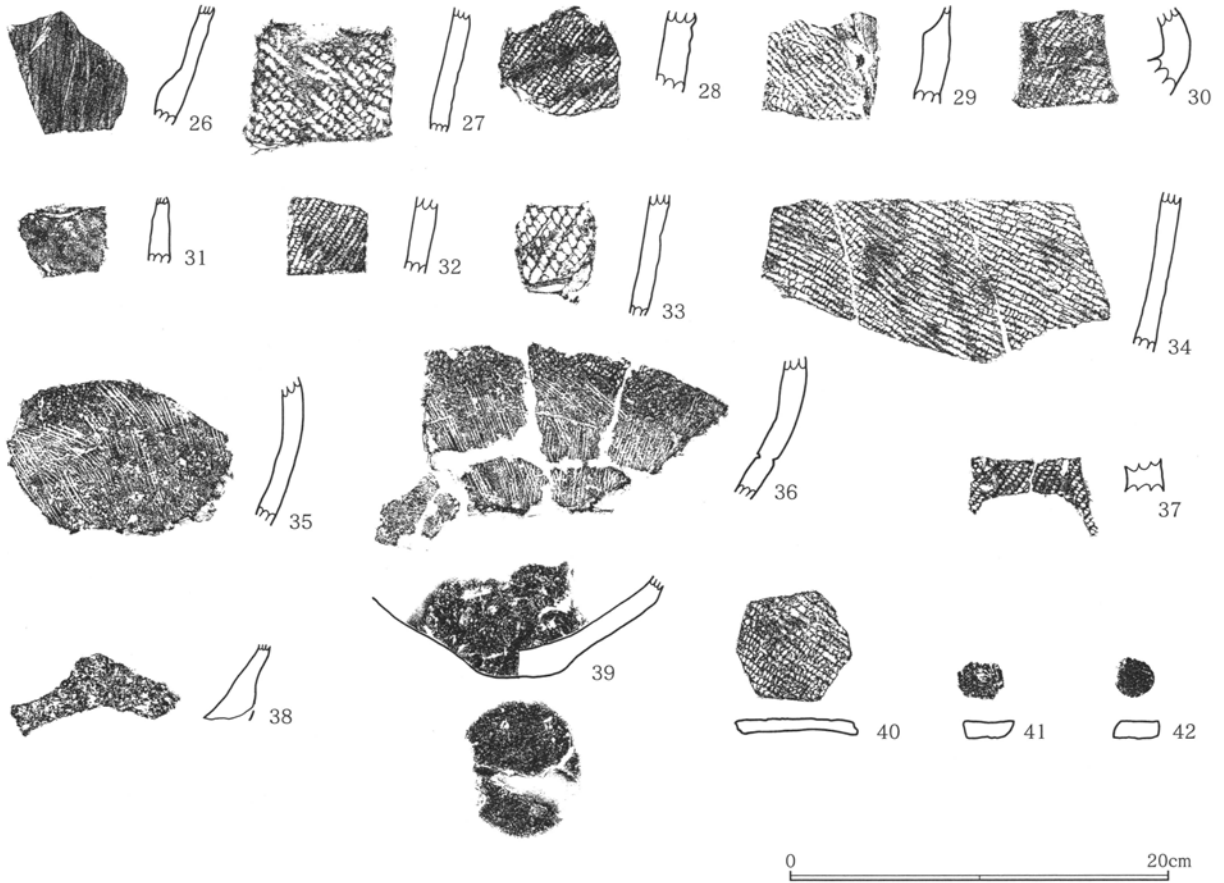
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~5ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による「Y」字状の貼り付け、幅3ミリの半截竹管による押し引き沈線。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい白色粒多い	不良	—	—	五領ヶ台	くびれ部に2条の結節沈線が巡る。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	横	Ⅳ群1類	太さ5ミリの隆線に太さ3ミリの沈線が沿うように施文され、口縁部文様帯を区画する。口頸部には、半円形の区画が同じ隆線と沈線で作られる。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	加曾利E	小波状口縁。太さ5ミリの浅い沈線による文様区画。	
5	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~3ミリの小石	不良	LR	—	加曾利E	口縁部に沈線が巡る。	
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	横	Ⅳ群1類	太さ12ミリの沈線による渦巻文。	
7	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、白色粒	良	—	—	Ⅵ群3類	口縁部に隆線と沈線が巡り無文帯と区画する。	
8	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石、砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群3類	口縁部に断面三角形の太さ10ミリの隆線が巡る。胴部には、同じ隆線が垂下し、磨り消し縄文による無文帯を作る。	
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群3類	太さ4ミリの沈線が口縁部に巡る。	
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	良	—	—	Ⅵ群3類	断面三角の隆線が口縁部に巡り無文帯を作る。	
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	不良	RL	斜	Ⅵ群3類	口縁部が外反し、幅の広い浅い沈線が巡る。	
12	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	白色粒	良	—	—	加曾利E	細かい沈線による条線。	
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	LR	縦横	Ⅵ群3類	太さ8ミリの断面三角の隆線が口縁部に巡り、無文帯と区画する。	
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—	Ⅵ群3類	太さ3ミリの沈線が横位に巡る。沈線下に刺突列。	
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの断面三角の隆線による縦位の区画。	
16	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦横	Ⅵ群3類	断面三角の隆線が口縁部に巡り無文帯を作る。	
17	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	縄文施文。	
18	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの断面三角の隆線による縦位の区画。	
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	—	Ⅵ群1類	太さ2~3ミリの沈線による楕円区画。	
20	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ2ミリの沈線による楕円区画。	
21	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、白色粒多い	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	
22	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曾利E		
23	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E		
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、白色粒	良	LR	縦	加曾利E		
25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		
26	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	良	—	—	加曾利E	外面に縦位の整形。	
27	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	縦	加曾利E		



第108图 J-92出土土器(1)

0 20cm





第109図 J-92出土土器(2)

J-92出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
28	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	縄文が若干の間隔を開けて帯状に施文される。	
29	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		
30	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい白色粒多い	不良	RL	縦	加曾利E		橋状把手
31	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E	全体に磨滅。	
32	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E		
33	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石、白色粒	普通	LRL	縦	加曾利E	複節の縄文施文。	
34	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E		
35	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	加曾利E	縄文帯の下に細い沈線で条線を描く。	36と同一個体
36	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	加曾利E	縄文帯の下に細い沈線で条線を描く。	35と同一個体
37	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	—	加曾利E		橋状把手
38	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/4	φ1ミリの小石	普通	—	—	—		
39	深鉢	胴部~底部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒多い	普通	—	—	—		
40	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E	六角形になる土製円盤。縁辺を打ち欠いている。	
41	土製円盤		暗灰黄	2.5Y4/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	—	黒色塗彩土器。	
42	土製円盤		にぶい黄褐	10YR4/3	細かい白色粒	普通	—	—	—	表面剥離。底部利用。	

第4章 出土遺物

J-93出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅲ群2類	太さ8～10ミリの隆・沈線による口縁部楕円区画。胴部は、渦巻文様。	
2	深鉢	口縁～胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの砂粒	良	RLR	縦横	Ⅵ群1類	小波状口縁頂部から太さ4～5ミリの沈線が弧状に施文され、口縁部文様帯を区画する。その下を弧線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～2ミリの小石、白色粒	良	RLL	縦横	Ⅵ群1類	波状口縁頂部把手太さ6～8ミリの沈線で楕円を描く。	舌状突起
4	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦横	Ⅵ群1類	口縁部平縁で横位の整形。太さ5ミリの沈線による横位区画。胴部幅5ミリの2条の沈線による楕円区画と磨り消し縄文。	
5	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群1類	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡り無文帯を作る。太さ2～3ミリの沈線で「∩」状の文様を作る。	
6	深鉢	口縁～胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの白色粒	良	RLL	縦	Ⅵ群1類	太さ6ミリの沈線が口縁を巡り、無文帯を作る。「∩」状の磨り消し縄文による文様。縄文原体は、直前段合燃り。	
7	深鉢	把手	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅵ群2類	口縁部環状の突起の付く把手。突起に沿って太さ3ミリの沈線が施文される。	
8	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅵ群1類	小波状口縁、口縁部を微隆起線が巡り区画する。胴部は、太さ3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
9	深鉢	口縁	灰褐	5YR5/2	細かい砂粒、白色粒	良	RL	横	Ⅵ群1類	太さ7ミリの沈線が口縁部に巡る。胴部は、弧線を描く文様。	
10	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	良	RL	縦横	Ⅵ群1類	口縁部に太さ5ミリの沈線が巡り口縁部無文帯を区画する。	
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群1類	波状口縁頂部に突起。口縁部には微隆起線による区画。	
12	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽石粒	良			Ⅵ群3類	口縁部やや波状を呈し横位の整形。その下部に太さ4ミリの隆起線による横位弧状区画。	
13	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		Ⅵ群3類	口縁部に断面三角形の隆線が巡る。	
14	浅鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒、白色粒	良	—		Ⅷ群3類	口縁に沿って太さ6ミリの沈線が巡り、無文帯と区画する。胴部には、幅2ミリの平行沈線が縦位に施文される。	
15	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅵ群1類	口縁部横位の整形。太さ4ミリの沈線による横位区画。	
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～2ミリの砂粒、黄色粒	良	RL	横	Ⅵ群1類	太さ6～9ミリの沈線が横位に施文。	
17	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの砂粒	良	LR		Ⅵ群1類	口縁に太さ4～5ミリの沈線が巡る。	
18	深鉢	把手	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	不良			Ⅵ群3類		橋状把手
19	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの小石、雲母	良	RL	縦横	Ⅵ群1類	太さ7ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。	

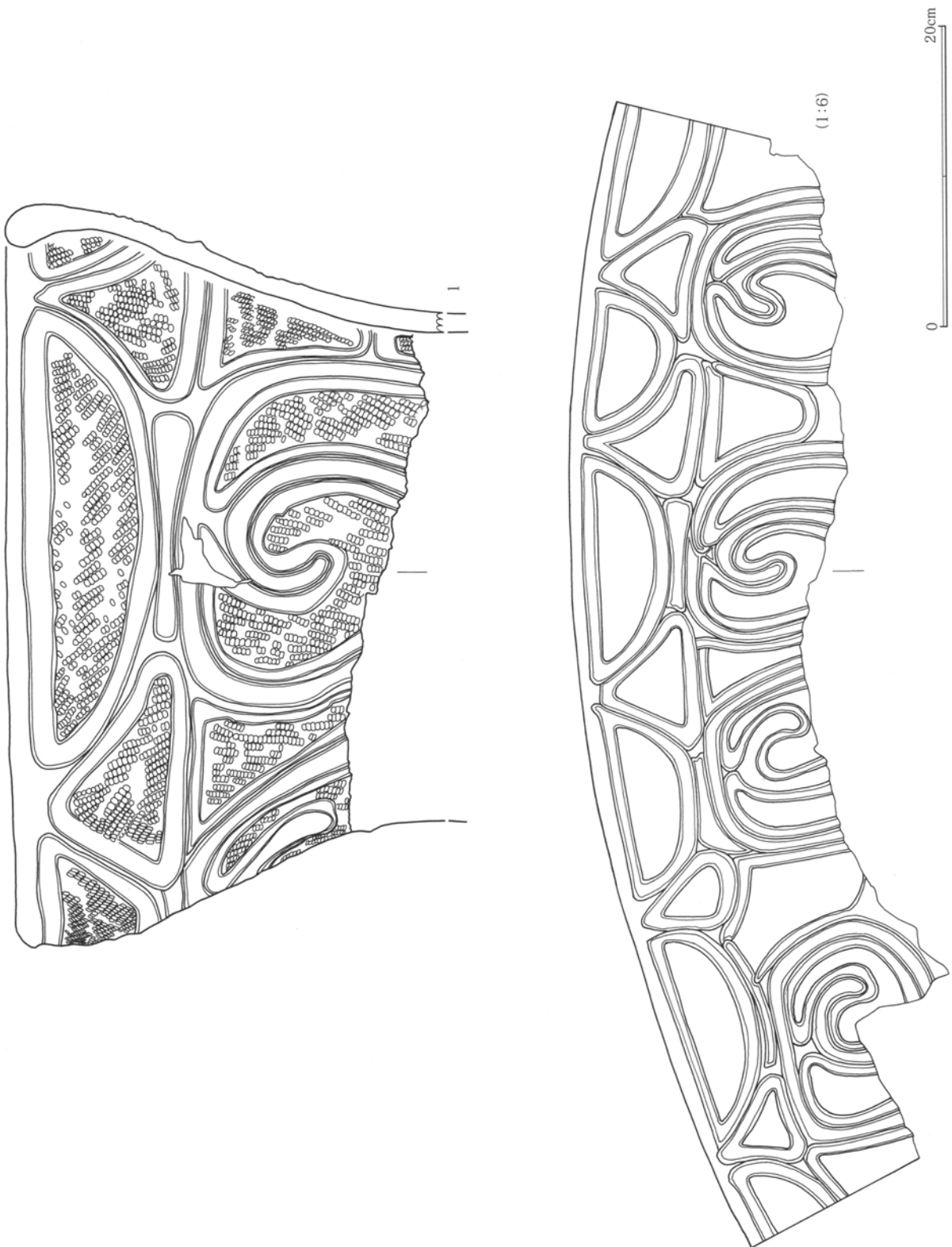
J-93出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
20	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通			阿玉台	太さ7~8ミリの隆線により楕円区画を作る。	
21	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい黒色粒	良	RL	横	Ⅵ群1類	口縁部に細い微隆起線で無文帯と区画する。	
22	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石、砂粒	普通			Ⅵ群3類	太さ3ミリの断面三角の隆線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
23	器台	台面	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E	全面に磨き整形。	
24	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ4~6ミリの隆線で縦位の区画を作る。磨り消し縄文。	
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	良	LR		加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。	
26	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	太さ4~6ミリの隆線2条が対になり縦位の区画を作る。	
27	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、雲母	良	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
28	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
29	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線により縦長方形区画をなし、磨り消し縄文を施す。	
30	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ6ミリの隆起線により「∩」状の文様。	
31	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR6/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ4ミリの沈線による縦位・弧状の文様。磨り消し縄文。	
32	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ3ミリの沈線による胴部中位の「U」状区画。磨り消し縄文。	
33	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅳ群1類	太さ7~10ミリの隆帯を横位楕円形に貼り付け文様区画。胴部は、太さ7ミリの沈線で磨手文。	
34	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	縦	Ⅵ群1類	太さ4ミリの沈線による楕円区画。磨り消し縄文による無文帯。	
35	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	Ⅵ群1類	太さ2ミリの沈線による楕円区画。磨り消し縄文。	
36	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	細かい白色粒多い	良	RL	横	加曾利E	太さ2ミリの沈線が2条巡り無文帯を作る。	
37	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	太さ3ミリの沈線により胴部中位のくびれ部上下で波状ないし鋸歯状に区画する。その内側に磨り消し縄文。	
38	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	普通	—		Ⅵ群1類	太さ4ミリの沈線。外面にスス付着。	
39	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ6ミリの沈線による楕円区画。磨り消し縄文。	
40	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	細かい白色粒	不良	RL	縦	Ⅵ群1類	太さ2~3ミリの断面三角の隆線による縦位の区画。	
41	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群3類	太さ3~4ミリの断面三角の隆線による縦位の区画。	
42	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい白色粒	普通	LR	横	Ⅲ群	太さ3~4ミリの断面三角の隆線が横位に施文される。	
43	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR6/2	細かい砂粒	普通	LR		加曾利E		
44	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E		
45	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線で縦位の区画。磨り消し縄文。	
46	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	胴部無文。縦位の整形。部分的に外面剥離。	
47	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	普通	—		Ⅷ群4類	幅1~2ミリ間隔に沈線で条線を施文。	

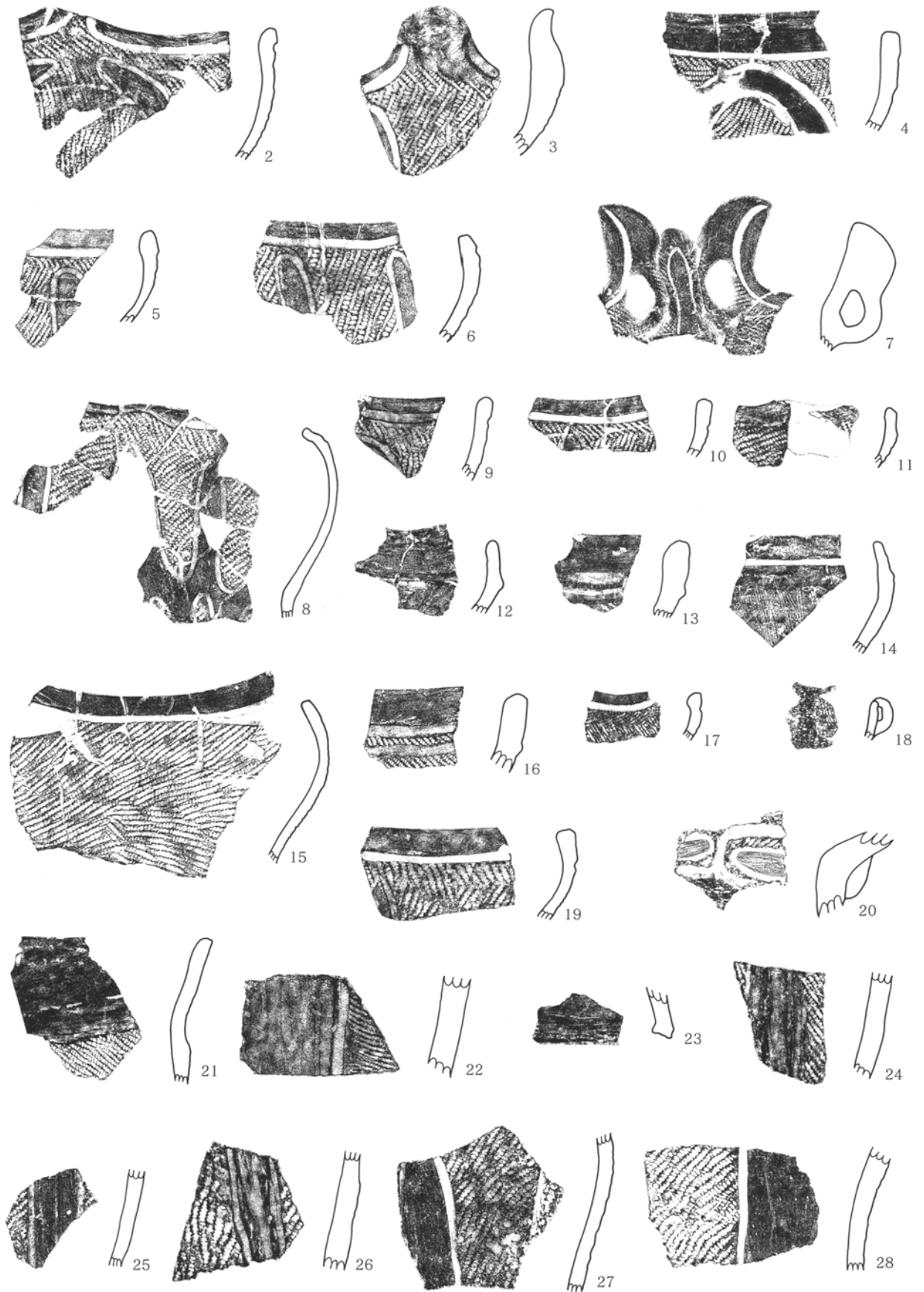
第4章 出土遺物

J-93出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
48	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい白色粒	普通			加曽利E	太さ1ミリ以下の細い沈線が縦位に施文。	
49	深鉢	胴部	灰褐	5YR5/2	細かい白色粒	良	—		Ⅷ群2類	2~3ミリ間隔の櫛状工具による波状文。	
50	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曽利E		
51	浅鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/3	細かい砂粒	良	—		加曽利E	横位のミガキ整形。	
52	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。縄文摩滅多い。	
53	深鉢	胴部	橙	2.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	良	RL		Ⅵ群3類	太さ3ミリの断面三角の隆線で渦巻を作る。隆線内を磨り消し縄文。	
54	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	良	RL		Ⅵ群3類	断面三角の隆線で渦巻文様を描く。	
55	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群1類	口縁部平線で横位の整形。太さ5ミリの沈線による横位区画。胴部は、同じ沈線による「U」「∩」状文様。磨り消し縄文。	
56	深鉢	口縁~胴部	灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	良	LR	縦横	Ⅵ群1類	太さ4~5ミリの沈線で口縁部無文帯を区画。渦巻・弧状の文様区画は、磨り消し縄文になる。	
57	深鉢	口縁~胴部	暗褐	7.5YR3/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群1類	口縁部太さ7ミリの沈線による横位区画。胴部は、太さ5ミリの沈線による槽凹区画。	
58	深鉢	口縁~胴部	極暗赤褐	7.5R2/3	φ1~3ミリの小石、砂粒	良	LR	縦横	Ⅵ群1類	小波状口縁に太さ5~6ミリの沈線による渦巻文様。磨り消し縄文による無文帯。	
59	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群1類	口縁部太さ4ミリの沈線による波状区画。胴部太さ3ミリの沈線による「U」「∩」状文様。	
60	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		Ⅷ群3類	内面黒色。摩滅多い。	
61	深鉢	胴部~底部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	5本単位の櫛状工具による縦位の条線。	
62	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横斜	加曽利E	太さ10ミリの隆線による弧状区画。下部には沈線による文様。	
63	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。内面ススが多く付着。	
64	深鉢	胴部~底部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	良	—		加曽利E	外面縦位のミガキ整形。	
65	深鉢	胴部~底部	灰褐	7.5YR6/2	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		加曽利E	外面縦位のミガキ整形。	
66	深鉢	胴部~底部	灰褐	5YR5/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—		加曽利E	外面縦位のミガキ整形。	
67	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	加曽利E	太さ3ミリの沈線により上半は、波状の区画。下半は、鋸歯状の区画を作り縄文施文。	

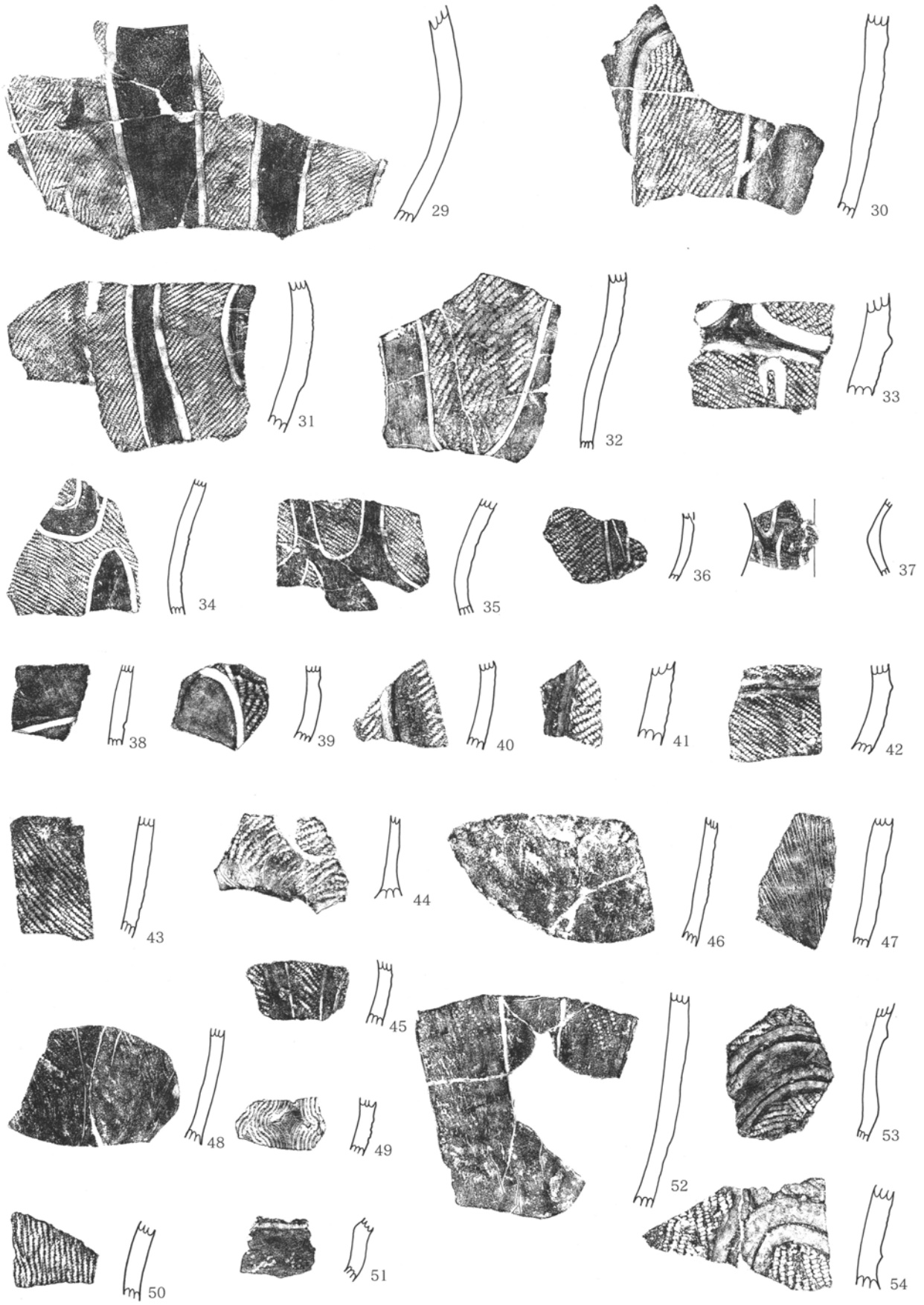


第110圖 J-93出土土器 (1)



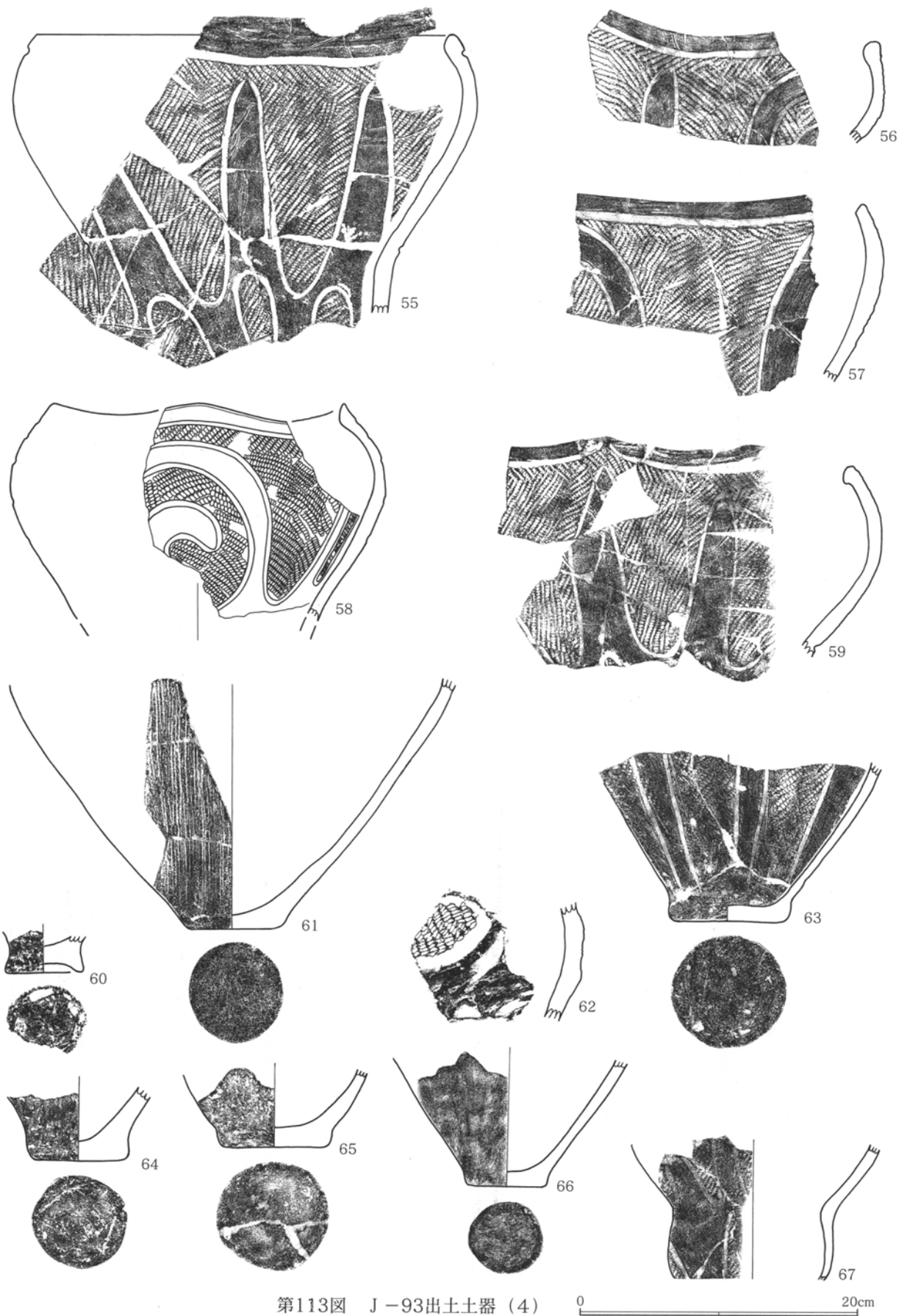
第111图 J-93出土土器(2)





第112圖 J-93出土土器 (3)

0 20cm



第113图 J-93出土土器(4)

0 20cm



J-98出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	VI群1類	太さ3～4ミリの沈線が口縁に沿って巡る。胴部は、「U」「∩」状の文様。磨り消し縄文による無文帯。	
2	深鉢	口縁～胴部	褐灰	7.5YR4/1	細かい砂粒	良	RL	縦横	VI群1類	太さ8ミリの沈線が口縁部に巡る。	
3	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	VI群1類	小波状口縁。断面三角形の隆線が口縁に沿って巡り、文様帯を区画する。胴部は、波長部下に隆線が集合して突起を作る。楕円区画に磨り消し縄文による無文帯。	赤色塗彩
4	深鉢	口縁～胴部	橙	7.5YR6/6	白色粒多い	良	LR	横	VI群1類	断面三角の太さ3ミリの隆線が口縁部に巡り、無文帯を区画。胴部は、隆線で楕円区画し縄文を充填。	
5	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦横	VI群1類	断面三角の隆線で口縁部文様帯を区画し、胴部に楕円区画文を作る。文様帯は、磨り消し縄文。	6と同一個体
6	深鉢	口縁～胴部	橙	5YR7/6	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦	VI群1類	小波状口縁。断面三角の隆線によって口縁部無文帯を区画。波頂部下から隆線が楕円区画を作る。隆線が波長部下に集合して突起になる。	赤色塗彩、5と同一個体
7	深鉢	口縁～胴部	灰白	2.5Y7/1	白色粒	普通	RL	縦横	VI群1類	太さ10ミリの沈線が口縁を巡る。同じく沈線で楕円区画。	
8	深鉢	口縁～胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒多い	普通	LR	縦横	VI群1類	太さ4ミリの沈線が口縁部に巡り、縄文帯を区画する。胴部は、沈線区画の磨り消し縄文による無文帯で横位に区画される。それに続き円形の文様区画を作る。	
9	深鉢	口縁～胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい白色粒、φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	VI群1類	小波状口縁。口縁に沿って沈線が施文される。太さ5～6ミリの沈線で楕円区画を作る。	
10	深鉢	口縁～胴部	黒褐	10YR3/2	白色粒	良	RL	横縦	VI群1類	波状口縁。頂部に突起。口縁に沿って太さ6ミリの沈線が巡る。波長部下から沈線による楕円区画。	
11	深鉢	口縁～胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、砂粒	良	RL	縦横	VI群1類	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。胴部は、太さ3～4ミリの沈線で楕円区画。磨り消し縄文による無文帯。	35・81と同一個体
12	深鉢	口縁～胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	LR	縦	VI群1類	小波状口縁。頂部から口縁に沿って隆起線が施文され無文帯と区画。胴部は断面三角の隆線によって半円状の区画。区画内に縄文を充填。	16と同一個体
13	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	LR	縦横	VI群1類	太さ12～14ミリの沈線で口縁部を区画。太さ6～8ミリの隆線による楕円区画。	
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	横縦	VI群1類	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。胴部には、楕円の区画。	
15	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒	不良	RL		VI群1類	太さ3ミリの沈線が口縁に巡る。沈線で曲線を描き、無文帯を作る。	
16	深鉢	口縁～胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	LR	縦	VI群1類	小波状口縁。頂部から口縁に沿って隆起線が施文され無文帯と区画。胴部は断面三角の隆線によって半円状の区画。区画内に縄文を充填。	12と同一個体
17	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黄色粒	良	LR	縦横	VI群1類	太さ5～6ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。胴部には楕円区画文を描く。	

第4章 出土遺物

J-98出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
18	深鉢	口縁～胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの小石、白色粒多い	不良	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線が口縁部に巡る。胴部は、方形区画を作る。	
19	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横縦	VI群1類	太さ4ミリの沈線が口縁を巡る。無文帯を区画。胴部には、波状文様を沈線で描く。磨り消し縄文。	
20	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/2	φ1～2ミリの小石、白色粒	良	LR	横	VI群1類	太さ5ミリの沈線が口縁部を巡る。	
21	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	白色粒多い	良	LR		VI群	太さ5ミリの沈線が口縁部に巡る。	
22	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	白色粒	良			VI群	小波状口縁。頂部から沈線により弧状の文様を描く。	
23	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい白色粒	普通	RL		VI群	隆・沈線が口縁部に巡る。	
24	深鉢	口縁	黄褐	2.5Y5/3	細かい砂粒多い	良	RL	横縦	VI群1類	太さ6ミリの沈線が口縁部無文帯を区画。胴部には、楕円区画を描く。	
25	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黄色粒	良	LR	横	VI群1類	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡る。口縁沈線下は、楕円の区画。	
26	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦横	VI群1類	波状口縁。太さ3～4ミリの沈線が波状口縁に沿って施文される無文帯を区画する。胴下半部は、縦位の区画。	27・28・38・55・85と同一個体
27	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦横	VI群1類	波状口縁。太さ3～4ミリの沈線が波状口縁に沿って施文される無文帯を区画する。胴下半部は、縦位の区画。	26・28・38・55・85と同一個体
28	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦横	VI群1類	波状口縁。太さ3～4ミリの沈線が波状口縁に沿って施文される無文帯を区画する。胴下半部は、縦位の区画。	26・27・38・55・85と同一個体
29	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦横	VI群1類	太さ5ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。区画内には磨り消し縄文による無文帯。	
30	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	白色粒	良	RL	横	VI群	太い隆線によって口縁部を区画。楕円形の区画文。	
31	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒	良	LR	横縦	VI群1類	口縁部に微隆起線が巡り無文帯を区画。	
32	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	無文。外面横位の整形。	
33	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	黒色粒多い	不良	RL	横縦	VI群1類	隆線が口縁部を巡る波状口縁。	
34	深鉢	口縁～胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	RLL	縦	VI群3類	太さ3～4ミリの断面三角の隆線が口縁部に巡り、無文部を作る。胴部は、縦位に区画され、磨り消し縄文による無文帯を持つ。	
35	深鉢	口縁～胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、砂粒	良	RL	縦横	VI群1類	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。胴部は、太さ3～4ミリの沈線で楕円区画。磨り消し縄文による無文帯。	11・81と同一個体
36	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	普通	—		VI群	無文。外面横位の整形。	
37	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	白色粒多い	普通	RL	縦	VI群	口縁に太さ7ミリの沈線が巡る。前段に太さの異なる原体。	
38	深鉢	口縁～胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦横	VI群1類	環状になる把手。	26～28・55・85と同一個体
39	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	LRR	横	VI群	断面三角の隆線による楕円区画。区画内に縄文を充填する。	
40	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒、黒色粒	不良	RL	縦	VI群1類	太さ4ミリの沈線による「U」「∩」状文様。磨り消し縄文による無文帯。	
41	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	

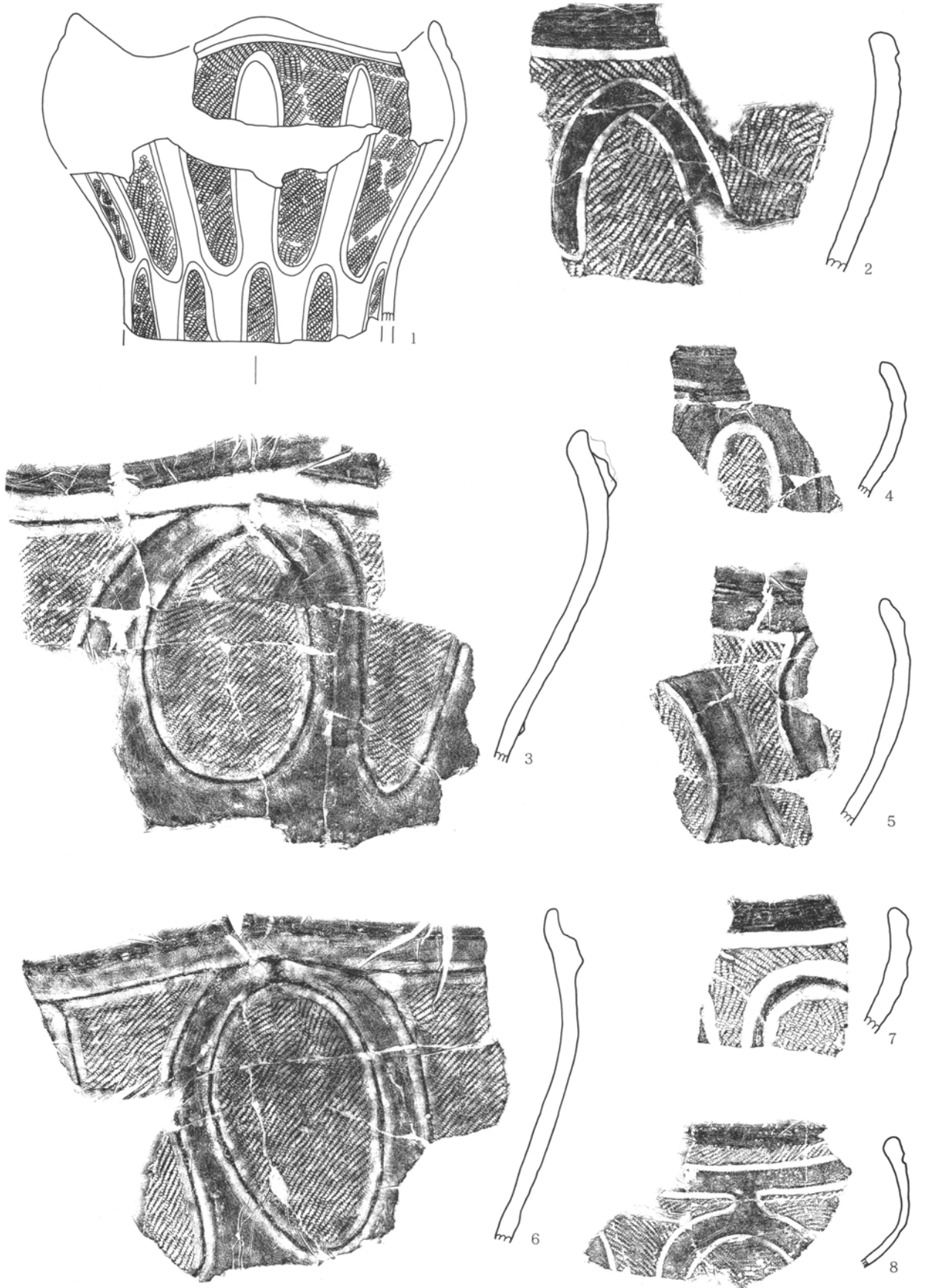
J-98出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
42	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	不良	RL	斜	Ⅵ群	太さ2~3ミリの沈線による楕円区画。無文帯と縄文帯を分ける。	
43	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による「( )」の文様施文。胴下半は、縄文が磨り消されている。	
44	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線で「U」「∩」状の文様を作る。磨り消し縄文による無文帯。	
45	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	不良	RL	縦	称名寺	太さ4~5ミリの沈線による文様区画。縄文帯は「J」字状になる。	
46	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	白色粒多い	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ5ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。磨り消し縄文による無文帯。	
47	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1~3ミリの小石多い	不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ2~3ミリの沈線による文様区画。	
48	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	縦	称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画。縄文帯は「J」字状になる。	
49	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの白色粒	不良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
50	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	斜	Ⅵ群	太さ3ミリの断面三角の隆線で文様帯を区画する。	
51	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。磨り消し縄文による無文帯。	
52	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3~4ミリの沈線による弧線区画。磨り消し縄文。	
53	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	斜	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線による楕円区画。磨り消し縄文。	
54	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による弧線区画。磨り消し縄文による無文帯。	
55	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦横	Ⅵ群1類	太さ3~4ミリの沈線による縦位の区画。	26・28・38・86と同一個体
56	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	Ⅵ群	太さ3~4ミリの沈線による「( )」文の区画。	
57	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの白色粒、細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅵ群	太さ3~4ミリの沈線による「U」「∩」状の文様。磨り消し縄文による無文帯。	
58	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による長楕円形の文様。	
59	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
60	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ4~5ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
61	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの白色粒多い	良			Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
62	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ5~6ミリの沈線による縦位の弧線区画。	
63	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
64	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
65	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石多い	普通	LR	横	Ⅵ群	隆線で横位に区画している。	
66	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい白色粒	良	LR	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	
67	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
68	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	

第4章 出土遺物

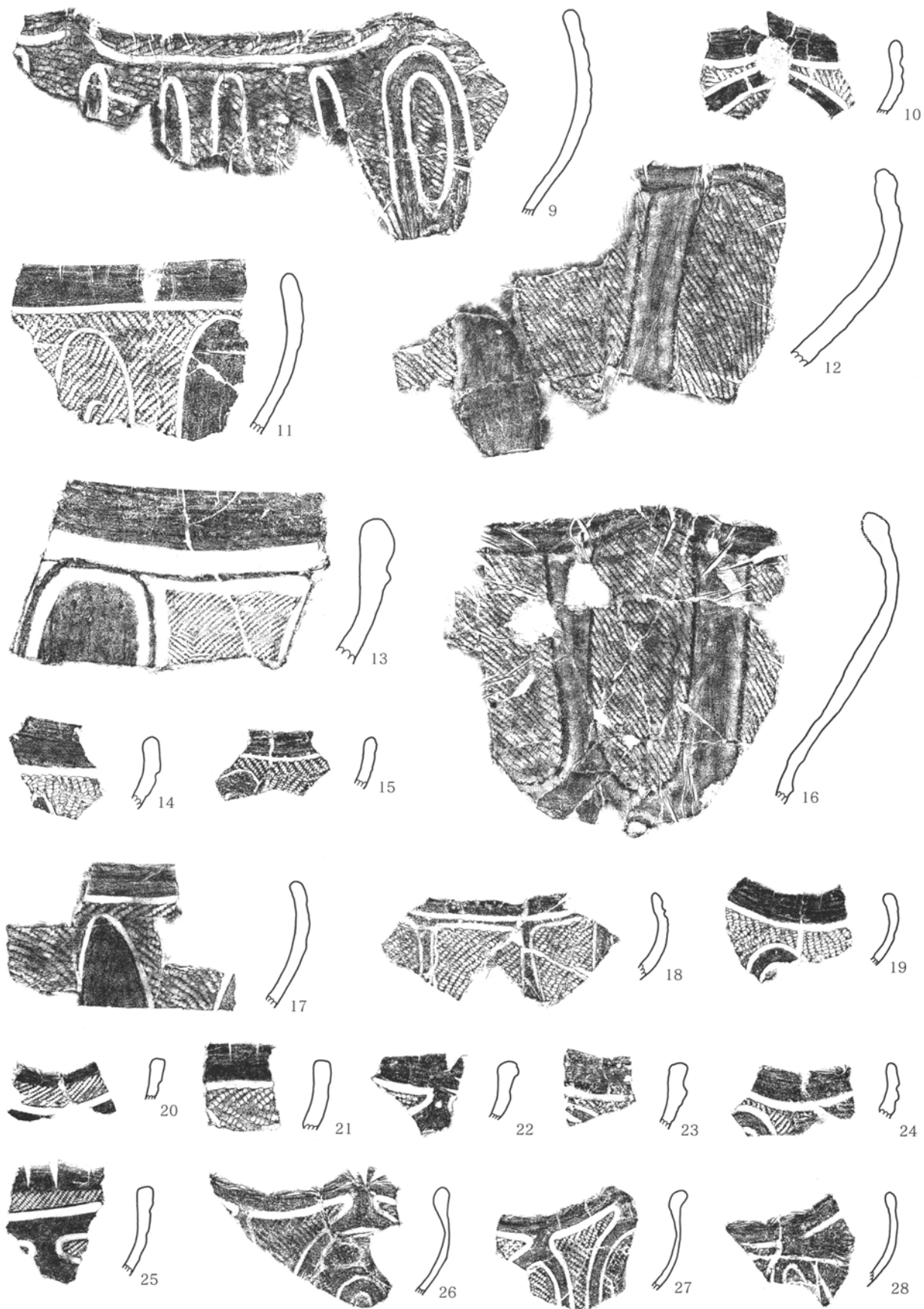
J-98出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
69	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
70	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	良	-		VI群	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	
71	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	-		VII群4類	幅12ミリに7本の沈線を櫛状工具で波状に描く。	
72	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	良	-		VIII群4類	細い沈線による条線。	
73	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	-		加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	
74	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	不良	RL	縦	VI群	太さ2ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文。	
75	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒多い	不良	LR	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
76	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの小石、黄色粒	普通	-		加曽利E	浅い沈線が波状に施文される。	
77	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小石、白色粒多い	不良	-		VIII群2類	細い沈線を櫛状にして、波状に施文。	
78	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦	加曽利E		
79	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E		
80	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	横	加曽利E		
81	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	縦横	VI群1類	太さ3~4ミリの沈線による楕円区画。磨り消し縄文による無文帯。	11・35と同一個体
82	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	-		加曽利E	細い沈線が波状に施文される。	
83	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/2	φ1~3ミリの小石、雲母	良	-		阿玉台	隆線による「Y」字文と幅3ミリの平行沈線による楕円区画と波状文。	
84	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	5YR6/4	細かい白色粒	不良	LR	縦	加曽利E	太さ2~3ミリの沈線で縦位に区画。	
85	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦横	VI群1類	太さ3~4ミリの沈線による縦位の区画。底部上げ底になる。	26~28・38・55と同一個体
86	深鉢	胴部~ 底部	黄橙	10YR8/6	φ1~3ミリの白色粒	良	-		加曽利E	外面にケズリによる整形。	
87	深鉢	胴部~ 底部	黄橙	7.5YR8/8	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	-		加曽利E	無文。底面に整形痕が残る。	
88	深鉢	胴部~ 底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	-		加曽利E	外面にケズリによる整形。	
89	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	普通	-		加曽利E	無文。外面横位の整形。	
90	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	7.5YR8/6	細かい砂粒	不良	-		加曽利E	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。	
91	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ2~3ミリの沈線による縦位の区画。	
92	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良			VI群1類		
93	深鉢	胴部~ 底部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通			加曽利E	太さ3~4ミリの沈線による縦位の区画。上げ底。	
94	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	-		加曽利E	外面に整形。	
95	土製円盤		灰白	10YR7/1	細かい白色粒	普通	-		加曽利E	幅4ミリの半截竹管による爪形文施文。	
96	土製円盤		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい白色粒	良	LRL		加曽利E	縄文原体複節。	
97	土製円盤		にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL		加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	

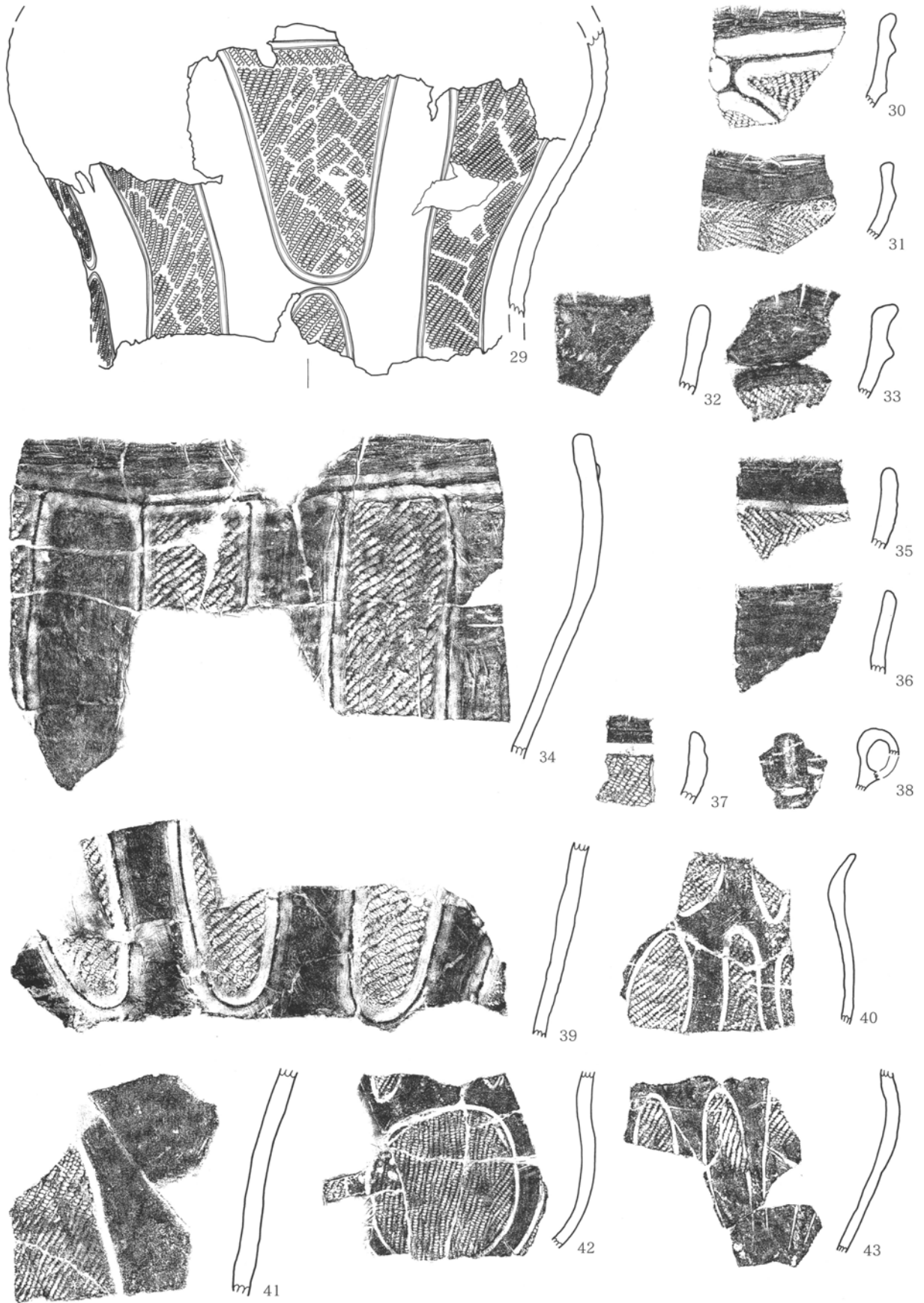


第114圖 J-98出土土器(1)

0 20cm

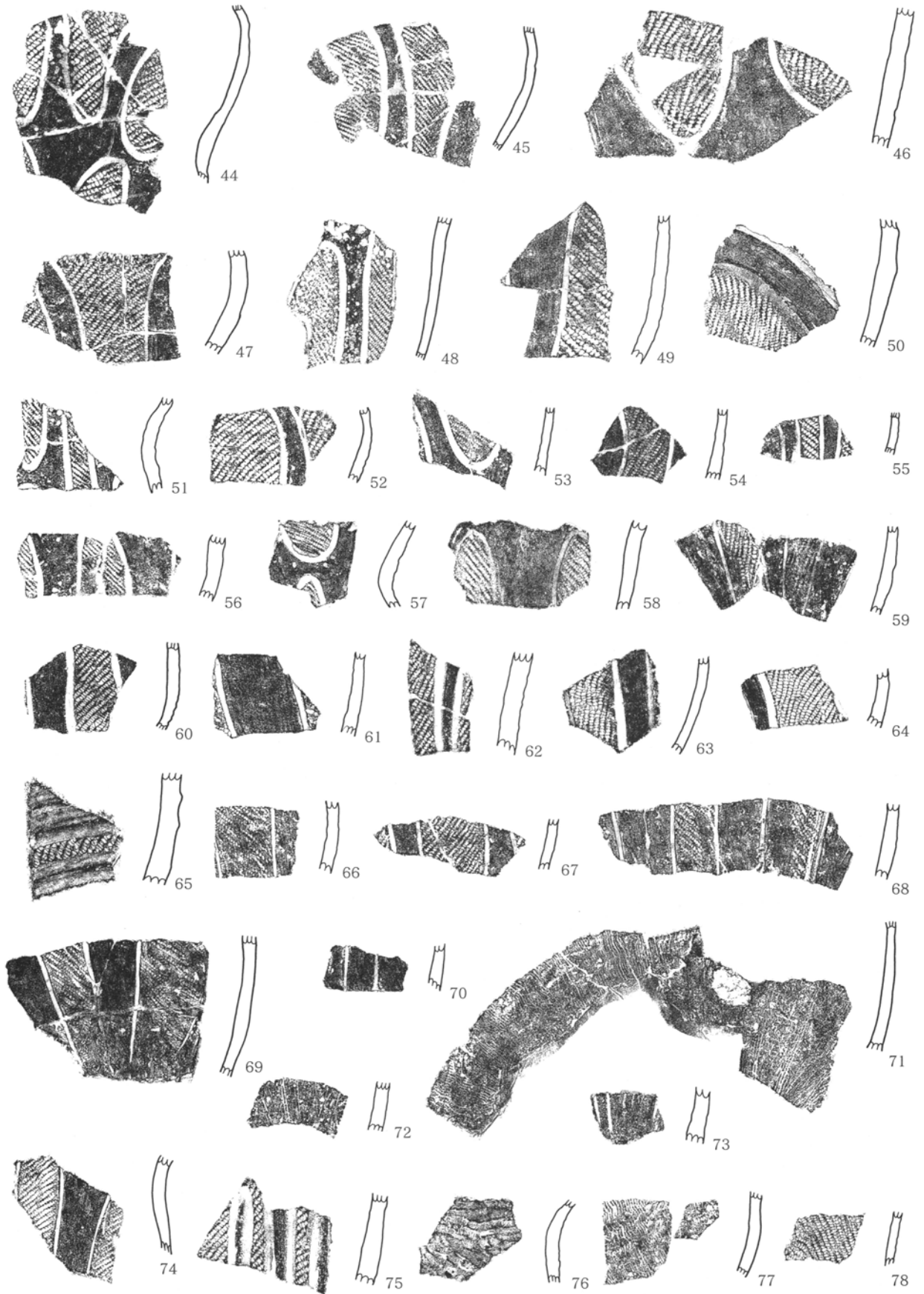


第115圖 J-98出土土器(2) 0 20cm



第116図 J-98出土土器 (3)

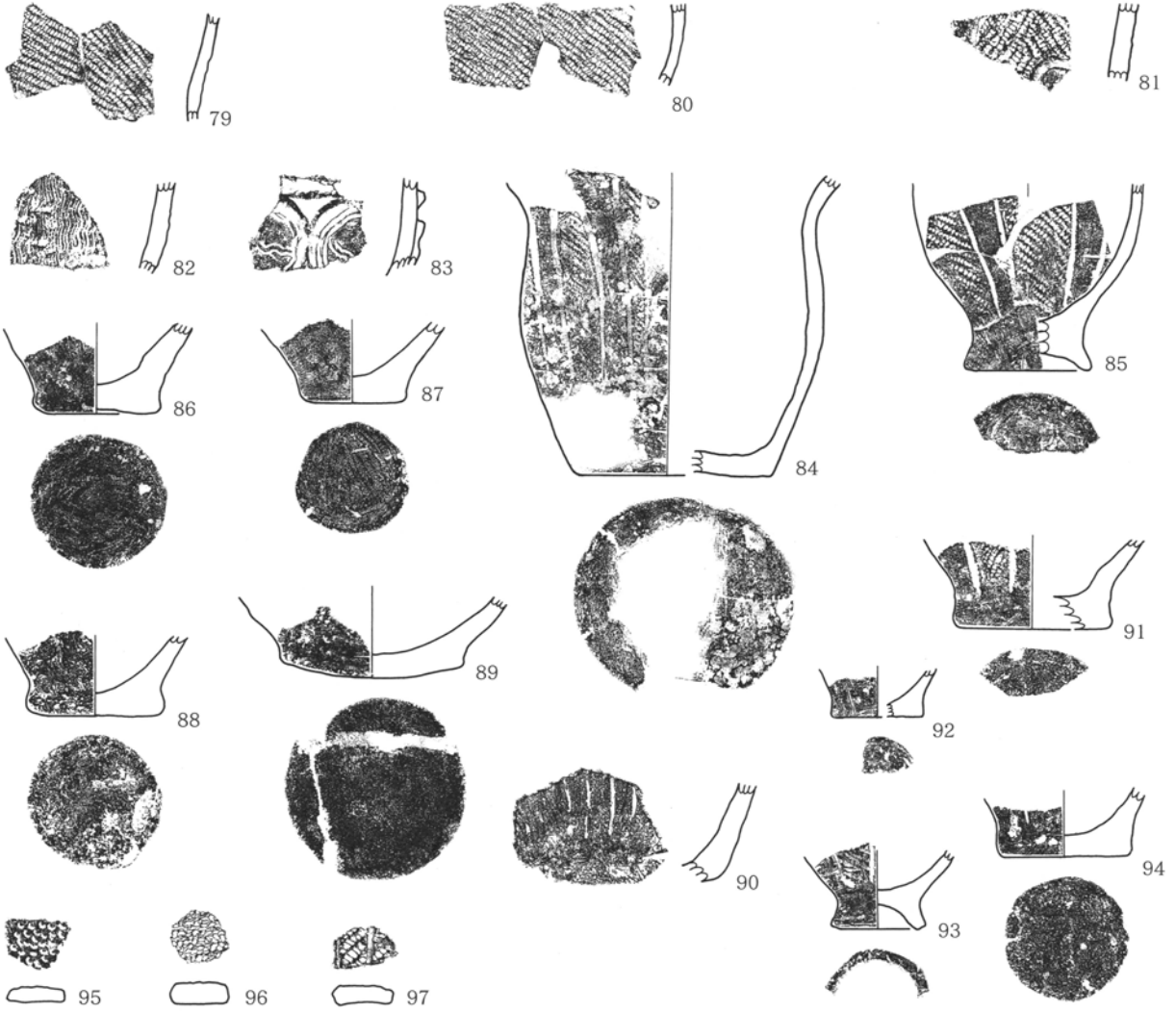
0 20cm



第117图 J-98出土土器(4)

0 20cm





0 20cm

第118図 J-98出土土器 (5)

第4章 出土遺物

J-1出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの小石、 雲母	良	LR		勝坂	口縁部が肥厚し、直下に沈線が巡る。口縁部には、隆線による文様施文。撚糸。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、白色粒	良	RL		Ⅲ群	太い隆・沈線で渦巻文様を描く。	
3	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい黒色粒	普通	LR		加曾利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。口縁部にφ4ミリの刺突列。	
4	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石	良	RL		加曾利E	太さ6~7ミリの浅い沈線で蕨手文様を描く。	
5	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	不良	LR		Ⅵ群1類	太さ2ミリの沈線が口縁部に巡り、無文帯と区画する。	
6	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	横位の整形痕。	
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ4~6ミリの沈線による文様区画。	
8	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒多い	良	LR		Ⅲ群2類	隆線で楕円区画。	
9	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい白色粒	普通	RL		Ⅵ群2類	縄文施文。	
10	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4~6ミリの沈線で縦位の区画を作る。	
11	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	不良	LR		Ⅵ群3類	低い断面三角の隆線で縦位の区画。	
12	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/8	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E		
13	深鉢	胴部~ 底部	淡黄	2.5Y8/3	白色粒多い	良	LR		Ⅵ群3類	太さ5ミリの断面三角になる隆線による縦位区画。磨り消し縄文による無文帯が交互に作られる。	
14	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石多い	不良	—		加曾利E		



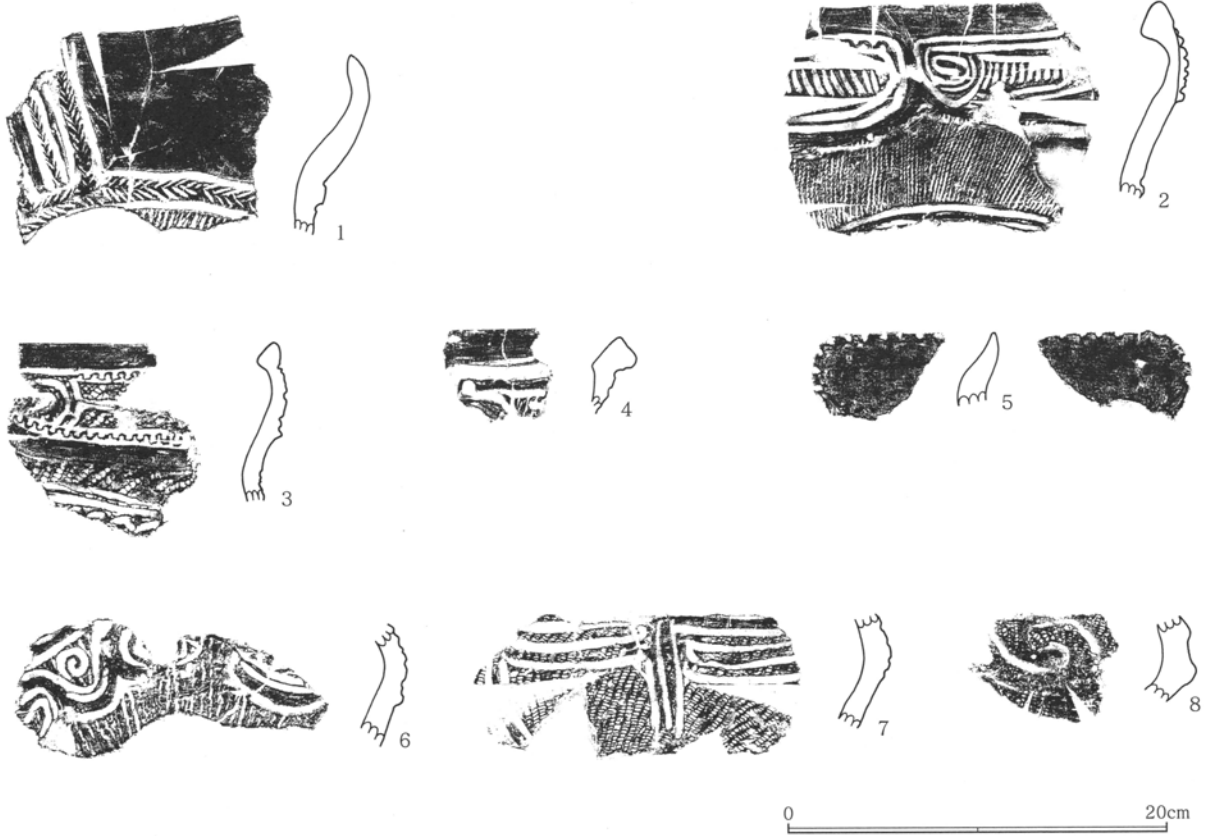
第119圖 J-1 出土土器

J-3出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	両耳壺	ほぼ完形	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、白色粒多い	普通	RL	縦	Ⅶ群2類	太さ5ミリの断面三角の隆線により頸部を区画し、口縁部無文帯を作る。	橋状把手
2	両耳壺	把手	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	RL	縦	Ⅶ群2類		橋状把手
3	深鉢	胴部	にぶい橙	2.5YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの断面三角の隆・沈線による縦位の区画。	
4	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒、白色粒	良	LR	横	加曾利E	太さ5ミリの断面三角の隆線により渦巻文様を描く。	



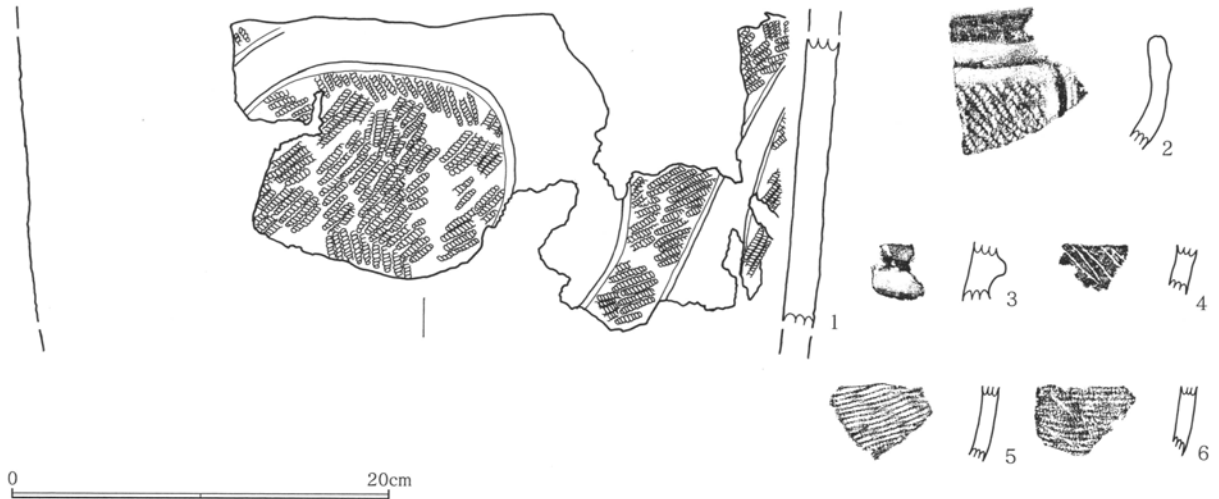
第120図 J-3出土土器



第121図 J-4 出土土器

J-4出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	I群	頸部のくびれ部に隆・沈線による区画。隆線には矢羽状の刻み。口縁には隆線で縦位の区画。	
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの砂粒	良	LR	—	I群	太い隆線による楕円区画内には渦巻や斜線が充填される。燃糸。	
3	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/4	細かい砂粒	良	RL	—	I群	隆線で口縁部を楕円区画。区画内は交互刺突と渦巻文。	
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	I群	太さ2~3ミリの沈線で文様を描く。	
5	深鉢	口縁把手	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	耳朶状になる突起、縁には刻みが施される。	
6	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの砂粒	良	LR	—	I群	隆線による波状の区画。区画内には渦巻文。燃糸。	
7	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	RL	—	I群	太さ4ミリの沈線による方形区画。	
8	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—	—	I群	渦巻状の隆線が施文される。	



第122図 J-6出土土器

J-6出土土器観察表

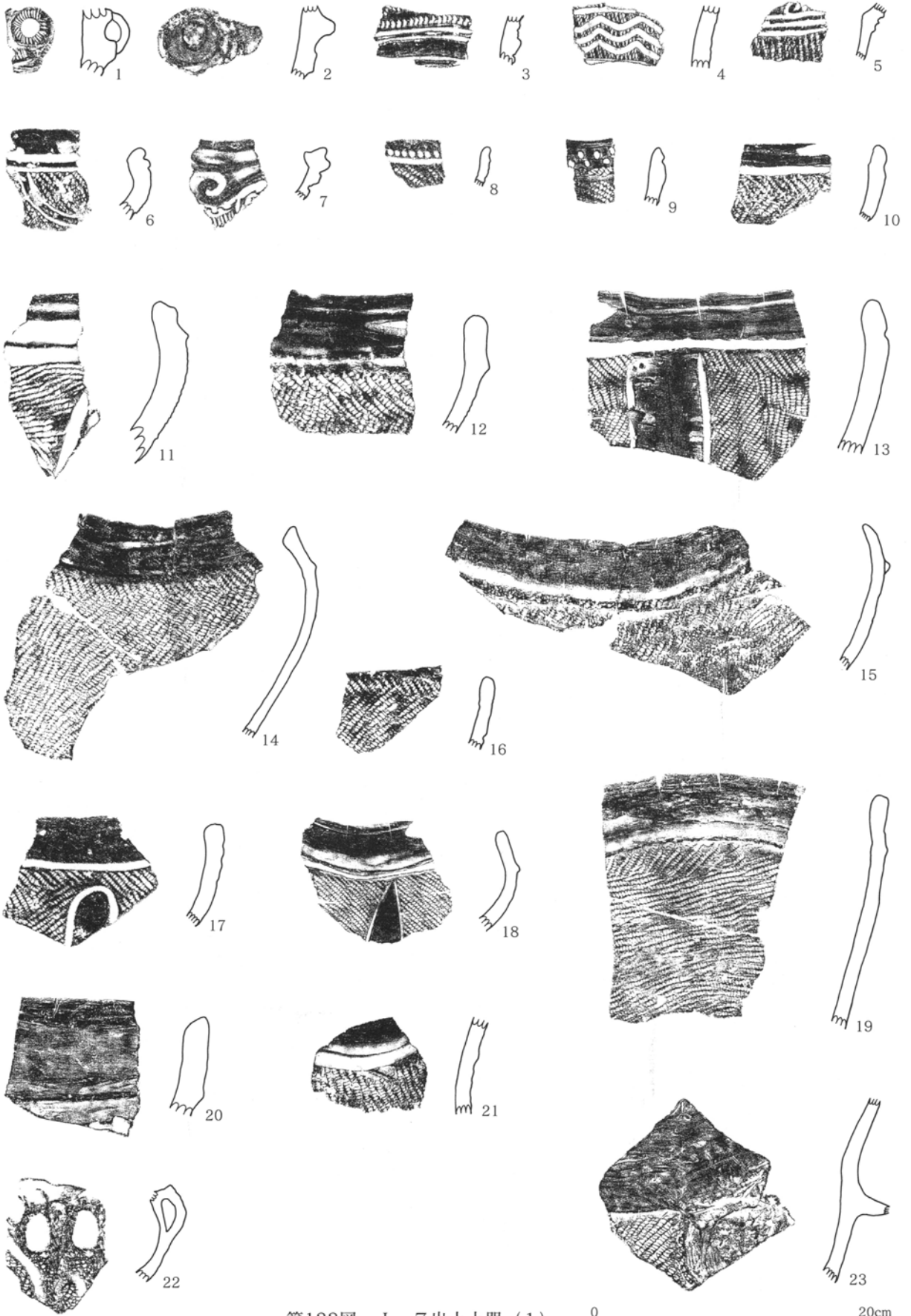
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/3	φ1ミリの小石、白色粒	良	RL		Ⅵ群	太さ4ミリの沈線による楕円区画。磨り消し縄文による無文帯。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁部無文帯。横位ヘラナデ。頸部太さ4ミリの隆起線による横位区画。胴部は、隆起線が頸部から垂下して方形の区画を作る。	
3	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの小石、白色粒	不良	—		加曾利E	胴部太さ5ミリの隆線とそれに沿って沈線による縦位の区画。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		Ⅷ群4類	胴部ヘラ状工具による斜位の条線文。	
5	深鉢	胴部	黒	10YR2/1	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E		
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	斜			

J-7出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	幅6ミリの円形状の隆帯とそこから繋がる隆線上に刻み列を施す。	
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリ前後の砂粒、金雲母	普通	—		勝坂	幅10ミリ前後の環状隆帯文それに付随する摘み状突起、さらにそれらに沿って爪形の刻み列。	
3	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		勝坂	頸部太さ6ミリの隆線による横位区画とそれに沿って平行沈線と半截竹管による爪形文施文。ペン先状の鋸歯文。	
4	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	L	縦	I群	地文撚糸。5条1組の太さ3ミリの沈線を施文する。上下端は水平で中の3条を弧状に施文する。	
5	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	L	縦	I群	頸部幅8ミリの半截竹管による渦巻状文様。その下部に同じ工具による3条の平行沈線文。地文撚糸。	
6	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/4	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	RL	縦	I群	口縁部幅9ミリの平行沈線による横位区画。その下部に同じ沈線による弧状区画。	
7	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		I群	口唇部幅12ミリの平坦面を持つ。外面隆帯に半截竹管で渦巻文を施文し、小突起を作る。その下部にクランク状の文様と、縦の刻みを施す。	

J-7出土土器観察表

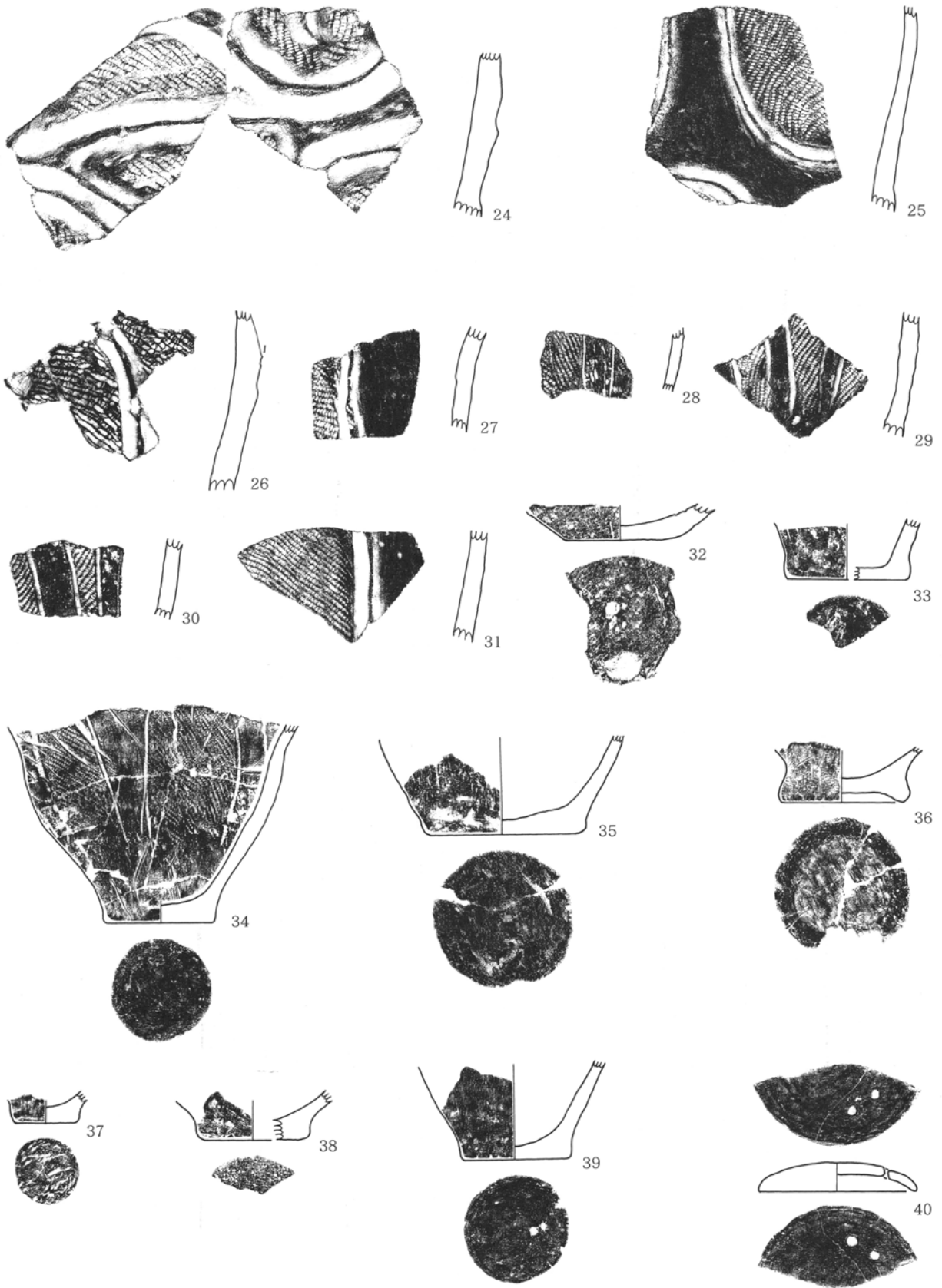
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
8	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	V群2類	口縁部平縁でφ3ミリの棒状工具による刺突列。下部に太さ3ミリの沈線による横位区画。	
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの砂粒	良	RL	縦横	V群2類	口縁部横位整形後ペン先状工具による刺突列。頸部は、太さ5ミリの隆起線による横位区画。その上面に縄文施文。	
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	VI群	口縁部平縁で横位の整形。下部を太さ5ミリの沈線による横位区画。	
11	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	III群	口縁部太さ6ミリの2条の隆起線による横位区画。胴部、隆起線による縦位区画。	
12	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	VI群	口縁部平縁で無文帯。横位の整形。頸部太さ5ミリの隆起線による横位区画。	
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	VI群3類	口縁部の下に太さ6ミリの沈線により横位区画。胴部は、太さ4ミリの沈線により、無文帯と縄文帯を分ける縦位区画。	
14	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	VI群1類	口縁部波状。無文帯を持ち、横位の整形。頸部に太さ5ミリの隆起線により横位区画を施す。	
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	VI群1類	口縁部平縁で無文帯を持ち、横位の整形。頸部太さ5ミリの隆起線を横位に巡らす。隆起線上部に縄文施文。	
16	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦横	VI群	口縁部やや山形の突起を持ち、波状口縁を呈する。	
17	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	VI群1類	口縁部無文で横位の整形。頸部に太さ4ミリの沈線による横位区画。	
18	深鉢	口縁	黒	10YR2/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群1類	口縁部波状を呈し、無文で横位の整形。頸部波状口縁に沿って太さ3ミリの隆起線による区画。胴部2ミリの沈線によるレンズ状区画。	
19	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	横	VI群1類	口縁部平縁で横位の整形。太さ3ミリの隆起線による横位区画。	
20	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	良			VI群1類	口縁部無文帯を横位に整形。頸部太さ5ミリの隆起線による横位区画。	
21	深鉢	胴部	黒褐	5YR2/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群1類	口縁下部に太さ3ミリの隆起線による弧状の区画。0段多条。	
22	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	RL	縦斜	VI群2類	口縁部幅18ミリの橋状把手。太さ5ミリの沈線による楕円状区画及び獣手状文様。	橋状把手
23	両耳壺	口縁~胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VII群2類	口縁部無文帯横位の整形。下部幅60ミリの橋状把手部欠損。太さ2ミリの隆起線による胴部文様区画。縄文0段多条。	橋状把手
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	IV群2類	口縁から頸部太さ6ミリ前後の隆起線による入り組状の渦巻文。	
25	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	VI群1類	太さ3ミリの隆起線により弧線状区画を施す。無文帯部分には、整形痕が残る。	
26	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリ前後の小石	普通	RL	横	加曾利E	文様部の剥落多い。太さ5ミリの隆起線による弧状の区画。	
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	胴部太さ5ミリの隆起線により縦位の弧線を描く区画。	
28	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリ前後の砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線2条を対にして縦位区画する。	
29	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリ前後の砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2~3ミリの沈線2条を対にして縦位区画する。	



第123圖 J-7出土土器(1)

0 20cm





第124図 J-7出土土器(2)

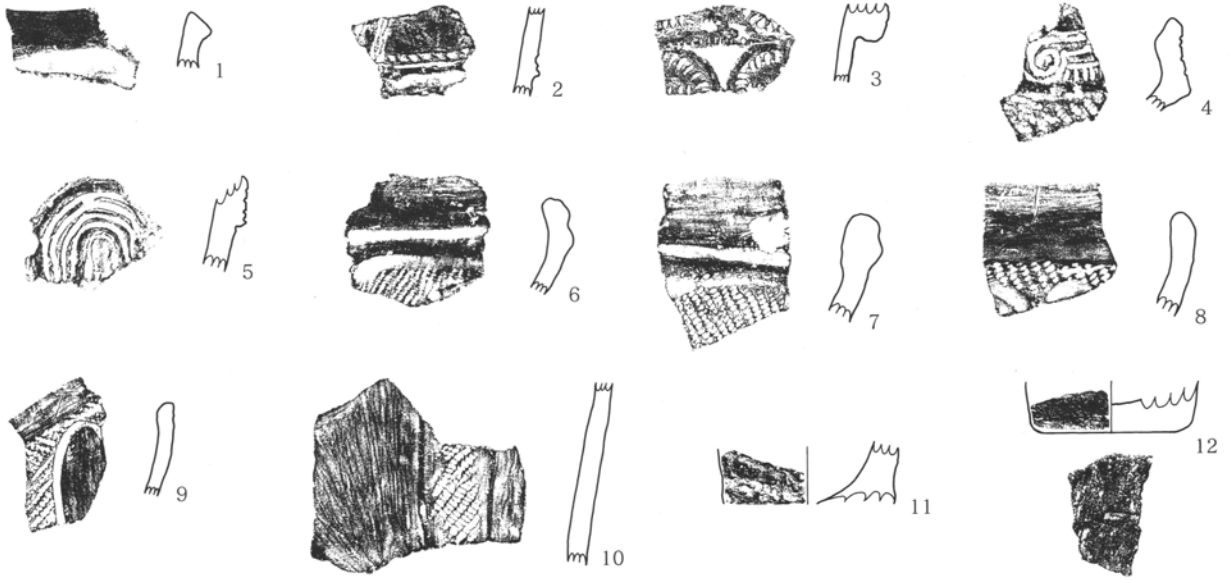
第4章 出土遺物

J-7出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
30	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2~3ミリの沈線を2条対にした縦位区画。0段多条。	
31	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの隆線による縦位区画。磨り消し縄文帯は縦位の整形。	
32	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	表面は剥落が多い。	
33	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	表面整形痕。	
34	深鉢	胴部~底部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線2条1組の縦位区画。その内側をヘラナデ整形し無文帯を構成する。	
35	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	やや不良	—	—	加曾利E	無文。縦位の整形。	
36	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	底面上げ底。底面近くは、横位の整形。上部は、縦位の整形。	
37	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	表面整形痕。	
38	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	表面整形痕。	
39	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	無文。縦位の整形。	
40	蓋		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、角閃石	良	—	—	加曾利E	2つの穿孔がある。表面に整形痕が残る。	

J-8出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	勝坂	折り返し口縁で、口唇断面が台形になる。	
2	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ3ミリの隆線による横位・斜位区画に沿ってペン先状工具による押し引きの刺突。	
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—	—	勝坂	口縁部三角形の摘み状突起に沿って両脇幅6ミリの爪形の刻み列を施文。下部に太さ3ミリの隆線による横位楕円区画を作る。隆線に沿って内側を爪形の刻み列。	
4	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	RL	—	勝坂	口縁部太さ2ミリの沈線による渦巻状文様と縦位の刻み列。ペン先状工具による刺突列。	
5	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	不良	—	—	勝坂	幅25ミリの弧状になる隆帯を貼り、その上面を櫛状工具による4条の沈線を施文している。	
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁部太さ8ミリの隆起線による横位楕円区画。	
7	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁部太さ8ミリの隆起線による横位区画。	
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	口縁部波状を呈し、無文帯に横位の整形痕。	
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部波状。太さ3ミリの沈線による大きな波状区画。	
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	胴部太さ4ミリの隆起線による縦位区画。無文帯は縦位の整形。	
11	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	表面剥落。	
12	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	表面整形痕。	



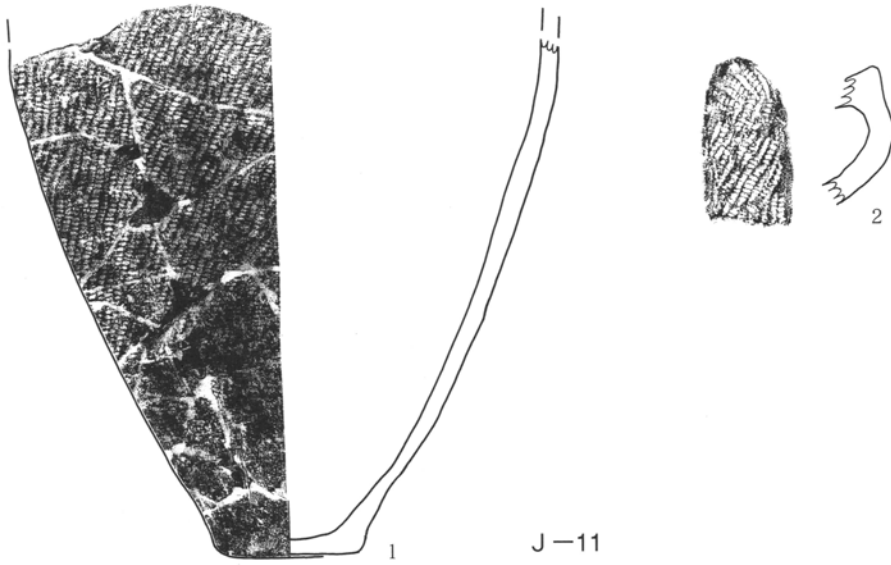
J-8



J-9



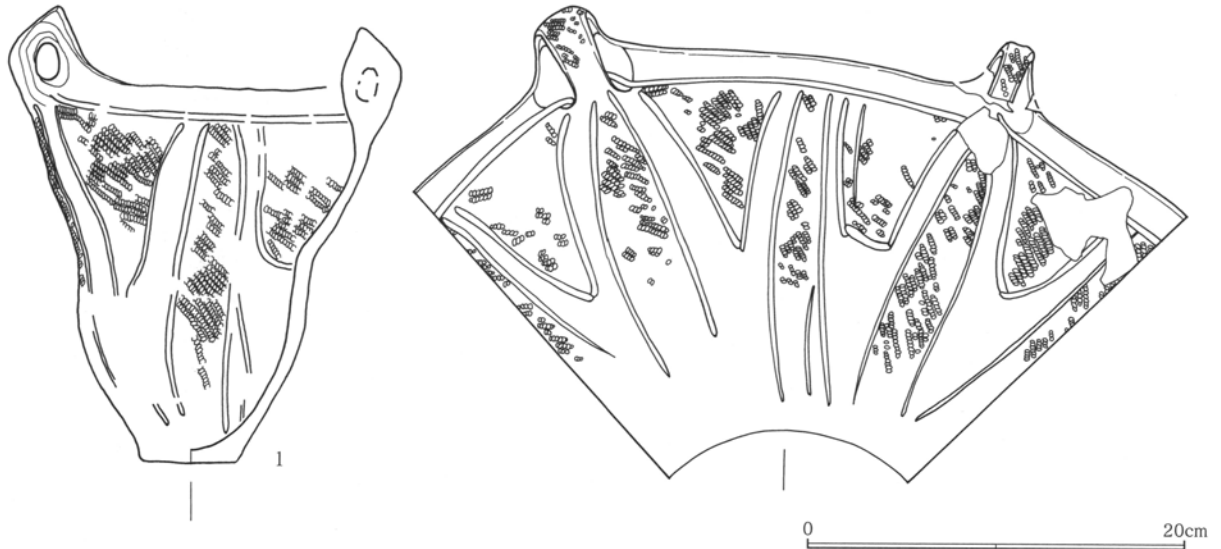
J-10



J-11

0 20cm

第125図 J-8~11出土土器



第126図 J-12出土土器

J-9出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	Ⅵ群	口縁部無文帯。横位の整形。頸部に太さ4ミリの隆起線による横位区画。	
2	器台	脚	橙	5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曽利E	口縁部無文帯。横位の整形。	

J-10出土土器観察表

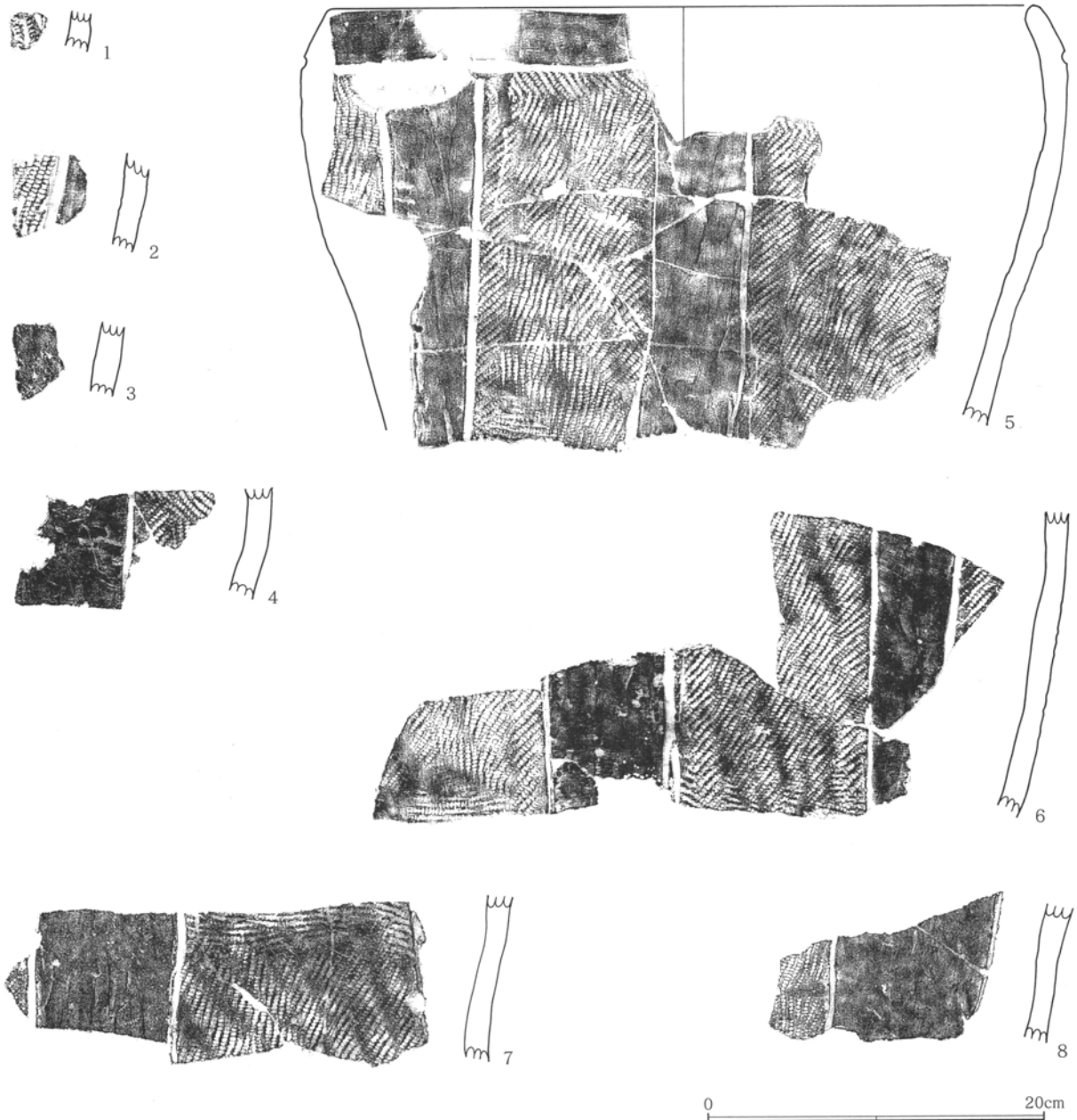
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅲ群	頸部太さ5ミリの隆起線による縦位の区画。胴部太さ5ミリの沈線による「凵」状文。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	胴部太さ3ミリの2条の沈線による縦位の区画。	

J-11出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部~底部	浅黄橙	10YR8/4	白色粒多い	普通	RL	斜	Ⅵ群		
2	両耳壺	把手	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横縦	Ⅶ群2類	把手部は、幅40ミリになる。	橋状把手

J-12出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁~底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒多い	普通	LR	縦	Ⅵ群2類	太さ3ミリの沈線が口縁に巡り無文帯と区画する。胴部は沈線で縦位の区画の文様構成。	橋状把手

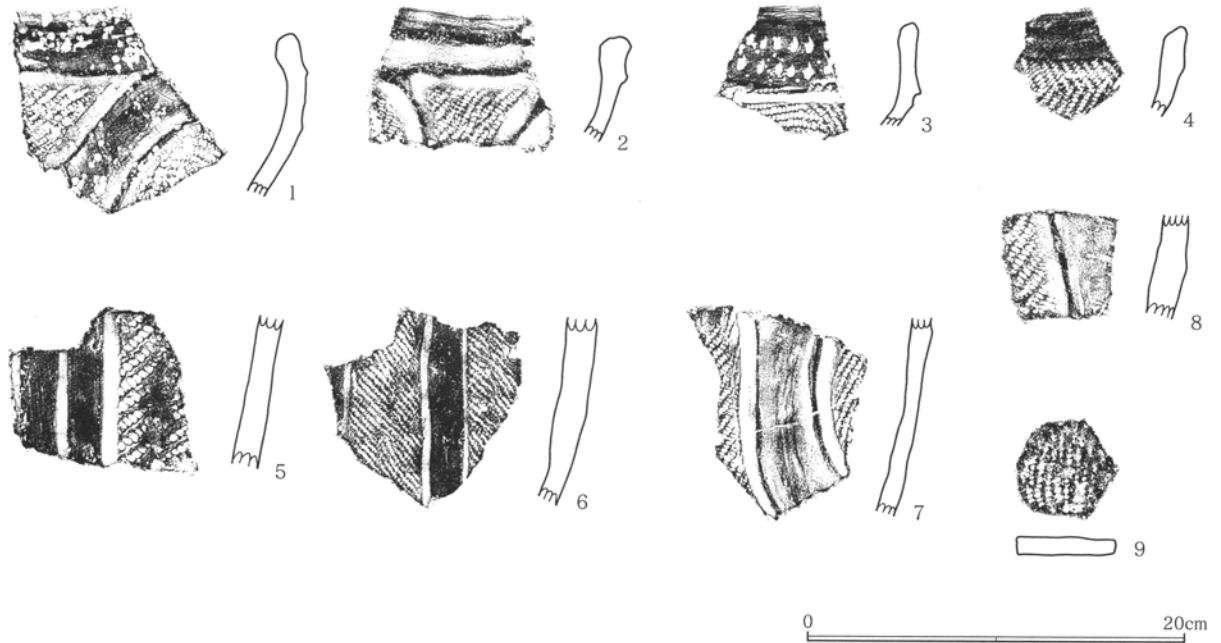


第127図 J-13出土土器

J-13出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	幅6ミリの平行沈線と爪形文。	
2	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	断面三角の隆起線による縦位区画。	
3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—		無文。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	—	VI群	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
5	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの小石、白色粒	良	RL	—	VI群3類	太さ5ミリの沈線が口縁部を巡り、無文帯を区画する。胴部は、同じ沈線により無文帯と縄文帯が交互に区画される。	
6~8	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	VI群3類	太さ5ミリの沈線で縦位区画し、無文帯と縄文帯が交互に区画される。	同一個体

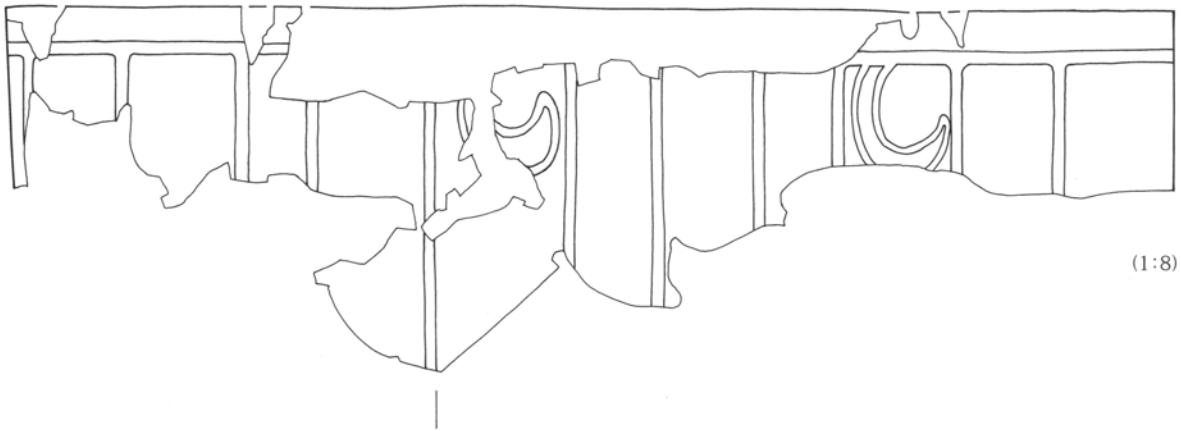
第4章 出土遺物



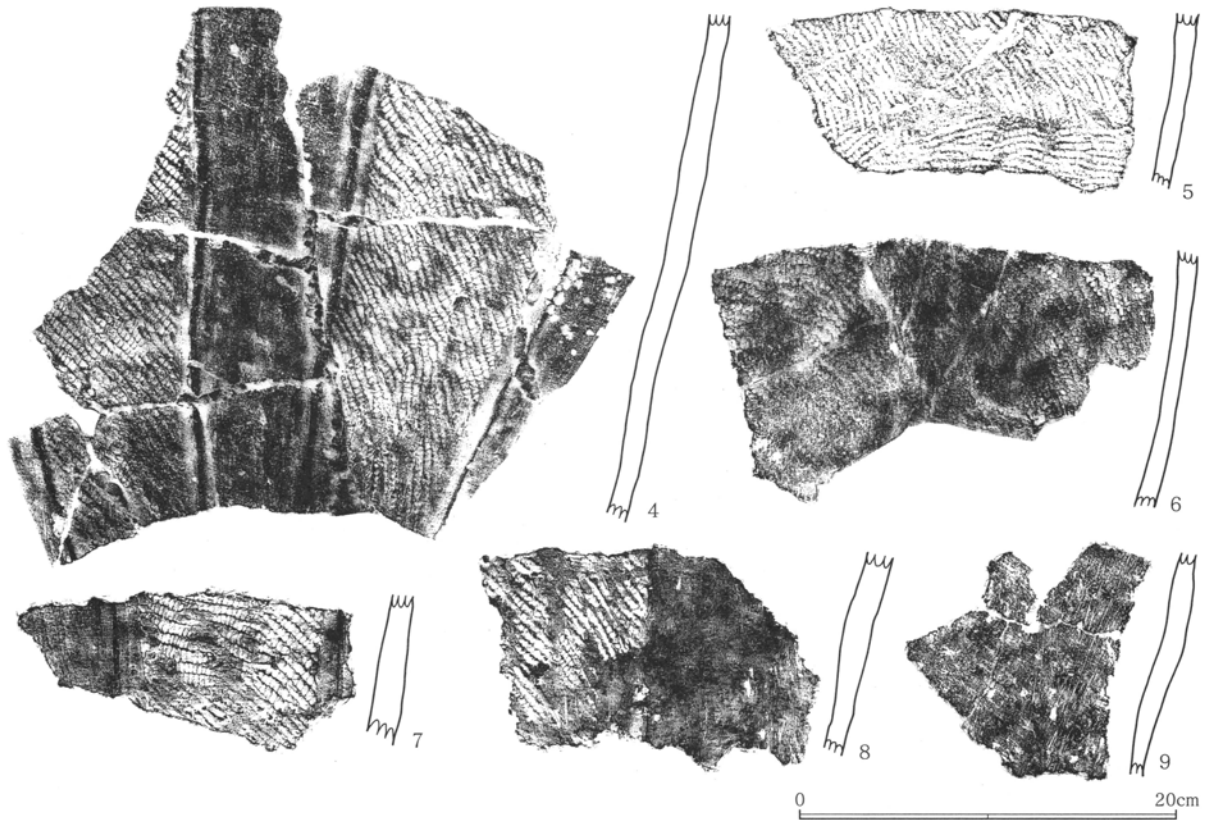
第128図 J-14出土土器

J-14出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	LR	縦	VI群	口縁部は、波状を呈し無文帯を持つ。頸部は、太さ3ミリの隆起線により、区画する。胴部は、頸部から隆起線2条が弧線状に下り無文帯を区画する。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	口縁部無文帯は頸部に太さ4ミリの隆起線により横位に区画される。胴部は頸部からの隆起線により弧状に区画される。	
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	斜横	V群2類	口縁部は、波状を呈し横位ヘラナデ、口唇部ミガキ後ペン先状工具により2列の刺突文を施文する。頸部横位の隆起線とそれに沿う沈線を施す。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	VI群	口縁部波状を呈し無文帯を持つ。	
5	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	胴部に太さ7ミリの3条の沈線による縦位区画を作る。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曽利E	胴部に太さ3ミリと2ミリの沈線により縦位区画を作る。	
7	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	VI群	胴部に太さ3ミリの2条の隆起線により弧線状区画を作る。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	胴部に太さ4ミリの隆起線による縦位区画。	
9	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/4	φ1ミリの砂粒	やや不良	RL	縦	加曽利E		



第129图 J-15出土土器 (1) 0 20cm

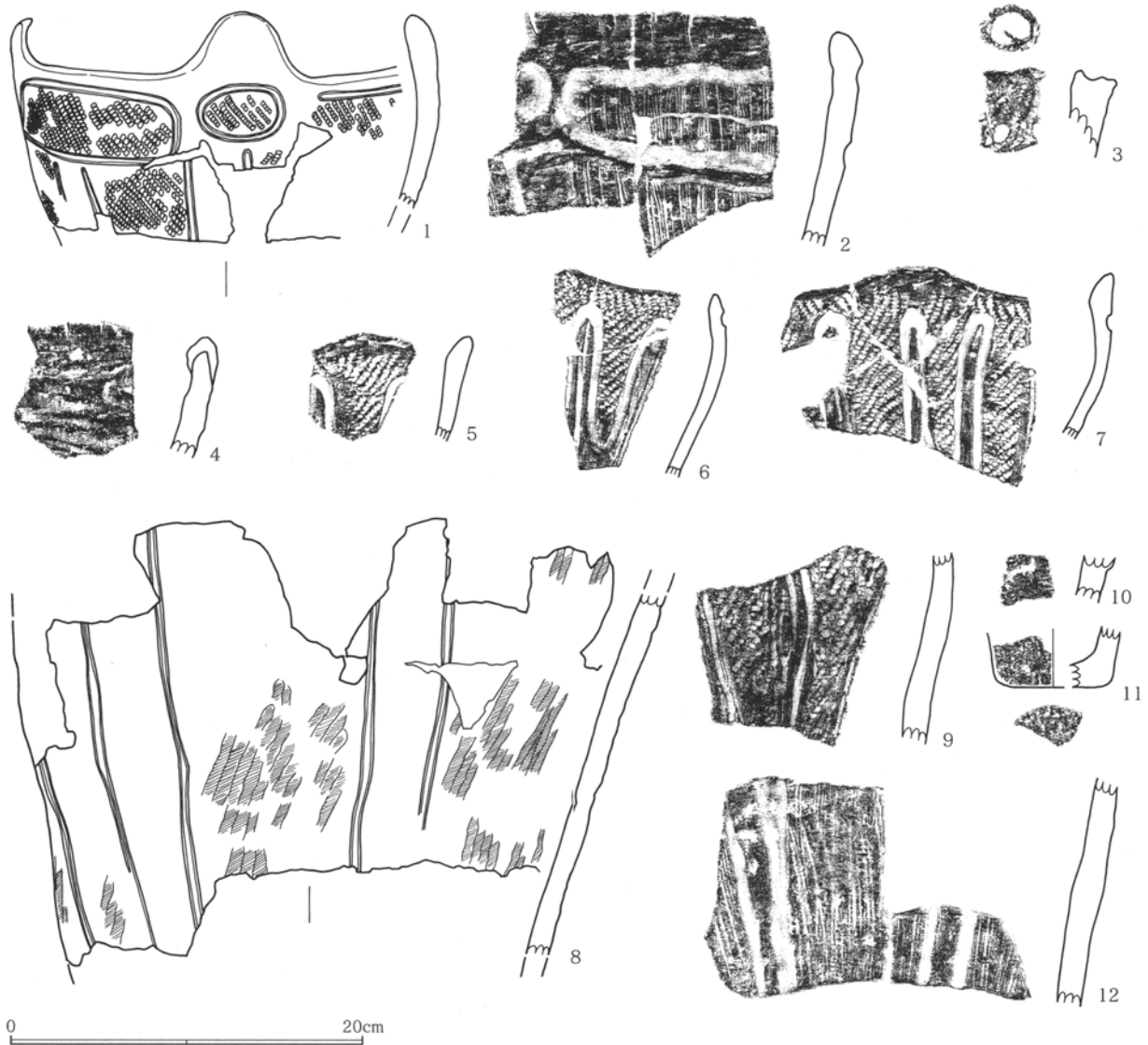


第130図 J-15出土土器 (2)

J-15出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	良	LR	縦	VI群3類	口縁部に断面三角形、太さ5ミリの隆線により、口縁部無文帯を区画する。胴部は、隆線による縦位区画。磨り消し縄文による無文帯と縄文帯が交互に構成される。	
2	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	VI群1類	口縁部波状を呈し内傾する。頸部に太さ3ミリ、断面三角の隆起線による区画。口縁部は横位の整形。胴部は縄文を带状に施文。	
3	両耳壺	口縁～胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	VII群2類	口縁部無文帯。横位の整形。太さ3ミリの沈線で口縁部を区画する。頸部は幅50ミリの橋状把手が付く。胴部は、8条1単位の条線。	橋状把手
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	胴部に太さ3ミリ、断面三角の隆起線による縦位区画。無文帯と縄文帯を交互に作る。	
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	VI群	0段多条の原体を使い施文方向を変え羽状縄文を表現する。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群	縄文を浅く施文。	
7	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	斜	VI群	断面三角太さ3ミリの隆起線による縦位区画。無文帯と縄文帯を交互に作る。無文帯は、縦位の整形。	
8	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	やや不良	RL	縦	VI群	断面三角太さ3ミリの隆起線による縦位区画。無文帯と縄文帯を交互に作る。無文帯は、縦位の整形。	
9	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	VIII群4類	橋状工具による条線文。	





第131図 J-16出土土器

J-16出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	横	Ⅲ群1類	4単位になると思われる舌状突起下には、太さ4ミリの沈線による円形区画と楕円区画。胴部には、縦位の沈線による区画で無文帯と縄文帯を交互に構成する。	舌状突起
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	Ⅶ群1類	口縁部から胴部に櫛状工具により条線文が施文される。口縁部は隆帯と沈線により横位入り組の楕円区画を作る。	
3	深鉢	口縁突起	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅵ群	口縁部円柱状の突起で頂部に渦巻状の沈線文。ややラッパ状に開く。口縁部には、φ5ミリの刺突を巡らす。	
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部無文。横位の整形痕。	
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	口縁波状を呈し、太さ4ミリの沈線による波状の文様区画。	

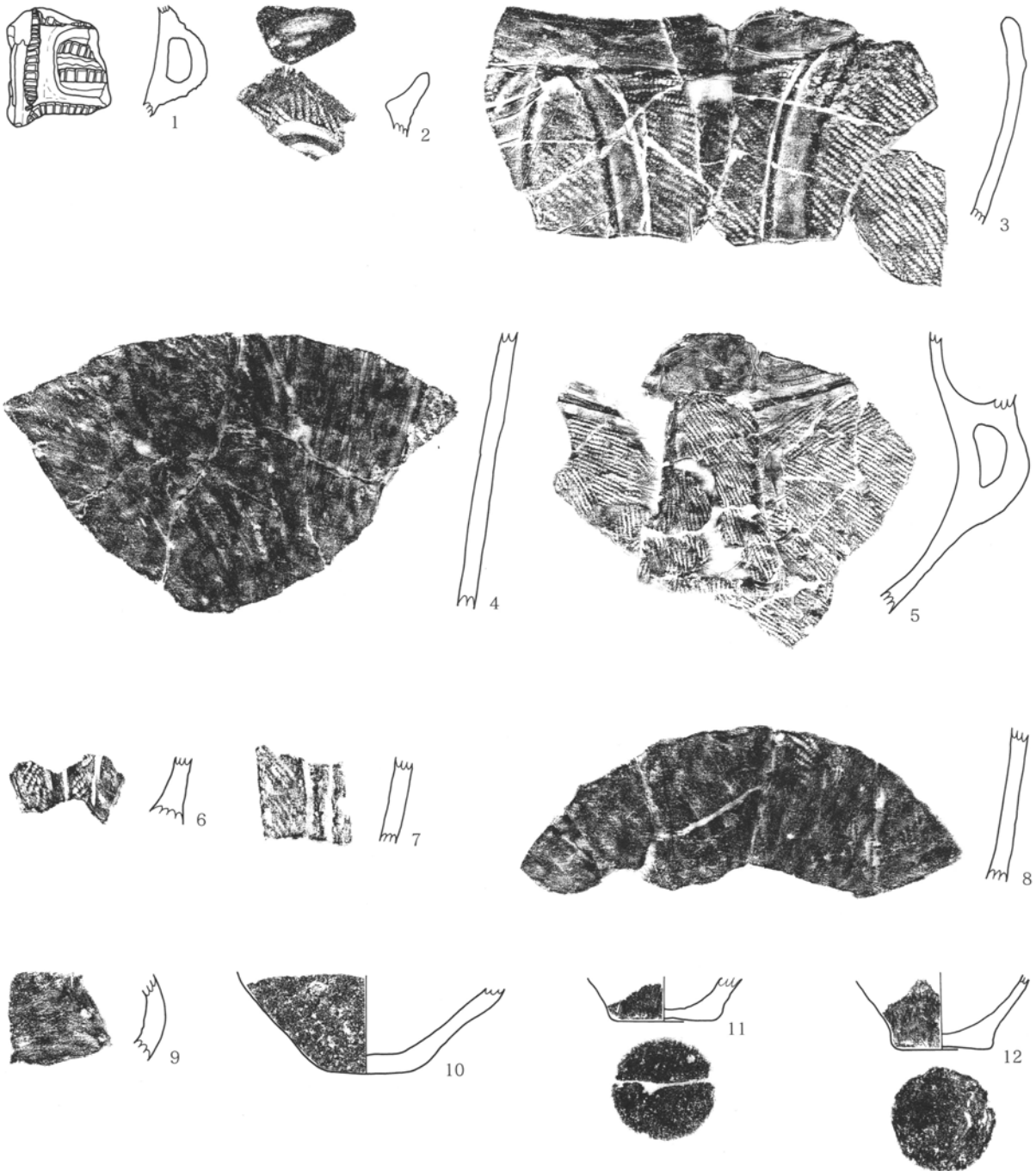
第4章 出土遺物

J-16出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
6	深鉢	口縁～胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1～4ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部に小突起を持つ波状口縁。頸部から胴部は太さ5ミリの沈線による「∩」状の文様。文様内は磨り消し縄文。	7と同一個体
7	深鉢	口縁～胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部に小突起を持つ波状口縁。頸部から胴部は太さ5ミリの沈線による「∩」状の文様。文様内は磨り消し縄文。	6と同一個体
8	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	不良	RL		加曾利E	太さ4～8ミリの沈線で縦位の区画を作る。無文帯と縄文帯を交互に構成。	
9	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部に太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
10	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—				
11	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E		
12	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		Ⅷ群1類	胴部太さ6ミリの2条1組の沈線による縦位区画。櫛状工具による条線文。	

J-17出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	明褐灰	7.5YR7/2	φ1ミリの白色粒、金雲母	良	—		勝坂	幅7ミリの平行沈線と爪形文が口縁・把手部に施文。爪形文間に鋸歯状の文様。	橋状把手
2	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	波状口縁の舌状突起部。太さ6ミリの沈線が渦巻文様を描く。内面にも「∩」文様が施文される。	舌状突起
3	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	Ⅵ群1類	波状口縁になる。太さ3～4ミリの隆線で口縁部無文帯を区画する。波状口縁の頂部下に隆線で弧線を描く。隆線が集まり小突起となる。	
4	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1～2ミリの砂粒、白色粒	良			Ⅵ群1類	太さ5ミリの隆線による縦位の区画。無文部には縦位の整形痕。	
5	両耳壺	口縁	明褐灰	7.5YR7/2	φ1～3ミリの小石、白色粒多い	良	LR	縦横	Ⅶ群2類	口縁部に隆線が巡り無文帯を区画。把手の頂部は、舌状突起。	橋状把手 舌状突起
6	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ2～3ミリの沈線による縦位の区画。無文帯と縄文帯を交互に構成する。	
7	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/1	細かい白色粒	不良		縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
8	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒、白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
9	浅鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1～2ミリの砂粒	不良	—				
10	浅鉢	底部	灰白	2.5Y8/2	白色粒多い	不良	—		加曾利E		
11	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	白色粒多い	良	—		加曾利E		
12	深鉢	底部	灰白	10YR8/2	白色粒多い	普通	—		加曾利E		



第132图 J-17出土土器



第133図 J-18出土土器

J-18出土土器観察表

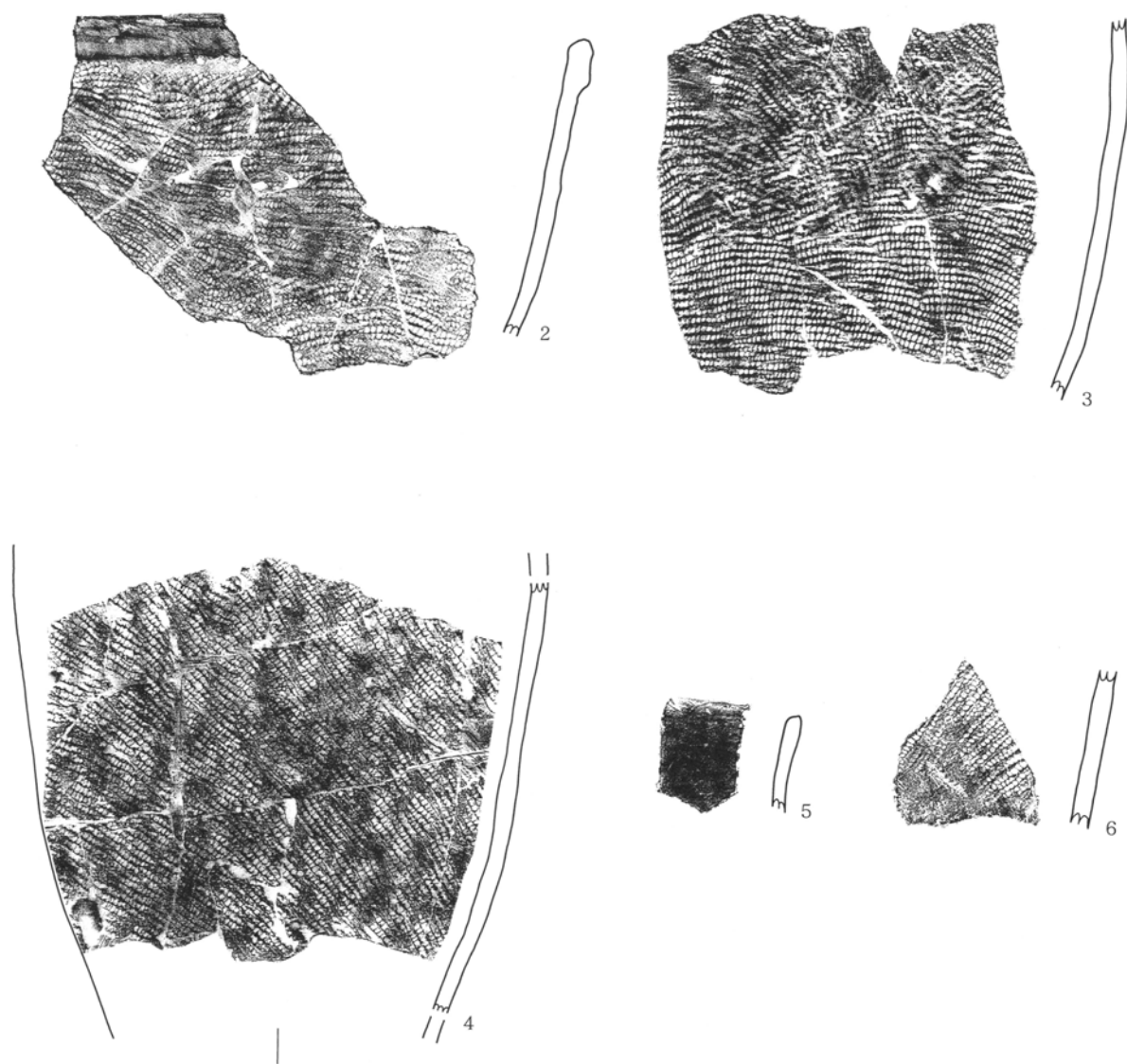
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	両耳壺	胴部～底部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1ミリの砂粒、白色粒多い	普通	LR	横縦	VII群2類	橋状把手が付き、両耳壺になる。把手部は欠損。原体を変えた羽状縄文。	橋状把手
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	胴部太さ2ミリの沈線による弧状の区画。	
3	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E	頸部に隆線による横位の区画。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	胴部に带状に縄文を施文。	
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E		
6	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	斜	加曾利E		
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利E		
8	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E		
9	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	-	-	加曾利E	胴部縦位の整形。	



第134図 J-19出土土器 (1)

J-19出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒多い	良	RL	縦	VI群	太さ5ミリの断面三角形の隆線による楕円区画。区画間は、磨り消し細文。	
2	深鉢	口縁~胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	LR	斜	VI群	口縁部に太さ5ミリ、断面三角形の隆線が巡り口縁部と区画する。	
3	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石	良	LR	斜	VI群		
4	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		
5	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい白色粒	良	-	-	加曾利E	口縁部横位の整形。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E		



第135図 J-19出土土器(2)

J-20出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	把手	橙	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	—	—	加曽利E	幅25ミリの橋状把手。太さ3ミリの沈線を施文する。	橋状把手
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曽利E	胴部縦位の整形。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	縦位の沈線。	

J-21出土土器観察表

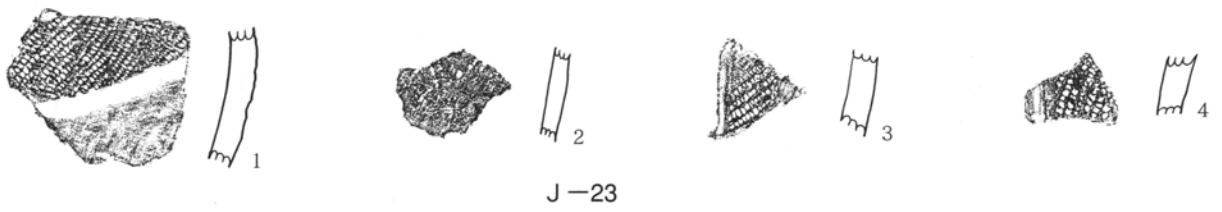
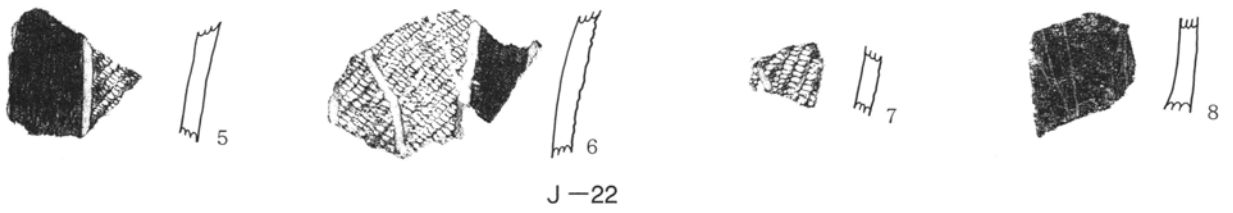
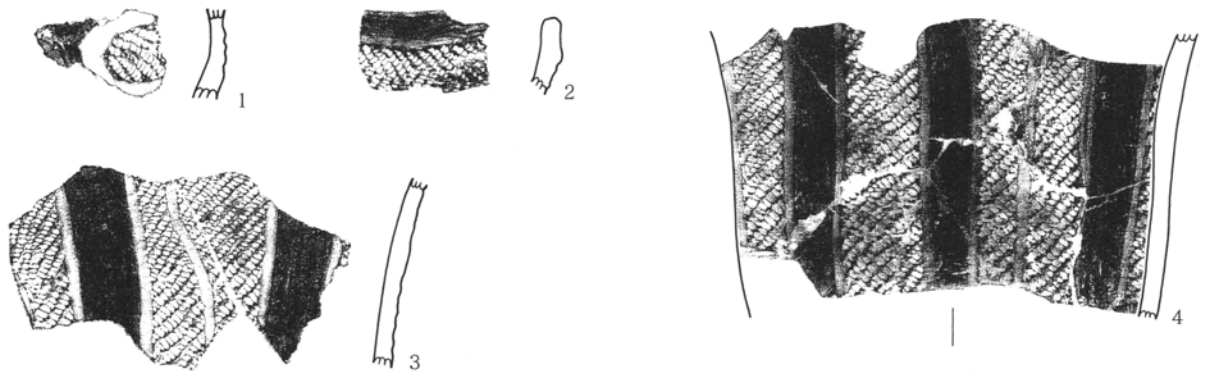
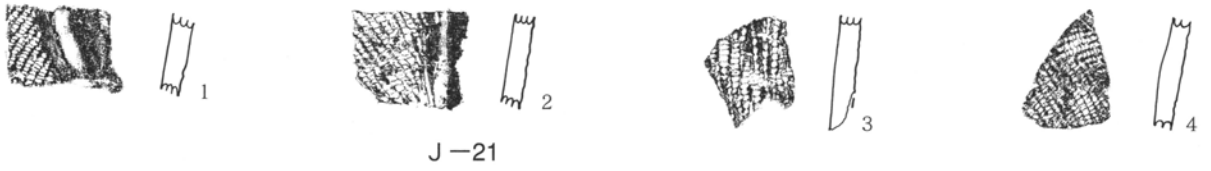
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	胴部太さ4ミリの隆起線による弧線状区画。	
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	胴部太さ4ミリの隆起線による弧線状区画。	
3	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E		
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曽利E		

J-22出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	—	Ⅲ群	太さ7～8ミリの沈線による楕円区画。	
2	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群	波状口縁。口縁部に隆起線が巡り無文帯を区画する。	
3	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	胴部に太さ5ミリの沈線による縦位の区画。区画間に沈線による縦位の波状文。	
4	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曽利E	胴部に太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリ以下の白色粒多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの小石、白色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画と波状文。磨り消し縄文による無文帯。	
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリ以下の白色粒多い	普通	RL	—	加曽利E	縄文施文。	
8	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	太さ1ミリの沈線による縦位区画。	

J-23出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	胴部太さ9ミリの沈線により弧線状区画。	
2	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曽利E	無文部横位の整形。	
3	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	胴部太さ7ミリの沈線により縦位の区画。	
4	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	加曽利E	胴部太さ6ミリの沈線により縦位の区画。	



0 20cm

第136图 J-20~23出土土器



J-24出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁突起	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリ前後の砂粒	良	LR	縦	Ⅵ群2類	口縁部波状になる。頂部に橋状把手が付く。把手下部より横位に隆起線で文様区画する。	橋状把手
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、角閃石	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部波状になる。頸部太さ6ミリの隆線による横位区画。	
3	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
4	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR5/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	胴部太さ4ミリの沈線による楕円区画。	
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通	LR	縦	加曾利E		
6	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	底面剥落。	
7	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリ砂粒	普通	—		加曾利E		

J-25出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁部太さ8ミリの沈線による楕円区画。	
2	深鉢	口縁	灰白	5YR8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁部太さ5ミリの隆線とそれに沿う沈線による横位渦巻状区画。	
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリ前後の砂粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁部太さ6ミリの隆線とそれに沿う沈線による弧状区画。	
4	深鉢	胴部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による文様区画。	
5	深鉢	胴部	浅黄	5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	斜	加曾利E	口縁部太さ8ミリの沈線とそれに沿う隆線による横位区画。胴部は、同じ沈線による弧線区画。	
6	深鉢	胴部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	無文。	

J-26出土土器観察表

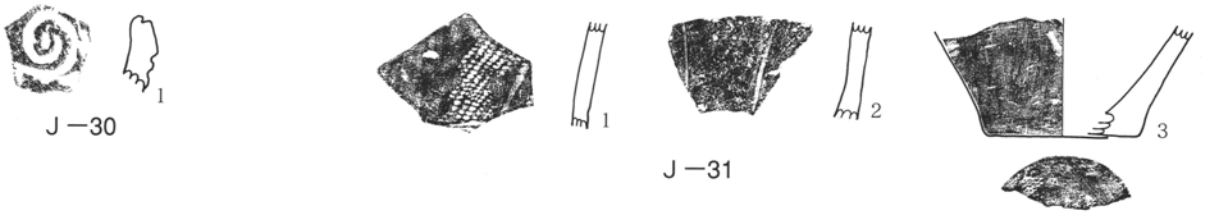
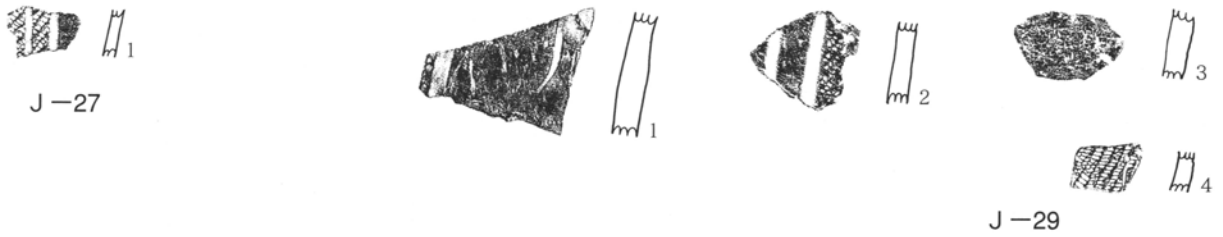
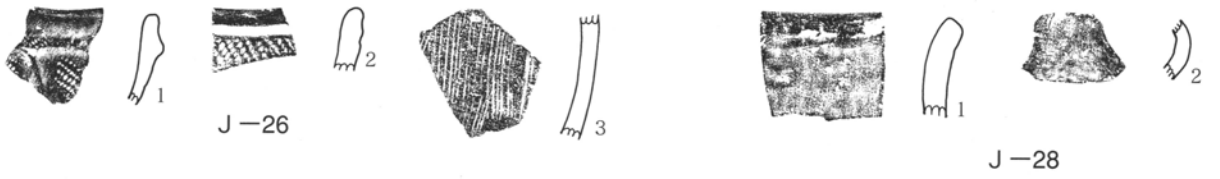
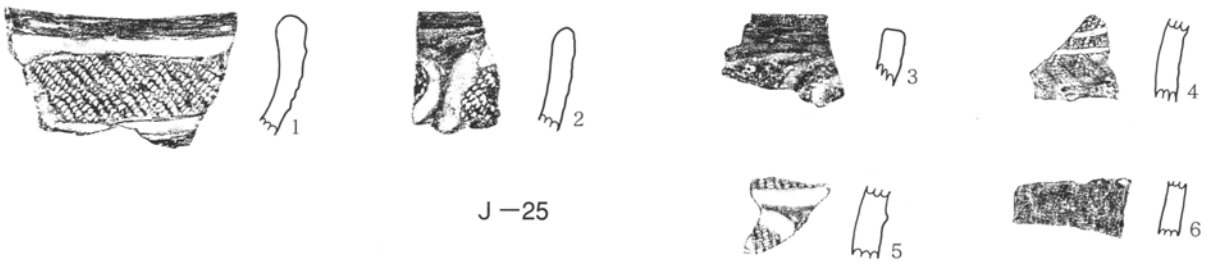
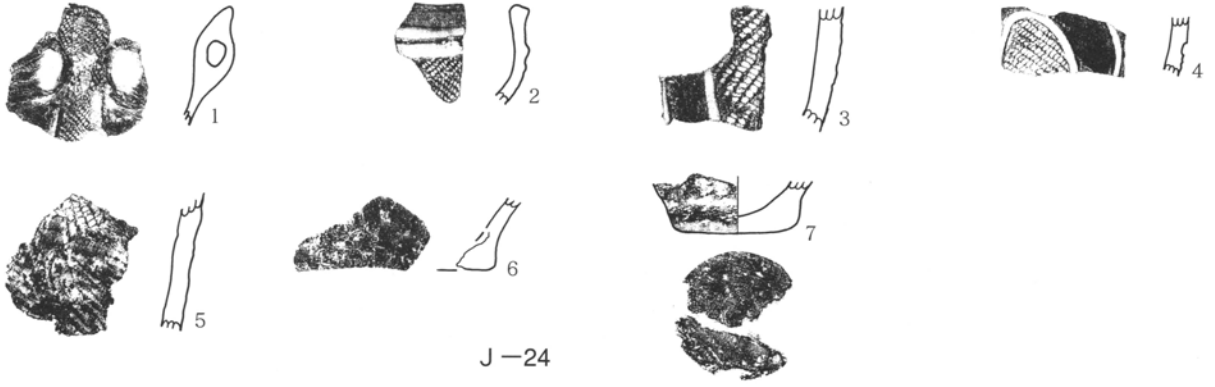
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E	波状口縁。頸部太さ5ミリの隆線による横位区画。隆線により、弧状の区画を施す。	
2	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	頸部に太さ5ミリの沈線による区画線が巡る。	
3	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	胴部橋状工具による条線を施文する。	

J-27出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの沈線による縦位区画を施す。	

J-28出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒、角閃石	普通	—		加曾利E	無文。横位の整形。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	無文。	橋状把手



0 20cm

第137图 J-24~31出土土器

J-29出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曽利E	胴部隆起線により楕円・弧状区画を作る。	
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	胴部太さ5ミリの沈線により縦位区画を作る。	
3	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	普通			加曽利E	摩滅多い。	
4	深鉢	胴部	にぶい橙	2.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	0段多条の縄文施文。	

J-30出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	良	—		加曽利E	口縁部波状を呈し、太さ4ミリの沈線により渦巻状の文様。	

J-31出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	胴部に太さ3ミリの沈線による縦位区画。	
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		Ⅵ群	胴部下部縦位の整形。	
3	深鉢	胴部～底部	灰白	10YR8/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		Ⅵ群	胴部下部縦位の整形。	

J-33出土土器観察表

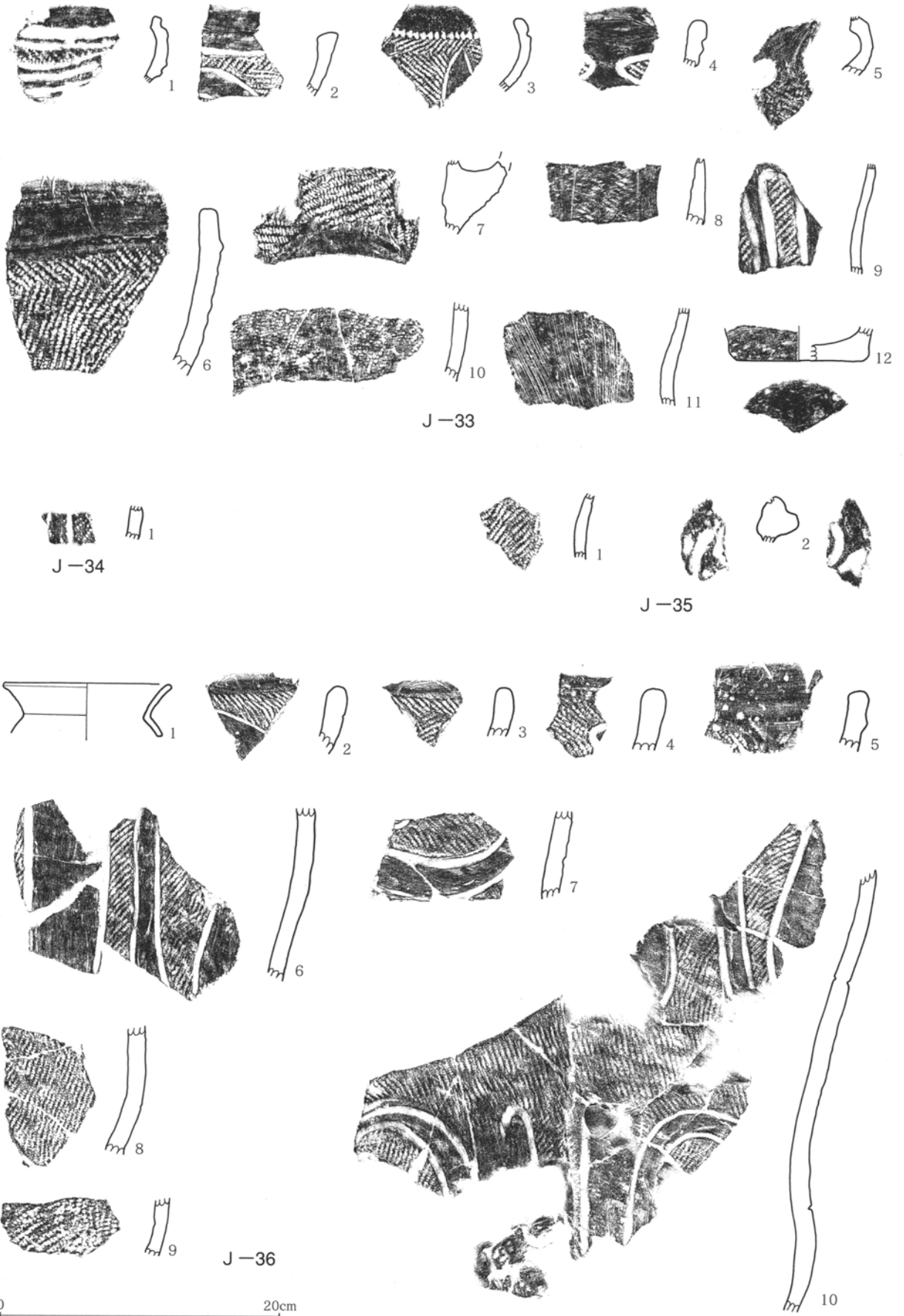
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリ前後の砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁部太さ4ミリの沈線とその間の隆線による三角形状モチーフの区画を施す。	
2	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ2ミリ前後の砂粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁・胴部無文帯横位の整形。太さ3ミリの沈線による弧状区画。	
3	深鉢	口縁	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部無文帯。頸部ペン先状刺突を巡らす。胴部太さ2ミリの沈線により縦位波状区画。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	Ⅵ群	波状口縁。太さ3ミリの沈線による区画。	
5	両耳壺	把手	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	不明		Ⅵ群2類	幅40ミリの橋状把手。	橋状把手
6	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群3類	口縁部無文帯、横位の整形。頸部隆起線により横位区画。	
7	両耳壺	把手	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群2類	幅60ミリの橋状把手。	橋状把手
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通			Ⅵ群	太さ1ミリの沈線により縦位区画を施す。	
9	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	
10	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	縄文施文。	
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		Ⅷ群	櫛状工具による条線。	
12	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	無文。	

J-34出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	

J-35出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	加曽利E	縄文施文。	
2	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	不良	—		加曽利E	口縁部、隆帯とそれに伴う両側の沈線施文の半円形の突起。	突起



第138图 J-33~36出土土器

J-36出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	甕	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	土師器	口縁「く」の字状に屈曲。全面ナデ。	混入
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群	口縁部波状。ペン先状工具による沈線で文様を描く。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	VI群	口縁部波状。縄文は羽状縄文。	
4	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群	口縁部太さ4ミリの沈線による区画。	
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦横	VI群	口縁部無文帯横位の整形。頸部太さ4ミリの隆線により横位区画。胴部は、同じ隆線により弧を描く。	
6	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	VI群	胴部太さ4ミリの沈線による縦位及び「U」状の区画。	
7	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	横	VI群	太さ4ミリの二重になる沈線による弧状の区画。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	縄文施文。	
9	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒	不良	LR	横斜	加曾利E	縄文施文。	
10	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリ前後の砂粒	普通	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線により「U」「∩」状の区画を施す。区画間に蔽手文様を施文。	

J-37出土土器観察表

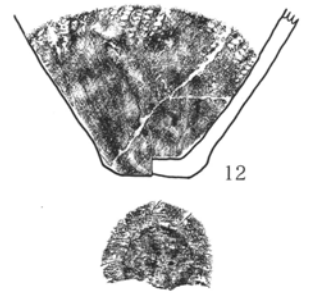
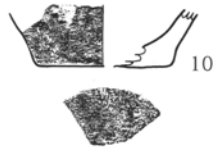
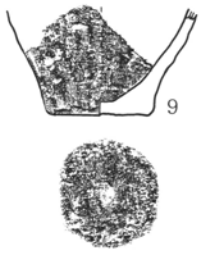
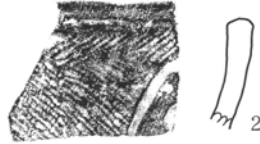
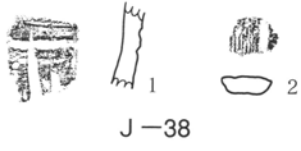
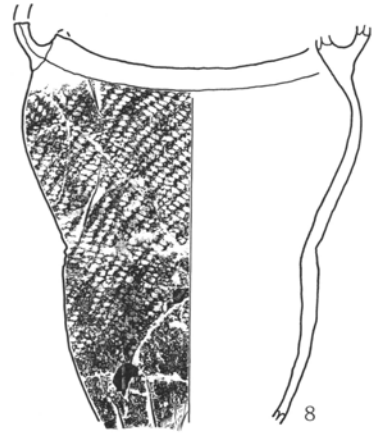
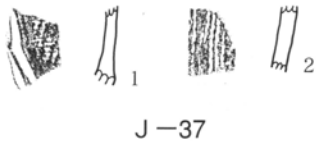
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの二重沈線による文様施文。	
2	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	撚糸施文。	

J-38出土土器観察表

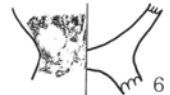
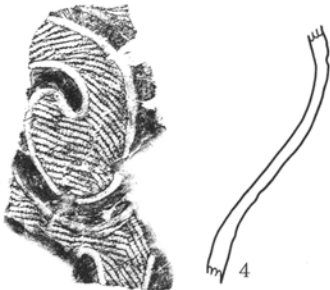
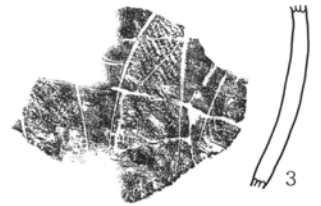
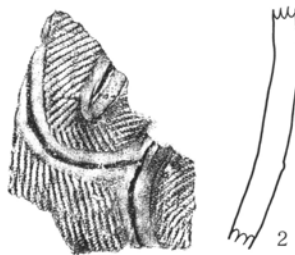
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による横位および縦位の沈線による区画。	
2	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	—	—		胴部太さ3ミリの沈線。	

J-39出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	良	LR	横	III群1類	口縁部太さ10ミリ以上の隆線により「∩」の文様を施文する。	
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	V群2類	口縁部太さ4ミリの沈線による弧状の区画。	
3	浅鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	—	—	加曾利E	口縁部無文帯横位の整形。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの隆線による縦位区画。	
5	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	良	LR	縦斜	VI群	胴部太さ5ミリの沈線による波状区画。	
6	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/4	φ1ミリ前後の小石、金雲母	普通	—	—	阿玉台	頸部太さ3ミリの隆線とそれに伴う沈線による横位施文。胴部には、波状の平行沈線を施す。	
7	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	胴部下位に太さ3ミリの2条1組の沈線による縦位の区画。	
8	深鉢	口縁～胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	VI群2類	口縁部は緩やかな波状を呈し、無文帯を持つ。胴部は、微隆起線により区画される。	環状把手
9	深鉢	胴部～底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	—	—	加曾利E	底部付近は縦位の整形痕。	
10	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	底部付近は縦位の整形痕。	
11	深鉢	底部	暗赤褐	5YR3/6	φ1～3ミリ小石	普通	—	—	加曾利E	底部付近は縦位の整形痕。	
12	深鉢	胴部～底部	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリ前後の小石	普通	RL	縦	加曾利E	底部付近は縦位の整形痕。	



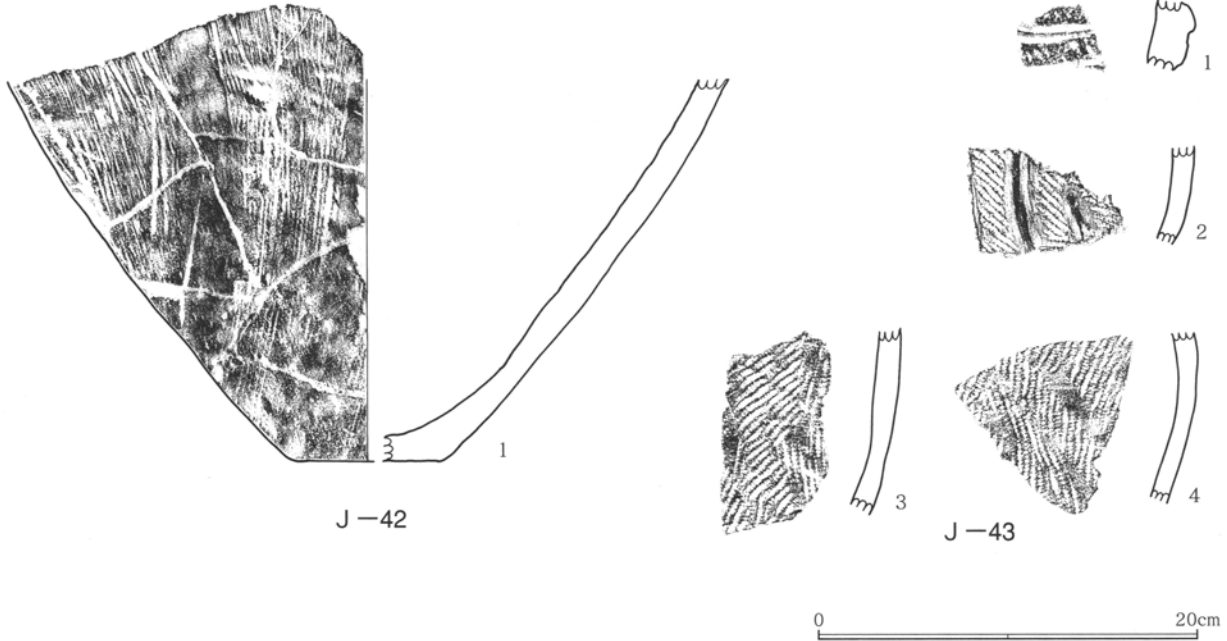
J-39



J-40

0 20cm

第139图 J-37~40出土土器



第140図 J-42・43出土土器

J-40出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	胴部太さ3ミリの隆線が口縁部文様帯から垂下して方形状を区画する。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E	太さ3ミリの断面三角の隆起線による弧状区画。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	やや不良	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線により「∩」状区画。	
4	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	横斜	加曾利E	太さ2ミリの沈線により渦巻状文様。文様間は、磨り消し縄文。	
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
6	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E	高台になる。外面縦位の整形。	高台

J-42出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	浅鉢	胴部~底部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		VIII群3類	櫛状工具による条線文。	

J-43出土土器観察表

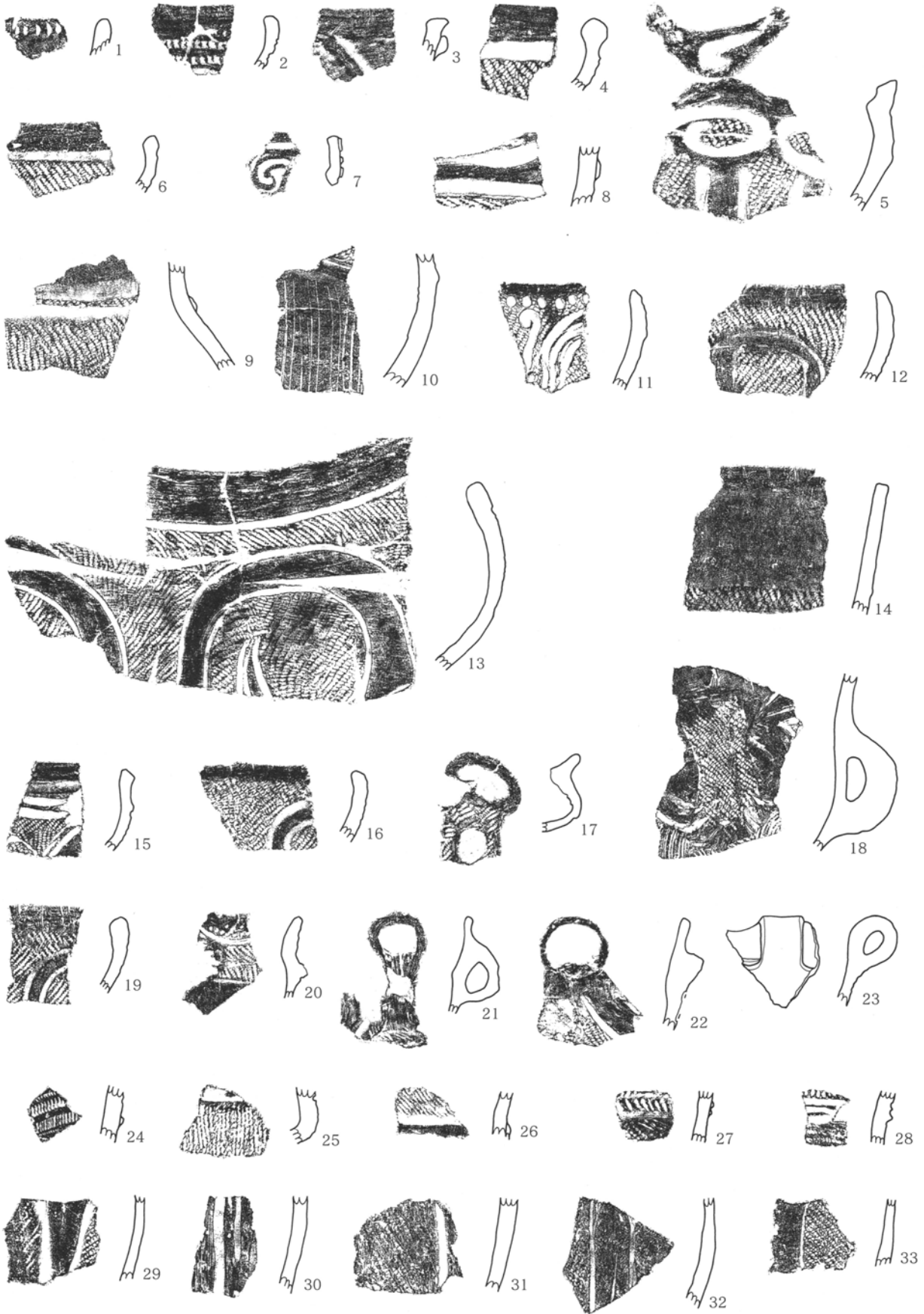
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	—		III群	幅6ミリの半截竹管による平行沈線文を横位に巡らす。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリ前後の砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ4ミリの隆線による弧状の文様。	
3・4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	加曾利E	縄文を帯状に施文。	同一個体

第4章 出土遺物

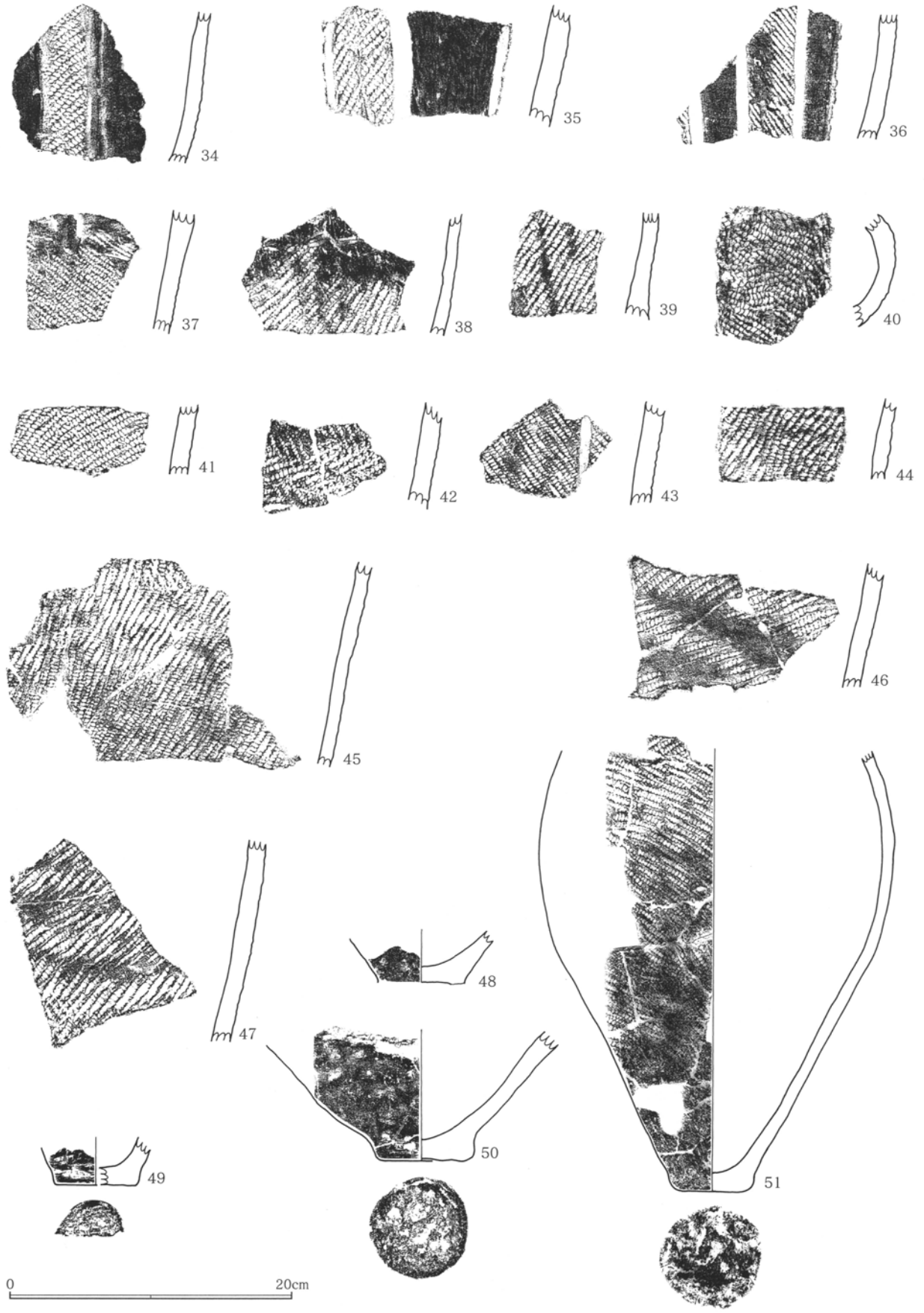
J-45出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	口唇部に竹管による爪形の刻み列。	
2	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリ小石	良	—	—	勝坂	幅5ミリの平行沈線による刺突列。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	口縁部から隆線貼り付。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁部に太さ15ミリの沈線による文様区画。	
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦横	Ⅳ群1類	太さ10~12ミリの沈線で口縁部に渦巻文、楕円区画を作る。胴部には2条対になり縦位の区画。舌状突起内には「∞」の沈線文。	舌状突起
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、黒雲母	普通	RL	—	加曾利E	太さ7ミリの沈線が口縁に沿って施文される。	
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	不良	—	—	加曾利E	太さ2ミリの隆線による渦巻文。	
8	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	—	Ⅲ群	太さ10ミリの沈線による区画。	
9	浅鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	横	Ⅶ群2類	胴部くびれ部に太さ8ミリの隆線が巡る。	
10	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅷ群4類	太さ8ミリの低い隆線で縦位の区画。細い沈線が肋骨文風に施文される。口縁に隆線による楕円区画。	
11	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅴ群2類	口縁にφ7ミリの円形刺突列。太さ5~6ミリの沈線による「J」の文様や弧線が施文される。	
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線2条で無文帯を作り、方形の文様を描く。	16・19と同一個体
13	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、黄色粒	普通	RL	縦横	Ⅵ群1類	太さ5ミリの沈線が口縁に巡り無文帯と区画。沈線が2条対になり渦巻状の文様。	
14	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石、砂粒	普通	RL	横	Ⅵ群3類	口縁部無文帯と微隆起線で区画。	
15	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	LR	横	加曾利E	波状口縁。太さ4ミリの隆線が口縁部に巡る。幅5ミリの平行沈線文。	
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅵ群1類	太さ2ミリの沈線2条で無文帯を作り、方形の文様を描く。	12・19と同一個体
17	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	白色粒	良	RL	—	Ⅵ群2類	「の」の字形に把手上部は凹みを持つ。	把手
18	両耳壺	口縁~胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	良	LR	縦	Ⅶ群2類	口縁部は、無文帯になり、把手部に縄文施文。胴部は、櫛状工具による条線。	橋状把手
19	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線2条で無文帯を作り、方形の文様を描く。	12・16と同一個体
20	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅵ群	波状口縁頂部に把手。口縁に沿ってφ1ミリの刺突が2列巡る。沈線による文様区画。	把手
21	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—	—	Ⅵ群2類	把手頂部に凹みを持つ。	橋状把手
22	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	横	Ⅵ群	波状口縁。「の」の字形の突起。口縁に沿って太さ5ミリの沈線。	突起
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	—	Ⅵ群2類	把手部は磨り消し縄文。	橋状把手
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—	—	勝坂	幅7~8ミリの連続爪形文。	
25	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	縦	勝坂	くびれ部に沈線が巡る。撚糸文。	
26	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	くびれ部に隆線が巡る。	
27	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい白色粒	良	RL	横	加曾利E	太さ10ミリの隆線に刻み。	
28	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	RL	—	勝坂	幅6ミリの平行沈線が隆線上に施文される。	
29	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	
30	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	





第141图 J-45出土土器 (1)



第142図 J-45出土土器(2)

J-45出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
31	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、白色粒	良	LR	縦	加曽利E	太さ6ミリの浅い沈線による縦位区画。	
32	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	—		加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
33	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
34	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	断面三角の隆線による縦位区画。	
35	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ12ミリの沈線による縦位区画。	
36	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線2条が対になり縦位の区画。無文帯と縄文帯が交互になる。	
37	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	加曽利E	太さ8ミリの粘土紐による隆線を縦位に施文。	
38	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	縄文を施文。	
39	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曽利E	縄文を帯状に間隔を開けて施文。	
40	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	良	LR		Ⅶ群2類	縄文施文。	橋状把手
41	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、砂粒	普通	LR		加曽利E	縄文施文。	
42	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL LR	横	加曽利E	異なる縄文原体で羽状縄文を構成。	
43	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	
44	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	横	加曽利E	縄文施文。	
45	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	縄文施文。	
46	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	LR	横	加曽利E	縄文を帯状に間隔を開けて施文。	
47	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	加曽利E	縄文を帯状に施文。	
48	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通			加曽利E	無文。	
49	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリ小石	普通	—		加曽利E		
50	深鉢	胴部~ 底部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	—		加曽利E		
51	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曽利E	縄文施文。	

J-47出土土器観察表

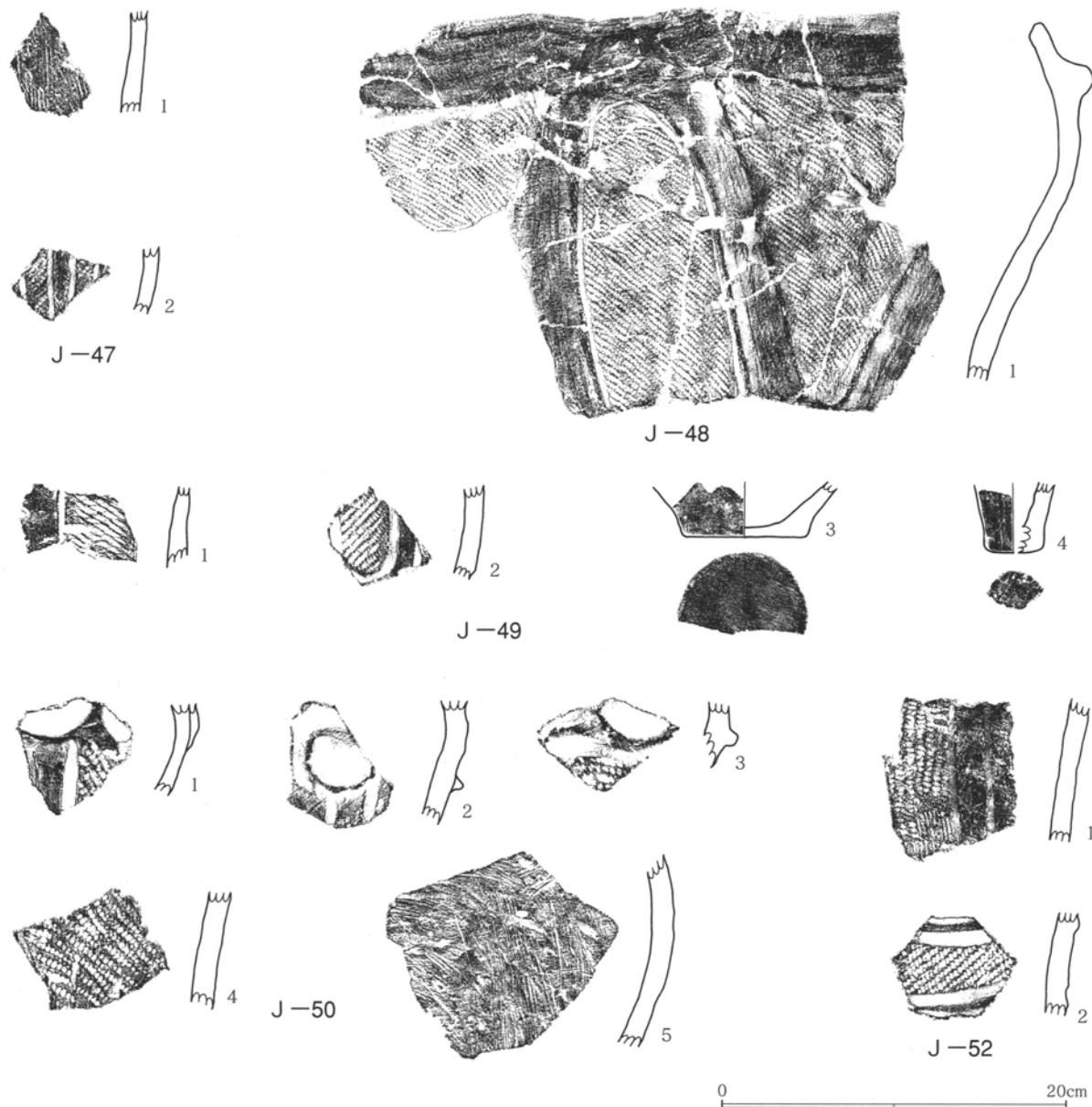
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	—		Ⅶ群4類	胴部に櫛状工具による条線文。	
2	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	

J-48出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁~ 胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリ前後の砂粒	普通	LR	縦	Ⅵ群1類	口縁部平縁。頸部太さ3ミリの隆起線により横位区画。それに続く2条1組の縦位楕円区画。文様区画の接合部は、摘み状の突起となる。	

J-49出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による波状区画。	
3	深鉢	胴部~ 底部	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	良	—		加曽利E	無文。胴部外面整形。	
4	深鉢	胴部~ 底部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	—		加曽利E	縦位の整形。条線。	ミニチュア土器



第143図 J-47~50・52出土土器

J-50出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁部に隆線による横位の楕円区画。頸部から胴部太さ6ミリの沈線による縦位区画。	
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通			Ⅲ群	口縁部太さ5ミリの隆線による渦巻状区画。頸部より太さ5ミリの沈線が垂下して縦位区画を作る。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁部太さ6ミリの隆線により横位連続の楕円区画を作る。	
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	縄文施文。	
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	胴部条線文。	